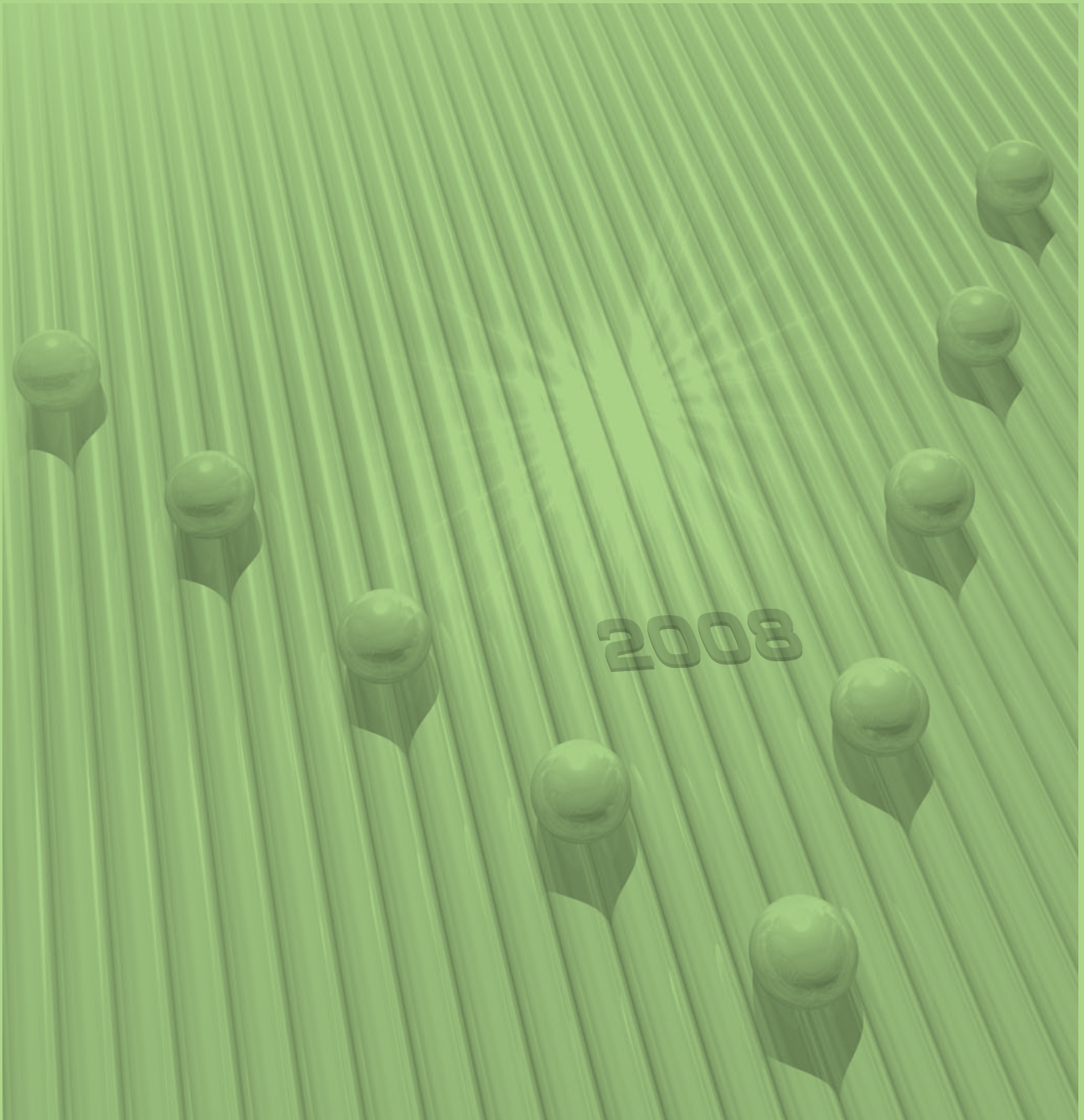


2008年度

シラバス

英語学科



獨協大学

シラバスの見方

「本シラバス」は2003年度以降入学者用の「英語学科授業科目」及び「外国語学部共通科目」のシラバスです。

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

I 開設科目一覧表について

【シラバスページの検索方法】

- ① 開設科目一覧表のインデックス(ページ両端)で自分の入学年度に適合するページを確認してください。
- ② 科目は学則別表と同じ順序で記載されています。
注:入学年度によっては学則別表とシラバスの科目の順序が一致していない場合があります。
科目名とページ番号をよく確認してください。

【履修不可について】

- ① 開設科目一覧表には「履修不可」学科が記載されています。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。
- ② 表記方法
外: 外国語学部 養: 国際教養学部 経: 経済学部 法: 法学部
独: ドイツ語学科 濟: 経済学科 律: 法律学科
英: 英語学科 営: 経営学科 国: 国際関係法学科
仏: フランス語学科 総: 総合政策学科
言: 言語文化学科 全: 英語学科以外の全学部学科

II シラバス本文の見方

- ① 入学年度
- ② 入学年度に対応した科目名
※ 2002年度以前入学生は、別途学部毎に配布する冊子を参照して科目名を確認してください。
- ③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。
- ④ 学期の授業計画についての欄です。各回ごとに講義するテーマが記載してあります。
- ⑤ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。
- ⑥ 評価方法について記載されています。

【注意事項】

1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ずシラバス本文(③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

2.定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

3.履修登録

オンライン登録、事前抽選、学期ごとに1回目の授業で選考または抽選を行う科目もあるので必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認してください。

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	第1週
春学期		
		第13週
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	第1週
秋学期		
		第13週
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

— 目 次 —

2008 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目	2
--------------	---

2006～2007 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修者用)	3
学科基礎科目(事前抽選科目)	4
学科共通科目(英語専門講読 I・II)	5
学科共通科目	6
学科専門科目	9

2003～2005 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修者用)	11
学科共通科目(英語専門講読 a・b)	12
学科共通科目	13
学科専門科目	17

外国語学部共通科目開設一覧表	19
----------------------	----

担当者別シラバス	20
----------------	----

【参考資料】(英語レベル表)

2006 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®	TOEFL		
		PBT	CBT	iBT
上級	700 点以上	520 点以上	190 点以上	68 点以上
中級	600 点以上	480 点以上	157 点以上	54 点以上

2003～2005 年度入学者				
レベル	TOEIC®	TOEFL		
		PBT	CBT	iBT
A	700 点以上	520 点以上	190 点以上	68 点以上
B	600 点以上	480 点以上	157 点以上	54 点以上
C	500 点以上	440 点以上	123 点以上	41 点以上

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC テストで満たしていれば履修登録は可能です。
 学外で受験したスコアを利用する場合は、証明する書類のコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

開設科目一覧表

学科基礎科目

開講科目名称	担当者	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語学入門	府川 謹也	2	1	全	20
英語学入門	小早川 暁	2	1	全	20
英語学入門	鈴木 英一	2	1	全	21
英語圏の文学・文化入門	上野 直子	2	1	全	23
文化コミュニケーション入門	板場 良久	2	1	全	25
文化コミュニケーション入門	柿田 秀樹	2	1	全	26
国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	2	1	全	27
国際コミュニケーション入門	佐野 康子	2	1	全	28
英語音声学	青柳 真紀子	2	1	全	29
英語音声学	大西 雅行	2	1	全	30
Lecture Workshop I・II	各担当教員	2	1	全	32
Comprehensive English I・II	各担当教員	2	1	全	33
Reading Strategies I・II	各担当教員	1	1	全	35
Writing Strategies	各担当教員	1	1	全	38
Paragraph Writing	各担当教員	1	1	全	39
Basic Essay Writing	各担当教員	1	1	全	40
E-learning I・II (Aグループ)	木村 恵	1	1	全	41
E-learning I・II (B・Cグループ)	木村 恵	1	1	全	42
Pronunciation Practice	各担当教員	1	1	全	43
Introductory Grammar	各担当教員	1	1	全	44

新1年生の学科基礎科目は、全て自動登録されています。シラバスのみ参照してください。

開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修者用)

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
11076	英語学入門	府川 謹也	春	金3	2	1		20
11078	英語学入門	小早川 暁	秋	火3	2	1		20
11077	英語学入門	鈴木 英一	春	木4	2	1		21
11079	英語学入門	鈴木 英一	秋	木4	2	1		21
11082	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	春	木4	2	1		23
11080	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	春	木5	2	1		23
11083	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	秋	木4	2	1		23
11081	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	秋	木5	2	1		23
11086	文化コミュニケーション入門	板場 良久	春	水2	2	1		25
11087	文化コミュニケーション入門	板場 良久	秋	水2	2	1		25
11084	文化コミュニケーション入門	柿田 秀樹	春	水2	2	1		26
11085	文化コミュニケーション入門	柿田 秀樹	秋	水2	2	1		26
11088	国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	春	水2	2	1	言・養	27
11403	国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	言・養	27
11089	国際コミュニケーション入門	佐野 康子	春	水2	2	1	言・養	28
11090	国際コミュニケーション入門	佐野 康子	秋	水2	2	1	言・養	28
11091	英語音声学	青柳 真紀子	春	火1	2	1		29
11092	英語音声学	青柳 真紀子	秋	火1	2	1		29
11093	英語音声学	大西 雅行	春	木1	2	1		30
11094	英語音声学	大西 雅行	秋	木1	2	1		30
	Lecture Workshop I	各担当教員	春		2	1	全	32
	Lecture Workshop II	各担当教員	秋		2	1	全	32
13454	Comprehensive English I	K. ミーハン/D. ベーカー	秋	月4/木5	2	1	全	33
12818	Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	春	月1/金3	2	1	全	33
14944	Comprehensive English III	P. マッケビリー	春	火1	1	2	全	34
14946	Comprehensive English III	P. マッケビリー	秋	金3	1	2	全	34
14947	Comprehensive English IV	P. マッケビリー	春	金3	1	2	全	34
14945	Comprehensive English IV	P. マッケビリー	秋	火1	1	2	全	34
12715	Reading Strategies I	工藤 和宏	春	火4	1	1	全	35
12948	Reading Strategies I	鈴木 真奈美	春	火3	1	1	全	35
12949	Reading Strategies I	鈴木 真奈美	秋	火3	1	1	全	35
12777	Reading Strategies II	白鳥 正孝	春	月4	1	1	全	35
12716	Reading Strategies II	工藤 和宏	秋	火4	1	1	全	35
14858	Reading Strategies III	石井 敏	春	金2	1	2	全	36
14859	Reading Strategies IV	石井 敏	秋	金2	1	2	全	36
11349	Reading Strategies III	坂本 洋子	秋	金3	1	2	全	37
11350	Reading Strategies IV	坂本 洋子	春	金3	1	2	全	37
12950	Writing Strategies	川崎 潔	春	木1	1	1	全	38
12951	Paragraph Writing	川崎 潔	秋	木1	1	1	全	39
12816	Basic Essay Writing	L. K. ハーキンス	春	月3	1	1	全	40
12817	Basic Essay Writing	J. A. グレイ	秋	月5	1	1	全	40
11244	E-learning I (Aグループ)	木村 恵	春	木5	1	1	全	41
11245	E-learning II (Aグループ)	木村 恵	秋	木5	1	1	全	41
15208	E-learning I (B/Cグループ)	木村 恵	春	月5	1	1	全	42
15209	E-learning II (B/Cグループ)	木村 恵	秋	月5	1	1	全	42
11105	Pronunciation Practice	青柳 真紀子	春	火2	1	1	全	43
11106	Pronunciation Practice	青柳 真紀子	秋	火2	1	1	全	43
11103	Pronunciation Practice	大西 雅行	春	火2	1	1	全	43
11104	Pronunciation Practice	大西 雅行	秋	火2	1	1	全	43
11107	Introductory Grammar	河原 宏之	春	木3	1	1	全	44
11108	Introductory Grammar	河原 宏之	秋	木3	1	1	全	44
11109	Introductory Grammar	白鳥 正孝	春	木3	1	1	全	44
11110	Introductory Grammar	白鳥 正孝	秋	木3	1	1	全	44

06~07年度入学者用

※Lecture Workshop I・IIについては『授業時間割表』の「再履修科目」のページで時間割コードを確認し、シラバスのみ参照してください。

開設科目一覧表

学科基礎科目(事前抽選科目)

「Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ」

抽選コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	N. H. ジョスト	春秋	火1	1	2	全	45
02	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	T. ヒル	春秋	火3	1	2	全	46
03	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	W. J. ベンフィールド	春秋	水1	1	2	全	47
04	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	D. L. ブランケン	春秋	金3	1	2	全	48
05	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	D. ケネディ	春秋	火5	1	2	全	49
06	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	D. マッキヤン	春秋	木1	1	2	全	50
07	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	L. K. ハーキンス	春秋	金1	1	2	全	51
08	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	N. ハミルトン	春秋	水3	1	2	全	52
09	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	P. アップス	春秋	火3	1	2	全	53
10	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	P. アップス	春秋	水3	1	2	全	53
11	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	R. J. バロウズ	春秋	火1	1	2	全	54
12	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	R. ダラム	春秋	火1	1	2	全	55
13	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	R. ダラム	春秋	木2	1	2	全	55
14	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	T. J. フォトス	春秋	水3	1	2	全	56
15	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	T. ヒル	春秋	火1	1	2	全	57
16	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	W. J. ベンフィールド	春秋	木1	1	2	全	58
17	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (一般)	W. M. ダーリン	春秋	金2	1	2	全	59

「Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ」

抽選コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
31	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	E. カーニィ	春秋	水2	1	2	全	60
32	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	N. H. ジョスト	春秋	水2	1	2	全	61
33	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	上野 直子	春秋	水2	1	2	全	62
34	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	T. ヒル	春秋	水2	1	2	全	63
35	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	片山 亜紀	春秋	水2	1	2	全	64
36	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	工藤 和宏	春秋	水2	1	2	全	65
37	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	児嶋 一男	春秋	水2	1	2	全	66
38	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	佐藤 唯行	春秋	水2	1	2	全	67
39	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	佐藤 勉	春秋	水2	1	2	全	68
40	Reading Strategies Ⅲ (一般)	島田 啓一	春	水2	1	2	全	69
	Reading Strategies Ⅳ (一般)	浅岡 千利世	秋	水2	1	2	全	69
41	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	白鳥 正孝	春秋	水2	1	2	全	70
42	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	永野 隆行	春秋	水2	1	2	全	71
43	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	鍋倉 健悦	春秋	水2	1	2	全	72
44	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	原 成吉	春秋	水2	1	2	全	73
45	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	福井 嘉彦	春秋	水2	1	2	全	74
46	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	藤田 永祐	春秋	水2	1	2	全	75
47	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (一般)	前沢 浩子	春秋	水2	1	2	全	76

※抽選の詳細については「時間割表」を参照してください。

開設科目一覧表

学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

定員：30名 既修条件：Comprehensive EnglishⅠ・ⅡおよびReading StrategiesⅠ・Ⅱを修得(他学部他学科生の既修条件はなし)

抽選コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
51	Culture and Communication	C. B. 池口	春秋	火4	2	2		77
52	Literary fiction and documentary studies	E. カーニィ	春秋	水1	2	2		78
53	Education&Culture	J. J. ダゲン	秋	木2/木3	2	2		79
54	James Joyce	M. フッド	春秋	火3	2	2		80
55	Education	N. H. ジョスト	春秋	月1	2	2		81
56	Sociolinguistics	T. ヒル	春秋	月3	2	2		82
57	音声科学入門	青柳 真紀子	春秋	火3	2	2		83
58	Exploring Language Teaching	浅岡 千利世	秋	火4	2	2		84
59	米国の東アジア政策	阿部 純一	春秋	土2	2	2		85
60	異文化コミュニケーション論	石井 敏	春秋	金1	2	2		86
61	テレビのコミュニケーション研究	板場 良久	春秋	火3	2	2		87
62	Allen Ginsberg “Kaddish” を読む	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2		88
63	ディズニー・アニメの歴史をたどる	大木 理恵子	春秋	火3	2	2		89
64	英語の音声	大西 雅行	春秋	木2	2	2		90
65	アメリカ黒人の歴史	岡田 誠一	春秋	月2	2	2		91
66	映画批評	柿田 秀樹	春秋	火5	2	2		92
67	アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む	金谷 優子	春秋	金4	2	2		93
68	アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係	金子 芳樹	春秋	水1	2	2		94
69	The Authorized Version	川崎 潔	春秋	木2	2	2		95
70	生成文法入門	河原 宏之	春秋	木1	2	2		96
71	Korea Today	金 雄熙	春秋	水3	2	2		97
72	SLA実証研究論文	木村 恵	春秋	金3	2	2		98
73	英語コミュニケーションの再構築	工藤 和宏	春秋	火3	2	2		99
74	オーストラリアの詩	国見 晃子	春秋	火3	2	2		100
75	英語圏の現代演劇	児嶋 一男	春秋	月2	2	2		101
76	認知英文法	小早川 暁	春秋	金2	2	2		102
77	米国ユダヤ人史	佐藤 唯行	春秋	木4	2	2		103
78	物語を楽しむ	佐藤 勉	春秋	金2	2	2		104
79	現代国際関係:アフリカ	佐野 康子	春秋	木3	2	2		105
80	アメリカ小説	島田 啓一	春	金1/金2	2	2		106
81	応用言語学	清水 由理子	春秋	月2	2	2		107
82	イギリス児童文学	白鳥 正孝	春秋	月3	2	2		108
83	生成文法理論への誘い	鈴木 英一	春秋	水1	2	2		109
84	Self-Regulated Learning	鈴木 眞奈美	秋	火2	2	2		110
85	異文化理解の視点	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2		111
86	20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人	高田 宣子	春秋	火4	2	2		112
87	グローバルな眼でアジアを読む	竹田 いさみ	春秋	火2	2	2		113
88	現代イギリス小説	東郷 公德	春秋	月5	2	2		114
89	現代国際関係論	永野 隆行	春秋	火3	2	2		115
90	インタビューやニュースのスク립トを読む	鍋倉 健悦	春秋	月2	2	2		116
91	アメリカ現代詩を読む	原 成吉	春秋	木4	2	2		117
92	欽定訳聖書を読む	福井 嘉彦	春秋	火3	2	2		118
93	親しみやすいイギリスの短編小説	藤田 永祐	春秋	金4	2	2		119
94	シェイクスピア入門	前沢 浩子	春秋	木3	2	2		120
95	社会・文化とコミュニケーション	町田 喜義	春秋	火3	2	2		121
96	統語論入門	水口 学	春秋	月2	2	2		122
97	アフリカ系アメリカ人およびアフロ・カリブ系の表現文化	三吉 美加	春秋	月2	2	2		123

※抽選の詳細については「時間割表」を参照してください。

開設科目一覧表

学科共通科目

定員: 28名 既修条件: Basic Essay Writing または中級レベルを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12866	Academic Writing	E. カーニィ	春	月1	2	2		126
12867	Academic Writing	E. カーニィ	秋	月1	2	2		126
12868	Academic Writing	J. A. グレイ	春	水3	2	2		127
12869	Academic Writing	J. A. グレイ	秋	水3	2	2		127
15023	Academic Writing	J. ウェンデル	春	月2	2	2		128
12864	Academic Writing	J. ウェンデル	秋	月2	2	2		128
12870	Academic Writing	J. ウォールドマン	春	木2	2	2		129
12871	Academic Writing	J. ウォールドマン	秋	木2	2	2		129
12872	Academic Writing	K. ミーハン	春	月4	2	2		130
12865	Academic Writing	L. K. ハーキンス	秋	月3	2	2		130
12876	Academic Writing	M. フッド	春	火4	2	2		131
12877	Academic Writing	M. フッド	秋	火4	2	2		131
14954	Academic Writing	R. J. パロウズ	春	火2	2	2		132
14953	Academic Writing	R. J. パロウズ	秋	火2	2	2		132
12878	Academic Writing	T. J. フォトス	春	水2	2	2		133
12879	Academic Writing	T. J. フォトス	秋	水2	2	2		133
12880	Academic Writing	W. J. ベンフィールド	春	水3	2	2		134
12881	Academic Writing	W. J. ベンフィールド	秋	水3	2	2		134
12874	Academic Writing	W. M. ダーリン	春	月5	2	2		135
12875	Academic Writing	W. M. ダーリン	秋	月5	2	2		135

定員: 25名 既修条件: 中級レベルを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
15027	翻訳	柴田 耕太郎	春	火4	2	2		136
15028	翻訳	柴田 耕太郎	秋	火4	2	2		136
13604	翻訳	柴田 耕太郎	春	木3	2	2		137
13605	翻訳	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2		137
12884	翻訳	高田 宣子	春	火5	2	2		138
12885	翻訳	高田 宣子	秋	火5	2	2		138
12888	翻訳	藤田 永祐	春	金2	2	2		139
12889	翻訳	藤田 永祐	秋	金2	2	2		139
12886	翻訳	前沢 浩子	春	月2	2	2		140
12887	翻訳	片山 亜紀	秋	月3	2	2		140
12882	翻訳	山中 章子	春	木5	2	2		141
12883	翻訳	山中 章子	秋	木5	2	2		141

定員: 32名 既修条件: Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II を修得(他学部他学科生の既修条件はなし)

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12898	College Grammar	河原 宏之	春	木2	2	2		142
12899	College Grammar	河原 宏之	秋	木2	2	2		142
12902	College Grammar	小早川 暁	春	金3	2	2		143
12903	College Grammar	小早川 暁	秋	金3	2	2		143
16981	College Grammar	坂本 洋子	春	金2	2	2		144
16982	College Grammar	坂本 洋子	秋	金2	2	2		144
12900	College Grammar	鈴木 英一	春	火3	2	2		145
12901	College Grammar	鈴木 英一	秋	火3	2	2		145
12890	College Grammar	藤田 永祐	春	木2	2	2		146
12891	College Grammar	藤田 永祐	秋	木2	2	2		146
12896	College Grammar	本田 謙介	春	月2	2	2		147
12897	College Grammar	本田 謙介	秋	月2	2	2		147
12894	College Grammar	水口 学	春	月1	2	2		148
12895	College Grammar	水口 学	秋	月1	2	2		148
12892	College Grammar	水口 学	春	月3	2	2		149
12893	College Grammar	水口 学	秋	月3	2	2		149

開設科目一覧表

学科共通科目

定員: 25名 既修条件: Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II または中級レベルを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12841	Communicative English	D. L. ブランケン	春	水2	2	2		152
12842	Communicative English	D. L. ブランケン	秋	水2	2	2		152
12839	Communicative English	D. ケネディ	春	火4	2	2		153
12840	Communicative English	D. ケネディ	秋	火4	2	2		153
12843	Communicative English	D. ベーカー	春	木5	2	2		154
12845	Communicative English	D. マツキャン	春	木2	2	2		155
12846	Communicative English	D. マツキャン	秋	木2	2	2		155
12844	Communicative English	J. A. グレイ	春	月5	2	2		156
14956	Communicative English	J. A. グレイ	春	水5	2	2		156
14955	Communicative English	J. A. グレイ	秋	水5	2	2		156
12854	Communicative English	J. ウェンデル	春	月1	2	2		157
12855	Communicative English	J. ウェンデル	秋	月1	2	2		157
12848	Communicative English	K. ミーハン	春	金4	2	2		158
12849	Communicative English	K. ミーハン	秋	金4	2	2		158
12850	Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	月1	2	2		159
12851	Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金3	2	2		159
12852	Communicative English	M. フッド	春	火2	2	2		160
12853	Communicative English	M. フッド	秋	火2	2	2		160
12858	Communicative English	P. M. ホーネス	春	月1	2	2		161
12859	Communicative English	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2		161
12862	Communicative English	P. アップス	春	水2	2	2		162
12863	Communicative English	P. アップス	秋	水2	2	2		162
12856	Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2		163
12857	Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2		163
12860	Communicative English	T. J. フォトス	春	水1	2	2		164
12861	Communicative English	T. J. フォトス	秋	水1	2	2		164

定員: 20名 既修条件: 中級レベルを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12906	Discussion	C. B. 池口	春	火3	2	2		165
12907	Discussion	C. B. 池口	秋	火3	2	2		165
12908	Discussion	D. L. ブランケン	春	水3	2	2		166
12909	Discussion	D. L. ブランケン	秋	水3	2	2		166
12904	Discussion	N. H. ジョスト	春	月3	2	2		167
12905	Discussion	N. H. ジョスト	秋	月3	2	2		167
14949	Discussion	P. M. ホーネス	春	月2	2	2		168
14950	Discussion	P. M. ホーネス	秋	月2	2	2		168
12910	Discussion	W. J. ベンフィールド	春	木2	2	2		169
12911	Discussion	W. J. ベンフィールド	秋	木2	2	2		169

定員: 25名 既修条件: 中級レベルを修得 ※ I・II はセットで通年履修

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12924	Public Speaking I	A. R. ファルヴォ	春	金1	2	2		170
12925	Public Speaking II	A. R. ファルヴォ	秋	金1	2	2		170
12922	Public Speaking I	P. マッケビリー	春	金2	2	2		171
12923	Public Speaking II	P. マッケビリー	秋	金2	2	2		171
12926	Public Speaking I	門倉 弘枝	春	金4	2	2		172
12927	Public Speaking II	門倉 弘枝	秋	金4	2	2		172

定員: 25名 既修条件: 中級レベルを修得 ※ I・II はセットで通年履修

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12928	Debate I	N. H. ジョスト	春	火2	2	2		173
12929	Debate II	N. H. ジョスト	秋	火2	2	2		173
12932	Debate I	柿田 秀樹	春	火4	2	2		174
12933	Debate II	柿田 秀樹	秋	火4	2	2		174

開設科目一覧表

学科共通科目

定員: 25名 既修条件: 中級レベルを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
14963	通訳 I	鍋倉 健悦	春	火3	2	2		175
14964	通訳 I	鍋倉 健悦	秋	火3	2	2		175
12934	通訳 I	原口 友子	春	金2	2	2		176
13064	通訳 I	原口 友子	春	金4	2	2		176
12936	通訳 I	原口 友子	秋	金2	2	2		176
13065	通訳 I	原口 友子	秋	金4	2	2		176

定員: 25名 既修条件: 通訳 I または上級レベルを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12935	通訳 II	原口 友子	春	金3	2	2		177
12937	通訳 II	原口 友子	秋	金3	2	2		177

定員: 50名 既修条件: Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II を修得 (他学部他学科生の既修条件はなし)

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12912	英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	火3	2	2		178
12913	英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	火3	2	2		178
12918	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木3	2	2		179
12919	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木3	2	2		179
12920	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木4	2	2		180
12921	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木4	2	2		180
12914	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月1	2	2		181
12915	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月1	2	2		181
12916	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月2	2	2		181
12917	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月2	2	2		181

定員: 45名 既修条件: 英語ビジネス・コミュニケーションを修得または並行履修

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
14899	英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	春	金1	2	3		182
14900	英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	秋	金1	2	3		182

定員: 40名 既修条件: Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II を修得 (他学部他学科生の既修条件はなし)

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13078	メディア英語 I	W. J. ベンフィールド	春	水2	2	2		183
13079	メディア英語 I	W. J. ベンフィールド	秋	水2	2	2		183
13074	メディア英語 I	海老沢 達郎	春	火4	2	2		184
13075	メディア英語 I	海老沢 達郎	秋	火4	2	2		184
13068	メディア英語 I	岡田 誠一	春	月4	2	2		185
13069	メディア英語 I	岡田 誠一	秋	月4	2	2		185
13070	メディア英語 I	岡田 誠一	春	木4	2	2		185
13071	メディア英語 I	岡田 誠一	秋	木4	2	2		185
13072	メディア英語 I	金子 節也	春	月4	2	2		186
13073	メディア英語 I	金子 節也	秋	月4	2	2		186
13076	メディア英語 I	佐野 康子	春	火2	2	2		187
13077	メディア英語 I	佐野 康子	秋	火2	2	2		187

定員: 40名 既修条件: 中級レベルを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13066	メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2		188
13067	メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2		188
13080	メディア英語 II	東郷 公德	春	月4	2	2		189
13081	メディア英語 II	東郷 公德	秋	月4	2	2		189

定員: 35名 既修条件: 中級レベルを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12938	シネマ英語	岡田 誠一	春	木3	2	2		190
12939	シネマ英語	岡田 誠一	秋	木3	2	2		190
12940	シネマ英語	門倉 弘枝	春	金5	2	2		191
12941	シネマ英語	門倉 弘枝	秋	金5	2	2		191

開設科目一覧表

学科専門科目

◆言語コミュニケーション◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12946	英語学の世界	府川 謹也	春	金1	2	2		192
12947	英語学の世界	小早川 暁	秋	金1	2	2		192
11543	言語情報処理 I a (定員50名)	木村 恵	春	木4	2	2		193
11544	言語情報処理 I b (定員50名)	木村 恵	秋	木4	2	2		193
01509	言語情報処理 I a (定員50名)	吉成 雄一郎	春	金2	2	2		194
01510	言語情報処理 I b (定員50名)	吉成 雄一郎	秋	金2	2	2		194
01541	言語情報処理 II a (定員40名)	吉成 雄一郎	春	金1	2	2		195
01542	言語情報処理 II b (定員40名)	吉成 雄一郎	秋	金1	2	2		195
12944	英語発音教授法 (定員25名)	清水 由理子	春	月3	2	2		196
12945	英語発音教授法 (定員25名)	清水 由理子	秋	月3	2	2		196
12952	シntaxスa	鈴木 英一	春	火2	2	2		197
12953	シntaxスb	鈴木 英一	秋	火2	2	2		197
00790	意味論a	府川 謹也	春	金4	2	2		198
00791	意味論b	小早川 暁	秋	金4	2	2		198
00799	音声・音韻論a	大西 雅行	春	火1	2	2		199
00800	音声・音韻論b	大西 雅行	秋	火1	2	2		199
01149	英語学特殊講義a	青柳 真紀子	春	金3	2	2		200
01150	英語学特殊講義b	青柳 真紀子	秋	金3	2	2		200
08784	英語学文献研究a (定員25名)	小早川 暁	春	水2	2	3		201
08785	英語学文献研究b (定員25名)	小早川 暁	秋	水2	2	3		201

◆文学コミュニケーション◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12838	英語圏の文学・文化	高橋 雄一郎	秋	火3	2	2		202
10274	英語圏の小説 a (定員100名)	藤田 永祐	春	金3	2	2	全	203
09060	英語圏の小説 b (定員100名)	片山 亜紀	秋	木3	2	2	全	203
08205	英語圏の詩 a (定員100名)	遠藤 朋之	春	木4	2	2	全	204
08206	英語圏の詩 b (定員100名)	白鳥 正孝	秋	月4	2	2	全	204
08207	英語圏の演劇 a (定員100名)	児嶋 一男	春	月3	2	2	全	205
08208	英語圏の演劇 b (定員100名)	児嶋 一男	秋	月3	2	2	全	205
08209	英語圏の社会と思想 a (定員100名)	福井 嘉彦	春	火2	2	2	全	206
08210	英語圏の社会と思想 b (定員100名)	福井 嘉彦	秋	火2	2	2	全	206
08211	英語圏の歴史 a	佐藤 唯行	春	木2	2	2		207
08212	英語圏の歴史 b	佐藤 唯行	秋	木2	2	2		207
08213	英語圏のエリア・スタディーズ a (定員200名)	佐藤 唯行	春	水3	2	2		208
08214	英語圏のエリア・スタディーズ b (定員200名)	藤田 永祐	秋	水3	2	2		208
10657	英語圏の文学・文化特殊講義 a	上野 直子	春	火3	2	2		209
11539	英語圏の文学・文化特殊講義 b	前沢 浩子	秋	月2	2	2		209
13704	英語圏の文学・文化特殊講義 a	遠藤 充信	春	木3	2	2		210
13703	英語圏の文学・文化特殊講義 b	遠藤 充信	秋	木3	2	2		210
12718	英語圏の文学・文化特殊講義 a	高橋 雄一郎	春	水2	2	2		211
11271	英語圏の文学・文化特殊講義 b	高橋 雄一郎	秋	水2	2	2		211
14969	英語圏の文学・文化文献研究 a (定員25名)	児嶋 一男	春	火2	2	3		212
10243	英語圏の文学・文化文献研究 b (定員25名)	児嶋 一男	秋	火2	2	3		212

開設科目一覧表

学科専門科目

◆異文化コミュニケーション◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01434	異文化間コミュニケーション論a	工藤 和宏	春	火5	2	2	言・養	213
01239	異文化間コミュニケーション論b	鍋倉 健悦	秋	火5	2	2	言・養	213
01238	異文化間コミュニケーション論a	鍋倉 健悦	春	火5	2	2	言・養	214
01435	異文化間コミュニケーション論b	工藤 和宏	秋	火5	2	2	言・養	214
12954	メディア・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	木3	2	2	言・養	215
12955	メディア・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	秋	木3	2	2	言・養	215
01108	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	春	月2	2	2		216
01169	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	秋	月2	2	2		216
00977	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	火3	2	2		217
00978	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	秋	火3	2	2		217
01360	コミュニケーション論特殊講義a	板場 良久	春	月1	2	3		218
01361	コミュニケーション論特殊講義b	板場 良久	秋	月1	2	3		218
00975	コミュニケーション論文献研究a (定員25名)	町田 喜義	春	火4	2	3		219
01511	コミュニケーション論文献研究b (定員25名)	町田 喜義	秋	火4	2	3		219

◆国際コミュニケーション◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12956	グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	月3	2	2		220
12959	グローバル社会論b	永野 隆行	秋	月3	2	2		220
12958	グローバル社会論a	永野 隆行	春	月3	2	2		221
12957	グローバル社会論b	竹田 いさみ	秋	月3	2	2		221
12960	英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2	2	2	法	222
12961	英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月2	2	2	法	222
12963	国際協力論	竹田 いさみ	春	火3	2	2		223
12962	国際開発論	金子 芳樹	秋	火2	2	2		223
13544	国際交流論	小松 諄悦	春	金2	2	2		224
12837	国際ツーリズム論	遠藤 充信	秋	火4	2	2		225
12779	国際NGO・ボランティア論	石川 幸子	春	木2	2	2		226
13588	国際関係特殊講義b	石川 幸子	秋	木2	2	2		227
13708	国際関係特殊講義a	遠藤 充信	春	木4	2	2		228
13709	国際関係特殊講義b	遠藤 充信	秋	木4	2	2		228
13587	国際関係特殊講義a	金子 芳樹	春	火2	2	2		229
13589	国際関係特殊講義b	小松 諄悦	秋	金2	2	2		229
12964	国際関係特殊講義b	竹田 いさみ	秋	火3	2	2		230
14972	国際関係文献研究a (定員25名)	金子 芳樹	春	月3	2	3		230
14973	国際関係文献研究b (定員25名)	金子 芳樹	秋	月3	2	3		231
14915	国際関係文献研究a (定員25名)	竹田 いさみ	春	火4	2	3		232
14916	国際関係文献研究b (定員25名)	竹田 いさみ	秋	火4	2	3		232

◆特別セミナー◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
16459	特別セミナー	金 雄熙	春	火2	2	3		233
16460	特別セミナー	金 雄熙	秋	火2	2	3		233
17000	特別セミナー	金 雄熙	春	水4	2	3		234
16999	特別セミナー	金 雄熙	秋	水4	2	3		234
10222	特別セミナー(CAEL) (定員40名)	J. スティベンソン	春	月3	2	2		235
10223	特別セミナー(CAEL) (定員40名)	J. スティベンソン	秋	月3	2	2		235

開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修者用)

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	Speech Communication a	閉講						
	Speech Communication b	閉講						
	Advanced Speech Communication a	閉講						
	Advanced Speech Communication b	閉講						
11512	英語ライティング・ストラテジーズ a	川崎 潔	春	木1	1	1	全	38
11513	英語ライティング・ストラテジーズ b	川崎 潔	秋	木1	1	1	全	39
	英語パラグラフ・ライティング a	閉講						
	英語パラグラフ・ライティング b	閉講						
11522	英語リーディング・ストラテジーズ a	鈴木 眞奈美	春	火3	1	1	全	35
11523	英語リーディング・ストラテジーズ a	鈴木 眞奈美	秋	火3	1	1	全	35
11515	英語リーディング・ストラテジーズ a	工藤 和宏	春	火4	1	1	全	35
11516	英語リーディング・ストラテジーズ b	工藤 和宏	秋	火4	1	1	全	35
13452	英語リーディング・ストラテジーズ b	白鳥 正孝	春	月4	1	1	全	35
	Reading Comprehension a	閉講						
	Reading Comprehension b	閉講						
	Honors English 1a	閉講						
	Honors English 1b	閉講						
	Honors English 2a	閉講						
	Honors English 2b	閉講						
12121	英語専門講読入門 a	石井 敏	春	金2	1	2	全	36
12122	英語専門講読入門 b	石井 敏	秋	金2	1	2	全	36
14199	英語専門講読入門 a	坂本 洋子	秋	金3	1	2	全	37
14200	英語専門講読入門 b	坂本 洋子	春	金3	1	2	全	37
11565	英語学概論 a	小早川 暁	秋	火3	2	1		20
11566	英語学概論 a	鈴木 英一	秋	木4	2	1		21
11564	英語学概論 a	鈴木 英一	春	木4	2	1		21
11563	英語学概論 a	府川 謹也	春	金3	2	1		20
11276	英語学概論 b	府川 謹也	春	金1	2	1		22
11275	英語学概論 b	小早川 暁	秋	金1	2	1		22
11576	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	秋	木4	2	1		23
11575	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	春	木4	2	1		23
11573	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	春	木5	2	1		23
11574	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	秋	木5	2	1		23
11270	英語圏の文学・文化概論 b	高橋 雄一郎	秋	火3	2	1		24
11581	文化コミュニケーション概論 b(a・b担当者を変えて履修)	板場 良久	春	水2	2	1		25
11583	文化コミュニケーション概論 a(a・b担当者を変えて履修)	板場 良久	秋	水2	2	1		25
11579	文化コミュニケーション概論 a(a・b担当者を変えて履修)	柿田 秀樹	春	水2	2	1		26
11582	文化コミュニケーション概論 b(a・b担当者を変えて履修)	柿田 秀樹	秋	水2	2	1		26
11580	国際コミュニケーション概論 b(a・b担当者を変えて履修)	金子 芳樹	春	水2	2	1	言	27
11585	国際コミュニケーション概論 a(a・b担当者を変えて履修)	金子 芳樹	秋	水2	2	1	言	27
11584	国際コミュニケーション概論 a(a・b担当者を変えて履修)	佐野 康子	春	水2	2	1	言	28
11586	国際コミュニケーション概論 b(a・b担当者を変えて履修)	佐野 康子	秋	水2	2	1	言	28
11091	英語音声学	青柳 真紀子	春	火1	2	1		29
11092	英語音声学	青柳 真紀子	秋	火1	2	1		29
11093	英語音声学	大西 雅行	春	木1	2	1		30
11094	英語音声学	大西 雅行	秋	木1	2	1		30
01468	スピーチ・クリニック	清水 由理子	春	月3	2	1		31
01474	スピーチ・クリニック	清水 由理子	秋	月3	2	1		31
	ベーシック・カレッジ・グラマー	閉講						

※閉講した科目については教務課外国語学部係窓口で履修相談を受けてください。

開設科目一覧表

学科共通科目「英語専門講読 a・b」

定員：30名 既修条件：英語リーディング・ストラテジーズa・bおよびReading Comprehension a・bまたはHonors English1a・bを修得

抽選コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
51	Culture and Communication	C. B. 池口	春秋	火4	2	2		77
52	Literary fiction and documentary studies	E. カーニィ	春秋	水1	2	2		78
53	Education&Culture	J. J. ダゲン	秋	木2/木3	2	2		79
54	James Joyce	M. フッド	春秋	火3	2	2		80
55	Education	N. H. ジョスト	春秋	月1	2	2		81
56	Sociolinguistics	T. ヒル	春秋	月3	2	2		82
57	音声科学入門	青柳 真紀子	春秋	火3	2	2		83
58	Exploring Language Teaching	浅岡 千利世	秋	火4	2	2		84
59	米国の東アジア政策	阿部 純一	春秋	土2	2	2		85
60	異文化コミュニケーション論	石井 敏	春秋	金1	2	2		86
61	テレビのコミュニケーション研究	板場 良久	春秋	火3	2	2		87
62	Allen Ginsberg “Kaddish” を読む	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2		88
63	ディズニー・アニメの歴史をたどる	大木 理恵子	春秋	火3	2	2		89
64	英語の音声	大西 雅行	春秋	木2	2	2		90
65	アメリカ黒人の歴史	岡田 誠一	春秋	月2	2	2		91
66	映画批評	柿田 秀樹	春秋	火5	2	2		92
67	アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む	金谷 優子	春秋	金4	2	2		93
68	アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係	金子 芳樹	春秋	水1	2	2		94
69	The Authorized Version	川崎 潔	春秋	木2	2	2		95
70	生成文法入門	河原 宏之	春秋	木1	2	2		96
71	Korea Today	金 雄熙	春秋	水3	2	2		97
72	SLA実証研究論文	木村 恵	春秋	金3	2	2		98
73	英語コミュニケーションの再構築	工藤 和宏	春秋	火3	2	2		99
74	オーストラリアの詩	国見 晃子	春秋	火3	2	2		100
75	英語圏の現代演劇	児嶋 一男	春秋	月2	2	2		101
76	認知英文法	小早川 暁	春秋	金2	2	2		102
77	米国ユダヤ人史	佐藤 唯行	春秋	木4	2	2		103
78	物語を楽しむ	佐藤 勉	春秋	金2	2	2		104
79	現代国際関係：アフリカ	佐野 康子	春秋	木3	2	2		105
80	アメリカ小説	島田 啓一	春	金1/金2	2	2		106
81	応用言語学	清水 由理子	春秋	月2	2	2		107
82	イギリス児童文学	白鳥 正孝	春秋	月3	2	2		108
83	生成文法理論への誘い	鈴木 英一	春秋	水1	2	2		109
84	Self-Regulated Learning	鈴木 眞奈美	秋	火2	2	2		110
85	異文化理解の視点	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2		111
86	20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人	高田 宣子	春秋	火4	2	2		112
87	グローバルな眼でアジアを読む	竹田 いさみ	春秋	火2	2	2		113
88	現代イギリス小説	東郷 公德	春秋	月5	2	2		114
89	現代国際関係論	永野 隆行	春秋	火3	2	2		115
90	インタビューやニュースのスク립トを読む	鍋倉 健悦	春秋	月2	2	2		116
91	アメリカ現代詩を読む	原 成吉	春秋	木4	2	2		117
92	欽定訳聖書を読む	福井 嘉彦	春秋	火3	2	2		118
93	親しみやすいイギリスの短編小説	藤田 永祐	春秋	金4	2	2		119
94	シェイクスピア入門	前沢 浩子	春秋	木3	2	2		120
95	社会・文化とコミュニケーション	町田 喜義	春秋	火3	2	2		121
96	統語論入門	水口 学	春秋	月2	2	2		122
97	アフリカ系アメリカ人およびアフロ・カリブ系の表現文化	三吉 美加	春秋	月2	2	2		123

※抽選の詳細については「時間割表」を参照してください。

開設科目一覧表

学科共通科目

定員:28名 既修条件:英語ライティング・ストラテジーズa・bまたはレベルCを修得 ※英語パラグラフ・ライティングa・b修得者は履修不可

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08225	英作文 a	金子 節也	春	月3	2	2		124
08226	英作文 b	金子 節也	秋	月3	2	2		124
08227	英作文 a	福井 嘉彦	春	木1	2	2		125
08228	英作文 b	福井 嘉彦	秋	木1	2	2		125

定員:28名 既修条件:英語パラグラフ・ライティングa・bまたは英作文a・bまたはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08256	英語エッセイ・ライティング a	E. カーニイ	春	月1	2	2		126
08257	英語エッセイ・ライティング b	E. カーニイ	秋	月1	2	2		126
08268	英語エッセイ・ライティング a	J. A. グレイ	春	水3	2	2		127
08269	英語エッセイ・ライティング b	J. A. グレイ	秋	水3	2	2		127
08270	英語エッセイ・ライティング a	J. ウェンデル	春	月2	2	2		128
08273	英語エッセイ・ライティング b	J. ウェンデル	秋	月2	2	2		128
08260	英語エッセイ・ライティング a	J. ウォールドマン	春	木2	2	2		129
08261	英語エッセイ・ライティング b	J. ウォールドマン	秋	木2	2	2		129
08272	英語エッセイ・ライティング a	K. ミーハン	春	月4	2	2		130
08271	英語エッセイ・ライティング b	L. K. ハーキンス	秋	月3	2	2		130
08266	英語エッセイ・ライティング a	M. フッド	春	火4	2	2		131
08267	英語エッセイ・ライティング b	M. フッド	秋	火4	2	2		131
14975	英語エッセイ・ライティング a	R. J. バロウズ	春	火2	2	2		132
14976	英語エッセイ・ライティング b	R. J. バロウズ	秋	火2	2	2		132
08264	英語エッセイ・ライティング a	T. J. フォトス	春	水2	2	2		133
08265	英語エッセイ・ライティング b	T. J. フォトス	秋	水2	2	2		133
08258	英語エッセイ・ライティング a	W. J. ベンフィールド	春	水3	2	2		134
08259	英語エッセイ・ライティング b	W. J. ベンフィールド	秋	水3	2	2		134
08262	英語エッセイ・ライティング a	W. M. ダーリン	春	月5	2	2		135
08263	英語エッセイ・ライティング b	W. M. ダーリン	秋	月5	2	2		135

定員:25名 既修条件:英語リーディング・ストラテジーズa・bおよびReading Comprehension a・bまたはHonors English1a・bまたはレベルCを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
15029	翻訳 a	柴田 耕太郎	春	火4	2	2		136
15030	翻訳 b	柴田 耕太郎	秋	火4	2	2		136
13603	翻訳 a	柴田 耕太郎	春	木3	2	2		137
13606	翻訳 b	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2		137
08280	翻訳 a	高田 宣子	春	火5	2	2		138
08281	翻訳 b	高田 宣子	秋	火5	2	2		138
08278	翻訳 a	藤田 永祐	春	金2	2	2		139
08279	翻訳 b	藤田 永祐	秋	金2	2	2		139
08276	翻訳 a	前沢 浩子	春	月2	2	2		140
08277	翻訳 b	片山 亜紀	秋	月3	2	2		140
08274	翻訳 a	山中 章子	春	木5	2	2		141
08275	翻訳 b	山中 章子	秋	木5	2	2		141

開設科目一覧表

学科共通科目

定員:32名 既修条件:英語リーディング・ストラテジーズa・bおよびReading Comprehension a・bまたはHonors English1a・bまたはレベルCを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
11525	カレッジ・グラマー a	河原 宏之	春	木2	2	2		142
11526	カレッジ・グラマー b	河原 宏之	秋	木2	2	2		142
12830	カレッジ・グラマー a	小早川 暁	春	金3	2	2		143
12831	カレッジ・グラマー b	小早川 暁	秋	金3	2	2		143
16979	カレッジ・グラマー a	坂本 洋子	春	金2	2	2		144
16980	カレッジ・グラマー b	坂本 洋子	秋	金2	2	2		144
11528	カレッジ・グラマー a	鈴木 英一	春	火3	2	2		145
11529	カレッジ・グラマー b	鈴木 英一	秋	火3	2	2		145
12826	カレッジ・グラマー a	藤田 永祐	春	木2	2	2		146
12827	カレッジ・グラマー b	藤田 永祐	秋	木2	2	2		146
11398	カレッジ・グラマー a	本田 謙介	春	月2	2	2		147
11399	カレッジ・グラマー b	本田 謙介	秋	月2	2	2		147
12775	カレッジ・グラマー a	水口 学	春	月1	2	2		148
12776	カレッジ・グラマー b	水口 学	秋	月1	2	2		148
11396	カレッジ・グラマー a	水口 学	春	月3	2	2		149
11397	カレッジ・グラマー b	水口 学	秋	月3	2	2		149

定員:28名 既修条件:Speech Communication a・bまたはレベルCを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08296	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	E. J. ナオウミ	春	火1	2	2		150
08297	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	E. J. ナオウミ	秋	火1	2	2		150
08290	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	T. ヒル	春	火2	2	2		151
08291	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	T. ヒル	秋	火2	2	2		151

定員:25名 既修条件:Advanced Speech Communication a・bまたはCommunicative English I a・bまたはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08328	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. L. ブランケン	春	水2	2	2		152
08329	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	D. L. ブランケン	秋	水2	2	2		152
08326	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. ケネディ	春	火4	2	2		153
08327	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	D. ケネディ	秋	火4	2	2		153
08342	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. ベーカー	春	木5	2	2		154
08803	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. マッキャン	春	木2	2	2		155
08805	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	D. マッキャン	秋	木2	2	2		155
08343	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	J. A. グレイ	春	月5	2	2		156
14957	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	J. A. グレイ	春	水5	2	2		156
14958	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	J. A. グレイ	秋	水5	2	2		156
08338	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	J. ウェンデル	春	月1	2	2		157
08339	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	J. ウェンデル	秋	月1	2	2		157
08352	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	K. ミーハン	春	金4	2	2		158
08353	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	K. ミーハン	秋	金4	2	2		158
08345	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	L. K. ハーキンス	秋	金3	2	2		159
08344	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	L. K. ハーキンス	秋	月1	2	2		159
08346	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	M. フッド	春	火2	2	2		160
08347	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	M. フッド	秋	火2	2	2		160
08354	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	P. M. ホーネス	春	月1	2	2		161
08355	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2		161
08350	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	P. アップス	春	水2	2	2		162
08351	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	P. アップス	秋	水2	2	2		162
08332	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	R. ジョーンズ	春	月1	2	2		163
08333	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2		163
08334	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	T. J. フォトス	春	水1	2	2		164
08335	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	T. J. フォトス	秋	水1	2	2		164

開設科目一覧表

学科共通科目

定員:20名 既修条件:Advanced Speech Communication a・bまたはCommunicative English I a・bまたはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
11509	DISCUSSION a	C. B. 池口	春	火3	2	2		165
11510	DISCUSSION b	C. B. 池口	秋	火3	2	2		165
08358	DISCUSSION a	D. L. ブランケン	春	水3	2	2		166
08359	DISCUSSION b	D. L. ブランケン	秋	水3	2	2		166
08356	DISCUSSION a	N. H. ジョスト	春	月3	2	2		167
08357	DISCUSSION b	N. H. ジョスト	秋	月3	2	2		167
14951	DISCUSSION a	P. M. ホーネス	春	月2	2	2		168
14952	DISCUSSION b	P. M. ホーネス	秋	月2	2	2		168
08360	DISCUSSION a	W. J. ベンフィールド	春	木2	2	2		169
08361	DISCUSSION b	W. J. ベンフィールド	秋	木2	2	2		169

定員:25名 既修条件:Advanced Speech Communication a・bまたはCommunicative English I a・bまたはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01388	PUBLIC SPEAKING I a	A. R. ファルヴォ	春	金1	2	1		170
01389	PUBLIC SPEAKING I b	A. R. ファルヴォ	秋	金1	2	1		170
01337	PUBLIC SPEAKING I a	P. マッケビリー	春	金2	2	1		171
01338	PUBLIC SPEAKING I b	P. マッケビリー	秋	金2	2	1		171
00703	PUBLIC SPEAKING I a	門倉 弘枝	春	金4	2	1		172
00704	PUBLIC SPEAKING I b	門倉 弘枝	秋	金4	2	1		172

※「PUBLIC SPEAKING II a・b」は閉講

定員:25名 既修条件:Advanced Speech Communication a・bまたはCommunicative English I a・bまたはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00876	DEBATE I a	N. H. ジョスト	春	火2	2	1		173
00877	DEBATE I b	N. H. ジョスト	秋	火2	2	1		173
01134	DEBATE I a	柿田 秀樹	春	火4	2	1		174
01135	DEBATE I b	柿田 秀樹	秋	火4	2	1		174

※「DEBATE II a・b」は閉講

定員:25名 既修条件:Advanced Speech Communication a・bまたはCommunicative English I a・bまたはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
14961	通訳 I a	鍋倉 健悦	春	火3	2	1		175
14962	通訳 I b	鍋倉 健悦	秋	火3	2	1		175
00773	通訳 I a	原口 友子	春	金4	2	1		176
00734	通訳 I a	原口 友子	春	金2	2	1		176
00735	通訳 I b	原口 友子	秋	金2	2	1		176
00774	通訳 I b	原口 友子	秋	金4	2	1		176

定員:25名 既修条件:通訳 I a・bまたはレベルAを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08362	通訳 II a	原口 友子	春	金3	2	2		177
08363	通訳 II b	原口 友子	秋	金3	2	2		177

開設科目一覧表

学科共通科目

定員:50名 既修条件:英語リーディング・ストラテジーズa・b およびReading Comprehension a・b またはHoros English1a・b またはレベルCを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08366	英語ビジネス・コミュニケーション I a	海老沢 達郎	春	火3	2	2		178
08367	英語ビジネス・コミュニケーション I b	海老沢 達郎	秋	火3	2	2		178
08370	英語ビジネス・コミュニケーション I a	杉山 晴信	春	木3	2	2		179
08371	英語ビジネス・コミュニケーション I b	杉山 晴信	秋	木3	2	2		179
08368	英語ビジネス・コミュニケーション I a	杉山 晴信	春	木4	2	2		180
08369	英語ビジネス・コミュニケーション I b	杉山 晴信	秋	木4	2	2		180
08372	英語ビジネス・コミュニケーション I a	信 達郎	春	月1	2	2		181
08373	英語ビジネス・コミュニケーション I b	信 達郎	秋	月1	2	2		181
08374	英語ビジネス・コミュニケーション I a	信 達郎	春	月2	2	2		181
08375	英語ビジネス・コミュニケーション I b	信 達郎	秋	月2	2	2		181

定員:45名 既修条件:英語リーディング・ストラテジーズa・b およびReading Comprehension a・b またはHoros English1a・b またはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08376	英語ビジネス・コミュニケーション II a	杉山 晴信	春	金1	2	2		182
08377	英語ビジネス・コミュニケーション II b	杉山 晴信	秋	金1	2	2		182

定員:40名 既修条件:英語リーディング・ストラテジーズa・b およびReading Comprehension a・b またはHoros English1a・b またはレベルCを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08384	メディア英語 I a	W. J. ベンフィールド	春	水2	2	2		183
08385	メディア英語 I b	W. J. ベンフィールド	秋	水2	2	2		183
09087	メディア英語 I a	海老沢 達郎	春	火4	2	2		184
09088	メディア英語 I b	海老沢 達郎	秋	火4	2	2		184
08388	メディア英語 I a	岡田 誠一	春	月4	2	2		185
08389	メディア英語 I b	岡田 誠一	秋	月4	2	2		185
08390	メディア英語 I a	岡田 誠一	春	木4	2	2		185
08391	メディア英語 I b	岡田 誠一	秋	木4	2	2		185
08382	メディア英語 I a	金子 節也	春	月4	2	2		186
08383	メディア英語 I b	金子 節也	秋	月4	2	2		186
11552	メディア英語 I a	佐野 康子	春	火2	2	2		187
11553	メディア英語 I b	佐野 康子	秋	火2	2	2		187

定員:40名 既修条件:英語リーディング・ストラテジーズa・b およびReading Comprehension a・b またはHoros English1a・b またはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08394	メディア英語 II a	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2		188
08395	メディア英語 II b	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2		188
08392	メディア英語 II a	東郷 公德	春	月4	2	2		189
08393	メディア英語 II b	東郷 公德	秋	月4	2	2		189

定員:35名 既修条件:英語リーディング・ストラテジーズa・b およびReading Comprehension a・b またはHoros English1a・b またはレベルBを修得

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08400	シネマ英語 a	岡田 誠一	春	木3	2	2		190
08401	シネマ英語 b	岡田 誠一	秋	木3	2	2		190
12717	シネマ英語 a	門倉 弘枝	春	金5	2	2		191
08399	シネマ英語 b	門倉 弘枝	秋	金5	2	2		191

開設科目一覧表

学科専門科目

◆言語コミュニケーション◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
11543	言語情報処理 I a (定員50名)	木村 恵	春	木4	2	2		193
11544	言語情報処理 I b (定員50名)	木村 恵	秋	木4	2	2		193
01509	言語情報処理 I a (定員50名)	吉成 雄一郎	春	金2	2	2		194
01510	言語情報処理 I b (定員50名)	吉成 雄一郎	秋	金2	2	2		194
01541	言語情報処理 II a (定員40名)	吉成 雄一郎	春	金1	2	2		195
01542	言語情報処理 II b (定員40名)	吉成 雄一郎	秋	金1	2	2		195
01347	統語論a	鈴木 英一	春	火2	2	2		197
01348	統語論b	鈴木 英一	秋	火2	2	2		197
00790	意味論a	府川 謹也	春	金4	2	2		198
00791	意味論b	小早川 暁	秋	金4	2	2		198
00799	音声・音韻論a	大西 雅行	春	火1	2	2		199
00800	音声・音韻論b	大西 雅行	秋	火1	2	2		199
	英語史 a	閉講						
	英語史 b	閉講						
01149	英語学特殊講義a	青柳 真紀子	春	金3	2	2		200
01150	英語学特殊講義b	青柳 真紀子	秋	金3	2	2		200
08784	英語学文献研究a (定員25名)	小早川 暁	春	水2	2	3		201
08785	英語学文献研究b (定員25名)	小早川 暁	秋	水2	2	3		201

◆文学コミュニケーション◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
10274	英語圏の小説 a (定員100名)	藤田 永祐	春	金3	2	2		203
09060	英語圏の小説 b (定員100名)	片山 亜紀	秋	木3	2	2		203
08205	英語圏の詩 a (定員100名)	遠藤 朋之	春	木4	2	2		204
08206	英語圏の詩 b (定員100名)	白鳥 正孝	秋	月4	2	2		204
08207	英語圏の演劇 a (定員100名)	児嶋 一男	春	月3	2	2		205
08208	英語圏の演劇 b (定員100名)	児嶋 一男	秋	月3	2	2		205
08209	英語圏の社会と思想 a (定員100名)	福井 嘉彦	春	火2	2	2		206
08210	英語圏の社会と思想 b (定員100名)	福井 嘉彦	秋	火2	2	2		206
08211	英語圏の歴史 a	佐藤 唯行	春	木2	2	2		207
08212	英語圏の歴史 b	佐藤 唯行	秋	木2	2	2		207
08213	英語圏のエリア・スタディーズ a (定員200名)	佐藤 唯行	春	水3	2	2		208
08214	英語圏のエリア・スタディーズ b (定員200名)	藤田 永祐	秋	水3	2	2		208
10657	英語圏の文学・文化特殊講義 a	上野 直子	春	火3	2	3		209
11539	英語圏の文学・文化特殊講義 b	前沢 浩子	秋	月2	2	3		209
13704	英語圏の文学・文化特殊講義 a	遠藤 充信	春	木3	2	3		210
13703	英語圏の文学・文化特殊講義 b	遠藤 充信	秋	木3	2	3		210
12718	英語圏の文学・文化特殊講義 a	高橋 雄一郎	春	水2	2	3		211
11271	英語圏の文学・文化特殊講義 b	高橋 雄一郎	秋	水2	2	3		211
14969	英語圏の文学・文化文献研究 a (定員25名)	児嶋 一男	春	火2	2	3		212
10243	英語圏の文学・文化文献研究 b (定員25名)	児嶋 一男	秋	火2	2	3		212

開設科目一覧表

学科専門科目

◆異文化コミュニケーション◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01434	異文化間コミュニケーション論a(a・b担当者を変えて履修)	工藤 和宏	春	火5	2	2	言	213
01239	異文化間コミュニケーション論b(a・b担当者を変えて履修)	鍋倉 健悦	秋	火5	2	2	言	213
01238	異文化間コミュニケーション論a(a・b担当者を変えて履修)	鍋倉 健悦	春	火5	2	2	言	214
01435	異文化間コミュニケーション論b(a・b担当者を変えて履修)	工藤 和宏	秋	火5	2	2	言	214
01393	マス・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	木3	2	2	言	215
01394	マス・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	秋	木3	2	2	言	215
01108	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	春	月2	2	2		216
01169	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	秋	月2	2	2		216
00977	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	火3	2	2		217
00978	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	秋	火3	2	2		217
01360	コミュニケーション論特殊講義a	板場 良久	春	月1	2	3		218
01361	コミュニケーション論特殊講義b	板場 良久	秋	月1	2	3		218
00975	コミュニケーション論文献研究a (定員25名)	町田 喜義	春	火4	2	3		219
01511	コミュニケーション論文献研究b (定員25名)	町田 喜義	秋	火4	2	3		219

◆国際コミュニケーション◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08215	国際社会論 a(a・b担当者を変えて履修)	竹田 いさみ	春	月3	2	2		220
08216	国際社会論 b(a・b担当者を変えて履修)	永野 隆行	秋	月3	2	2		220
08217	国際社会論 a(a・b担当者を変えて履修)	永野 隆行	春	月3	2	2		221
08218	国際社会論 b(a・b担当者を変えて履修)	竹田 いさみ	秋	月3	2	2		221
00743	国際関係史a	永野 隆行	春	月2	2	2	法	222
00732	国際関係史b	永野 隆行	秋	月2	2	2	法	222
00917	国際開発協力論b	竹田 いさみ	春	火3	2	2		223
00945	国際開発協力論a	金子 芳樹	秋	火2	2	2		223
12778	国際関係論特殊講義b	石川 幸子	秋	木2	2	2		227
13706	国際関係論特殊講義a	遠藤 充信	春	木4	2	2		228
13705	国際関係論特殊講義b	遠藤 充信	秋	木4	2	2		228
01501	国際関係論特殊講義a	金子 芳樹	春	火2	2	2		229
13590	国際関係論特殊講義b	小松 諄悦	秋	金2	2	2		229
01502	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	秋	火3	2	2		230
14970	国際関係論文献研究a (定員25名)	金子 芳樹	春	月3	2	3		231
14971	国際関係論文献研究b (定員25名)	金子 芳樹	秋	月3	2	3		231
00935	国際関係論文献研究a (定員25名)	竹田 いさみ	春	火4	2	3		232
00961	国際関係論文献研究b (定員25名)	竹田 いさみ	秋	火4	2	3		232

◆特別セミナー◆

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
16459	特別セミナー	金 雄熙	春	火2	2	3		233
16460	特別セミナー	金 雄熙	秋	火2	2	3		233
17000	特別セミナー	金 雄熙	春	水4	2	3		234
16999	特別セミナー	金 雄熙	秋	水4	2	3		234
10222	特別セミナー(CAEL) (定員40名)	J. スティベンソン	春	月3	2	2		235
10223	特別セミナー(CAEL) (定員40名)	J. スティベンソン	秋	月3	2	2		235

開設科目一覧表

外国語学部共通科目

時間割 コード	開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07690	総合講座	若森 栄樹	春	水3		2	1	養・経・法	236
07691	総合講座	若森 栄樹	秋	水3		2	1	養・経・法	236
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	50	2	1	養・経・法	237
	情報科学概論b	休講							
	情報科学各論(入門)	各担当教員						養・経・法	238
00208		内田 俊郎	春	木4	50	2	1		
00058		金子 憲一	春	月5	60	2	1		
00093		田中 雅英	春	火2	60	2	1		
00074		田中 雅英	春	火3	60	2	1		
00138		長崎 等	春	水1	60	2	1		
00253		松山 恵美子	春	月2	50	2	1		
13304		内田 俊郎	秋	木4	60	2	1		
		情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員						養・経・法
00019		内田 俊郎	春	木2	60	2	1		
00044		金子 憲一	春	月4	60	2	1		
00255		松山 恵美子	春	月3	60	2	1		
13306		内田 俊郎	秋	木3	60	2	1		
00076		田中 雅英	秋	火2	60	2	1		
00109		田中 雅英	秋	火4	60	2	1		
00141		長崎 等	秋	水1	60	2	1		
00231		松山 恵美子	秋	月3	60	2	1		
13162	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金子 憲一	春	月3	60	2	1		240
13164		金子 憲一	秋	月3	60	2	1		
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員						養・経・法	241
00195		内田 俊郎	春	木3	60	2	1		
00210		内田 俊郎	秋	木2	60	2	1		
00060		金子 憲一	秋	月4	60	2	1		
00096		田中 雅英	秋	火3	60	2	1		
	情報科学各論(中級)								
15225	(プレゼンテーション)	金井 満	春	火2	30	2	1	養・経・法	242
15226	(プレゼンテーション)	金井 満	秋	火2	30	2	1	養・経・法	242
15227	(万能ツールとしてのExcel)	金井 満	春	木2	30	2	1	養・経・法	243
15228	(万能ツールとしてのExcel)	金井 満	秋	木2	30	2	1	養・経・法	243
15229	(Wordを使いこなす)	工藤 達也	春	火3	30	2	1	養・経・法	244
15230	(Wordを使いこなす)	工藤 達也	秋	火3	30	2	1	養・経・法	244
14281	(HTML正しく伝えるために)	田中 善英	春	金4	30	2	1	養・経・法	245
14282	(HTML美しく見せるために)	田中 善英	秋	金4	30	2	1	養・経・法	245
00048	(HTML応用1)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	246
00239	(表計算応用1)	松山 恵美子	秋	月2	30	2	1	養・経・法	247
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	350	2	1	養・経・法	248
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	350	2	1	養・経・法	248
	社会心理学a	休講							
	社会心理学b	休講							

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

06年度以降(春) 03~05年度(春)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深めることですが、その過程において、ふだん無意識のうちに使っていることばの研究の楽しさを味わってもらいたいと思っています。具体的には、英語を母語とする話者の無意識下にある言語直感を掘り出し、英語の隠れていた規則性を発見し、ひいては言語そのものの研究が意外と(問題の多いことばですが)科学的かつ人間的で、それだから楽しいということを実感してもらうことにあります。</p> <p>英語学科の学生は、ただ英語の実用的運用能力に秀でているだけでなく、知的好奇心の対象としての英語について、役に立つ、本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証(あかし)であることを理解してほしいと思っています。</p>		<p>第1回 英語学とは何か 第2回 語の成り立ち—形態論 第3回 語の意味—意味論 I 第4回 語の組み合わせ—統語論 I 第5回 文の成り立ち—統語論 II 第6回 文の意味—意味論 II 第7回 発話の意味1—語用論 I 第8回 発話の意味2—語用論 II 第9回 音節と語アクセント—音韻論 I 第10回 イントネーションとリズム—音韻論 II 第11回 英語の変化(文法化)—英語史 第12回 母語としての英語の習得—言語習得 I 第13回 外国語としての英語の習得—言語習得 II</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：配布資料 参考文献 影山太郎・他 編集(2004)『英語言語学の第一歩』(第2版)くろしお出版/西光義弘編集『日英対照による英語学概論』(増補版)くろしお出版</p>		定期試験を中心に、総合的に判断します。	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、英語という言語に対する理論言語学的接近法の考え方、分析の道具立て及び手法を身につけることである。これにより、暗記の対象としての英語という見方や意思伝達の道具としての英語という見方とは異なる、発見・理解の対象としての英語という見方を修得することになる。英語に対するこのような接近法は、英語そのものに対する理解を深めるだけでなく、現象の複雑さの背後に存在する規則性といったものの存在に目を向ける契機となるはずである。</p> <p>講義ではまず、理論言語学の関心が、言語そのものというよりは、言語を生み出す仕組み、母語話者の言語直観の方に向けられているという点を押さえ、英語に対する理論言語学的接近法がどのようなものであるかを明らかにする。その後、英語という言語を構成する小さな単位(単語)からより大きな単位(文、さらには談話)へと講義は進んでゆく。狭義の文法だけでなく、意味現象、歴史変化、言語習得などについても扱う。折にふれて、多くのものにとっての母語である日本語についても触れたい。</p>		<p>第1回(9月30日) 英語学とは何か 第2回(10月7日) 語の成り立ち—形態論 第3回(10月14日) 語の意味—意味論 1 第4回(10月21日) 語の組み合わせ—統語論 1 第5回(10月28日) 文の成り立ち—統語論 2 第6回(11月11日) 文の意味—意味論 2 第7回(11月18日) 発話の意味1—語用論 1 第8回(11月25日) 発話の意味2—語用論 2 第9回(12月2日) 音節と語アクセント—音韻論 1 第10回(12月9日) イントネーションとリズム—音韻論 2 第11回(12月16日) 英語の変化(文法化)—英語史 第12回(12月23日) 母語としての英語の習得—言語習得 1 第13回(1月13日) 外国語としての英語の習得—言語習得 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 配布資料 参考文献 影山太郎他(2004)『英語言語学の第一歩』(第2版)東京：くろしお出版。 西光義弘(編)(1999)『日英対照による英語学概論』(増補版)東京：くろしお出版。</p>		出席状況や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の音・語・文・意味・用法に関する特徴がどのように研究されるかを概観する。</p> <p>講義概要: 人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文における機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学とは何か: 英語の言語学的研究, 言語学の研究領域 2. 音声学(1): 音声学と音韻論, 音声学の諸分野 3. 音声学(2): 子音と母音の特徴と種類 4. 音韻論(1): 英語の母音・子音体系, 母音の種類, 子音の種類 5. 音韻論(2): 音韻操作・過程, 強勢・リズム・音調 6. 形態論(1): 語の基本構造, 形態素の種類と語の構成 7. 形態論(2): 語形成の方法, 派生接辞と屈折接辞, 複合語 8. 統語論(1): 語句のまとまり, 語順の役割, 文法機能の決定, 統語構造の説明 9. 統語論(2): 統語構造の句構造標識による説明, 句構造標識の表す情報, 抽象的構造と派生 10. 意味論(1): 意味解釈の諸相, 語彙的曖昧性と非曖昧化, 構造上の曖昧性, 語の意味分析, 意味素性 11. 意味論(2): 文の意味分析, 動詞の意味素性による意味解釈, 移動構文の意味解釈 12. 語用論(1): 発話行為, 直示表現, 会話の含意と協調の原則 13. 語用論(2): 言内・言外の意味, 前提と主張, 情報構造 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(著)『英語学概論』(1987, 開拓社) + 配布プリント</p>		<p>出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。</p>	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の音・語・文・意味・用法に関する特徴がどのように研究されるかを概観する。</p> <p>講義概要: 人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文における機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学とは何か: 英語の言語学的研究, 言語学の研究領域 2. 音声学(1): 音声学と音韻論, 音声学の諸分野 3. 音声学(2): 子音と母音の特徴と種類 4. 音韻論(1): 英語の母音・子音体系, 母音の種類, 子音の種類 5. 音韻論(2): 音韻操作・過程, 強勢・リズム・音調 6. 形態論(1): 語の基本構造, 形態素の種類と語の構成 7. 形態論(2): 語形成の方法, 派生接辞と屈折接辞, 複合語 8. 統語論(1): 語句のまとまり, 語順の役割, 文法機能の決定, 統語構造の説明 9. 統語論(2): 統語構造の句構造標識による説明, 句構造標識の表す情報, 抽象的構造と派生 10. 意味論(1): 意味解釈の諸相, 語彙的曖昧性と非曖昧化, 構造上の曖昧性, 語の意味分析, 意味素性 11. 意味論(2): 文の意味分析, 動詞の意味素性による意味解釈, 移動構文の意味解釈 12. 語用論(1): 発話行為, 直示表現, 会話の含意と協調の原則 13. 語用論(2): 言内・言外の意味, 前提と主張, 情報構造 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(著)『英語学概論』(1987, 開拓社) + 配布プリント</p>		<p>出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。</p>	

03～05年度（春）	英語学概論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深め、英語についての知識を増やすことにあります。したがって、高校時代に習ってきた表現が「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対して、それなりに「なるほど!」と納得のいく理由のあることを説明していきます。</p> <p>この授業を受けると、例えば日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“*I persuaded John out of smoking, but he didn't quit smoking.”と言えない理由や、“I'm standing () the street.”のカッコに in と on が入るけど、意味が違うことも分かるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的統語論（情報構造、受身文、再帰代名詞） 2. ” 3. ” 4. ” 5. 意味論（語・句・節の意味、意味関係、前提と断定、） 6. ” 7. 認知意味論（カテゴリー化、メタファー、メトニミー、イメージスキーマ、文法化、意味変化） 8. ” 9. ” 10. 語用論（ダイクシス、ポライトネス） 11. ” 12. 関連性理論（コミュニケーションと解釈原則、表意と推意、概念的コード化と手続き的コード化） 13. ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリント（随時配布）を使います。 参考書は随時紹介します。</p>		<p>試験と課題によります。（下を参照）</p>	

03～05年度（秋）	英語学概論 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学における機能主義の考え方を修得すること並びに機能主義の観点から行なわれた英語の省略現象、後置現象及び数量詞遊離現象の分析（機能的構文論による分析）を理解することである。具体的には、次のような文を扱うことになる。</p> <p>(1) a. John read Hamlet, and Mary King Lear. b. John doesn't like chicken, nor Mary pork.</p> <p>(2) a. A man came yesterday with blue eyes. b. Into the building walked John.</p> <p>(3) a. The students all came to the party. b. The guests will each make a speech.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第1回（9月26日）形式主義と機能主義 第2回（10月3日）省略現象1 第3回（10月10日）省略現象2 第4回（10月17日）省略現象3 第5回（10月24日）後置現象1 第6回（10月31日）後置現象2 第7回（11月7日）後置現象3 第8回（11月14日）後置現象4 第9回（11月21日）数量詞遊離現象1 第10回（11月28日）数量詞遊離現象2 第11回（12月5日）数量詞遊離現象3 第12回（12月12日）数量詞遊離現象4 第13回（12月19日）まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 配布資料 参考文献 神尾昭雄・高見健一（1998）『談話と情報構造』東京：研究社出版。 高見健一（1997）『機能的統語論』東京：くろしお出版。</p>		<p>出席状況や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢 浩子・片山 亜紀 高橋雄一郎・上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも「間大西洋地域」を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。13回の講義を通して、文学表現のおもしろさを味わうとともに、文学・文化と政治・社会との複雑な関係にも気づいてほしい。</p> <p>4名の教員で担当し、各担当教員は専門とする地域とトピックについて講義を行う。授業で扱う地域は、イギリス連合王国、アメリカ合衆国、カリブ諸地域が中心となるが、その他の英語圏にも目配りしつつ進めたい。</p>		<p>1回目：イントロダクション・英語圏のひろがり（上野） 2回目：ユニオンジャックとシェイクスピア（前沢） 3回目：18世紀の市民社会とジャーナリズム（前沢） 4回目：フランス革命とイギリス・ロマン派（前沢） 5回目：『フランケンシュタイン』とゴシック小説（片山） 6回目：19世紀イギリスの光と影（片山） 7回目：第一次大戦とモダニズム運動（片山） 8回目：野外博物館に見るアメリカ合州国の歴史（高橋） 9回目：トニ・モリソンの『ピラヴド』を読む（高橋） 10回目：パフォーマンス・アートに見るポストコロニアリズム（高橋） 11回目：西欧史の背中の臍＝カリブ（上野） 言葉を持たぬ「キャリバン」から文学の豊穡まで 12回目：ディアスポラの世界地図・言葉という故郷（上野） 13回目：ユニオンジャックに「黒」はない？（上野）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。</p>		<p>詳細は開講時に説明する。</p>	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢 浩子・片山 亜紀 高橋雄一郎・上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも「間大西洋地域」を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。12回の講義を通して、文学表現のおもしろさを味わうとともに、文学・文化と政治・社会との複雑な関係にも気づいてほしい。</p> <p>4名の教員で担当し、各担当教員は専門とする地域とトピックについて講義を行う。授業で扱う地域は、イギリス連合王国、アメリカ合衆国、カリブ諸地域が中心となるが、その他の英語圏にも目配りしつつ進めたい。</p>		<p>1回目：イントロダクション・英語圏のひろがり（上野） 2回目：ユニオンジャックとシェイクスピア（前沢） 3回目：18世紀の市民社会とジャーナリズム（前沢） 4回目：フランス革命とイギリス・ロマン派（前沢） 5回目：『フランケンシュタイン』とゴシック小説（片山） 6回目：19世紀イギリスの光と影（片山） 7回目：第一次大戦とモダニズム運動（片山） 8回目：野外博物館に見るアメリカ合州国の歴史（高橋） 9回目：トニ・モリソンの『ピラヴド』を読む（高橋） 10回目：パフォーマンス・アートに見るポストコロニアリズム（高橋） 11回目：西欧史の背中の臍＝カリブ（上野） 言葉を持たぬ「キャリバン」から文学の豊穡まで 12回目：ディアスポラの世界地図・言葉という故郷（上野） 13回目：ユニオンジャックに「黒」はない？（上野）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。</p>		<p>詳細は開講時に説明する。</p>	

03～05 年度（秋）	英語圏の文学・文化概論 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語圏の文学・文化からいくつかの重要なモーメントを抜き出して考察し、社会的な変化や思想史的な流れを辿りたい。</p> <p>学期末のレポートはジョーゼフ・コンラッドの中篇小説『闇の奥』(1899)とフランシス・ Coppola の映画『地獄の黙示録』(1979)について、「小説の Coastal (Outer) Station, Central Station, Inner Station は映画ではどのように描写されているか、比較した上であなたの考えを述べよ。(2000~2500 字)」である。前者は中野好夫による訳が岩波文庫に収められているが、1958 年の出版で日本語が難解な上に、解説にも若干の誤りがあるので余り薦められない。2006 年に出版された藤永茂の新訳を DUO に発注しているので、やや値ははるが、こちらを読んで欲しい。9 回目の授業までに必ず読了しておくこと。英語で読む場合は Norton Critical Edition を薦める。象徴的な小説であり、やや難解とを感じる学生もいるかもしれないので、早めに読み始めて欲しい。また、藤永茂の『「闇の奥」の奥—コンラッド・植民地主義・アフリカの重荷』（三交社、2006）及び同氏によるブログを参考文献としておく。映画の方は図書館の視聴覚室で観ることができるし、レンタルビデオ・DVD 店にも大抵は置いてある。こちらも 9 回目の授業までに観ておくことが前提になる。但し、現在 DVD で出回っているのは後に編集された「特別完全版」であり、図書館所蔵の「劇場公開版」の方が小説とは比較しやすい。映画関連の参考文献には立花隆『解説「地獄の黙示録」』（文春文庫、2004）と Peter Cowie, <i>The Apocalypse Now Book</i> (Da Capo Press, 2001) を挙げておく。</p>		<p>①変わりゆく英語圏の文学と文化</p> <p>②前回の続き</p> <p>③キリスト教の宇宙観と英語圏の文学・文化</p> <p>④宗教改革から理性の時代へ</p> <p>⑤前回の続き</p> <p>⑥視点を変えて（閑話休題）</p> <p>⑦西欧白人異性愛男性主義の周縁から</p> <p>⑧前回の続き</p> <p>⑨<i>The Waste Land, Heart of Darkness, and Apocalypse Now</i></p> <p>⑩前回の続き</p> <p>⑪前回の続き</p> <p>⑫ポストモダニズムとポストコロニアリズム</p> <p>⑬Catch up & Wrap up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上記以外のテキスト、参考文献は原則として授業支援ポータル・サイトからダウンロードしてもらう。指示にしたがって予習、また教室への持参をお願いする。</p>		<p>小レポート（5 点 x 10）、学期末レポートが 50 点。</p>	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの間い直しから始まるからです。なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<p>I. コミュニケーション理論のフロンティア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要、研究チームの編成 2. 科学技術的なコミュニケーション理論 3. 人間主義的なコミュニケーション理論 4. 批判実践的なコミュニケーション理論 <p>II. 文化研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 比較文化論の問題 6. 文化本質主義と文化相対主義の問題 7. 文化の政治性とは何か？ <p>III. レトリック研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. レトリック研究とは何か？ 9. 誰かを説得しようとしている自分 10. 知らぬ間に説得されている自分 <p>IV. 発表と審査</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 発表、審査、講評：Day 1 12. 発表、審査、講評：Day 2 13. まとめ、クイズ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布予定、参考書：『異文化コミュニケーション研究法』(有斐閣)、『説得コミュニケーションを学ぶ人のために』(世界思想社、近刊)</p>		<ol style="list-style-type: none"> ①クイズ(1回：20%) ②発表(準備・発表・審査：80%) 	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの間い直しから始まるからです。なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<p>I. コミュニケーション理論のフロンティア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要、研究チームの編成 2. 科学技術的なコミュニケーション理論 3. 人間主義的なコミュニケーション理論 4. 批判実践的なコミュニケーション理論 <p>II. 文化研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 比較文化論の問題 6. 文化本質主義と文化相対主義の問題 7. 文化の政治性とは何か？ <p>III. レトリック研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. レトリック研究概説 9. 誰かを説得しようとしている自分 10. 知らぬ間に説得されている自分 <p>IV. 発表と審査</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 発表、審査、講評：Day 1 12. 発表、審査、講評：Day 2 13. まとめ、クイズ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布予定、参考書：『異文化コミュニケーション研究法』(有斐閣)、『説得コミュニケーションを学ぶ人のために』(世界思想社、近刊)</p>		<ol style="list-style-type: none"> ①クイズ(1回：20%) ②発表(準備・発表・審査：80%) 	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏 (特にアメリカ) の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キーチームの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course Orientation 2 What is Communication Studies? 3 Hollywood and Hypercommercialism 4 Hollywood and Hypercommercialism 5 Hollywood and Hypercommercialism 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Advertisement and Public Culture 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Desire, Sexuality and Power in Music Video 13 Wrap Up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏 (特にアメリカ) の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キーチームの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course Orientation 2 What is Communication Studies? 3 Hollywood and Hypercommercialism 4 Hollywood and Hypercommercialism 5 Hollywood and Hypercommercialism 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Advertisement and Public Culture 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Desire, Sexuality and Power in Music Video 13 Wrap Up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」(視点と判断力)を養うことを目指します。そのために、世界各地でこれまでに起こった、もしくは現在起こっている代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際社会の構造と展開」(第2~6週)と「グローバル化の中の国際社会」(第7~第13週)の2つのパートから構成されます(右の授業計画参照)。</p> <p>この授業では、2年次における専門コース選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのようなことを勉強するのかをイメージしてもらえるよう考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション (第1週) *国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p>2. 国際社会の構造と展開(第2~6週) *20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争(朝鮮戦争、ベトナム戦争など)、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p>3. グローバル化の中の国際社会 (第7~13週) *1990年代以降急速に進んだグローバル化に伴って起こっている事象(例えば、ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化など)を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドについて考えます。具体的には、①国境を越えたヒトの移動、②新しい戦争・紛争と安全保障、③経済の自由化と格差の拡大、④民族・宗教・ジェンダーの政治化、⑤インターネットのインパクト、⑥地球環境問題の展開などを扱います。</p> <p>(初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストを一貫して使うことはしませんが、講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。		学期半ば提出のレポートと学年末試験の成績に基づいて成績をつけます。	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論a	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」(視点と判断力)を養うことを目指します。そのために、世界各地でこれまでに起こった、もしくは現在起こっている代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際社会の構造と展開」(第2~6週)と「グローバル化の中の国際社会」(第7~第13週)の2つのパートから構成されます(右の授業計画参照)。</p> <p>この授業では、2年次における専門コース選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのようなことを勉強するのかをイメージしてもらえるよう考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション (第1週) *国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p>2. 国際社会の構造と展開(第2~6週) *20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争(朝鮮戦争、ベトナム戦争など)、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p>3. グローバル化の中の国際社会 (第7~13週) *1990年代以降急速に進んだグローバル化に伴って起こっている事象(例えば、ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化など)を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドについて解説します。具体的には、①国境を越えたヒトの移動、②新しい戦争・紛争と安全保障、③経済の自由化と格差の拡大、④民族・宗教・ジェンダーの政治化、⑤インターネットのインパクト、⑥地球環境問題の展開などを扱います。</p> <p>(初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストを一貫して使うことはしませんが、講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。		学期半ば提出のレポートと学年末試験の成績に基づいて成績をつけます。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、国際関係論の基礎知識を学んでもらうことにある。この授業を通じて、現在の国際社会で実際に起きている事柄や国際社会の直面するさまざまな課題を理解するきっかけとしてもらいたい。</p> <p>第7週目までは、国際関係論がいかなる学問であるのか、国際社会の発展の経緯、国際社会を構成する行為主体、国際関係を分析する視点についての説明を行う。第8週目以降は、国際社会が直面する課題として具体的な事象を焦点に、それぞれの歴史的経緯、現状、国際社会による取り組みを取りあげる。</p> <p>本講義においては、国際関係論と実社会との関連性を考えてもらう手がかりとして、その時々国際情勢に応じた新聞記事の紹介を行う予定である。また、授業の内容によっては、映像資料も積極的に用いる。なお、原則として4回を超えての欠席をした者は単位修得の権利を失う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際関係論とは？ 2. 国際社会の発展と展開（1） 3. 国際社会の発展と展開（2） 4. 国際社会を構成する主体（1） 5. 国際社会を構成する主体（2） 6. 国際社会を分析する視点 7. 中間小テスト、まとめ 8. 国際社会の直面する課題（1）テロリズム 9. 国際社会の直面する課題（2）貿易・市場 10. 国際社会の直面する課題（3）ナショナリズム 11. 国際社会の直面する課題（4）核拡散・軍拡 12. 国際社会の直面する課題（5）環境問題 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定するテキストはないが、授業において参考文献を紹介する。また、レジュメも配布する。		出席、中間小テスト、学期末レポートの総合評価とする。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、国際関係論の基礎知識を学んでもらうことにある。この授業を通じて、現在の国際社会で実際に起きている事柄や国際社会の直面するさまざまな課題を理解するきっかけとしてもらいたい。</p> <p>第7週目までは、国際関係論がいかなる学問であるのか、国際社会の発展の経緯、国際社会を構成する行為主体、国際関係を分析する視点についての説明を行う。第8週目以降は、国際社会が直面する課題として具体的な事象を焦点に、それぞれの歴史的経緯、現状、国際社会による取り組みを取りあげる。</p> <p>本講義においては、国際関係論と実社会との関連性を考えてもらう手がかりとして、その時々国際情勢に応じた新聞記事の紹介を行う予定である。また、授業の内容によっては、映像資料も積極的に用いる。なお、原則として4回を超えての欠席をした者は単位修得の権利を失う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際関係論とは？ 2. 国際社会の発展と展開（1） 3. 国際社会の発展と展開（2） 4. 国際社会を構成する主体（1） 5. 国際社会を構成する主体（2） 6. 国際社会を分析する視点 7. 中間小テスト、まとめ 8. 国際社会の直面する課題（1）テロリズム 9. 国際社会の直面する課題（2）貿易・市場 10. 国際社会の直面する課題（3）ナショナリズム 11. 国際社会の直面する課題（4）核拡散・軍拡 12. 国際社会の直面する課題（5）環境問題 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定するテキストはないが、授業において参考文献を紹介する。また、レジュメも配布する。		出席、中間テスト、学期末レポートの総合評価とする。	

08年度以前(春)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。</p> <p>講義概要 大教室における半期13回のみでの授業であるので、音声学の基礎の講義となる。指定テキストは初習者のもので、基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでおくことが必須となる。</p> <p>メッセージ <u>第一回目の授業前に</u>テキストを入手し、第1章(pp. 2-7)を読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第1章「音声学とは」 学際的領域、理論と応用、学習者や指導者として 第2章「発声のメカニズム」器官(発声、共鳴、調音)母音と子音 第3章「音声表記」 IPA、分類(気流、声帯振動、調音位置/方法)、ピッチ/強さ/長さ 第4章「母音」分類(高低/前後、円唇)、基本母音 母音(2)日本語との比較、スベリングと母音、アクセントと母音 第5章「子音」有声/無声、調音位置/方法、阻害音/共鳴音 子音(2)日本語との比較 第6章「音節」 音節構造、音素配列、音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 音節(2)第7章「語強勢」 モーラ/音節、音節の連続によるアクセント/リズム 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 第8章「音縮小」 第9章「同時調音」第10章「イントネーション」 言語情報・パラ言語情報・非言語情報、音声学の発展(工学・教育・医療・政策・社会学) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤寧、佐藤努『現代の英語音声学』金星堂(1997) その他 配布資料		出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には2/3以上の出席が求められる。出席は厳しい。	

08年度以前(秋)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。</p> <p>講義概要 大教室における半期13回のみでの授業であるので、音声学の基礎の講義となる。指定テキストは初習者のもので、基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでおくことが必須となる。</p> <p>メッセージ <u>第一回目の授業前に</u>テキストを入手し、第1章(pp. 2-7)を読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第1章「音声学とは」 学際的領域、理論と応用、学習者や指導者として 第2章「発声のメカニズム」器官(発声、共鳴、調音)母音と子音 第3章「音声表記」 IPA、分類(気流、声帯振動、調音位置/方法)、ピッチ/強さ/長さ 第4章「母音」分類(高低/前後、円唇)、基本母音 母音(2)日本語との比較、スベリングと母音、アクセントと母音 第5章「子音」有声/無声、調音位置/方法、阻害音/共鳴音 子音(2)日本語との比較 第6章「音節」 音節構造、音素配列、音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 音節(2)第7章「語強勢」 モーラ/音節、音節の連続によるアクセント/リズム 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 第8章「音縮小」 第9章「同時調音」第10章「イントネーション」 言語情報・パラ言語情報・非言語情報、音声学の発展(工学・教育・医療・政策・社会学) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤寧、佐藤努『現代の英語音声学』金星堂(1997) その他 配布資料		出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には2/3以上の出席が求められる。出席は厳しい。	

08年度以前(春)	英語音声学	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説する。音声について、理論と実践の両面から音の習得を目指し、英語音を聞く、話す能力の向上と、言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の特徴と分類、日・英・米音の差異、連続音の諸変化など発話に必要な音声の基礎を講義する。 なお、極力、視聴覚機器を使用し、実際の音の聴取と発音練習を行い、事例は理解しやすいようにする。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官と機能 3. 英語音の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、鼻音 9. 側音、摩擦音、半母音 10. 弱形と強形 11. 同化作用 12. 置換作用 13. 省略作用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
英語音声学の参考書は数多く発行されているので、特に、テキストは指定しない。		テストの成績	

08年度以前(秋)	英語音声学	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説する。音声についての理論的な説明と、その実際音に触れ、理論と実践の両面から音の習得を目指す。英語音を聞く、話す能力の向上と、言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の特徴と分類、日・英・米音の差異、連続音の諸変化など発話に必要な音声の基礎を講義する。 なお、極力、視聴覚機器を使用し、実際の音の聴取と発音練習を行い、事例は理解しやすいようにする。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官と機能 3. 英語音の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、鼻音 9. 側音、摩擦音、半母音 10. 弱形と強形 11. 同化作用 12. 置換作用 13. 省略作用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
英語音声学の参考書は数多く発行されているので、特に、テキストは指定しない。		テストの成績	

03～05年度（春）	スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。</p> <p>理論と実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、連接、強勢とリズム、抑揚などについての教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書等を教材として用い、実際に教授法を工夫し、発表する。</p> <p>英語教育に関心のある2年生以上を対象とする半期完結科目。免許課程登録者でなくても履修可。</p> <p>受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。</p> <p>定員は25名。受講希望者は最初の授業に必ず出席すること。受講希望者が定員を超えた場合は、その場で抽選を行う。<u>無断登録は認めない</u>。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 英語の母音の特徴 3. " (Presentation & Quiz) 4. 英語の子音の特徴 5. " (Presentation & Quiz) 6. まとめ（対話や散文等を用いた練習），音声提(1) 7. 英語の強勢とリズム 8. " (Presentation & Quiz) 9. 英語のイントネーション 10. " (Presentation & Quiz) 11. 英語の音変化 12. " (Presentation & Quiz) 13. まとめ（総復習），音声提出(2) 	
参考文献		評価方法	
参考書： (1) P. Avery and S. Ehrlich, <i>Teaching American English Pronunciation</i> , OUP. (2) Gerald Kelly, <i>How to Teach Pronunciation</i> , Longman.		日常点（出席状況、授業への参加度など）、Quiz、Presentation、期末試験(音声提出)による。	

03～05年度（秋）	スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

06年度以降（春）	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員																		
講義目的、講義概要		授業計画																			
<p>These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English.</p> <p>Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester.</p> <p>There are two objectives for the courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the interesting topics that will be presented.</p> <p>These courses are short courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.</p>		<p>List of courses and Instructors</p> <p>Introduction to:</p> <table> <tr> <td>Narratives</td> <td>P. Dore</td> </tr> <tr> <td>Gender Studies</td> <td>A. Katayama</td> </tr> <tr> <td>Gender Studies</td> <td>N. Ueno</td> </tr> <tr> <td>Public Speaking</td> <td>C. Ikeguchi</td> </tr> <tr> <td>Africa</td> <td>E. Naoumi</td> </tr> <tr> <td>International Relations</td> <td>P. Horness</td> </tr> <tr> <td>American History through Music</td> <td>J. Waldman</td> </tr> <tr> <td>London</td> <td>D. Brad</td> </tr> <tr> <td>Drama</td> <td>R. Jones</td> </tr> </table>		Narratives	P. Dore	Gender Studies	A. Katayama	Gender Studies	N. Ueno	Public Speaking	C. Ikeguchi	Africa	E. Naoumi	International Relations	P. Horness	American History through Music	J. Waldman	London	D. Brad	Drama	R. Jones
Narratives	P. Dore																				
Gender Studies	A. Katayama																				
Gender Studies	N. Ueno																				
Public Speaking	C. Ikeguchi																				
Africa	E. Naoumi																				
International Relations	P. Horness																				
American History through Music	J. Waldman																				
London	D. Brad																				
Drama	R. Jones																				
テキスト、参考文献		評価方法																			
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.		Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.																			

06年度以降（秋）	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員																		
講義目的、講義概要		授業計画																			
<p>These classes are a combination of mini-lectures and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English.</p> <p>Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester.</p> <p>There are two objectives for these courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the interesting topics that will be presented.</p> <p>These courses are short courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.</p>		<p>List of courses and Instructors</p> <p>Introduction to:</p> <table> <tr> <td>Narratives</td> <td>P. Dore</td> </tr> <tr> <td>Gender Studies</td> <td>A. Katayama</td> </tr> <tr> <td>Gender Studies</td> <td>N. Ueno</td> </tr> <tr> <td>Public Speaking</td> <td>C. Ikeguchi</td> </tr> <tr> <td>Africa</td> <td>E. Naoumi</td> </tr> <tr> <td>International Relations</td> <td>P. Horness</td> </tr> <tr> <td>American History through Music</td> <td>J. Waldman</td> </tr> <tr> <td>London</td> <td>D. Brad</td> </tr> <tr> <td>Drama</td> <td>R. Jones</td> </tr> </table>		Narratives	P. Dore	Gender Studies	A. Katayama	Gender Studies	N. Ueno	Public Speaking	C. Ikeguchi	Africa	E. Naoumi	International Relations	P. Horness	American History through Music	J. Waldman	London	D. Brad	Drama	R. Jones
Narratives	P. Dore																				
Gender Studies	A. Katayama																				
Gender Studies	N. Ueno																				
Public Speaking	C. Ikeguchi																				
Africa	E. Naoumi																				
International Relations	P. Horness																				
American History through Music	J. Waldman																				
London	D. Brad																				
Drama	R. Jones																				
テキスト、参考文献		評価方法																			
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.		Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.																			

06年度以降	Comprehensive English I (再履修クラスは秋学期のみ開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class develops the range of English language skills (but with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate (speak, listen, read and write). 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.</p>		<p>Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students communicative abilities.</p>	

06年度以降	Comprehensive English II (再履修クラスは春学期のみ開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in front of a group. 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.</p>		<p>Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students communicative abilities.</p>	

06年度(春) 06年度(春)	Comprehensive English III(再) Comprehensive English IV(再)	担当者	P. McEvilly
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, students will learn discussion skills. Topics to be covered include: "healthy food", "traveling abroad", "physician-assisted suicide", "terrorism" and "marriage and divorce".		Weekly schedule to be provided on first day of class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Philip Suthons, <i>Building Effective Discussion Matters: Persuasion Skills</i> , MacMillan Language House ¥2,100		There will be a midterm test and final examination. Attendance is important and will be considered when I evaluate students.	

06年度(秋) 06~07年度(秋)	Comprehensive English IV(再) Comprehensive English III(再)	担当者	P. McEvilly
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, students will learn discussion skills. Topics to be covered include: "healthy food", "traveling abroad", "physician-assisted suicide", "terrorism" and "marriage and divorce".		Weekly schedule to be provided on first day of class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Philip Suthons, <i>Building Effective Discussion Matters: Persuasion Skills</i> , MacMillan Language House ¥2,100		There will be a midterm test and final examination. Attendance is important and will be considered when I evaluate students.	

06年度以降 03～05年度	Reading Strategies I 英語リーディング・ストラテジーズ a (再履修クラスは春秋ともに開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] 英語の語彙を増やしなが、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解スキルを学習する。</p> <p>[概要] 各担当教員が選定した教材を用いる。 読解スキルとしては、Previewing and Predicting; Recognizing patterns in paragraphs; Recognizing patterns of text organization などが含まれる。 このほか、語彙を身につけるために、「E-learning (Comprehensive) I」の Powerwords で学んだ語彙の Quiz(小テスト)を授業中に行う。テストは1回3 units ずつで、春学期中に10回実施される。テストの点数は、このコースの評価に加えられる。Group A の学生に対しても、Group B レベルの Quiz が Reading Strategies(RS)の授業時間に行われ、RS の評価に加えられる(「E-learning (Comprehensive) I」を参照)。なお、再履修クラスは担当教員が別途指示します。</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降 03～05年度	Reading Strategies II 英語リーディング・ストラテジーズ b (再履修クラスは春秋ともに開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] 「Reading Strategies I」に引き続き、英語の語彙力をつけながら、日本語を介さないで読む直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。また、「Reading Strategies I」で身につけた基礎的な読解スキルを定着させ、発展させる。</p> <p>[概要] 各教員が選定した教材を用いる。 秋学期は、次のような読解スキルを学ぶ。Previewing and Predicting; Recognizing patterns of text organization; Making inferences; Outlining など。 この学期も語彙力をつけるため、Powerwords で学んだ語彙の Quiz を授業中に行う。テストは1回3 units ずつで、学期中に10回実施される。テストの点数は、このコースの評価に加えられる。Group A の学生についても同様(「E-learning (Comprehensive) II」を参照)。 なお、再履修クラスは担当教員が別途指示します。</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度（春） 03～05年度（春）	Reading Strategies III（再） 英語専門講読入門 a（再）	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 2年次（第3学期）は、引き続き語彙を増やしていくことのほかに、さまざまな分野の文章や文体に触れ、読む目的に応じて精読と速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようにすることを目的とする。</p> <p>講義概要 外国人の目をとおして日本の社会や文化に関する諸問題を批判的に観察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. General Introduction (Lecture) 2. The Retiree Is Studying Abroad (Copy) 3. A Sense of Justice and High Prices (Textbook) 4. Self-Discipline and Overwork 5. Sensitive Feelings and Authoritarian Elders 6. Safety and Overcrowding 7. Quality Products and Japanese “Uniqueness” 8. Public Transportation and Forced Endurance 9. Food and Housing 10. Expatriate Life and Pride 11. Lack of Cynicism and Political Indifference 12. Sound Priorities and Insularity 13. Honesty and Relative Values 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト McLean, P., <i>More Gaijin Likes and Dislikes</i> . 鷹書房弓プレス。		期末試験成績（70%）、出席状況と授業中の発表（30%）	

06年度（秋） 03～05年度（秋）	Reading Strategies IV（再） 英語専門講読入門 b（再）	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第4学期は、Reading Strategies III に引き続き、英文読解の技能を定着させ、読解力を更に高める。英語の語彙を増やししながら、読んだ内容について自分の考えをまとめたり、日本文化と外国の異文化を比較・批評的に理解することを目的とする。</p> <p>講義概要 英米人が抱く日本人と日本文化の特徴についての印象を比較文化的に検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Nouveau Japanese Cuisine in New York (Copy) 2. Japanese Americans (Copy) 3. Internationalism and Troublesome Customs (Textbook) 4. Things Work and Political Apathy 5. Lower Prices and Inquisitiveness 6. Fashion and Cults 7. Ethnic Foods and a Decline in Self-Confidence 8. The Hot Spring and Unresponsive Students 9. Service and Suicide 10. Few Lawyers and <i>Sokaiya</i> 11. Restructuring and Drunks and the Homeless 12. An Economic Comeback and the Lost Generation 13. Feminism and Slow Justice 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト McLean, P., <i>More Gaijin Likes and Dislikes</i> . 鷹書房弓プレス。		期末試験成績（70%）、出席状況と授業中の発表（30%）	

06年度(春) 03~05年度(春)	Reading Strategies IV (再) 英語専門講読入門 b (再)	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: 英文を論理的に読む方法を身につけることを目的とする。そのためには、英文を構造としてとらえ、論理的展開を理解しながら読むことが重要である。具体的には文を理解しながら読み進めることも重要であるが、各段落の内容や役割を大まかに捉えた上で、文章全体を理解していくことが重要である。そこで実際に英文を読みながら実践し、読解方法を身につけよう。読解の応用練習としてTOEICの読解問題を練習し、その解説をする。		1. Lesson1, Reading 1: Scientists & Managerial Positions 2. Lesson 1, Reading 2: So-called Paperless Society 3. Lesson 2, Reading 1: Text Messages 4. Lesson 2, Reading 2: Why was religion born? 5. Lesson 3, Reading 1: Dust Clouds 6. Lesson 3, Reading 2: Girl Students & Science 7. Lesson 4, Reading 1: GM Foods 8. Lesson 4, Reading 2: Choosing Your Baby's Sex 9. Lesson 5, Reading 1: Global Dimming 10. Lesson 5, Reading 2: What makes us feel pleasure? 11. Lesson 6, Reading 1: Branches of Biotechnology 12. Lesson 6, Reading 2: The Digital Divide 13. Lesson 7, Reading 1: Browser Wars	
講義概要: 各課に含まれる二つの英語の談話を次のように読んでいく。 1) 細部にあまり気をとられず、談話の話題を見つける。 2) 談話の話題の発見は個々の文の話題が手掛かりになる。 3) 文の話題は主語か主語の前の要素である。 4) 文の理解のために文の構成と語・句の意味を推測する。 5) 述語動詞の特徴から文の構成・構造を考える。 6) 語・句の意味は談話・文の話題や前後の要素を考慮して推測する。語がもつ多くの意味から一つの意味を選ぶ。 7) 文・談話が何について何が述べられているかを読み取る。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 石谷由美子 & Suzanne Embury (著) <i>Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III</i> . (南雲堂)		授業における平常点、授業の準備状況、期末試験の成績、出席状況を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数 の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Reading Strategies III (再) 英語専門講読入門 a (再)	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: (春学期と同じ) 英文を論理的に読む方法を身につけることを目的とする。そのためには、英文を構造としてとらえ、論理的展開を理解しながら読むことが重要である。具体的には文を理解しながら読み進めることも重要であるが、各段落の内容や役割を大まかに捉えた上で、文章全体を理解していくことが重要である。そこで実際に英文を読みながら実践し、読解方法を身につけよう。読解の応用練習としてTOEICの読解問題を練習し、その解説をする。		1. Lesson 7, Reading 2: The Fight against Malaria 2. Lesson 8, Reading 1: Warning for Science Education 3. Lesson 8, Reading 2: Out of the wild and Into the backyard 4. Lesson 9, Reading 1: How does the brain read sarcasm? 5. Lesson 9, Reading 2: Thought Control 6. Lesson 10, Reading 1: Dark Matter and Dark Energy 7. Lesson 10, Reading 2: REM Sleep 8. Lesson 11, Reading 1: Otaku 9. Lesson 11, Reading 2: Minus Ions 10. Lesson 12, Reading 1: Panicked Mice 11. Lesson 12, Reading 2: Games on the Brain 12. Lesson 13, Reading 1: DHA and Health 13. Lesson 13, Reading 2: Europe's Greenhouse Gas Emissions	
講義概要: (春学期と同じ) 各課に含まれる二つの英語の談話を次のように読んでいく。 1) 細部にあまり気をとられず、談話の話題を見つける。 2) 談話の話題の発見は個々の文の話題が手掛かりになる。 3) 文の話題は主語か主語の前の要素である。 4) 文の理解のために文の構成と語・句の意味を推測する。 5) 述語動詞の特徴から文の構成・構造を考える。 6) 語・句の意味は談話・文の話題や前後の要素を考慮して推測する。語がもつ多くの意味から一つの意味を選ぶ。 7) 文・談話が何について何が述べられているかを読み取る。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 石谷由美子 & Suzanne Embury (著) <i>Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III</i> . (南雲堂)		授業における平常点、授業の準備状況、期末試験の成績、出席状況を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数 の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06年度以降（春） 03～05年度	Writing Strategies 英語ライティング・ストラテジーズ a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-term-long class that students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and move on to the introductory academic writing. Accuracy is the main focus; however, students should be provided with some free writing exercises where they can practice fluency as the same time.</p> <p>The objectives of this class are to help students:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to write grammatical sentences 2. to increase the students' awareness of the common grammatical problems in writing made by EFL students 3. to introduce self-help strategies so that they can analyze their problems and revise their writing (ex. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students be aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.) 		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Verb tenses</p> <p>Sentence structure</p> <p>Modals (necessity, certainty etc.)</p> <p>Conditional</p> <p>Passives</p> <p>Relative Clauses</p> <p>Noun Clauses</p> <p>Free writing/Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

06年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences) To teach the various patterns of paragraph organizations To help students write clear and focused structures To help students analyze their problems and revise their writing <p>Students should write at least two 300-word-long paragraphs and have a chance to revise it.</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降 03～05年度	Paragraph Writing 英語ライティング・ストラテジーズ b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences) To teach the various patterns of paragraph organizations To help students write clear and focused structures To help students analyze their problems and revise their writing <p>Students should write at least two 300-word-long paragraphs and have a chance to revise it.</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降（春）	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the essay writing course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion) To teach the various patterns of essay organizations To help students plan and revise an essay To help students write clear and focused paragraphs <p>Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降（秋）	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the essay writing course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion) To teach the various patterns of essay organizations To help students plan and revise an essay To help students write clear and focused paragraphs <p>Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降（春）	E-learning I (Short Essay)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 英語学科1年 Group A の学生を対象とする。春学期の Paragraph Writing, 秋学期の Basic Essay Writing でパラグラフや短いエッセイを英語で書くための技術を学習するが、同時並行で行われるこの授業では、その技術を用いて多くのエッセイを書いていく実践練習を行う。レポート、小論文、卒業論文など、2年次以降の専門科目の履修に必要なアカデミック・ライティングの実践力を身につけることを目標とする。</p> <p>[概要] 米国 Educational Testing Service (ETS) が開発したライティング教材である <i>Criterion</i> を使用する。TOEFL のライティングテストで出題されるようなトピックに関してエッセイを書き、インターネットを介して提出する。コンピュータ・プログラムによって自動的に採点されたスコアと誤りに関するフィードバックを参照しながら、目標レベル達成を目指し学習を繰り返す。週1回の対面授業では、受講者に共通して見られる誤りについての解説や、英作文支援ツールの紹介、個別指導などを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. <u>Essay (1)</u> + <i>Criterion</i> の機能と使い方 3. Essay (1) のフィードバック online reference の紹介 <u>Essay (2)</u> 4. Essay (2) のフィードバック online reference の紹介 <u>Essay (3)</u> 5. <u>Essay (4)</u> + 個別指導 6. <u>Essay (5)</u> + 個別指導 7. <u>Essay (6)</u> + 個別指導 8. <u>Essay (7)</u> + 個別指導 9. <u>Essay (8)</u> + 個別指導 10. <u>Essay (9)</u> + 個別指導 11. <u>Essay (10)</u> + 個別指導 12. <u>Essay (11)</u> + 個別指導 13. <u>Essay (12)</u> + 個別指導 	
テキスト、参考文献		評価方法	
【重要】4月の情報センターオリエンテーションで配布される、ネットワークにログインするためのパスワードの用紙を、最初の授業の際に必ず持参すること。		<i>Criterion</i> への提出状況 + Essay の質 + 授業への出席により評価する。	

06年度以降（秋）	E-learning II (Short Essay)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 春学期と同様だが、更なる分量、語彙的・文法的正確さ、パラグラフ構成（論理構成）の向上を目指す。 さらに、学習者間フィードバックを行うことで、より丁寧な推敲を重ねる。</p> <p>[概要] 引き続き <i>Criterion</i> を使用する。 本学期は、担当教員による全体フィードバックに加え、受講生同士によるフィードバック（peer feedback）を取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. <u>Essay (1)</u> 3. Essay (1) peer feedback + rewrite 4. <u>Essay (2)</u> 5. Essay (2) peer feedback + rewrite 6. <u>Essay (3)</u> 7. Essay (3) peer feedback + rewrite 8. <u>Essay (4)</u> 9. Essay (4) peer feedback + rewrite 10. <u>Essay (5)</u> 11. Essay (5) peer feedback + rewrite 12. <u>Essay (6)</u> 13. Essay (6) peer feedback + rewrite 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		<i>Criterion</i> への提出状況 + Essay の質 + 授業への出席により評価する。	

06年度以降（春）	E-learning I (Comprehensive)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 英語学科 1 年 Group B と C の学生を対象とする。 Reading Strategies などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学期初めの説明会には全員が指定場所に参加する • 通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし、学習を進める • 使用教材とその使用方法については初めの全体説明会で指示するので、全員が必ず出席すること • その後、3週間に一度のペースでクラスごとに対面授業を行うので指定教室に集合する • 自宅でのオンライン学習が捗々しくない場合は、特別対面授業を行う。メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること • 学習内容は、語彙、リーディング、ライティング 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会 2. 3-7組 対面授業 3. 8-12組 対面授業 4. 13-16組+再履修 対面授業 5. 3-7組 対面授業 6. 8-12組 対面授業 7. 13-16組+再履修 対面授業 8. 3-7組 対面授業 9. 8-12組 対面授業 10. 13-16組+再履修 対面授業 11. 3-7組 対面授業 12. 8-12組 対面授業 13. 13-16組+再履修 対面授業 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PC教材		日々のオンライン学習の履歴、対面授業への出席、テストの得点を総合的に評価する	

06年度以降（秋）	E-learning II (Comprehensive)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>[概要] 春学期と同様</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会 2. 3-7組 対面授業 3. 8-12組 対面授業 4. 13-16組+再履修 対面授業 5. 3-7組 対面授業 6. 8-12組 対面授業 7. 13-16組+再履修 対面授業 8. 3-7組 対面授業 9. 8-12組 対面授業 10. 13-16組+再履修 対面授業 11. 3-7組 対面授業 12. 8-12組 対面授業 13. 13-16組+再履修 対面授業 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PC教材		日々のオンライン学習の履歴、対面授業への出席、テストの得点を総合的に評価する	

06年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p><u>講義概要</u> LL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

06年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p><u>講義概要</u> LL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

06年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. 1と2の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. 1と2の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

07年度（春）	Comprehensive English III (HONORS)	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course sets out to help students further develop communication and critical thinking skills. Students are required to bring in and present topics of interest. We will also have various presentations throughout the semester.</p> <p>Students are required to maintain a notebook for this class and within it keep a running list of lexical items found in their readings.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Reading and discussion topic one Week 3: Reading and discussion topic two Week 4: Reading and discussion topic three Week 5: Reading and discussion topic four Week 6: Reading and discussion topic five Week 7: Reading and discussion topic six Week 8: Reading and discussion topic seven Week 9: Reading and discussion topic eight Week 10: Reading and discussion topic nine Week 11: Reading and discussion topic ten Week 12: Power Point presentations eleven Week 13: Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material will be taken from various news sources		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

07年度（秋）	Comprehensive English IV (HONORS)	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Second semester is a continuation of the previous semester.</p> <p>This course sets out to help students further develop critical thinking and communication skills. Students are required to bring in and present topics of interest. We will also have various presentations throughout the semester.</p> <p>Students are required to maintain a notebook for this class and within it keep a running list of lexical items found in their reading.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Reading and discussion topic one Week 3: Reading and discussion topic two Week 4: Reading and discussion topic three Week 5: Reading and discussion topic four Week 6: Reading and discussion topic five Week 7: Reading and discussion topic six Week 8: Reading and discussion topic seven Week 9: Reading and discussion topic eight Week 10: Reading and discussion topic nine Week 11: Reading and discussion topic ten Week 12: Power Point presentations eleven Week 13: Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material will be taken from various news sources and provided by the instructor.		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

07年度（春）	Comprehensive English III (HONORS)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help advanced –level students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Review I 13. Review II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Daily Yomiuri Japan Times		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

07年度（秋）	Comprehensive English IV (HONORS)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help advanced –level students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Review I 13. Review II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Daily Yomiuri Japan Times		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

07年度（春）	Comprehensive English III (HONORS)	担当者	W.J.Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</p> <p>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material. After topics have been selected, students will be responsible for gathering some of this material from web sites.</p> <p>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</p>		<p>1. Course introduction; choosing possible topics</p> <p>2. Topic 1: introductory discussion and reading</p> <p>3. Topic 1 (contd.): further reading and analysis</p> <p>4. Topic 1 (contd.): discussion</p> <p>5. Topic 2: introductory discussion and reading</p> <p>6. Topic 2 (contd.): further reading and analysis</p> <p>7. Topic 2 (contd.): discussion</p> <p>8. Topic 3: introductory discussion and reading</p> <p>9. Topic 3 (contd.): further reading and analysis</p> <p>10. Topic 3 (contd.): discussion</p> <p>11. Topic 4: introductory discussion and reading</p> <p>12. Topic 4 (contd.): further reading and analysis</p> <p>13. Topic 4 (contd.): discussion</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher and students		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

07年度（秋）	Comprehensive English IV(HONORS)	担当者	W.J.Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</p> <p>2. To teach students how to prepare and lead a class presentation/discussion</p> <p>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</p>		<p>1. Course introduction; choosing possible topics</p> <p>2. Topic 1: introductory discussion and reading</p> <p>3. Topic 1 (contd.): further reading and analysis</p> <p>4. Topic 1 (contd.): discussion</p> <p>5. Topic 2: introductory discussion and reading</p> <p>6. Topic 2 (contd.): analysis and preparation for group discussion</p> <p>7. Topic 2 (contd.): group discussion</p> <p>8. Selection of topic for presentation</p> <p>9. Topic 3: introductory discussion and reading</p> <p>10. Topic 3 (contd.): further reading and analysis</p> <p>11. Topic 3 (contd.): preparation for presentations</p> <p>12. Presentations</p> <p>13. Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher and students		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

07年度（春）	Comprehensive English III	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this class: to hone your speaking and analytic skills beyond the level of first-year work. The format will be: (1) role playing based on situations presented in the textbook, followed by (2) exchanging opinions and ideas on the role play scenarios.</p> <p>There is great leeway in choice of situations and role play approach—the textbook is minimalist in its dealings with grammar and rules. The role play can derive from a game, a chart or illustration, even a short poem or tongue twister or joke in the book.</p> <p>Students will give their opinions “in” and “out of” character—they will speak, sometimes as themselves and sometimes as the person whose role they play. There will then be analysis of how/why the roles were chosen and presented.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction; how to “plot” a role play Week 2: Situation-Choosing, role play prepping Week 3: Group/Pair 1-2, Role play 1a Week 4: Group/Pair 3-4, Role play 1b Week 5: Group/Pair 5-6, Role play 1c Week 6: Group/Pair 7-8, Role play 1d Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group/Pair 1-2, Role play 2a Week 9: Group/Pair 3-4, Role play 2b Week 10: Group/Pair 5-6, Role play 2c Week 11: Group/Pair 7-8, Role play 2d Week 12: Supplemental use of text Week 13: Final analysis of materials</p> <p>Handouts will complement the textbook, which is <i>English On Tap</i>. Certain prints will concern class methods and procedures.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: <i>English on Tap</i> Authors: D. Lee Blanken & Associates Publisher: Urban Productions, Ltd.		Grades will be compiled from weekly oral work, or your “opinions” (50%), oral work in the lead group, or your “role playing” (25%), and occasional Qs&As with the teacher (25%).	

07年度（秋）	Comprehensive English IV	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this class: to hone your speaking and analytic skills beyond the level of first-year work. The format will be: (1) role playing based on situations presented in the textbook, followed by (2) exchanging opinions and ideas on the role play scenarios.</p> <p>There is great leeway in choice of situations and role play approach—the textbook is minimalist in its dealings with grammar and rules. The role play can derive from a game, a chart or illustration, even a short poem or tongue twister or joke in the book.</p> <p>Students will give their opinions “in” and “out of” character—they will speak, sometimes as themselves and sometimes as the person whose role they play. There will then be analysis of how/why the roles were chosen and presented.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Regrouping of students; reintroduction Week 2: Situation-Choosing, role play prepping Week 3: Group/Pair 1-2, Role play 1a Week 4: Group/Pair 3-4, Role play 1b Week 5: Group/Pair 5-6, Role play 1c Week 6: Group/Pair 7-8, Role play 1d Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group/Pair 1-2, Role play 2a Week 9: Group/Pair 3-4, Role play 2b Week 10: Group/Pair 5-6, Role play 2c Week 11: Group/Pair 7-8, Role play 2d Week 12: Supplemental use of text Week 13: Final analysis of materials</p> <p>Handouts will complement the textbook, which is <i>English On Tap</i>. Certain prints will concern class methods and procedures.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: <i>English on Tap</i> Authors: D. Lee Blanken & Associates Publisher: Urban Productions, Ltd.		Grades will be compiled from weekly oral work, or your “opinions” (50%), oral work in the lead group, or your “role playing” (25%), and occasional Qs&As with the teacher (25%).	

07年度 (春)	Comprehensive English III	担当者	D. Kennedy
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of the course this semester is to help students read critically, articulate opinions, present logical support for these opinions, and participate actively in group discussions. During the first semester the focus will be on holding extended, meaningful, effective discussions in English. While there will be a variety of topics presented by the instructor, students are welcome to suggest others.</p> <p>Active participation in English is required.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What makes a good discussion? 3. Dress code 4. Video games 5. Advertising 6. International competitions 7. Mobile phones 8. Manners and etiquette 9. Volunteering 10. Health and nature 11. Extreme sports 12. Free education 13. Course review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Communication Strategies 3 ISBN: 978-981-265-914-9</p>		<p>Grades will be based on attendance, participation, homework, and a short speaking evaluation.</p>	

07年度 (秋)	Comprehensive English IV	担当者	D. Kennedy
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of the course this semester is to help students actively present issues to the class and lead group discussions. Emphasis will again be placed on opinions and reasoning, though students will also be expected to provide factual information as support. At the beginning of the semester, topics will be provided by the instructor; later, students will be expected to develop their own.</p> <p>Active participation in English is required.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What makes a good presentation? 3. Practice presentation: Multiple intelligences 4. Practice presentation: Gender roles 5. Practice presentation: Dating 6. Practice presentation: Parenting 7. Practice presentation: Natural disasters 8. Preparation for group presentations 9. Preparation for group presentations 10. Group presentations and discussion 11. Group presentations and discussion 12. Group presentations and discussion 13. Course review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Communication Strategies 3 ISBN: 978-981-265-914-9</p>		<p>Grades will be based on attendance, participation, homework, and presentations.</p>	

07年度(春)	Comprehensive English III	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed.</p> <p>Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.</p>		<p>The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

07年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed.</p> <p>Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.</p>		<p>The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

07年度（春）	Comprehensive English III	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of the class is the study of modern, American English through films. The students will view a segment of a movie (in English, with English subtitles) and will then study the vocabulary, idioms and grammar appearing in the films. The main focus of this course will be on speaking, but there will also be some writing on topics presented in the films.		1. Introduction/orientation 2. Scene/Lesson #1 3. " #2 4. " #3 5. " #4 6. " #5 7. " #6 8. " #7 9. " #8 10. " #9 11. Test 12. Interview 13. Interview	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on attendance, attitude, a test and an interview.	

07年度（秋）	Comprehensive English IV	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of the class is the study of modern, American English through films. The students will view a segment of a movie (in English, with English subtitles) and will then study the vocabulary, idioms and grammar appearing in the films. The main focus of this course will be on speaking, but there will also be some writing on topics presented in the films.		1. Introduction/orientation 2. Scene/Lesson #1 3. " #2 4. " #3 5. " #4 6. " #5 7. " #6 8. " #7 9. " #8 10. " #9 11. Test 12. Interview 13. Interview	
テキスト、参考文献		評価方法	
All material will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on attendance, attitude, a test and an interview.	

07年度（春）	Comprehensive English III	担当者	N. Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose and goal of this course is to further strengthen and consolidate students` abilities in English communication. We will discuss various topics, using various mediums such as music and DVDs. Enjoyment of English is the key expression which will Describe these classes. The atmosphere will be warm and welcoming.</p> <p>Students will get ample opportunities to communicate in English through classroom discussions, peer interaction and also through the medium of Presentations on topics selected either by the teacher or by the students themselves. The emphasis will always be on English Communication and the enhancement of the students` abilities. Come along and lets enjoy social interaction in English!</p>		<p>During the year we will cover a wide range of topics chosen from various materials which will be provided.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials and texts will be provided by the instructor.		Students will be assessed according to the following criteria: Attendance, Participation, Homeworks/Reports and Presentations.	

07年度（秋）	Comprehensive English IV	担当者	N.Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose and goal of this course is to further strengthen and consolidate students` abilities in English communication. We will discuss various topics, using various mediums such as music and DVDs. Enjoyment of English is the key expression which will Describe these classes. The atmosphere will be warm and welcoming.</p> <p>Students will get ample opportunities to communicate in English through classroom discussions, peer interaction and also through the medium of Presentations on topics selected either by the teacher or by the students themselves. The emphasis will always be on English Communication and the enhancement of the students` abilities. Come along and lets enjoy social interaction in English!</p>		<p>During the year we will cover a wide range of topics chosen from various materials which will be provided.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials and texts will be provided by the instructor.		Students will be assessed according to the following criteria: Attendance, Participation, Homeworks/Reports and Presentations.	

07年度(春)	Comprehensive English III	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a second year course, which will build and reinforce the skills, learnt in the first year. The students will be expected to produce role-plays, do presentations and participate in discussions.</p> <p>The book chosen is North Star, which has a variety of topics that are interesting to all students. It is not a low level course and students will be expected to attend and participate in the class. There will be homework and assignments every week.</p>		<p>The students will decide the sequence on the first day of study.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>NorthStar Intermediate</i> by Sherry Preiss Published by Pearson Longman</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Unit tests 4. Assignments</p>	

07年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a second year course which will build and reinforce the skills, learnt in the first year. The students will be expected to produce role plays, do presentations and participate in discussions.</p> <p>The book chosen is North Star which has a variety of topics that are interesting to all students. It is not a low level course and students will be expected to attend and participate in the class. There will be homework and assignments every week.</p>		<p>The students will decide the sequence on the first day of study.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>NorthStar Intermediate</i> by Sherry Preiss Published by Pearson Longman</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Unit tests 4. Assignments</p>	

07年度（春）	Comprehensive English III	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading & Discussion</p> <p>This is a reading course which seeks to develop students' ability to:</p> <p>a) enjoy & understand articles within a time limit</p> <p>b) employ a variety of reading techniques to improve speed & comprehension</p> <p>c) understand & discuss the writer's opinion</p> <p>In addition to regular reading practice, students will have ample opportunity to widen their vocabulary knowledge, practice various reading skills and find & discuss the author's opinion.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Scanning 3. Speed Reading 4. International Marriage 5. Family Rivalry 6. Longevity 7. Assisted Suicide 8. International Organ Trade 9. Medical Ethics 10. Destruction of the Rainforest 11. Animals in Captivity 12. Nuclear Energy 13. Course Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>'Study Skills for College English' (Keio Uni.) An English-English dictionary & a new A4 or B4 sized binder or folder are required</p>		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Assignment	

07年度（秋）	Comprehensive English IV	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Presentation & Discussion</p> <p>This is a course which seeks to develop students' ability to:</p> <p>a) present their ideas & opinions to an audience</p> <p>b) methodically prepare formal presentations</p> <p>c) question & discuss their own & other class members' ideas</p> <p>In addition to skills development, students will have a number of opportunities to present their ideas & opinions on topics of interest to them, to other class members</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Self-introductions 3 + 4. Notes & Prompt Cards 5 + 6. Preparing an Outline 7 + 8. Using Visuals 9 + 10. Book/Movie Review 11 + 12. Persuasive Presentation 13. Course Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>'Study Skills for College English' (Keio Uni.) An English-English dictionary & an A4 or B4 sized folder or binder are required</p>		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation	

07年度 (春)	Comprehensive English III	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) research, learn about, and actively discuss World Issues, from an <i>International</i> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting discussions about those topics</i>, in English; and</p> <p>d) research and 'give' (present) a DYNAMIC English class presentation.</p>		<p>(* Note: This is a tentative weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn & study</i>.</p> <p>Week 3: Choosing an Academic Research topic. Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.)</p> <p>Week 4: Focusing your research topic. / Collecting and summarizing relevant articles for your research topic.</p> <p>Week 5: Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.</p> <p>Week 6: Organizing the articles you've collected about your Academic research topic. Summarizing the relevant information. Class discussions.</p> <p>Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic <i>etiquette</i> and <i>manners (EQ)</i>.</p> <p>Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment.</p> <p>Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for class presentations.</p> <p>Week 10: Student presentations & class discussion.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos.</p> <p>Week 12: Further student presentations & class discussion.</p> <p>Week 13: Final presentations. If time remains: discussing & explaining plans for the Summer.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often—the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you research & present your topic; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be <i>tentatively</i> & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); r/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>	

07年度 (秋)	Comprehensive English IV	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to MORE EFFECTIVELY:</p> <p>a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) research, learn about, and actively discuss World Issues, from an <i>International</i> point of view;</p> <p>c) enjoy MORE DYNAMIC, interesting discussions about those topics, in English; and</p> <p>d) research and 'give' (present) a DYNAMIC & EFFECTIVE English class presentation.</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break, using modern English. Students will be asked to consider what Academic research/presentation topics appeal to them.</p> <p>Week 2: Asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to research & make presentations about. Continuous assessments.</p> <p>Week 3: Suggested: Researching festivals in different countries: Hallowe'en, Christmas, and other occasions chosen by students. Discussion of International News (articles and/or News Videos).</p> <p>Week 4: Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Reminder of effective English presentation-giving techniques.</p> <p>Week 5: Hallowe'en video and discussion. Students collect, organize, and summarize news articles, books, Internet sources, re: a chosen topic.</p> <p>Week 6: Reminder to avoid plagiarism when researching/ presenting. Preparation for presentations. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'.</p> <p>Week 8: Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations.</p> <p>Week 9: Finalizing preparations and practice for presentations. Discussion of News articles and/or video about international topics.</p> <p>Week 10: Class presentations & discussions.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Discussions of Christmas customs in various countries.</p> <p>Week 12: Further class presentations & discussions.</p> <p>Week 13: Final class presentations/ discussions. If time permits: Christmas video and/or Christmas song exercise/ discussion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion, IF a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>	

07年度(春)	Comprehensive English III	担当者	T.J.Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Overall Objectives: This one semester course will focus on improving practical English reading Comprehension, reasoning, communicative, and presentation skills of 2nd year students.</p> <p>Possible Topics: The major topics for study will be selected by the students themselves. These topics could range from the social and economic difficulties encountered by freeters (contract or part-time workers), matters of gender and racial equality, to questions concerning the survival of mankind due to global warming or some other cosmic catastrophe. There will be small group discussions based upon one's own opinions, independent research, preferably utilizing online resources, and more formal prepared presentations to the whole class. In the process, the students will gain useful experience in getting to the mail point and coherently or clearly making themselves understood in a polite and convincing manner.</p>		<p>Week</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Getting to know one another, initial evaluation of student skill levels, more detailed course explanation 2. Selection of first small group topics; research and discussion techniques 3. Small group discussions 4. Critique and guidance; ways to improve; choosing a research topic 5. Continuation of preparation, research, and practice for individual talks 6. Individual presentations 7. Individual presentations and critiques 8. Panel or group presentations explained, groups and topics chosen 9. Preparing for group presentations 10. Panel presentations 11. Panel presentations 12. Wrapping up, last thoughts 13. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Since a lot of individual student research will be required, a regular textbook would most likely be needed only if the overall English skills level of the students is not sufficiently high to warrant a more tutorial or self-directed style. In other words, the question of a text will be decided later.</p>		<p>The most important factor is a student's willingness to try to communicate and develop academic competence in English. From different starting points, each student ought to do her or his personal best to improve those skills needed to not only just get along in a foreign language, but to excel. Certainly, the usual university standards of attendance and being prepared for class apply. There will be continuous evaluation, guidance, and feedback throughout the term.</p>	

07年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	T.J.Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Overall Objectives: This one semester course will focus on improving practical English reading Comprehension, reasoning, communicative, and presentation skills of 2nd year students.</p> <p>Possible Topics: The major topics for study will be selected by the students themselves. These topics could range from the social and economic difficulties encountered by freeters (contract or part-time workers), matters of gender and racial equality, to questions concerning the survival of mankind due to global warming or some other cosmic catastrophe. There will be small group discussions based upon one's own opinions, independent research, preferably utilizing online resources, and more formal prepared presentations to the whole class. In the process, the students will gain useful experience in getting to the mail point and coherently or clearly making themselves understood in a polite and convincing manner.</p>		<p>Week</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Getting to know one another, initial evaluation of student skill levels, more detailed course explanation 2. Selection of first small group topics; research and discussion techniques 3. Small group discussions 4. Critique and guidance; ways to improve; choosing a research topic; traditional and online information sources; information without acknowledging the source 5. Continuation of preparation, research, and practice for individual talks 6. Individual presentations 7. Individual presentations and feedback or critiques 8. Panel or group presentations explained, groups and topics selected 9. Preparing for group presentations; one-to-one and small group guidance 10. Panel presentations 11. Panel presentations 12. Last minute wrapping up and final thoughts 13. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Since a lot of individual student research will be required, a regular textbook would most likely be needed only if the overall English skills level of the students is not sufficiently high to warrant a more tutorial or self-directed style. In other words, the question of a text will be decided later.</p>		<p>The most important factor is a student's willingness to try to communicate and develop academic competence in English. From different starting points, each student ought to do her or his personal best to improve those skills needed to not only just get along in a foreign language, but to excel. Certainly, the usual university standards of attendance and being prepared for class apply. There will be continuous evaluation, guidance, and feedback throughout the term.</p>	

07年度（春）	Comprehensive English III	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Review I 13. Review II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Daily Yomiuri Japan Times		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

07年度（秋）	Comprehensive English IV	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Review I 13. Review II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Daily Yomiuri Japan Times		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

07年度（春）	Comprehensive English III	担当者	W.Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</p> <p>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</p> <p>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</p>		<p>1. Course introduction; choosing possible topics</p> <p>2. Topic 1: reading, analysis and discussion</p> <p>3. Topic 1: reading, analysis and discussion (contd.)</p> <p>4. Topic 2: reading, analysis and discussion</p> <p>5. Topic 2: reading, analysis and discussion (contd.)</p> <p>6. Topic 3: reading, analysis and discussion</p> <p>7. Topic 3: reading, analysis and discussion (contd.)</p> <p>8. Topic 4: reading, analysis and discussion</p> <p>9. Topic 4: reading, analysis and discussion (contd.)</p> <p>10. Topic 5: reading, analysis and discussion</p> <p>11. Topic 5: reading, analysis and discussion (contd.)</p> <p>12. Topic 6: reading, analysis and discussion</p> <p>13. Topic 6: reading, analysis and discussion (contd.)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

07年度（秋）	Comprehensive English IV	担当者	W.Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</p> <p>2. To teach students how to prepare and lead a class presentation/discussion</p> <p>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</p>		<p>1. Course introduction; choosing possible topics</p> <p>2. Topic 1: reading, analysis and discussion</p> <p>3. Topic 1: reading, analysis and discussion (contd.)</p> <p>4. Topic 2: reading, analysis and discussion</p> <p>5. Topic 2: reading, analysis and discussion (contd.)</p> <p>6. Preparation for presentations</p> <p>7. Preparation for presentations</p> <p>8. Presentations</p> <p>9. Topic 3: reading, analysis and discussion</p> <p>10. Topic 3: reading, analysis and discussion (contd.)</p> <p>11. Preparation for presentations</p> <p>12. Preparation for presentations</p> <p>13. Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

07年度（春）	Comprehensive English III	担当者	M.Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is for students to develop the ability to read and analyze various kinds of subject matter, and express/detail their understanding through individual and group presentations: summarizing; identifying main ideas; and debating. The instructor will provide authentic materials from a variety of sources for outside and in-class reading.</p> <p>Students will be guided on how to express their own opinions and ideas with greater confidence, and how to take an opposing opinion. Students will be called on to manage classroom discussions with one or two students serving as discussion leaders.</p> <p>As a solid vocabulary is essential for better understanding of language overall, students will be required to keep an account of the new lexical items they come across in the reading.</p> <p>By the end of this course, students will have become good group discussion leaders and will be able to express themselves with logic and clarity.</p>		<p>Week 1: Course introduction and policies Week 2: Task: Reading & Discussions Week 3: Review & lecture on role of group members Week 4: Task: identifying main ideas from readings Week 5: Reading & Discussions Week 6: Task: creating outlines & summarizing Week 7: Reading & Discussions Week 8: Task: analyzing information Week 9: Reading & Discussions Week 10: Presentations Week 11: Presentations Continued Week 12: Collecting & analyzing feedback Week 13: Wrap up and review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text. Materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on attendance, active participation, and evaluations.	

07年度（秋）	Comprehensive English IV	担当者	M.Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Continuation of first semester.</p> <p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> Students will need a notebook and a good English- English dictionary. 		<p>Week 1: Course introduction and policies Week 2: Reading task; brainstorming Week 3: Presentation task; brainstorming Week 4: Presentations; collecting feedback Week 5: Presentations Continued Week 6: Reading task; analyzing feedback Week 7: Reading & Discussions Week 8: Task: analyzing information Week 9: Presentations Continued Week 10: Reading task; drawing conclusions Week 11: Reading & Discussions Week 12: Presentations Week 13: Wrap up and review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text. Materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on attendance, active participation, and evaluations.	

07年度(春)	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class aims to provide an opportunity for students to absorb, process and utilize the learning and information that can be found in a variety of readings. Students will be asked to read in both their own time and occasionally in class time, and be able to discuss and effectively express the information they have covered.</p> <p>Class work will include various forms of information exposure, not just the reading of set pieces. Students will endeavor to become efficient in skills to help them show that they can process information usefully; to become selective in a world inundated with information. Work outside of class will also be advised, especially extensive reading in the areas that the students themselves are familiar with.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and explanations 2. Dealing with compacted ideas 3. Self expression and an economy of language usage 4. Over-explaining, under-explaining? 5. Sample pieces, spoilt for choice? 6. Anecdotes, experience, useful examples 7. Fiction, exaggeration, fun and leisure 8. Documentary, logic, the precise and the calculated 9. Talking it out to reduce it to its essentials 10. Tell us about what you read 11. The challenges of transcription 12. Transferring information into communication 13. Revision and consolidation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
A variety of materials including topical articles and established documentary pieces.		Class performance, quizzes, and a final report	

07年度(秋)	Reading Strategies IV (HONORS)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		Similar to the above depending on student level and class needs.	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		As above	

07年度（春）	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and to further develop critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print.</p> <p>Students in this class will have to the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scan, to improve vocabulary and to synthesize the material read.</p> <p>Students are required to have a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries.</p>		<p>Week 1: Course introduction Week 2: Reading material one Week 3: Continued; skimming Week 4: Reading material two Week 5: Continued; scanning Week 6: Reading material three Week 7: Continued; speed reading Week 8: Reading material four Week 9: Continued; vocab. acquisition Week 10: Reading material five Week 11: Continued; graded readers Week 12: Reading material six Week 13: Final projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printed reading materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks	

07年度（秋）	Reading Strategies IV (HONORS)	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and to further develop critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print.</p> <p>Students in this class will have to the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scan, to improve vocabulary and to synthesize the material read.</p> <p>Students are required to have a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries.</p>		<p>Week 1: Course introduction Week 2: Reading material one Week 3: Continued; skimming Week 4: Reading material two Week 5: Continued; scanning Week 6: Reading material three Week 7: Continued; speed reading Week 8: Reading material four Week 9: Continued; vocab. acquisition Week 10: Reading material five Week 11: Continued; graded readers Week 12: Reading material six Week 13: Final projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printed reading materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks	

07年度（春）	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>目的</u> 科目名に示されているとおり、「読む力」をつけることを目的とするクラスですが、本講義では「読む力」のなかでも以下の四つの力を養いたいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 速く、多量に読む力。 2. 高度な文章を精読し理解する力。 3. 構成（文章の構造）を読む力。 4. 批判的に読む力。 <p>これらは、レポートや論文を「書く」ための基礎力として欠かすことができません。また5. 「情報収集力の強化」と6. 「主体的な学習への取り組み」を副次的な目的とします。</p> <p><u>授業について</u> 他の HONORS クラスとは異なり、授業は主に日本語で行います。完全な bilingual でない限り、外国語で書かれた高度なテキストをほんとうに理解したといえるのは、その内容を清明かつ論理的な母語（受講生の多くにとっては日本語）で表現しえたときだと考えるからです。</p>		<p><u>内容</u> トピックとしては、グローバル化の諸問題を、ニューコロナリズム、人と文化の移動、混淆、衝突などに焦点をあてながら考えていきたいと思えます。「批判的」に読む力を養うために、ある一つの事件を異なる立場から扱ったテキストを読む機会を多く設ける予定です。能動的な授業参加を求めます。詳細は開講時にお知らせしますが、例えば第一回の授業は、次のような予定です。</p> <p>1回目&2回目（PC教室使用予定） タイトル「英語圏のひろがり」 (learning targets: 左の目的のうち主に1. 4.5.6も。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini Lecture (in English) . ・ Lecture 後、興味をもった英語圏の国(UK, The United States, Australia, Canada など、英語圏といつてすぐに思いうかぶ国はのぞく)について個人で予備リサーチ。リサーチの対象国の候補を2,3に絞りこむ。 ・ いくつかのリサーチ対象国を決め、グループを作り、リサーチを行い、テーマを定め、その結果をクラスで報告する。テーマ設定の仕方についてはリサーチに先立ち講師が mini lecture を行なう。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用します（予定）。		平常点と試験。	

07年度（秋）	Reading Strategies IV(HONORS)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		この科目は通年履修が原則ですので、春学期終了時に詳細をお知らせするとともに、Reading material をお渡しします。秋学期は、主に論説文や論文を読み、目的のなかの2と3に重点をおきます。なお、目的4, 5, 6は年間を通じて、常に念頭においておくべきものと考えています。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用します（予定）。		平常点とレポート。	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is for anyone who has a question about languages or the nature of language. But it is not an academic course for specialists. In this class we will study bite-sized chapters (no more than a few pages each) written by leading experts in the field that give authoritative answers to frequently asked questions about language. Written in a lively and colloquial style the text is a delightful read. Based on a series of radio chats called <i>Talkin' About Language</i> that was broadcast in the USA in 2005, the text deals with such topics as How many languages are there in the world? What language did Adam and Eve speak? Can you use language to solve crimes? How do babies learn their mother tongue? How does the brain cope with multiple languages? How good is machine translation? What does it mean to be bilingual? Is elementary school too early to teach foreign languages? Can monolingualism be cured? Students in this class will learn to think, talk, and write papers about language.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. How many languages are there in the world? 2. Do all languages come from the same source? 3. Why do languages change? 4. Where did writing come from? 5. Do all languages have the same grammar? 6. How do babies learn their mother tongue? 7. How does the brain cope with multiple languages? 8. Why do people fight over language? 9. What does it mean to be bilingual? 10. Can a threatened language be saved? 11. Why do American Southerners talk that way? 12. How are sounds of language made? 13. What does it take to learn a language well? 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The 5 minute Linguist</i> E M. Rickerson and B. Hilton Equinox</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper.</p>	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is for anyone who has a question about languages or the nature of language. But it is not an academic course for specialists. In this class we will study bite-sized chapters (no more than a few pages each) written by leading experts in the field that give authoritative answers to frequently asked questions about language. Written in a lively and colloquial style the text is a delightful read. Based on a series of radio chats called <i>Talkin' About Language</i> that was broadcast in the USA in 2005, the text deals with such topics as How many languages are there in the world? What language did Adam and Eve speak? Can you use language to solve crimes? How do babies learn their mother tongue? How does the brain cope with multiple languages? How good is machine translation? What does it mean to be bilingual? Is elementary school too early to teach foreign languages? Can monolingualism be cured? Students in this class will learn to think, talk, and write papers about language.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. How has our thinking about language learning changed? 2. Can computers teach languages faster and better? 3. Is there a language crisis in the USA? 4. Is Spanish taking over the USA? 5. What is Cajun and where did it come from? 6. Are dialects dying? 7. How are dictionaries made? 8. How good is machine translation? 9. Can you use language to solve crimes? 10. Where did English come from? 11. Is studying Japanese worth the effort? 12. Is Swahili the language of Africa? 13. Does anybody here speak Klingon? 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The 5 minute Linguist</i> E M. Rickerson and B. Hilton Equinox</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper.</p>	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will help you get used to reading a lot. In this semester, we will read Nick Hornby's <i>About a Boy</i> (1998). It is a funny story set in London, and you can learn a lot about changing family relationships. It is written in easy, accessible English, so you may find easier to read a lot (about 10 pages or more at a time), look at expressions in context, and focus on the story better.</p> <p>In most of the classes, we will make group discussions about the story. Before each class, you have to prepare yourself by filling in discussion sheets. During the classes, we will make groups and exchange our points. I will give mini-quiz to see how much you understand, help you develop your argument.</p> <p>For the last several classes, we will do additional activities. You will learn how to read through paperbacks of your own choices.</p> <p>* <u>All the coursework will be conducted in English.</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. <i>About a Boy</i>, Chapter 1 3. Ch. 2 4. Ch. 3-4 5. Ch. 5-6 6. Ch. 7-8 7. Ch. 9-10 8. Ch. 11 9. Extra activities (1) 10. Extra activities (2) 11. Extra activities (3) 12. Extra activities (4) 13. Wrap up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Nick Hornby, <i>About a Boy</i> (Penguin Readers)		Grades are based on assignments, mini-quiz, in-class participation, book reports, and a final paper.	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this semester, we will read Penny Hancock's <i>A Love for Life</i> (2000). It may be less funny than Hornby's book, but more serious and mature. It is mainly a story about a single woman adopting a "difficult" child, set in Cambridge, UK. You can also come across many attractive characters, such as her caring friend and a male schoolteacher who loves his work.</p> <p>* <u>All the coursework will be conducted in English.</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. <i>A Love for Life</i>, Chapter 1 3. Ch. 2-3 4. Ch. 4-5 5. Ch. 6-7 6. Ch. 8-9 7. Ch. 10-11 8. Ch. 12-13 9. Ch. 14-15 10. Ch. 16-17 11. Ch. 18 12. Extra activities 13. Wrap up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Penny Hancock's <i>A Love for Life</i> (Cambridge English Readers)		Grades are based on assignments, mini-quiz, in-class participation, book reports, and a final paper.	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的に応じた英文の読み方を習得しながら、語彙力や批判的読解力に加えて英語でのプレゼンテーションとライティングのスキルを高めるといふ、欲張りな授業目的を設定しています。これらの目的を達成するために、(1) 徹底した音読練習と名文の暗記、(2) 中級レベルの英文の精読と多読、(3) 教材の内容についてのプレゼンテーションとディスカッション、(4) 学習テーマの理解を深めるためのシミュレーション・ゲーム等のホリスティックな学習方法を用意しています。</p> <p>春学期は、年間を通して行われる音読練習の意義と練習方法の説明、スキミング、スキミング、メモやノートの取り方等の基本技術を学習（復習？）するところから始まります。次に、平易な文で書かれた伝統的な異文化間コミュニケーション論の教材を用いながら、要旨のまとめ方と英語でのプレゼンテーションの仕方について実践を通して学びます。更に、「異文化間コミュニケーション」に関する様々な誤解を解消しながら、日本の大学生が英語でコミュニケーションする際の問題点や弱点、強みについて考察します。こうした一連の学習の成果は、学期末に教材の書評（book review）を英語で執筆するという形で確認されることとなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 心を読む／読まれる 3. Culture and communication (pp. 1-7) 4. Intercultural communication (pp.8-16) 5. Verbal messages (pp.17-23) 6. Verbal messages (pp.23-31) 7. Verbal messages (pp.32-36) 8. Nonverbal communication (pp.37-45) 9. Nonverbal communication (pp.45-58) 10. Nonverbal communication (pp.58-67) 11. Becoming more effective (pp.68-76) 12. Becoming more effective (pp.76-83) 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>サマーバー・L・A 他（2002）『現代英文テキスト 異文化との出会い』研究社。</p> <p>国弘正雄、千田潤一（2004）『英会話・ぜったい・音読 続挑戦編』講談社。</p>		<p>プレゼンテーション（40%）、音読テスト（20%）、書評（英文で500~1,000語程度）（30%）、授業参加（10%）</p>	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、周囲の環境の変化に伴う戸惑いや葛藤について扱った寓話を異文化適応理論や文化理論の知見を借りながら批判的・分析的に読みます。寓話の精読と内容に関するプレゼンテーションやディスカッション、関連文献の速読と精読、シミュレーション・ゲームへの参加により、留学や仕事、婚姻、或いは紛争や貧困などの理由で国や地域を越えて生活することの意味や、外国語を学んだり国際的（グローバル）な分野の学問をしたりすることの意義についての理解を深めます。秋学期と同様に、学期末には英語で書評を執筆していただきます。</p> <p>授業参加が非常に重視されますので、積極的に発言し意見交換をしながら語学力と思考力を向上させたい人の受講を望みます。また、授業担当者も英語の学習者であり、英語が支配的になっている国際的な場面での倫理的なコミュニケーションの在り方を模索中であること、授業は日英両言語で行われること、4分の1以上の欠席は不可なることを理解のうえ、授業に臨んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. <i>Who moved my cheese?</i>を独りで読む 3. Culture shock and cross-cultural adjustment (Levine & Adelman, 1993) 4. A gathering (pp.21-24) 5. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 25-36) 6. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 37-46) 7. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 47-56) 8. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 57-66) 9. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 67-76) 10. A discussion (pp. 77-94) 11. The story behind the story (pp.12-18) 12. カルチャーショックという名のプレゼント 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Johnson, S. (1998). <i>Who moved my cheese?</i> London: Vermilion.</p> <p>その他のプリント教材</p>		<p>プレゼンテーション（40%）、音読テスト（20%）、書評（英文で500~1,000語程度）（30%）、授業参加（10%）</p>	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英字新聞からいくつか記事を読んで、vocabulary の増やし方を学びます。続いて英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察しながら、多種多様な会話表現を覚えていこうと思います。また実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してみてください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。</p> <p>教室ではお互いの翻訳を確認しながら、テキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>最初の数回で、英字新聞の記事をもとに vocabulary を増やす読み方を試してみ、次に英米の現代演劇の台本をテキストにして取り組んでいきます。教室で読む演劇テキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにしていますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート (500字) 2編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英字新聞からいくつか記事を読んで、vocabulary の増やし方を学びます。続いて英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察しながら、多種多様な会話表現を覚えていこうと思います。また実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してみてください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。</p> <p>教室ではお互いの翻訳を確認しながら、テキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>最初の数回で、英字新聞の記事をもとに vocabulary を増やす読み方を試してみ、次に英米の現代演劇の台本をテキストにして取り組んでいきます。教室で読む演劇テキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにしていますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート (500字) 2編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>アメリカ史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。</p>		<p>筆記試験をします。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分にカウントします。</p>	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>春学期と同じ。</p>	

07年度(春)	Reading Strategies III	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは物語を読むのが好きですか。好きで、好きでたまらないという受講生にはきっと面白く、またためになること請け合いです。物語の読み方には、好きで読むタイプ、時間つぶしで読むタイプ、そして本格的に読むタイプとありますが、そのいずれのタイプにも物語に読みの戦略というものがあることを知ると一層高度な読みができ、また人間の奥深さに感動することができます。このような、いわば専門的な読みへのイントロにこの授業は大いに役立つと思います。いろいろな物語がありますが、ここでは非常に分かりやすいO'Henryの物語をまず聞き読みをしますが、そこには人の心が見事に表現され、いろいろな物語の読解の基本を学ぶことができます。勿論、語彙の習得、さらに必要な文法事項などにも触れて多読の準備をしていきます。そのために一番取り組みやすい物語テキストを選びました。このRS IIIの目標は専門購読へ進むための読みの戦略的技術を習得することを目標とします。このRS IIIを希望する受講生はそのことを念頭において参加してください。授業は受講生による注釈の作成と提出などを合わせた輪読形式による発表になります。従って順番で発表する時に休むことはできません。もし事情で出席できない時は自分で次の人に代替を依頼しておくことが大切です。</p>		<p>この授業で扱うものは優れた短い物語で、以下の作品をListeningと共に学習します。</p> <p>Stories by O'Henry <i>The Last Leaf</i> Story by Oscar Wilde <i>The Happy Prince</i> Story by W. Irving <i>Rip Van Winkle</i> Story by Maupassant <i>The Diamond Necklace</i> Story by B. Malamud <i>The Magic Barrel</i></p> <p>その他に授業の進行状況によって時間があればそのほかの短編を読みます。これらはすべてハンドアウトを用意します。</p> <p>この他に「Supplementary Readings for Reading Strategies III & IV」(プリント)から宿題としていくつかを読んでもらいます。その読み方は授業の時に指示致します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを用意しますので教科書を購入することはありません。		平常点 (これは予習の課題、授業中での発表などが入る) 出席点 (これは春学期の全出席の3分の2以上で与える) 定期試験の点数 (これが評価の中心です)	

07年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の目標はさらに進んだ物語を読んでいきます。主として読む作品はTennessee Williamsの作品が中心になります。</p> <p>勿論、映画を見て参考にしてもらいますが、基本はベースとなった短編作品と戯曲として自ら書き直したシナリオを合わせを読んで、それらの比較をすることによって作者の意図や作品自体の意味、その言葉の変化、あるいは舞台や映画のための状況設定のあり方、ト書きなど様々なことを学びます。つまり、文学作品を活字と映像の両方からアプローチする予定です。</p> <p>その他の作品については作家の持つ特異性が見事に表現されている作品ばかりです。授業が順調に進展するように受講生にしっかりと協力を御願ひしたいと願っています。授業は春学期と同じく順番に発表してもらいます。もし事情で発表の時に出席できない時には次の人に代替を依頼しておくことが大切です。私の授業では出席と発表を特に重視します。従って、担当の時に勝手に休むと他の人に迷惑となりますので気をつけましょう。</p>		<p>授業計画：</p> <p>この授業でまず読む作品はT. Williamsの<i>Portrait of a Girl in Glass</i>です。次にそのシナリオである<i>The Glass Menagerie</i>と取り組みます。これは映画としても、また舞台上演としても非常に良く知られた名作で私の最も好きな作品の一つです。</p> <p>時間があれば、その他の作品として以下の作品を読む予定です。R. Dahlの<i>The Landlady</i>、さらに時間があれば、J. C. Oatesの<i>In the Region of Ice</i>、Somerset Maughamの<i>The Treasure</i>を読みます。</p> <p>しかし、各週の授業の進み具合によって予定している作品を全部読みきることができないこともあることをご承知置き下さい。</p> <p>秋学期にも「Supplementary Readings for Reading Strategies III & IV」(プリント)から宿題としていくつかを読んでてもらいます。その読み方は授業の時に指示致します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Glass Menagerie</i> (Action Edition) 鶴見書店版 を売店で購入してください。その他のものはプリントを渡します。		平常点 (これは予習の課題、授業中での発表などが入る) 出席点 (これは秋学期の全出席の3分の2以上で与える) 定期試験の点数 (これが評価の中心です)	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカの小説（短編）を読みます。精読と質問表による討論を通じて、英語の読解力と作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>前半は訳読を中心に授業を進め、後半は事前に配布した作品の内容に関する質問表の答え合わせをしながら、討論形式で授業を進める予定です。</p> <p>また、課外に英語 Web サイトの報告メール・レポート（ML）を作成してもらい、様々な分野の英語に触れてもらいます。</p> <p>毎回必ず予習をして授業に臨むことが義務づけられます。万が一予習をしておこなった場合は、出欠をとるときに、その旨申告してもらいます（「はい」のかわりに「パス」と返事）。但し、「パス」は3回までで、その後は、1回につき1点減点します。欠席は2点減点、30分以内の遅刻、早退は1点減点です。減点0（無遅刻・無欠席・ノーパス）の場合は、学期末に15点の「ボーナス点」を与えます。「パス」の申告漏れは15点減点としますので、発覚すればほぼ致命的と思われるます。</p>		<p>第1週 授業の説明など。必ず出席することを希望。欠席すると「ボーナス点」（左記参照）の資格が消えます。</p> <p>第2週以降 前週指示した範囲を読み、訳読や質問表にもとづく討論をします。以下、同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントや e-text/book などを用いる予定		定期試験(100点満点)±平常点(上記参照)にメール・レポート点を加味する	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will explore the power relations in and behind the texts we encounter in our everyday lives by using examples from numerous genres such as popular fiction, advertisements and newspapers. Through critical reading and thinking tasks, we will examine the language choices a writer must make in structuring texts, representing the world and positioning the reader.</p> <p>This class will be conducted all in English and you will be encouraged to actively participate in the class activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction 2 The need for interpreting texts 3 How texts position readers 4 Interacting with texts – Replies and reaction 5 Reading between lines – Consumerism 6 Reading between lines – Case study 1 7 Reading between lines – Case study 2 8 Reading between lines – Case study 3 9 Ownership of the press and other media 10 Case study 4 11 Case study 5 12 Case study 6 13 Poster presentations and wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システム使用		In-class work including attendance and participation, reading assignments and poster presentations	

07年度(春)	Reading Strategies III	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>先ず第一の目的は、1年時に学んだことを基に、更に速読(faster reading)のスキルを実践的に学ぶ。第二に時間が許せば、終わりの10-15分位を使って、直読(direct reading)による読みの訓練を目指す。直読とは、我々が、(日本語の)新聞などを読んで直ぐ分かるように、英文をその場で読んで直ぐ分かることである。第三に自由読書(pleasure reading)として課外で読んでいただく。速読の実践の為である。なお、日程などの詳細は、以下の通り。</p> <p>自由読書、課題と日程</p> <p>A. 課題 指定されたテキストだけでは、読む量に限界もあり、自分の好きな英文を読むというメリットをも活かすため、150頁程度の英文を課外で自由に読んでもらう。(参考までにリーディング・リストは別途配布する。)</p> <p>B. 日程</p> <p>a. 5月7日(水) 指定された用紙にタイトル他を決めて申告する。</p> <p>b. 6月4日(水) 中間報告会(タイトル変更、可)</p> <p>c. 7月9日(水) 提出(教務課へ)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 「ダイアナ妃は皇太子の愛人の存在を知らなかった」 「妻帯の牧師、神父も増えている」 「白人のキリスト教分派」 「対立する東アジア、東南アジアの2つの仏教」 「就業の許されない女性を救うため」 「カルフォルニアでは親権まで認める」 「7-8世界の歳の少女婚約や複雑な交換婚」 「でもいろんな苦しみをかかえることに」 「日本社会ではまだ認知されにくい」 「先進国では若い妻ほど離婚する」 「ようやく多様化、自由化時代へ」 「夫婦別姓運動はますます高まる」 「観光名所バリ島にある土俗のルール」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大橋久利他著 <i>The Changing Face of Marriage and Family</i> 『21世紀の結婚・性・社会』(成美堂 2008年) その他適宜プリント使用。		A: 期末テスト 80% B: 自由読書 20%	

07年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>RSIII に引き続いて、速読のスキルの仕上げをした後、やや精読(intensive reading)に近い学びを心がける。文章の中での言葉遣いや、文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくとも文章を味わって読む読み方。紀行文ではあるが、イギリス詩の代表的詩人たちを紹介した文章である。また直読、自由読書も引き続き実践していただく。詳細は以下の通り。</p> <p>自由読書：日程</p> <p>a. 10月8日(水) 指定された用紙にタイトル他を決めて申告する。</p> <p>b. 11月12日(水) 中間報告会(タイトル変更、可)</p> <p>c. 12月17日(水) 提出(直接、教室で)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 「合掌造りには結婚厳禁の悲話も」 「核家族化は近代化の象徴だ」 「今も生きている母系社会」 「弊害も多い中国の一人っ子政策」 「大卒女性に限る多産奨励は失敗」 「大統領選の争点にもなるアメリカ」 「日本におけるジェンダーの問題」 「まだ残る前近代的な女性蔑視」 「2050年には人口8,800万人に激減」 「国際結婚には難題がつきまとう」 11-13. チョーサー、シェークスピア、ミルトン、ワーズワース、ホプキンズ、T.S.エリオットらのふるさとを訪ねるピーター・ミルワード氏の文章を味わいながら読む。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 初めは、上記テキストの続き ピーター・ミルワード著 『英国詩のふるさと』(金星堂、1993年)、プリント。 		A: 期末テスト 80% B: 自由読書 20%	

07年度(春)	Reading Strategies III	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次の Reading Strategies I & II では、主に速読に重点を置いた授業が展開されてきました。つまり、ひとつひとつの単語にあまりこだわらず、英文全体の内容を理解するための力をつける授業でした。</p> <p>2年次の Reading Strategies では、英文全体の内容を理解することはもちろんですが、それと同時に英文を丁寧に読み、文章を正確に理解するための訓練を行います。</p> <p>テキストは未定ですが、国際関係論の領域のものを読んでゆきたいと思います。毎回の授業では、まず1人の学生に声を出して読んでもらい、そのうえで英文の内容を確認してゆきます。内容に関する質疑応答を行います。どの学生に答えてもらうかはあらかじめ指定しませんので、全員がしっかりと予習してくることが不可欠です。そして毎週、授業の最後に内容に関する小テストを行います。</p>		<p>第1週 インTRODUKション ～この授業の目標・目的の共有</p> <p>第2週～第13週 テキスト講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業時に発表する。		出欠状況、授業中のパフォーマンス、毎週実施する小テストによる総合評価。なお欠席が3回を超えた時点（すなわち4回）で、単位取得不可となる。	

07年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>引き続き国際関係論の領域のテキストを読んでゆきたいと思います。進め方は春学期と同じです。毎回の授業では、まず1人の学生に声を出して読んでもらい、そのうえで英文の内容を確認してゆきます。内容に関する質疑応答を行います。どの学生に答えてもらうかはあらかじめ指定しませんので、全員がしっかりと予習してくることが不可欠です。そして毎週、授業の最後に内容に関する小テストを行います。</p>		<p>第1週 ～第13週 テキスト講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業時に発表する。		出欠状況、授業中のパフォーマンス、毎週実施する小テストによる総合評価。なお、欠席が3回を超えた時点（すなわち4回）で、単位取得不可となる。	

07年度(春)	Reading Strategies III	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法をいくら知識として覚えていても、その応用力がなければ、英語を十分に読みこなせるようにはならない。</p> <p>「なんとなく解かる」という曖昧な読み方をつづけていたのでは、いつまでたっても、細かな内容やニュアンスを読み取れるようにはならないのである。そこで当講座では、<u>英文法の応用力アップを目的として授業を進めていきたい。</u></p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>当授業では、学生は文法の応用力アップを目的としている。いろいろな英文の解読に取り組むことになる。内容の委細については、今の時点では未定であるが、TOEIC®の文法問題を広く用いたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		平常の授業での評価	

07年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		出席、平常の授業での評価	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Classic Rock の中から代表的な26曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。Rock の50年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。CD、DVDなどは担当者が用意する。</p> <p>2人1組のレポーターを中心にディスカッション形式でおこなう。レポーターは、発表前に疑問や問題点を e-mail で受講者に送る。それをもとに各自がそれぞれの解釈を持ちより、クラスでディスカッションする。個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブにアメリカ文化論を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.“America” by Paul Simon 2.“Eleanor Rigby” by the Beatles 3.“The Boxer” by Paul Simon 4.“Across the Universe” by the Beatles 5.“Me and Bobby McGee” by Janis Joplin 6.“Big Yellow Taxi” by Joni Michell 7.“Sweet Baby James” by James Taylor 8.“California” by Joni Michell 9.“Good Night Saigon” by Billy Joel 10.“The River” by Bruce Springsteen 11.“Luka” by Suzanne Vega 12.“At Seventeen” by Janis Ian 13.“The Last Resort” by the Eagles 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： プリントを配付 参考DVD: <i>The History of Rock 'n' Roll</i> (5pc)</p>		<p>プレゼンテーションとレポート（ワープロで約4,000字程度の作品論）によって決める。欠席が授業回数の1/3を超えた場合は、評価の対象とはしない</p>	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Classic Rock の中から代表的な26曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。Rock の50年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。CD、DVDなどは担当者が用意する。</p> <p>2人1組のレポーターを中心にディスカッション形式でおこなう。レポーターは、発表前に疑問や問題点を e-mail で受講者に送る。それをもとに各自がそれぞれの解釈を持ちより、クラスでディスカッションする。個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブにアメリカ文化論を考える。</p>		<p>秋学期は、受講者のリクエストによる Bob Dylan の作品を取りあげる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：http://search.bobdylan.com/lyricsearch/ 参考文献：Michael Gray, <i>The Bob Dylan Encyclopedia</i> (Continuum, 2006)</p>		<p>プレゼンテーションとレポート（ワープロで約4,000字程度の作品論）によって決める。欠席が授業回数の1/3を超えた場合は、評価の対象とはしない。</p>	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパの文化について述べた文章を読む。		各時間、各一章ずつ読む。 なお、授業時には、名簿順に席に着いていただく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Appreciating European Culture</i>		出席を評価する。また、毎授業時での発表等も評価し、更に定期試験の結果を評価する。	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる		春学期に準じる	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期の続きを読む。		春学期に準じる。	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の第一の目的は英語を駆使する能力の向上にあります。英文和訳の作業は和訳そのものが目的ではありません。それは、日本語を母国語とする者が英文を記す能力、話す能力を上達させ、磨きをかけるのに欠かすことができない作業でもあるのです。</p> <p>サマセット・モームは日本で最も人気のある 20 世紀のイギリスの作家の一人で、『人間の絆』は彼の代表作です。モームの文章は素直で読みやすいことでよく知られています。このテキストは原作には手を加えず、筋だけを整えた abridge 版ですから原作の面白さや味わいは失われていません。</p> <p>予習と復習は必ずしてください。面倒がるようでは、外国語を習得するとはどういうことかがぜんぜん理解していないことなのです。</p>		<p>授業は英語を日本語に置き換えていく作業ではありません。英文をできるだけ自分のものにするのに必要な作業をいろいろ取り入れます。</p> <p>最初の授業時に辞書の使い方、授業の進め方など大切なこととお話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Of Human Bondage</i> [人間の絆](金星堂)		レポート、平素の小テスト、平常点	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の第一の目的は英語を駆使する能力の向上にあります。英文和訳の作業は和訳そのものが目的ではありません。それは、日本語を母国語とする者が英文を記す能力、話す能力を上達させ、磨きをかけるのに欠かすことができない作業でもあるのです。</p> <p>サマセット・モームは日本で最も人気のある 20 世紀のイギリスの作家の一人で、『人間の絆』は彼の代表作です。モームの文章は素直で読みやすいことでよく知られています。このテキストは原作には手を加えず、筋だけを整えた abridge 版ですから原作の面白さや味わいは失われていません。</p> <p>予習と復習は必ずしてください。面倒がるようでは、外国語を習得するとはどういうことかがぜんぜん理解していないことなのです。</p>		<p>授業は英語を日本語に置き換えていく作業ではありません。英文をできるだけ自分のものにするのに必要な作業をいろいろ取り入れます。</p> <p>最初の授業時に辞書の使い方、授業の進め方など大切なこととお話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Of Human Bondage</i> [人間の絆](金星堂)		レポート、平素の小テスト、平常点	

07年度（春）	Reading Strategies III	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：児童文学を読む</p> <p>Louis Sachar, <i>Holes</i> (2000) を読む。1999年にアメリカでニューベリー賞を受けベストセラーとなった児童文学である。英語は比較的平易であるが、巧みに組み立てられた物語の構造や、平凡な少年の心の動きや成長など、大人が読んで十分に読み応えがある。全部で230ページほどの長さだが、12週間で読み切る予定である。物語の中に引き込まれて読書を楽しむという経験を英語（の授業）でもする契機にしてほしい。</p> <p>毎週、ある程度の長さを読んでくると、部分的に精読することを並行して行う。毎回、授業の最初に小テストを行う。（1）指定された範囲を読んで状況や筋書きなどの内容をきちんと読みとれたか、（2）精読用に選んだ部分について細かな表現や語彙を正確にとらえているか、をチェックする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方についての説明と Chapters 1-2 2. Chapters 3-6 3. Chapters 7-9 4. Chapters 10-14 5. Chapters 15-19 6. Chapters 20-24 7. Chapters 25-28 8. Chapters 29-32 9. Chapters 33-37 10. Chapters 38-42 11. Chapters 43-45 12. Chapters 46-49 13. Chapter 50 とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Louis Sachar, <i>Holes</i> , New York: Yearling Books, 2000.		毎回の小テストで成績評価をする。 4回以上の欠席があった場合、成績評価の対象としない。	

07年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：児童文学を読む</p> <p>J. K. Rowling, <i>Harry Potter and the Philosopher's Stone</i> (1997) を読む。すでに世界的な現象になっているHarry Potterの第1作であるが、映画や翻訳で楽しむことと原文で読むことの違いをあらためて確かめてみる。児童文学とはいえ、英語は必ずしも平易というわけではない。イギリスらしい表現や語彙、人物によって異なる口調など、丹念に読むことによって、ストーリー展開を伝える媒介となる「英語」の面白さがわかってくる。</p> <p>「翻訳ではわからない面白さ」を実感することがこの授業の目標である。毎週、17～20ページ分ほどを精読してきてもらい、毎回、その範囲について小テストを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter 1 2. Chapters 2-3 3. Chapters 3-4 4. Chapter 5 5. Chapter 6 6. Chapters 7-8 7. Chapters 9-10 8. Chapters 10-11 9. Chapter 12 10. Chapters 13-14 11. Chapter 15 12. Chapter 16 13. Chapter 17 	
テキスト、参考文献		評価方法	
J. K. Rowling, <i>Harry Potter and the Philosopher's Stone</i> , London: Bloomsbury, 1997.		毎回の小テストで成績評価をする。 4回以上の欠席があった場合、成績評価の対象としない。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（Culture and Communication） 英語専門講読a（Culture and Communication）	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course hopes to develop different levels of necessary reading skills students lack in this age of audio media technology. Reading materials focus on building vocabulary and idioms, progressing on to the more demanding skills of interpretation and reading behind the lines. Topics for reading focus on students major areas of interest and study.</p>		<p>First Term:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation class objectives, method and evaluation 2. “Window of the soul” Face and emotions 3. Topic 1 continued 4. “How close is close” Bubble of space 5. Topic 2 continued 6. “My time, your time” Concepts of time 7. Topic 3 continued 8. “The sound of silence” Communication style 1 9. Topic 4 continued 10. “Who are you?” Gender and communication 11. Topic 5 continued 12. Summary & enrichment reading 13. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: short reading tests and report, as well as term-end exams. To really benefit from the course, students are required to review each lesson and study beforehand.	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（Culture and Communication） 英語専門講読b（Culture and Communication）	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Classes in the second semester hope to achieve the same objectives, and cover the same scope and sequence as those in the first semester. Reading materials will focus on similar topics of students’ interest and areas of study as in the previous term.</p>		<p>Second Term</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation: class objectives, method and evaluation 2. “Do you know me?” Disclosure 3. Topic 6 continued 4. “Praise or flattery?” Communication style 2 5. Topic 7 continued 6. “Stop and listen” Self Assertion 7. Topic 8 continued 8. “What’s the difference?” Culture values 9. Topic 9 continued 10. “People in a box” Stereotypes 11. Topic 10 continued 12. Summary and enrichment reading 13. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: short reading tests and report, as well as term-end exams. To benefit from the course, students are required to review each lesson and study beforehand	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (Literary fiction and documentary studies) 英語専門講読 a (Literary fiction and documentary studies)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to encourage students to try to get the most out of their reading. They will read for pleasure, for study, for vocabulary building, and to enhance their power of self expression.</p> <p>The materials are chosen for their active ingredients: thought-provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each reading piece.</p> <p>Extended reading, peripheral study, reading for gain in the information field, and such things will be a part of the coverage.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and methods 2. Sample reading 3. First Reading: documentary 4. Continued 5. Quiz and second reading starts: short story 6. Continued 7. Discussion and comment 8. Quiz and next reading 9. Continued 10. Study and compare 11. Reading for pleasure versus reading for knowledge 12. Books versus digital media 13. Revisions 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Short stories, documentary pieces, instructive items to stimulate discussion, and humorous pieces.		Quizzes and final report	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (Literary fiction and documentary studies) 英語専門講読 b (Literary fiction and documentary studies)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> 1. Explanations 2. Reading and comprehending 3. Comparing and evaluating 4. The author's world, the reader's world 5. Next reading 6. Continued with discussion 7. Student comments and ideas 8. Hearing, seeing, reading a story 9. Fiction versus documentary 10. Read, discuss, and compare 11. Read, revise, and question time 12. A book list for the future 13. Last quiz. Report guidance 	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		Quizzes and final report	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 I・II (Education&Culture) 英語専門講読 a・b (Education&Culture)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Getting Both Feet Wet</i> is a collection of essays written by young native English speakers and their Japanese counterparts--participants in the cultural exchange and teaching program organized by the Japanese government, The JET program.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the contributing writers, it is hoped that students will achieve a better understanding and perception of not just the JET program, but life in Japan and other cultures.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p>Note that this course will be held twice a week as both semesters will run concurrently Fall semester .</p>		<p>Week 1: Introduction & Selected chapter. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter. Week 13: Selected chapter & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Chandler, D. & D. Kootnikoff (Eds.). <i>Getting Both Feet Wet: Experiences inside The JET Program</i> . (JPGS Press).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	英語専門講読 I (James Joyce) 英語専門講読 a (James Joyce)	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the spring term, we will focus on Joyce's collection of short stories, <i>Dubliners</i> and begin reading his semi-autobiographical novel <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion</p> <p>Week 2: Araby</p> <p>Week 3: Araby (video)</p> <p>Week 4: Eveline</p> <p>Week 5: Two Gallants</p> <p>Week 6: A Painful Case</p> <p>Week 7: The Dead</p> <p>Week 8: The Dead (video)</p> <p>Week 9: Review, Nora (video)</p> <p>Week 10: Nora (video)</p> <p>Week 11: Introduction to A Portrait of the Artist</p> <p>Week 12: Portrait, Chapter 1</p> <p>Week 13: Portrait, Chapter 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Portable James Joyce (Penguin)</i>		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	英語専門講読 II (James Joyce) 英語専門講読 b (James Joyce)	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the fall term, we will finish <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> and read excerpts from Joyce's most important novel, <i>Ulysses</i>. We will finish the course with a short introduction to Joyce's final and most enigmatic work, <i>Finnegans Wake</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Portrait, Chapter 3</p> <p>Week 2: Portrait, Chapters 4 & 5</p> <p>Week 3: Portrait (video)</p> <p>Week 4: Review of Portrait</p> <p>Week 5: Introduction to Ulysses</p> <p>Week 6: Telemachus, Nestor (video)</p> <p>Week 7: Calypso, Hades (video)</p> <p>Week 8: Cyclops, The Wandering Rocks (video)</p> <p>Week 9: The Sirens, Circe (video)</p> <p>Week 10: Ithaca, Penelope (video)</p> <p>Week 11: Review of Ulysses</p> <p>Week 12: Finnegans Wake</p> <p>Week 13: Finnegans Wake</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Portable James Joyce (Penguin)</i>		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

06~07 年度 (春) 03~05 年度 (春)	英語専門講読 I (Education) 英語専門講読 a (Education)	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Essential 55</p> <p>The book chosen for this class was on the New York Times bestseller list. It deals with the instruction of educational rules and guidelines for discovering the successful student. It covers 55 rules which the author feels should be instilled in every child to help them become better students/learners.</p> <p>Class time will center on lectures and discussion. This class may be of particular interest for those students who are considering the teaching profession or those students who are interested in American culture.</p> <p>Each week students will be required to read 12-15 pages and to be prepared to discuss the main themes.</p>		<p>Week 1: Lecture and discussion Week 2: Lecture and discussion Week 3: Lecture and discussion Week 4: Lecture and discussion Week 5: Lecture and discussion Week 6: Lecture and discussion Week 7: Lecture and discussion Week 8: Lecture and discussion Week 9: Lecture and discussion Week 10: Lecture and discussion Week 11: Lecture and discussion Week 12: Lecture and discussion Week 13: Concluding lecture and discussion</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>The Essential 55 by Ron Clark</u>		Final grades are based on class participation, quizzes, reports and final exam.	

06~07 年度 (秋) 03~05 年度 (秋)	英語専門講読 II (Education) 英語専門講読 b (Education)	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of the first semester.</p> <p>Please Note:</p> <p>1) The course book for this class will not be ordered through the book store. Students are responsible for ordering the books themselves. This book is available at Amazon Japan:</p> <p>a) http://www.amazon.co.jp</p> <p>b) 1000 yen plus shipping</p> <p>2) We will read and discuss 12 pages per week.</p> <p>3) The reading assignments must be completed before class.</p> <p>4) A vocabulary notebook must be maintained</p>		<p>Week 1: Lecture and discussion Week 2: Lecture and discussion Week 3: Lecture and discussion Week 4: Lecture and discussion Week 5: Lecture and discussion Week 6: Lecture and discussion Week 7: Lecture and discussion Week 8: Lecture and discussion Week 9: Lecture and discussion Week 10: Lecture and discussion Week 11: Lecture and discussion Week 12: Lecture and discussion Week 13: Concluding lecture and discussion</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>The Essential 55 by Ron Clark</u>		Final grades are based on class participation, quizzes, reports and final exam.	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	英語専門講読 I (Sociolinguistics) 英語専門講読 a (Sociolinguistics)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This national bestseller is about conversational style. It points out that since we are all individuals, we all have a different way of talking. It also points out that style is as important in conversation as the information we exchange. The author explains that often it is not so much what we say but how we say it that makes. or breaks relationships. The important thing, therefore, is our ability to recognize other people's styles and, of course, to be aware of our own. The text, which is entertaining, and full of real-life examples, will teach you how to hear what was not explicitly said, how to get a quiet person to talk and a conversational bulldozer to stop, how to prevent small differences from sparking big arguments, and how to adjust your conversational style to save a conversation – or a relationship!</p> <p>All our work will be done in English and attendance is obligatory. Students will be required to take part actively in class activities, complete weekly handouts, and write a number of short papers on topics that interest them.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. The problem is the process I 3. The problem is the process II 4. The workings of conversational style I 5. The workings of conversational style II 6. Conversational signals and devices I 7. Conversational signals and devices II 8. Why don't we say what we mean I 9. Why don't we say what we mean II 10. Framing and reframing I 11. Framing and reframing II 12. Review I 13. Review II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>That's Not What I Meant</i> Deborah Tannen Ballantine Books		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly handouts, and a term paper.	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	英語専門講読 II (Sociolinguistics) 英語専門講読 b (Sociolinguistics)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Pragmatics is the study of meaning that cannot be predicted by linguistic knowledge alone and takes into account knowledge about the physical and social world. For example, when someone says "It's hot in here!" he/she might mean "Please open the window!" or "Is it all right if I open the window?" or perhaps "You're wasting electricity!" Pragmatic competence is the ability to understand what a speaker really means by his/her utterance. The text introduces two highly influential approaches to pragmatics: the co-operative principle and speech act theory, both of which are useful in analyzing pragmatic aspects of language.</p> <p>Students will be expected to read the textbook each week outside of class and complete a hand-out which will be provided. In class, students will discuss the issues in groups, and work on exercises designed to make pragmatics easier to understand.</p> <p>Students will be encouraged to think about how pragmatic aspects of language can be acquired by second language learners, and how teachers can best teach these aspects of language in the second language classroom.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Power and solidarity I 3. Power and solidarity II 4. Why things get worse I 5. Why things get worse II 6. Talk in intimate relationships I 7. Talk in intimate relationships II 8. The intimate critic I 9. The intimate critic II 10. Talking about ways of talking I 11. Talking about ways of talking II 12. Review I 13. Review II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>That's Not What I Meant</i> Deborah Tannen Ballantine Books		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly handouts, and a term paper.	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (音声科学入門) 英語専門講読 a (音声科学入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 1年生の「英語音声学」で学んだことを基に、音声の一般的特徴や様々な現象について、今度は英語で読んでさらに理解を深める。 また、入門では音声を”文字”から勉強したが、今度は、文字からは見えてこない音の実態を”波形”等からも見てみる。これにより、音声の生理学のおよび物理学的な側面を理解する初歩の学習をする。 テキストは比較的やさしい入門書ではあるが、専門的な内容についてある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p> <p><u>講義概要</u> 各学生は毎回の指定範囲の予習が前提となり、小テストで確認する。英文の構造とその内容を正確に理解するよう精読の練習をする。各章の後に担当者が配布資料を使用して内容のまとめを発表する。これについて教員が補足、解説をし、また質疑応答・議論を行う。</p> <p><u>メッセージ</u> 内容には既に学んだことも多く含まれるので、知っていることを英語で読むことはよい練習となるはずである。また、”波形など”を学ぶといっても、極めて基本的なものである。易しく導入するので、恐れずに来たれ。新たな発見もあるはずである。 毎週2時間程度(個人差あり)の読み訓練が必要と思われるが、少しずつ慣れていけるはずである。“進度自己チェック表”を活用し、読んでいるかどうか少しずつ確認する予定なので、是非チャレンジして欲しい。一緒に頑張りましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Ch-1 Introduction to speech 2. Ch-2 Voice (1) 3. Ch-2 Voice (2) 4. Ch-3 Place of Articulation (1) 5. Ch-3 Place of Articulation (2) 6. Ch-4 Manner of articulation (1) 7. Ch-4 Manner of articulation (2) 8. Review 9. Ch-5 Vowels 10. Ch-5 Vowels (2) 11. Ch-6 Voice II (1) 12. Ch-6 Voice II(2) 13. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Michael Ashby and John Maidment. 2005. <i>Introducing Phonetic Science</i> . Cambridge University Press. (ISBN-13: 978-0-521-00496-1 / ISBN-10: 0-521-00496-9) その他 配布資料		授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (音声科学入門) 英語専門講読 b (音声科学入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 春学期に引き続き読み進め、さらなる理解と読解力を養う。</p> <p><u>講義概要</u> 春学期に同じ</p> <p><u>テキストに関する補足</u> テキストは各自 Amazon など入手しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Ch-7 Airstream mechanisms (1) 2. Ch-7 Airstream mechanisms (2) 3. Ch-8 Speech sounds and speech movements (1) 4. Ch-8 Speech sounds and speech movements (2) 5. Ch-9 Basic phonological concepts (1) 6. Ch-9 Basic phonological concepts (2) 7. Review 8. Ch-10 Suprasegmentals (1) 9. Ch-10 Suprasegmentals (2) 10. Ch-11 Speaker and hearer (1) 11. Ch-11 Speaker and hearer (2) 12. Selected topic 13. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Michael Ashby and John Maidment. 2005. <i>Introducing Phonetic Science</i> . Cambridge University Press. (ISBN-13: 978-0-521-00496-1 / ISBN-10: 0-521-00496-9) その他 配布資料		授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 b (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques in materials development for language teaching and integrating Global Issues into language learning classes.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p><i>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</i></p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Global issues and language learning 3. Global issues and language teaching 4. Finding and selecting materials 5. Adapting materials 6. Content-rich songs 7. Developing activities 8. Developing activities 9. Presentations 10. Presentations 11. Presentations 12. Presentations 13. Evaluating your materials 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義支援システム使用 参考文献: <u>Materials Development in Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Cambridge Univ. Press), <u>Global Issues</u> (Sampedro & Hillyard, Oxford)</p>		class participation, reading assignments, quizzes and projects	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (米国の東アジア政策) 英語専門講読 a (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2008 年は大統領選挙の年です。米国のみならず、東アジアでは韓国、台湾で政権交代が行われます。それら新政権の政策を見きわめるため、また米国内での選挙戦では、国内問題が中心になる傾向から、米国の東アジア政策は、当面のところ模様眺めの状況が続きそうです。北朝鮮の核開発問題や台湾海峡問題などは、とりあえず現状維持を目標に、米国が強力なリーダーシップを発揮しなければならないような局面は回避されることとなります。</p> <p>7 月の洞爺湖サミット、8 月の北京オリンピックなど、東アジアが注目されるイベントも予定されていますが、地域に変化をもたらすようなものではありません。</p> <p>そうしたなかで、米国にとって重要性が増してくるのが中国です。1992 年、2000 年の大統領選挙では、政権の中国政策を批判した候補が勝利を収めました。しかし今回はそうした動きは見られません。民主党、共和党のどの候補も米中関係を基本的に重視しており、現在のブッシュ政権の政策と大きく異なるようには見えません。</p> <p>今年度は、米大統領選挙を軸に、米国と東アジア地域との関係をフォローしていきます。</p>		<p>授業では、事前に配布した教材をもとに報告を担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき教材の内容についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事項や問題につき、討論する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
シンクタンクのレポート、新聞記事など、最新のトピックを扱ったものから教材を選択し、毎回配布する。		成績評価は、学生のプレゼンテーション、授業における気論への積極的参加、出席を基に行う。3 回以上の欠席は不可。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (米国の東アジア政策) 英語専門講読 b (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
(春学期に同じ)		(春学期に同じ)	
テキスト、参考文献		評価方法	
(春学期に同じ)		(春学期に同じ)	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（異文化コミュニケーション論） 英語専門講読a（異文化コミュニケーション論）	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 学力低下が著しいと国内外で批判される現代の日本の大学生は、子ども向けの幼稚な英会話にのみ興味をもちがちである。そこで本講義では、異文化コミュニケーション論に関する英文を批評的に読解し、特に英語の語彙と文法の力を育成し、大学生に適した異文化問題意識を高めることを目的とする。</p> <p>講義概要 言語行動、非言語行動、価値観、信念等の異文化コミュニケーション論に関する一般的な内容を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overall Introduction (Lecture) 2. Seen One, Seen Them All? (Textbook) 3. Looking Out for Number One 4. Alternate Worlds 5. A Family Affair 6. Straight Talk 7. An Eloquent Silence 8. The Right Time and the Right Place 9. Working Toward Answers 10. Two Steps Forward and One Step Back 11. Signs of the Times 12. Fitting In 13. How Golden Is the Golden Rule? 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト Jewel, M. <i>Cultural Contexts</i>. 朝日出版社。 参考書 古田ほか『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣。</p>		期末試験成績（70%）、出席状況と授業中の発表（30%）	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（異文化コミュニケーション論） 英語専門講読a（異文化コミュニケーション論）	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 学力低下が著しいと国内外で批判される現代の日本の大学生は、子ども向けの幼稚な英会話にのみ興味をもちがちである。そこで本講義では、異文化コミュニケーション論に関する英文を批評的に読解し、特に英語の語彙と文法の力を育成し、大学生に適した異文化問題意識を高めることを目的とする。</p> <p>講義概要 春学期より一歩進んだ言語行動、非言語行動、価値観、信念等の異文化コミュニケーション論に関する問題を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Well-Worn Paths of “English Conversation” (Photocopy) 2. Culture and Identity (Textbook) 3. Hidden Culture 4. Stereotypes 5. Words, Words, Words 6. Communication Without Words 7. Diversity 8. Perception 9. Communication Styles (1) 10. Communication Styles (2) 11. Values 12. Deep Culture (Beliefs and Values) 13. Culture Shock 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト Shaules, J. ほか <i>Different Realities</i>. 南雲堂。 参考書 古田ほか『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣。</p>		期末試験成績（70%）、出席状況と授業中の発表（30%）。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（テレビのコミュニケーション研究：基礎理論） 英語専門講読 a（テレビのコミュニケーション研究：基礎理論）	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、コミュニケーション批評を行うための基礎文献およびテレビ研究に関する専門文献を読んでいきます。これにより、単なるテレビ番組の「消費者」からテレビ番組の「分析者」へと移行することを実践していきます。		1. 概略説明 <u>英文資料1</u> 2. コミュニケーション批評とは？（1） 3. コミュニケーション批評とは？（2） 4. コミュニケーション批評とは？（3） <u>英文資料2</u> 5. テキスト分析とは？（1） 6. テキスト分析とは？（2） 7. テキスト分析とは？（3） <u>英文資料3</u> 8. テレビのイデオロギー批評（1） 9. テレビのイデオロギー批評（2） 10. テレビのイデオロギー批評（3） <u>資料読解に基づく発表</u> 11. 研究発表：Day 1 12. 研究発表：Day 2 13. まとめとクイズ	
テキスト、参考文献		評価方法	
英文資料は、授業 HP からダウンロードしてください。（パスワードは初回の授業で示します。）		①出席状況：30%（理由にかかわらず4回以上の欠席で成績がFとなります。） ②その他（クイズや発表）：70%	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（テレビのコミュニケーション研究：事例研究） 英語専門講読 b（テレビのコミュニケーション研究：事例研究）	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続きです。なお、この学期の焦点はアメリカのテレビに関する事例研究です。		1. 概略説明 <u>英文資料4</u> 2. アメリカの放送（1） 3. アメリカの放送（2） 4. アメリカの放送（3） <u>英文資料5</u> 5. アメリカのテレビと有名人の歴史（1） 6. アメリカのテレビと有名人の歴史（2） 7. アメリカのテレビと有名人の歴史（3） <u>英文資料6～8</u> 8. アメリカのテレビCM（1） 9. アメリカのテレビCM（2） 10. アメリカのテレビCM（3） <u>資料読解に基づく発表</u> 11. 研究発表：Day 1 12. 研究発表：Day 2 13. まとめとクイズ	
テキスト、参考文献		評価方法	
英文資料は、授業 HP からダウンロードしてください。（パスワードは初回の授業で示します。）		①出席状況：30%（理由にかかわらず4回以上の欠席で成績がFとなります。） ②その他（クイズや発表）：70%	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (Allen Ginsberg “Kaddish” を読む) 英語専門講読 a (Allen Ginsberg “Kaddish” を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に引き続き、Beat Generation の巨星 Allen Ginsberg の作品を読む。昨年度は “Howl” を読んだが、今年度は “Kaddish” を読む。</p> <p>この授業を受講しようとしている学生たち、君たちは、自分の中で、「母親殺し」をしたか？ もっとわかりやすい言い方をすれば、「母親を一個人として客体視」できているか？ この作品は、Ginsberg が、母、Naomi を歌った詩であるが、その内容は「母親思慕」などという生易しいものではない。精神疾患を患った母の介護をしなければならなかった Ginsberg 。この詩は、そのつらい体験からの精神的リハビリテーションを綴った作品である。</p> <p>父と兄は、精神疾患を持つ母を無視したため、Ginsberg は、母の介護どころか、前頭葉摘出手術（人間ではなくなることを意味する）の承諾までしなくてはならなかった。これは極端な例であるとしても、いまだにママと腕を組んでお買い物に行く女子学生、彼女ができたことを逐一ママに報告する男子学生、いずれは通る道である。</p> <p>自分と親との関係を考えつつ、大人になりたい学生に、受講してもらいたい。</p> <p>19 ページ、320 行に及ぶ長編詩なので、週ごとにどこからどこまで進む、という設定は、ムリである。</p>		<p>1) Introduction (Ginsberg のビデオを見る)</p> <p>2)~13) “Kaddish”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Allen Ginsberg, <i>Selected Poems 1947-1995</i> (Penguin) がテキスト。『総特集 アレン・ギンズバーグ』(思潮社) は必読。		レポーターをかならずやるのが単位の認定条件。そして評価は、2000 字以上のレポート。詳細は追って伝える。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (Allen Ginsberg “Kaddish” を読む) 英語専門講読 b (Allen Ginsberg “Kaddish” を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>引き続き “Kaddish” を読む。どこまで進めるか？ それは、受講生が、「次はオレ／アタシが親になるんだ！」という意識にかかっている。親殺し／親の客体化をしてから親になるんだ、という意志を、しっかりと持つこと。</p>		<p>1)~13) “Kaddish”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期の欄にかけなかったもの。『ビートとアートとエトセトラ』 ヤリタ・ミサコ (水声社)。		基本的に、春学期と同じ。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門講読a(ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡を辿ります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大なディズニー文化の世界は、いまやアメリカの(そして日本を含めた世界の)ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。必要があれば、担当者が用意したAV資料を視聴することもあります。詳細は開講時に受講者と相談することとします。</p> <p>全員予習必須。なお、テキストに出てくる作品は、授業外の時間を利用し、各自(skepticalな観かたで)視聴してから出席すること。入手困難なものは、担当者が用意したAV資料を授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期コース・オリエンテーション 2. 20世紀アメリカ文化について確認 3. Launching the Animated Feature 4. Seven Dwarfs for Snow White 5. New Tools: Live Action, Multiplane Camera & Effects 6. Disney's Folly 7. Pinocchio 8. Fantasia 9. Bambi 10. Economizing: Dumbo 11. The New Studio, The Strike, and the War 12. Cinderella Restores the Glory 13. 春学期の総括(調整日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <u>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</u>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、随時紹介します。</p>		出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーから、総合的に評価します。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門講読b(ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の歴史を辿ります。秋学期はWaltの存命中の作品だけでなく、Waltなきあとのスタジオの作品(『リトル・マーメイド』まで)も扱います。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。当然、全員予習必須。テキストに出てくる作品は、授業外の時間を利用し、各自(skepticalな観かたで)視聴してから出席すること。入手困難なものは、担当者が用意したAV資料を授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. The Anthology Features 2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice) 3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter) 4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&T) 5. Sleeping Beauty Awakens 6. Walt Disney's Last Films 7. Carrying on the Tradition 8. The Black Cauldron 9. A New Regime and a Rebirth 10. Who Framed Roger Rabbit 11. Triumph: The Little Mermaid 12. The Rescuers Down Under 13. 秋学期の総括(調整日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <u>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</u>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、随時紹介します。</p>		出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーから、総合的に評価します。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ (英語の音声) 英語専門講読 a (英語の音声)	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>“sit” と “time” の “i” は発音が違う。”hot” の “o” もイギリス英語とアメリカ英語では発音が違う。その他の例でも、英語では文字と発音との関係は一樣ではなく、発音の多様性が随所にみられる。しかし、英語の歴史を遡ってみると、文字と発音の相違、変化にはある程度の規則性があったことが分かる。</p> <p>授業では英語の音声の可変する個所、方法などの規則性について読み、文字と発音との過去に起きた現象に加え、現代の音声英語に生じる現象の理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. The Great Vowel Shift 2. NG Coalescence 3. The velar fricative 4. THOUGHT Monophthonging 5. The Long Mid Mergers 6. The FLEECE Merger 7. The FOOT-STRUT Split 8. The NURSE Merger 9. Pre-Fricative Lengthening 10. Yod Dropping 11. PRICE and CHOICE 12. Long Mid Diphthonging 13. The Great Divide 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する		期末の試験成績と出席状況による	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (英語の音声) 英語専門講読 b (英語の音声)	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は英語の一般的な内容を扱うが、秋学期は<u>春学期の授業の理解を前提に</u>、イギリス英語とアメリカ英語に絞り、具体的な音変化の内容を読む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vowels before /r/ 2. R Dropping 3. R Insertion 4. Glide Cluster Reduction 5. Suffix vowels 6. BATH and CLOTH 7. The FORCE Mergers 8. The Realization of GOAT 9. Smoothing 10. LOT Unrounding; loss of distinctive length 11. Later Yod Dropping 12. Tapping and T Voicing 13. Diphthong Shift 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する		期末の試験成績と出席状況による	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ (アメリカ黒人の歴史) 英語専門講読 a (アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ黒人文化の流れを学ぶことがこの授業の目標である。絵、風刺漫画、写真、ちらし、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。 将来如何なる職業に就こうが必ず役に立つ英語力を、原書をじっくり読むことによって培うのも、この授業のもうひとつの目標である。</p> <p>今年度は、奴隷制廃止運動で活躍したフレデリック・ダグラス、ウィリアム・ギャリソンなどを中心に、奴隷解放直前のアメリカについて学ぶ。</p> <p>なお、アメリカ黒人文化を知るための一助として、黒人英語やアメリカ南部についてのビデオ、また、黒人に関する映画を鑑賞する予定である。</p> <p>この授業を受けるには、アメリカ黒人やその文化について興味を抱いていることが必要条件。</p> <p>毎回、必ず予習をして授業に臨むこと。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒人たちが開催した奴隷制反対の会議 ・ フレデリック・ダグラスとその仲間たち ・ トーマス・ジェファソンの力強い言葉 ・ 黒人の奴隷制廃止主義者たち ・ 奴隷制に反対する新聞 ・ ギャリソンとフィリップス ・ 大混乱の南部 ・ 暴徒に屈しなかった人たち <p>などについて学んでいく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>A Pictorial History of Blackamericans</i> からの抜粋（プリント）を使用する。</p> <p>参考文献は授業中適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習をして授業に臨んだか否か、授業中の発言や質問、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (アメリカ黒人の歴史) 英語専門講読 b (アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由の歌声 ・ 偉大な改革者たち ・ 奴隷制に反対する詩 ・ 暴徒たちに怯えることなく戦う人たち ・ 黒人と教育 ・ アミスタッド号の反乱 ・ フレデリック・ダグラスの生い立ち ・ 北部へと逃れるダグラス ・ ウィリアム・ギャリソンの活躍 ・ ジョン・ブラウンの企て <p>などについて学ぶ予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（映画批評） 英語専門講読a（映画批評）	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画（予定）	
<p>講義目的</p> <p>映画を諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テキストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる。1）理論とは何か、2）批評とは何か、3）レトリック研究とは何か。これら3点のテーマについて、映画の綿密なテキスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた文化政治的意義を探っていく。</p> <p>講義概要</p> <p>映像という表象手段によってコミュニケーションされる映画をテキストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映像というレトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむことではない。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画というテキストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め必ず各自で観ておくこと。これらの時間を要する予習への心構えがない学生は受講を遠慮すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation 2. <i>Sabotage: Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia</i> 3. <i>Sabotage: Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia</i> 4. <i>Rope: Nietzsche and the Art of Murder</i> 5. <i>Rope: Nietzsche and the Art of Murder</i> 6. <i>Psycho: Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil</i> 7. <i>Psycho: Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil</i> 8. <i>The Birds: Plato and Romantic Love</i> 9. <i>The Birds: Plato and Romantic Love</i> 10. <i>Featherless Biped: The Concept of Humanity in The Birds</i> 11. <i>Featherless Biped: The Concept of Humanity in The Birds</i> 12. <i>Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in Breakdown</i> 13. <i>Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in Breakdown</i> 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><u>Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics.</u> ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2007)</p>		<p>定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価する。</p>	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（映画批評） 英語専門講読b（映画批評）	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画（予定）	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>Vertigo and the Pathologies of Romantic Love</i> 2. <i>Vertigo and the Pathologies of Romantic Love</i> 3. <i>On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in North by Northwest</i> 4. <i>On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in North by Northwest</i> 5. <i>Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in North by Northwest</i> 6. <i>Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in North by Northwest</i> 7. <i>Democracy Adrift in Lifeboat</i> 8. <i>Democracy Adrift in Lifeboat</i> 9. <i>Rear Window: Hitchcock's Allegory of the Cave</i> 10. <i>Rear Window: Hitchcock's Allegory of the Cave</i> 11. <i>Rear Window: Looking at Things Ethically</i> 12. <i>Rear Window: Looking at Things Ethically</i> 13. Wrap up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><u>Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics.</u> ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2007)</p>		<p>定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価する。</p>	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ(アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む) 英語専門講読 a(アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(<i>The Grapes of Wrath</i>, 1939)、『エデンの東』(<i>The East of Eden</i>, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968)は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、短編集『長い谷間』(<i>The Long Valley</i>, 1938)に収められた三部作“The Red Pony”を中心に彼の作品を扱ってゆく。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインバック自らが脚本を手掛けた映画『赤い子馬』(1949)と作品を比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。</p>		<p>1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介</p> <p>2: 映画『赤い子馬』を観る。</p> <p>3: 1. “The Gift ” 読解</p> <p>4: 同上</p> <p>5: 同上</p> <p>6: 同上</p> <p>7: 同上</p> <p>8: 2. “The Great Mountains”読解</p> <p>9: 同上</p> <p>10: 同上</p> <p>11: 同上</p> <p>12: 同上</p> <p>13: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: John Steinbeck, <i>The Red Pony</i> (南雲堂)</p> <p>参考文献: ①John Steinbeck, <i>The Long Valley</i> (Penguin Classics) / ②スタインバック『スタインバック短編集』(新潮文庫)</p>		<p>平常点(出席状況と授業中の発表内容、提出物)と期末のレポートを総合的に評価</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む) 英語専門講読 b(アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、<i>The Red Pony</i> を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、文学作品と映画とを比較検討してゆく。時間が許せば、スタインバックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。</p>		<p>1: 前期レポートについての寸評</p> <p>2: 映画『赤い子馬』を観る。</p> <p>3: 3. “The Promise” 読解</p> <p>4: 同上</p> <p>5: 同上</p> <p>6: 同上</p> <p>7: 同上</p> <p>8: 評論を読む</p> <p>9: 同上</p> <p>10: 同上</p> <p>11: 同上</p> <p>12: 同上</p> <p>13: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: John Steinbeck, <i>The Red Pony</i> (南雲堂)</p> <p>参考文献: ①John Steinbeck, <i>The Long Valley</i> (Penguin Classics) / ②スタインバック『スタインバック短編集』(新潮文庫)</p>		<p>平常点(出席状況と授業中の発表内容、提出物)と期末のレポートを総合的に評価</p>	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読a(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は3つあります。第一に、国際関係論や地域研究(area studies)にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第二に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第三に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ(春)とⅡ(秋)は継続して履修することを条件とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で1時間程度の英文読解力テスト(国際政治経済の時事問題に関する英文和訳)を実施します。</p>		<p>*テキストのパートごとに進めます。詳細については1回目の授業時にシラバスを配布し、説明します。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2008-2009</i>, ISEAS, 2008. (150ページ前後、価格は1800円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。 ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読b(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ(春)とⅡ(秋)は継続性が強いいため、本授業の履修については英語専門講読Ⅰ(春学期:金子担当)を履修していることを条件にします。また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>*テキストのパートごとに進めます。詳細については1回目の授業時にシラバスを配布し、説明します。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2009</i>, ISEAS, 2008. (350ページ前後、価格は2200円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。(内容の概略は以下のWebサイトで検索が可能：http://bookshop.iseas.edu.sg/) ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (The Authorized Version) 英語専門講読 a (The Authorized Version)	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英訳聖書、殊に The Authorized Version(1611 年出版)は、英語英文学を学ぶものにとって必読の書である。AV は選考する英訳聖書の粋を集大成したものであり、それ以降信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響をあたえてきたからである。</p> <p>授業では AV の旧・新約から代表的な箇所を抜粋した「英訳聖書鈔」を語学的に精読することで重点をおきたいと思う。その際 AV を他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version(新旧両訳・外典 1952 年)や New English Bible(新旧両訳・外典 1970 年)と読み比べれば、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。</p> <p>なお、テキストには 90 頁から成る詳しい注が付けられており、有益である。</p>		<p>1～2 Chapter I 3～5 Chapter II 6 Chapter XXVIII 7～8 Chapter III 9～10 Chapter IV 11～12 Chapter V 13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 船橋 雄 注釈「英訳聖書鈔」研究者¥2200 プリント配布 参考文献： 寺澤 芳雄ほか著 「英語の聖書」 富山書房</p>		<p>期末テストと平常点によって評価する。</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (The Authorized Version) 英語専門講読 b (The Authorized Version)	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上</p>		<p>1 Chapter V 2～8 Chapter VI 9～10 Chapter XXIX 11～12 Chapter XXIV 13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 船橋 雄 注釈「英訳聖書鈔」研究者¥2200 プリント配布 参考文献： 寺澤 芳雄ほか著 「英語の聖書」 富山書房</p>		<p>期末テストと平常点によって評価する。</p>	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(生成文法入門) 英語専門講読a(生成文法入門)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Noam Chomsky の提唱する文法理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。</p> <p>人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>下記文献はその理解のための入門書という位置づけになっており、比較的平易な文で書かれてはいるものの理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加する事を希望します。</p>		<p>1・Chapter 1 2・Chapter 1 3・Chapter 2 4・Chapter 2 5・Chapter 3 6・Chapter 3 7・Chapter 4 8・Chapter 4 9・Chapter 5 10・Chapter 5 11・Chapter 6 12・Chapter 6 13・Review</p> <p>※上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：<i>Introduction to Government and Binding Theory</i>. Blackwell 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社</p>		<p>出席率、授業参加率、試験の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(生成文法入門) 英語専門講読b(生成文法入門)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Noam Chomsky の提唱する文法理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。</p> <p>人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>下記文献はその理解のための入門書という位置づけになっており、比較的平易な文で書かれてはいるものの理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加する事を希望します。</p>		<p>1・Chapter 7 2・Chapter 7 3・Chapter 8 4・Chapter 8 5・Chapter 9 6・Chapter 9 7・Chapter 10 8・Chapter 10 9・Chapter 11 10・Chapter 11 11・Chapter 12 12・Chapter 12 13・Review</p> <p>※上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：<i>Introduction to Government and Binding Theory</i>. Blackwell 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社</p>		<p>出席率、授業参加率、試験の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（Korea Today） 英語専門講読 a（Korea Today）	担当者	金 雄熙
講義目的、講義概要		授業計画	
This course show the process that the Korean society of today had undergone through the history and culture of the past and present, through dealing with such diverse topics as geographical environment and peculiarity, population and language, history, constitution and government, economy and industry, social evolution, international relations. By doing so, we will be able to renew fully our understanding of Korean society.		1. GEOGRAPHIC SETTING 2. PEOPLE AND LANGUAGE① 3. PEOPLE AND LANGUAGE② 4. THE EMERGENCE OF THE NATION 5. THE NATION: ITS COMMUNITY AND IDENTITY 6. MODERN HISTORY AND POLITICAL DEVELOPMENT 7. CONSTITUTION AND GOVERNMENT 8. ECONOMIC DEVELOPMENT PROCESS 9. ECONOMIC RESTRUCTURING 10. TRADE AS AN ENGINE OF GROWTH 11. SOCIAL DEVELOPMENT 12. DIPLOMATIC RELATIONS AND FOREIGN POLICY① 13. DIPLOMATIC RELATIONS AND FOREIGN POLICY②	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する		出欠状況、授業中の発表の内容と方法、期末試験で評価する。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（Korea Today） 英語専門講読 b（Korea Today）	担当者	金 雄熙
講義目的、講義概要		授業計画	
This course show the process that the Korean society of today had undergone through the history and culture of the past and present, through dealing with such diverse topics as religion and social life, arts and popular culture, and sports. We will read the interviews as enthralling as it does educational, subjects in the book include working in Korea, romantic relations with Koreans, people of Korean descent, teaching in Korea, learning in Korea and people who have made Korea their adopted home.		1. RELIGION① 2. RELIGION② 3. SOCIAL LIFE① 4. SOCIAL LIFE② 5. ARTS 6. POPULAR CULTURE 7. MODERN SPORTS 8. PEOPLE OF KOREAN DESCENT 9. TEACHING IN KOREA 10. LEARNING IN KOREA 11. AT HOME IN KOREA 12. WORKING IN KOREA 13. SOCIAL RELATIONS WITH KOREANS	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する		出欠状況、授業中の発表の内容と方法、期末試験で評価する。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (SLA 実証研究論文) 英語専門講読 a (SLA 実証研究論文)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 第二言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文を講読する。それにより、SLA に関する知識を得るとともに、研究論文で用いられる英語表現を知ることが目的とする。加えて、複雑ではあっても論理的な研究デザインを読み解くために繰り返し対象論文を読み、ロジカルな思考の訓練、さらなる英語力増強をも目指していく。</p> <p>[概要] 「人間はどのようにして自分の母語以外の言語（第二言語）を身に付けていくのか？」ということは、自身英語学習者であるわれわれにとって非常に身近なテーマである。また、より良い英語学習法・教育法を追い求めるなかで、教師や研究者たちはさまざまな「実証研究」を行っている。たとえば、「A という教え方と B という教え方のどちらが効果的なのか?」、「日本人の英語語彙力を正確に測れるテストはどのように作ったらよいのか?」といったものである。この講義では、そのような実証研究論文を講読する。さらに、それらの研究結果、方法論について批評・議論も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 実証研究とは何か：講義 3. 実証研究論文例 4. 論文 (1)：内容理解の確認 5. 論文 (1)：ディスカッション 6. 論文 (2)：内容理解の確認 7. 論文 (2)：ディスカッション 8. 論文 (3)：内容理解の確認 9. 論文 (3)：ディスカッション 10. 論文 (4)：内容理解の確認 11. 論文 (4)：ディスカッション 12. 論文 (5)：内容理解の確認 13. 論文 (5)：ディスカッション + まとめ <p>※ 昨今の第二言語習得・英語教育に関する実証研究にはさまざまな統計処理が用いられている。論文を読解するのに必要程度の統計知識を身につけるため、夏休み期間中に「統計ゼミ」を実施するので参加を奨励する。（必修ではない。希望者のみ対象）詳細は授業中に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内で出版された、日本人英語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (SLA 実証研究論文) 英語専門講読 b (SLA 実証研究論文)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 春学期同様、SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を行う研究論文を講読する。 秋学期は、より広い視野をもって SLA 研究を考えることを目指し、海外で出版された論文を取り入れる。</p> <p>[概要] 1) 論文を読み、その内容について理解の確認を行う 2) その研究結果、方法論について批評・議論を行う 3) 議論をもとに、より良い研究方法を提案する</p> <p>秋学期は英語による議論も行う。上記 3) は簡易レポートを提出してもらおう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文 (1)：内容理解の確認 3. 論文 (1)：ディスカッション ① 4. 論文 (1)：ディスカッション ② 5. 論文 (2)：内容理解の確認 6. 論文 (2)：ディスカッション ① 7. 論文 (2)：ディスカッション ② 8. 論文 (3)：内容理解の確認 9. 論文 (3)：ディスカッション ① 10. 論文 (3)：ディスカッション ② 11. 論文 (4)：内容理解の確認 12. 論文 (4)：ディスカッション ① 13. 論文 (4)：ディスカッション ② + まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内外で出版された、第二言語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	英語専門講読 I (英語コミュニケーションの再構築) 英語専門講読 a (英語コミュニケーションの再構築)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject is aimed at helping students to develop intercultural literacy and competency as a non-native speaker/writer of English. Emphasis is placed upon (1) understanding key concepts and theories of intercultural communication studies, (2) exploring their assumptive foundations and applicability in different cultural contexts, and (3) creating alternative perspectives on English and intercultural/international communication. For this transformative learning, students will be asked to give short summary presentations, participate in various group activities, write a term paper, and take a written examination. All activities will be conducted in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1: Culture, communication and interaction (pp. 1-8) 3. Chapter 2: Direct and indirect messages (pp. 9-15) 4. Chapter 2: Direct and indirect messages (pp. 16-21) 5. Chapter 3: Politeness and face (pp. 26-34) 6. Chapter 3: Politeness and face (pp. 34-42) 7. Chapter 4: Speech acts and politeness across cultures (pp. 46-52) 8. Chapter 4: Speech acts and politeness across cultures (pp. 52-57) 9. Chapter 5: The analysis of conversation (pp. 61-67) 10. Chapter 5: The analysis of conversation (pp. 68-75) 11. Chapter 6: Power relations and stereotyping (pp. 80-84) 12. Chapter 6: Power relations and stereotyping (pp. 84-89) 13. Wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bowe, H., & Martin, K. (2007). <i>Communication across cultures: Mutual understanding in a global world</i> . Cambridge: Cambridge University Press.		Oral presentations (40%), term paper (30%), exam (30%)	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	英語専門講読 II (英語コミュニケーションの再構築) 英語専門講読 b (英語コミュニケーションの再構築)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject is aimed at helping students to develop intercultural literacy and competency as a non-native speaker/writer of English. Emphasis is placed upon (1) understanding key concepts and theories of intercultural communication studies, (2) exploring their assumptive foundations and applicability in different cultural contexts, and (3) creating alternative perspectives on English and intercultural/international communication. For this transformative learning, students will be asked to give short summary presentations, participate in various group activities, write a term paper, and take a written examination. All activities will be conducted in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 7: Naming and addressing (pp. 95-105) 3. Chapter 7: Naming and addressing (pp. 106-114) 4. Chapter 8: Cultural differences in writing (pp. 120-128) 5. Chapter 8: Cultural differences in writing (pp. 128-136) 6. Chapter 9: Interpreting and translating (pp. 140-146) 7. Chapter 9: Interpreting and translating (pp. 146-153) 8. Chapter 10: Intercultural communication issues in professional and workplace contexts (pp. 157-162) 9. Chapter 10: Intercultural communication issues in professional and workplace contexts (pp. 162-166) 10. Chapter 11: Towards successful intercultural communication (pp. 169-174) 11. Chapter 11: Towards successful intercultural communication (pp. 174-179) 12. Lecture workshop, 'Working globally' 13. Wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bowe, H., & Martin, K. (2007). <i>Communication across cultures: Mutual understanding in a global world</i> . Cambridge: Cambridge University Press.		Oral presentations (40%), term paper (30%), exam (30%)	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (オーストラリアの詩) 英語専門講読 a (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 「言葉は力であり、魔法である。」このことを、一年間、くどいくらいしつこくお話しすることになると思います。このことを、頭だけではなく心から理解できたとき、生活がどんどん変わっていく、と心から信じています。もしかしたら今まで「詩」に馴染みのなかった方が多いかもしれませんが、「言葉の力」を学ぶには、詩は最適のテキスト！一緒に読んでいきましょう。</p> <p>旅行、留学等の経験から、「オーストラリアが大好き！」という方はたくさんいらっしゃいますよね。「好き」は「もっと知りたい」ということに通じると思います。表面的な知識だけではなく、様々な角度からオーストラリアを考察していきましょう。まだ、あまりよくオーストラリアのことを知らないけれど、関心・興味はある、という方。「関心・興味」は研究への第一歩です。熱意のある方、お待ちしております。</p> <p><講義概要> アボリジニの歴史や神話を踏まえた上で、彼らの詩を読んでいきます。CD、ビデオ、DVDを使用して、授業を進めることもあります。</p>		<p>皆さんに私が解説していく講義形式になるときもありますが、基本的に、この授業ではレポーター形式で進めていきます。発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるだろうか、他の学生を眠らせないようにするにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。(過去に受講して下さった学生たちは、パワーポイントやサイトをスクリーンで見せながら解説したり、自作の紙芝居や演劇で再現したり、クイズ形式で他の学生に答えさせたりなど、いろいろ楽しい授業を作り出してくれました。今年も楽しみにしていますよ！)</p> <p>最初の4回で、「オーストラリアの歴史」「アボリジニの歴史」「アボリジニの神話・伝説」の概略を学びます。オーストラリア関連の映像も紹介します。背景を知った上で、アボリジニの人たちが、アボリジニ独自の言語で書いた詩(英訳されたものを配布します。CDでアボリジニ独自の言語の音声も聴きます)、それから最初から英語で書いた詩、を読んでいきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布いたします。 参考文献は授業で随時紹介していきます。</p>		<p>学期末レポート、授業での参加度(発表、発言)、出席状況(欠席は3回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。)</p>	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (オーストラリアの詩) 英語専門講読 b (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 春学期と同様です。</p> <p><講義概要> 入植者の血を引くものたちの詩を読んでいきます。詩人本人が朗読している詩もありますので、その場合は、CDを利用して授業を進めます。</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p> <p>春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。決して多くはない言葉のなかに、膨大な思い(思考、時空間、知識 etc)を垣間見ることになるでしょう。私はいい詩を読むと、もう単に「・・・すごい」という気持ちになってしまいます。それはもう、鳥肌ものです。皆さんとこの思いを共有できたら、とても嬉しく思います。</p> <p>春学期のところでも書きたかったのですが、スペースの都合上、秋学期の欄にのみ書きますね。この授業は3時限目に行われます。ということは、皆さんもう十分体感済みかと思いますが、そうです、睡魔に襲われる可能性がとっても高いのです。しかし、今までも昨年もそうでしたが、魔の3限であっても、決してうとうとせず、集中して授業を受けることの出来るスーパー学生もいます。どうしたら眠くならず授業を受けられるか、これにも個人的に取り組んでくださいね！</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期同様		春学期同様	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (英語圏の現代演劇) 英語専門講読 a (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品となるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート(500字) 2編で 40%。学期末定期試験はしません。 レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (英語圏の現代演劇) 英語専門講読 b (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品となるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート(500字) 2編で 40%。学期末定期試験はしません。 レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(認知英文法) 英語専門講読a(認知英文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の立場から書かれた英文法の書である。これにより、認知言語学の考え方を知らることができるだけでなく、英語そのものに対する理解も深められるはずである。</p> <p>授業では、下記のテキストの第1章“Categories in thought and language”を読んでゆく(プリントを配布する)。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p>		<p>13回の授業で1章分を読む予定である。以下に、進捗の目安となる予定を掲げておく。</p> <p>第1回(4月11日)3頁 第2回(4月18日)3頁から4頁 第3回(4月25日)5頁 第4回(5月2日)6頁 第5回(5月9日)7頁から8頁 第6回(5月16日)8頁から9頁 第7回(5月23日)9頁から11頁 第8回(5月30日)11頁から12頁 第9回(6月6日)12頁から13頁 第10回(6月13日)13頁から15頁 第11回(6月20日)15頁から16頁 第12回(6月27日)16頁から17頁 第13回(7月4日)17頁</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Radden, Günter and René Dirven (2007) <i>Cognitive English Grammar</i> . Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.		担当部分の発表や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(認知英文法) 英語専門講読b(認知英文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の立場から書かれた英文法の書である。これにより、認知言語学の考え方を知らることができるだけでなく、英語そのものに対する理解も深められるはずである。</p> <p>授業では、下記のテキストの第3章“From thought to language: Cognitive Grammar”を読んでゆく(プリントを配布する)。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p>		<p>13回の授業で1章分を読む予定である。以下に、進捗の目安となる予定を掲げておく。</p> <p>第1回(9月26日)41頁から42頁 第2回(10月3日)42頁から43頁 第3回(10月10日)44頁から45頁 第4回(10月17日)45頁から46頁 第5回(10月24日)47頁から48頁 第6回(10月31日)48頁から49頁 第7回(11月7日)50頁から51頁 第8回(11月14日)51頁から52頁 第9回(11月21日)52頁から53頁 第10回(11月28日)53頁から54頁 第11回(12月5日)54頁から55頁 第12回(12月12日)55頁から56頁 第13回(12月19日)56頁から57頁</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Radden, Günter and René Dirven (2007) <i>Cognitive English Grammar</i> . Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.		担当部分の発表や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（米国ユダヤ人史） 英語専門講読 a（米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストはアメリカユダヤ人史の概説書です。</p>		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高価なため、コピーを配布します。		毎回出席をとります。授業日数の1/3以上欠席された方は単位をあげません。遅刻3回で欠席1回にカウント。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（米国ユダヤ人史） 英語専門講読 b（米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ (物語を楽しむ) 英語専門講読 a (物語を楽しむ)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>優れた現代英米の物語を読んで、作品の構造、語りの技巧、物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、物語の面白さはどこにあるか、という点に焦点を当てて考えます。読むための技術を身につけることを目的とします。</p> <p>そのためにいろいろな物語を取り上げたいのですが、時間の都合で数編ということになるでしょう。今年度は市販のテキストを使わずに、ハンドアウトを渡します。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりです。言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたり、作者がどんな文化的背景を物語の語りに織り込んでいるかを見極めたりします。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえるように授業を進めていきます。授業では右に掲げた授業計画のメイン・トピックを取り上げて解説・説明をする予定です。受講生に読んでもらいますので順番を守ることがなによりも大切な評価の要素です。</p>		<p>以下に学習する主なトピックスを挙げておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Character と characterization について 2. Plot と plotting について 3. Point of view と focalization について 4. Setting と perspective について 5. Style と tone について 6. Theme と title について 7. Structure と narration について 8. Metaphor と allegory について 9. Imagery と symbol について 10. Narrator と Narratee について 11. Stereotype と Paradox について 12. Irony と satire について 13. Analogy と allusion について 14. Connotation と denotation について 15. 物語と読者との関係について その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを配布しますので購入の必要はありません。参考文献は必要に応じて授業で挙げます。</p>		<p>成績評価は出席、定期試験によって行います。3分の2以上の授業出席がないと試験は受けられません。また授業で当てられているのに休むと他に出席していてもアウトになります。そこがこの授業の最も重要なポイントです。</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (物語を楽しむ) 英語専門講読 b (物語を楽しむ)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>優れた現代英米の物語を読んで、作品の構造、語りの技巧、物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、物語の面白さはどこにあるか、という点に焦点を当てて考えます。読むための技術を身につけることを目的とします。</p> <p>そのためにいろいろな物語を取り上げたいのですが、時間の都合で数編ということになるでしょう。今年度は市販のテキストを使わずに、ハンドアウトを渡します。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりですが、言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたり、作者の文化を背景に物語の技巧をどのように駆使しているかを見極めたりします。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえるように授業を進めていきます。授業では右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説・説明をする予定です。受講生に読んでもらいますので順番を守ることがとても大切な評価の要素です。</p>		<p>以下に学習する主なトピックスを挙げておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Character と characterization について 2. Plot と plotting について 3. Point of view と focalization について 4. Setting と perspective について 5. Style と tone について 6. Theme と title について 7. Structure と narration について 8. Metaphor と allegory について 9. Imagery と symbol について 10. Narrator と narratee について 11. Stereotype と paradox について 12. Irony と satire について、その他 13. Analogy と allusion について 14. Connotation と denotation について 15. 物語と読者との関係についてその他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを配布しますので購入の必要はありません。参考文献は必要に応じて授業で挙げます。</p>		<p>成績評価は出席、定期試験によって行います。3分の2以上の授業出席がないと試験は受けられません。また授業で当てられているのに休むと他に出席していてもアウトになります。そこがこの授業の最も重要なポイントです。</p>	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ (現代国際関係：アフリカ) 英語専門講読 a (現代国際関係：アフリカ)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、現代国際関係の中でもサハラ砂漠以南アフリカに焦点を当てる。アフリカをめぐる国際関係からアフリカにとっての「国家」を検討する。具体的には植民地政策、欧米諸国との関係、安全保障問題、経済問題について読み進める。アフリカ諸国の多くが独立を果たし半世紀が経過しようとしている。持ち込まれた概念・枠組みとしての「国家」はアフリカ諸国に何をもちこたらし、いかなる課題に直面しているのだろうか。</p> <p>授業の進行は、学生の理解状況により判断するが、一週間で一つの章を読み進める予定である。授業は、基本的にはグループ発表とその後のディスカッションにより進める。学生には、授業への積極的な参加を求めるので、テキストを事前によく読んで臨んでもらいたい。必要に応じて、映像資料を用い、学生の理解向上に努めたい。</p> <p>なお、第一回目の授業で発表者を決め、また発表方法の詳細についても説明するので、必ず出席すること。原則として、四回を超えて欠席をしたものは単位修得の権利を失う。</p>		<p>1 週目 オリエンテーション、発表者決め 2 週目～13 週目 発表、ディスカッション</p> <p>(テーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • The African State and State System in Flux • The Heritage of Colonialism • Africa and the World Political Economy • Europe in Africa's Renewal: Beyond Postcolonialism? • Inter-African Negotiations and State Renewal • The Impact of U.S. Disengagement on African Intrastate Conflict Resolution • Africa in World Politics • Africa's Weak States, Nonstate Actors, and the Privatization of Interstate Relations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Harbeson and Donald Rothchild eds., <i>Africa in World Politics</i> , Colorado: Westview Press, 2000. (各自購入のこと)		出席、授業態度、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (現代国際関係：アフリカ) 英語専門講読 b (現代国際関係：アフリカ)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、変化に満ちた現代国際関係の中でもサハラ砂漠以南のアフリカに焦点を当てる。アフリカ諸国が直面するさまざまな課題の中でも政治・経済問題に的を絞り、私達日本人にとっては地理的にも心理的にも「遠い」存在であるアフリカの実像に迫ることを目的とする。授業の進行は、学生の理解の度合いにより判断するが、一週間で一つの章を読み進める予定である。</p> <p>授業は、基本的にはグループ発表とその後のディスカッションにより進める。学生には、授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んで授業に臨んでもらいたい。必要に応じて、映像資料を用い、学生の理解向上に努めたい。</p> <p>なお、第一回目の授業で発表者を決め、また発表方法の詳細についても説明するので必ず出席すること。原則として、四回を超えて欠席をしたものは単位修得の権利を失う。</p>		<p>1 週目 オリエンテーション、発表者決め 2 週目～13 週目 発表、ディスカッション</p> <p>(テーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 植民地主義と開発 • NGOとコミュニティ開発 • 天然資源と開発 • スーダン内戦の環境要因 • 人口増加と食糧生産 • 女性性器切除 • HIV/AIDS • 複数政党制／民主主義／汚職 • 紛争解決 	
テキスト、参考文献		評価方法	
William Moseley, <i>Clashing Views on African Issues</i> , third edition, Iowa: McGraw Hill, 2008.		出席、授業態度、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読 I・II（アメリカ小説） 英語専門講読 a・b（アメリカ小説）	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>ユダヤ系作家（Bernard Malamud 等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。</p> <p>授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらった場合があります。</p> <p>尚、この授業は、島田担当の英語専門講読 II と連動しており、週2回の授業があり、秋学期は開講されません。片方のみの履修は原則として認めませんので、注意してください。</p>		<p>第1週 授業の進め方などについての説明と「質問表」にもとづく討論による体験授業。</p> <p>第2週 前週に配布した質問表による討論。</p> <p>第3週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ5から10ページ程度読んでいく予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		不定期に課す小レポート、学期末の定期試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、出席点ではない）	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読 I（応用言語学） 英語専門講読 a（応用言語学）	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第二言語習得について、コミュニケーション能力の養成を重視する立場 (focus on meaning) と言語の基盤となる文法習得に重きを置く立場(focus on forms)があるが、その中間の立場として‘focus on form’が提唱されている。日本でもコミュニケーション能力の育成が英語教育で強調されている一方で、基礎的な文法力もおろそかにできない状況にある。この問題をどのように解決していったらよいか、教材研究など実践的なことも取り入れながら考える。</p> <p>テキストとしては下記の本を用い、いくつかの‘focus on form’についての論文を読んでいく。 なお、テキストは各自が購入し用意する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 Issues and terminology 3. Theoretical Foundations of Focus on Form <ol style="list-style-type: none"> (1) Chapter 2 4. " (2) Chapter 2 5. " (3) Chapter 3 6. " (4) Chapter 3 7. " (5) Chapter 4 8. " (6) Chapter 4 9. Mid-term exam 10. Focus on Form in the Classroom <ol style="list-style-type: none"> (1) Chapter 5 11. " (2) Chapter 5 12. " (3) Chapter 5 13. Extra readings & Consolidation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Catherine Doughty & Jessica Williams (eds.), 2004. <i>Focus on Form in Classroom Second Language Acquisition</i> , Cambridge University Press.		中間試験と定期試験結果に Assignment などの日常点を加えて評価を出す。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読 II（応用言語学） 英語専門講読 b（応用言語学）	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続いて、論文を読み、ディスカッションを通して学んでいくが、秋学期は実践面に重点を置き、教材作成も取り入れていく予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 6 (1) 3. Chapter 6 (2) 4. Chapter 7 (1) 5. Chapter 7 (2) 6. Chapter 8 (1) 7. Chapter 8 (2) 8. Presentation 9. Chapter 9 (1) 10. Chapter 9 (2) 11. Chapter 10 (1) 12. Chapter 10 (2) 13. Presentation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Catherine Doughty & Jessica Williams (eds.), 2004. <i>Focus on Form in Classroom Second Language Acquisition</i> , Cambridge University Press.		Presentation および定期試験結果に Assignment などの日常点を加えて評価を出す。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ (イギリス児童文学) 英語専門講読 a (イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「習うより慣れよ。」(Use makes perfect.) の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。(昨年の実績は、課外のレポートも含めて約 400 頁であった。)</p> <p>Lang (Andrew, 1844-1922) の『色分け昔話集』(全 12 巻) の内、『ピンク昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回はなじみの話も少しあるが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。(1 回 20 頁相当を 2 人の共同責任で読んでもらう。)</p> <p>参考文献 キャサリン・ブリグス編著 『妖精事典』 平野敬一他訳 富山房 1992 年</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. The Cat's Elopement 3. How the Dragon was Tricked 4. The Goblin and the Grocer 5. The House in the Wood 6. Urashimataro and the Turtle 7. The Slaying of the Tanuki 8. The Flying Trunk 9. The Snow Man 10. The Shirt-Collar 11. The Princess in the Chest 12. The Three Brothers 13. The Snow Queen 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lang, Andrew, <i>The Pink Fairy Book</i> . Dover, 1967		期末試験をする。それとは別に課外に 20 頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (イギリス児童文学) 英語専門講読 b (イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. The Fir-Tree 2. Hans, The Mermaid's Son 3. Peter Bull 4. The Bird 'Grip' 5. Snowflake 6. I know what I have learned 7. The Cunning Shoemaker 8. The King who would have a Beautiful Wife 9. Catherine and her Destiny 10. How the Hermit helped to win the King's Daughter 11. The Water of Life 12. The Wounded Lion 13. The Man without a Heart 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (生成文法理論への誘い) 英語専門講読 a (生成文法理論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 言語学で最も説明力のある生成文法の基本的な考え方に基 づいた英語の文構造の理解の仕方を, 生成文法理論と英文 法に大きな貢献をしているLiliane Haegemanという言語学者 の最近の著書を読み, 英語の読解力を伸ばしながら, 生成文 法の研究方法と英語の文構造を理解する.</p> <p>講義概要: Liliane Haegemanの<i>Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation and Analysis</i>. (2006, Blackwell)の中の第2章 “Diagnostics for Syntactic Structure Discussion” (pp.65-122)を 読むことにする. 春学期は, 第2章の前半部を読みながら, 文 の構造を確認するために, 構造と意味, 置き換え, 移動, 疑 問文形成, 削除・省略, 分裂文と疑似分裂文という協調構 文, 等位構造という構文・構造を取り上げる. 続いて, 文の中 で特に重要な動詞句の構造を考え, 特に, 助動詞と動詞句 の関係, 補部と付加詞の関係を考察する.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. diagnostics for structure 2. structure and meaning 3. substitution 4. movement 5. question formation 6. deletion/ellipsis 7. cleft sentence 8. pseudo-cleft sentence 9. co-ordination 10. verb phrase and sentence 11. relation between the auxiliary and the VP 12. complements vs adjuncts in the VP 13. direction of adjunction 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Haegeman(2006)“Diagnostics for Syntactic Structure Discussion” <i>Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation And Analysis</i>. Blackwell. pp.65-122.</p>		出席状況, 授業の予習, 授業中の発表, 期末試験の成績を総 合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の2/3以上の 出席が必要とされる.	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (生成文法理論への誘い) 英語専門講読 b (生成文法理論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的: (春学期と同じ) 言語学で最も説明力のある生成文法の基本的な考え方に基 づいた英語の文構造の理解の仕方を, 生成文法理論と英文 法に大きな貢献をしているLiliane Haegemanという言語学者 の最近の著書を読み, 英語の読解力を伸ばしながら, 生成文 法の研究方法と英語の文構造を理解する.</p> <p>講義概要: (春学期の続き) 秋学期は, 春学期と同じテキスト第2章“Diagnostics for Syntactic Structure Discussion” (pp.65-122)の後半部を読みな がら, 動詞句の内部構造を補部と付加詞の違い, 補部や付 加詞の基本的な位置とそれらの要素の移動操作, 動詞句構 造を説明するための枝分かれ構造とその説明方法を考える. 動詞句の分析に続いて, 名詞句の内部構造, 特に, 名詞句 内における枝分かれ構造, 指定辞, 指定辞と主要部の一致, 名詞の前に生ずる属格(所有格)表現などを考える.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. complements vs adjuncts in the VP: OV orders? 2. base positions and movements 3. deductive approaches 4. head and projection 5. binary branching 6. binary branching and word structure 7. binary branching structure for NPs 8. specifiers in the NP 9. specifier-head agreement 10. prenominal genitive 11. questions about the structure of sentences 12. adjuncts and NPs 13. questions about the verb phrase 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Haegeman(2006)“Diagnostics for Syntactic Structure Discussion” <i>Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation And Analysis</i>. Blackwell. pp.65-122.</p>		出席状況, 授業の予習, 授業中の発表, 期末試験の成績を総 合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の2/3以上の 出席が必要とされる.	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (Self-Regulated Learning) 英語専門講読 b (Self-Regulated Learning)	担当者	鈴木 眞奈美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to give you an overview of self-regulated learning.</p> <p>We will study theories and practices of self-regulated learning; how we should regulate our thoughts and actions toward the attainment of learning goals. You are expected to reflect on your learning style through this course work. You can apply what you learn to any activities and your lifelong learning.</p> <p>You will present a topic once in the semester. You need to prepare a handout for your presentation. I also ask you to report related topics, applying what you learn in the course twice. You will read, write, think and talk about weekly topics in English.</p> <p>You are expected to make a good learning community through participation in this class.</p> <p>You will take a quiz of reading comprehension and vocabulary from reading assignments at the beginning of every class.</p> <p>We will use e-mail as a means of our communication outside the classroom.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction (pp.1-4) 2. Theoretical Backgrounds (pp.5-15) 3. Time Management (pp.25-33) 4. Reading Comprehension and Summarizing (pp.47-51,pp.54-55) 5. Note-Taking (pp.69-76) 6. Lecture Report (Presentation) 7. Test-Taking (pp.69-76) 8. Self-Regulation in Writing (pp.107-114) and Vocabulary Acquisition 9. Book Report (Presentation) 10. Motivation and Self-Regulation 11. Interest and Self-Regulation 12. Self-Regulated Language Learning 13. Review and Reflection 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Zimmerman, B.J., & Bonner, S., & Kovach, R. (2003). <i>Developing Self-Regulated Learners</i> . Washington, DC: American Psychological Association		weekly quizzes, assignments, presentation and its handout, class participation, and final written examination	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (異文化理解の視点) 英語専門講読 a (異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、コミュニケーション論の専門的な英語文献を読むための訓練と異文化理解において重要な役割を果たすいくつかの視点に関する知識の獲得および理解の深長を目的とする。</p> <p>文献の講読に関しては、論文表記上のルールや意義などにも触れながら単に「英語を読む」に留まらない専門的な「読み」を意識する。また、異文化理解の視点に関しては、文献の内容を基礎として、さまざまなグローバルかつ現実的な視点を導入しながら、自ら考えることを重視する。</p> <p>授業は、基本的には、受講生によるグループ・プレゼンテーションとそれに対する質疑応答とディスカッション、授業担当者による補足説明・解説・問題提起で構成される。コミュニケーションや異文化理解のプロセスは、日常生活のあらゆる場面で起こっていることであり、経験していることである。授業をより有意義なものとするために、文献に書かれている内容を自分の生活体験とリンクさせ、積極的に発言することが求められる。</p> <p>春学期においては、異文化理解を目的としたコミュニケーションにおいて重要と思われる基礎的な事柄についての文献を読んでいく予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class guidance and Introduction 2. Making Groups 3. How to prepare for presentations 4. Understanding Culture as Multilevel (1) 5. Understanding Culture as Multilevel (2) 6. Understanding the Six Barriers (1) 7. Understanding the Six Barriers (2) 8. Practicing Culturally-Centered Communication Skills (1) 9. Practicing Culturally-Centered Communication Skills (2) 10. “Who am I?”: cultural variations in self-systems (1) 11. “Who am I?”: cultural variations in self-systems (2) 12. Independent and Interdependent Models of the self as cultural frame (1) 13. Independent and Interdependent Models of the self as cultural frame (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント教材 参考文献：コミュニケーション論関連の基礎文献など</p>		レポート、プレゼンテーション、授業への貢献度などに基づいて評価する。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (異文化理解の視点) 英語専門講読 b (異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、コミュニケーション論の専門的な英語文献を読むための訓練と異文化理解において重要な役割を果たすいくつかの視点に関する知識の獲得および理解の深長を目的とする。</p> <p>文献の講読に関しては、論文表記上のルールや意義などにも触れながら単に「英語を読む」に留まらない専門的な「読み」を意識する。また、異文化理解の視点に関しては、文献の内容を基礎として、さまざまなグローバルかつ現実的な視点を導入しながら、自ら考えることを重視する。</p> <p>授業は、基本的には、受講生によるグループ・プレゼンテーションとそれに対する質疑応答とディスカッション、授業担当者による補足説明・解説・問題提起で構成される。コミュニケーションや異文化理解のプロセスは、日常生活のあらゆる場面で起こっていることであり、経験していることである。授業をより有意義なものとするために、文献に書かれている内容を自分の生活体験とリンクさせ、積極的に発言することが求められる。</p> <p>秋学期においては、異文化コミュニケーションにおいて重要と思われる理論的な事柄やその応用についての文献を読んでいく予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Why self-construals are useful (1) 3. Why self-construals are useful (2) 4. The source of dualism: Mechanistic Cartesian world view (1) 5. The source of dualism: Mechanistic Cartesian world view (2) 6. Dimensionality of cultural identity (1) 7. Dimensionality of cultural identity (2) 8. Identity management theory & Cultural schema theory (1) 9. Identity management theory & Cultural schema theory (2) 10. 以後、進捗状況を見ながら適宜指示する。 <p>注：すでに計画されている教材でも、必要に応じて差し替えることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント教材 参考文献：コミュニケーション論関連の基礎文献など</p>		レポート、プレゼンテーション、授業への貢献度などに基づいて評価する。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ(20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人) 英語専門講読 a(20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、20世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品(エッセイ、短篇小説、詩)を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		1. ガイダンス マイノリティーとは? 2. 日系アメリカ人の歴史と文化 3. Hisaye Yamamoto (短篇小説) 4. Hisaye Yamamoto (短篇小説) 5. 映像に見られる日系アメリカ人 6. Janice Mirikitani (散文詩) 7. Janice Mirikitani (詩) 8. まとめ 9. アフリカ系アメリカ人の文化と歴史 10. 映像に見られるアフリカ系アメリカ人 11. Alice Walker (エッセイ) 12. Alice Walker (エッセイ) 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人) 英語専門講読 b(20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に続き、20世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品(エッセイ、短篇小説、詩)を精読あるいは多読することで、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。後期は批評も取り上げる。		1. ガイダンス 2. ネイティブ・アメリカンの歴史と文化 3. Leslie Marmon Silko (エッセイ) 4. Leslie Marmon Silko (詩) 5. 映像に見られるネイティブ・アメリカン 6. 関連テーマの批評を読む 7. まとめ 8. 境界からの声—チカーナという生き方 9. Gloria Anzaldua (エッセイ) 10. Gloria Anzaldua (詩) 11. 映像に見られるチカーナ 12. 関連テーマの批評を読む 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (グローバルな眼でアジアを読む) 英語専門講読 a (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>米国のアジア専門誌『エイシアン・サーベイ』が、アジア各国の動向をレビューした特集号を取り上げます。</p> <p>本授業では、2つの目標を設定しています。第1の目標は、世界トレンドとアジア各国事情を理解し、最新の国際情報を獲得することです。第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週に、受講生は担当するテーマに関して詳細なレジюмеを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・各種資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週では、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週にシンガポールに関するプレゼンがあり、第2週ではテキストに掲載されているシンガポールの記事を、英語に注目して質疑応答を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (第1週) 米国のアジア専門誌『エイシアン・サーベイ』を説明 国際情報ツールの説明 プレゼンの担当者とテーマの決定 2. 各担当者によるプレゼンと討論 (第2週～第13週) 3. 受講生が選択するテーマ群 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー (ビルマ) など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2008.		受講生によるレジюме作成とプレゼンテーション、出席と討論への貢献度によって評価します。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (グローバルな眼でアジアを読む) 英語専門講読 b (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>米国のアジア専門誌『エイシアン・サーベイ』が、アジア各国の動向をレビューした特集号を取り上げます。</p> <p>本授業では、2つの目標を設定しています。第1の目標は、世界トレンドとアジア各国事情を理解し、最新の国際情報を獲得することです。第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週に、受講生は担当するテーマに関して詳細なレジюмеを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・各種資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週では、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週にシンガポールに関するプレゼンがあり、第2週ではテキストに掲載されているシンガポールの記事を、英語に注目して質疑応答を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期オリエンテーション (第1週) 春学期の授業レビュー プレゼンの担当者とテーマの確認・再調整 2. 各担当者によるプレゼンと討論 (第2週～第13週) 3. 受講生が選択するテーマ群 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー (ビルマ) など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2008.		受講生によるレジюме作成とプレゼンテーション、出席と討論への貢献度によって評価します。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読 I（現代イギリス小説） 英語専門講読 a（現代イギリス小説）	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i>（1948年作品）を読む。</p> <p>ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は3つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。</p> <p>人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”）」である。この20世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」とあるとはどういうことかを考えたい。</p>		<p>毎回、講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子を見て決定、調整する。折をみて、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末にレポートを課す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読 II（現代イギリス小説） 英語専門講読 b（現代イギリス小説）	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		春学期の続き。	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読 I (現代国際関係論) 英語専門講読 a (現代国際関係論)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の目的】</p> <p>① 現代国際関係における諸問題に対する関心を高め、理解を深めること。</p> <p>② プレゼンテーションを通じて、ものごとを筋道立てて説明し、発表する能力を身につけること。</p> <p>【授業の流れ】</p> <p>春学期は、下記の英文テキストについて、あらかじめ指定された学生（またはグループ）が内容のサマリーを発表し、その後ディスカッションを進めます。授業終了15分前には、内容に関する簡単な小テストを行います。</p> <p>*受講者多数の場合には、グループ（2～3人）を組み、グループごとに研究・発表してもらうこととなります。</p>		<p>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに発表担当者（グループ分け）の決定（第1週）</p> <p>2. 各発表者（グループ）によるプレゼンテーション（第2～第13週）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Paul Wilkinson, <i>International Relations: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2007. さらに英文資料をコピー配布する。		評価は次の3点による。①発表の担当(35%)、②ディスカッションへの貢献度(30%)、③小テスト(35%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読 II (現代国際関係論) 英語専門講読 b (現代国際関係論)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、個人（もしくはグループ）が、特定のテーマについてパワーポイントを使って<u>プレゼンテーションを英語で行います</u>。テーマは国際関係に関する領域で、担当教員と相談のうえ決定します。発表者は、英語で発表する能力だけでなく、特定のテーマに関して調査をする能力が必要となります。</p> <p>決して自己満足的な発表とならないように、常に「聞き手」を意識したプレゼンテーションを行うように心がけてください。</p> <p>またプレゼンテーションのあとには、学生全員の参加するディスカッション（英語と日本語）を行いますので、担当グループは工夫して、ディスカッションが盛り上がるようにしてください。</p> <p><u>*英語を人前で話す意思、勇気のない人は、受講をお断りします。</u></p>		<p>1. 秋学期のオリエンテーション（第1週）</p> <p>2. 個人（もしくはグループ）によるプレゼンテーション（第2～13週）</p> <p>【注意事項】</p> <p>毎回の発表終了後には、発表担当者を除く全学生に対して<u>授業用掲示板への投稿</u>を求めます。発表を受けて自分が考えたこと、疑問に思ったことなどを出来る限り詳しく書くこと。内容によっては、再投稿を求めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
発表するグループが1週間前に英文の事前資料（A4を2枚程度）を配布する。		評価は次の3点による。①発表の担当(35%)、②ディスカッションへの貢献度(35%)、③掲示板への投稿(30%)。なお欠席と遅刻の取り扱いは、春学期と同様とする。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ (インタビューやニュースのスク립トを読む) 英語専門講読 a (インタビューやニュースのスク립トを読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。 ただこのことは、往々にして忘れられがちである。</p> <p>当講座は、“英会話”以上の英語(ニュース・インタビュー・スピーチ・レクチャー e t c)を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいのか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスク립トを使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらう。当講座は、いわば異文化間コミュニケーション実践のスキル・アップを目的としたものであると考えて欲しい。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など(英語を聴いて理解するための読みの技術)を教えていきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (インタビューやニュースのスク립トを読む) 英語専門講読 b (インタビューやニュースのスク립トを読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ (アメリカ現代詩を読む) 英語専門講読 a (アメリカ現代詩を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダーの最新詩集 <i>Danger on Peaks</i> は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての詩集です。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は学生による発表・討論の形式で行い、学期ごとにレポートを提出してもらいます。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照してください。</p>		<p>最初の授業で、プレゼンテーションのグループを決め、1回の授業で、1篇の作品を取りあげます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Gary Snyder, <i>Danger on Peaks</i>. Washington D. C. : Shoemaker & Hoard, 2004. (amazon.co.jp などを通して各自購入してください。)</p>		<p>プレゼンテーションとレポート (4,000 程度の作品論) によって決めます。ただし欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (アメリカ現代詩を読む) 英語専門講読 b (アメリカ現代詩を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダーの最新詩集 <i>Danger on Peaks</i> は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての詩集です。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は学生による発表・討論の形式で行い、学期ごとにレポートを提出してもらいます。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照してください。</p>		<p>最初の授業で、プレゼンテーションのグループを決め、1回の授業で、1篇の作品を取りあげます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは春学期と同じ。 参考文献: 原 成吉訳『絶頂の危うさ』(思潮社) Gary Snyder, <i>The Gary Snyder Reader: Prose, Poetry and Translations</i> (Counterpoint, 1999)</p>		<p>プレゼンテーションとレポート (4,000 程度の作品論) によって決めます。ただし欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。</p>	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語専門講読Ⅰ (欽定訳聖書を読む) 英語専門講読 a (欽定訳聖書を読む)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1611 年発行の King James Version 「欽定訳聖書」の中からマルコ福音書を読む。 学生諸君には、17 世紀初頭の英文と接し、マルコ福音書が読者に伝えようとしている内容に興味を持つ必要がある。勿論素手で理解できるものではないので、講師による新約聖書学による説明がある。テキストはプリント。</p>		<p>テキストの文章の難易度と、学生の予習能力に応じて授業を進めていく。 授業時には、名簿に従って席に着いていただく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Gospel According to ST.MARK		授業への出席、発表、テストの結果で評価する。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (欽定訳聖書を読む) 英語専門講読 b (欽定訳聖書を読む)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続く箇所を読む		春学期に準じる	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる		春学期に準じる	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (親しみやすいイギリスの短編小説) 英語専門講読 a (親しみやすいイギリスの短編小説)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading は Communication 能力の養成にどうしても欠かせないものです。語学力を身につける一つの方法は、自分の好きな文章や英文らしい歯切れの良さをもつ文章などを、手におえる範囲で(難しすぎる文章はエネルギーのロスが多すぎることになります)くり返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションを消化することでしょう(これはネイティブスピーカーも母国語の能力を伸ばそうとすると自然に行なっていると思います)。その場合、対象となる英文の発想が、それに相当する日本文の発想と異なる度合いが大きいほど、自分のものにするのがむずかしくなります。これは、いつでもどこでも誰にでもできる方法ですが、昔も今も有効な学習法であることに変わりないと思います。</p> <p>テキストは比較的平易で親しみやすい現代の短編小説を集めたものです。</p> <p>一つ一つの word, phrase, sentence を正確に、そして深く把握することが、英語を駆使する上でいかに大切かを学んで欲しいと思います。</p> <p>予習と復習は不可欠です。</p>		<p>最初の授業時に授業の進め方、成績の出し方の細かい点、そして辞書の大切さ、効果的な使い方などをお話します。語学は学習する心構えが非常に大切で、それがいい加減であれば決してちゃんとした能力は身につけません。授業の中身はただその作業に従事しているときだけにあるのではなく、その前後とか、あるいは、(妙な言い方になります)心構えとか習慣の改善とかにあると思います。ただ単位をとればいい、という気持ちで受講しないでほしいと思います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Past, Dream and Reality</i> (南雲堂)		普通の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (親しみやすいイギリスの短編小説) 英語専門講読 b (親しみやすいイギリスの短編小説)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading は Communication 能力の養成にどうしても欠かせないものです。語学力を身につける一つの方法は、自分の好きな文章や英文らしい歯切れの良さをもつ文章などを、手におえる範囲で(難しすぎる文章はエネルギーのロスが多すぎることになります)くり返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションを消化することでしょう(これはネイティブスピーカーも母国語の能力を伸ばそうとすると自然に行なっていると思います)。その場合、対象となる英文の発想が、それに相当する日本文の発想と異なる度合いが大きいほど、自分のものにするのがむずかしくなります。これは、いつでもどこでも誰にでもできる方法ですが、昔も今も有効な学習法であることに変わりないと思います。</p> <p>テキストは比較的平易で親しみやすい現代の短編小説を集めたものです。</p> <p>一つ一つの word, phrase, sentence を正確に、そして深く把握することが、英語を駆使する上でいかに大切かを学んで欲しいと思います。</p> <p>予習と復習は不可欠です。</p>		<p>最初の授業時に授業の進め方、成績の出し方の細かい点、そして辞書の大切さ、効果的な使い方などをお話します。語学は学習する心構えが非常に大切で、それがいい加減であれば決してちゃんとした能力は身につけません。授業の中身はただその作業に従事しているときだけにあるのではなく、その前後とか、あるいは、(妙な言い方になります)心構えとか習慣の改善とかにあると思います。ただ単位をとればいい、という気持ちで受講しないでほしいと思います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Past, Dream and Reality</i> (南雲堂)		普通の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (シェイクスピア入門) 英語専門講読 a (シェイクスピア入門)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの喜劇 <i>As You Like It</i> (『お気に召すまま』) を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p>まずはシェイクスピアが「詩で芝居を書いた」ことを理解する。<i>As You Like It</i> はシェイクスピアの作品の中では比較的、散文で書かれた部分の多い作品であるが、セリフのかなり多くの部分はブランク・ヴァースと呼ばれる形式の韻文で書かれている。近代初期の英語の韻文に初めて触れるという人も多いと思うので、現代の日常的な英語との語義や語法の違いなどを少しずつ説明しながら読みなれていく。またいろいろな音声テープを聞き、またセリフを音読して、韻文の音のパターンに慣れる。</p> <p><i>As You Like It</i> では理想郷としての田園を舞台に、男性に変装したヒロインが澁刺と恋愛を楽しむ喜劇である。作品への理解を深めるために、シェイクスピア時代の劇場や社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また日本で翻訳上演のビデオなども見て、現代における文化を超えたシェイクスピア受容についても考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明 2. 精読 3. 精読 4. 精読 5. 精読 6. 小テスト 7. 精読 8. 精読 9. 精読 10. 精読 11. 精読 12. 精読 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>As You Like It</i>		小テスト、学期末試験、平常点を総合して評価する。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (シェイクスピア入門) 英語専門講読 b (シェイクスピア入門)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ。		春学期の続きを読む。 第6回目に小テストを行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ。		上に同じ。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（社会・文化とコミュニケーション） 英語専門講読a（社会・文化とコミュニケーション）	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
コミュニケーション論に関する概念と連鎖を理解する。		①概要説明 ②コミュニケーションーその目的と領域ー ③コミュニケーションの目的 ④目的の二つの側面 ⑤コミュニケーション・プロセスのモデル ⑥プロセスの概念 ⑦コミュニケーションの構成要素 ⑧コミュニケーションのモデル ⑨コミュニケーションの精度 ⑩送り手 ⑪受け手 ⑫メッセージ ⑬チャンネル、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Belo,D.K. <i>The Process of Communication</i> , Holt,Rinehart & Winston, Inc.		出席点、個人プレゼンテーション、定期試験	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（社会・文化とコミュニケーション） 英語専門講読b（社会・文化とコミュニケーション）	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
「コミュニケーション・プロセス」における構成要素を理解する。言語・非言語とコミュニケーションの関係を理解する。上記を理解し、日常生活におけるコミュニケーションに応用する。		①授業概要 ②Communication as a Human Activity ③Communication as a Process ④A Model of Communication ⑤The Model in Action ⑥Choices in Communication ⑦The Perception and Communication ⑧Intention and Communication ⑨Structure and Communication ⑩Thought, Feeling, and Communication ⑪Language and Communication ⑫Nonverbal Communication ⑬まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Benjamin, James(1986) <i>Communication: Concepts and Contexts</i> , Harper & Row		出席点、個人プレゼンテーション、定期試験	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (統語論入門) 英語専門講読 a (統語論入門)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 生成文法に基づく統語論研究は、思考・表現の自由な創出を可能にしている脳内にある言語能力を研究対象とし、言語研究を通して人間の本質に迫ることを試みている言語学の一学問分野である。本講義は統語論の基礎となる句・文構成の仕組みについて学び、統語論の基本的な考え方を理解することを主眼とする。本講義では文法などに注意しながら文献を読み、基本的な知識・理解を深めるだけではなく、同時に議論の組み立て方に重点を置きながら論理的な読み方を実践し、論証の仕方を学んでいく。</p> <p>講義概要: 春学期は言語学者 A. Radford による代表的な統語論の入門書の第2章 “Structure” (pp. 34-78) を講読する。統語論では語が句を作り、句が更に大きな文を作ると考えられているが、本講義ではなぜそのような仮説が妥当であるのかをこのテキストを通して検討していく。まず、語がどの様にまとめられるのかを議論した後、それが句構造規則に規則化されることを見る。そして仮定される構造が正しいことを様々な統語テストを用いて検証していく。このテキストは分かり易く書かれたものではあるが、専門的な内容を扱っているので読み応えのあるものである。毎回の講義は受講生の発表を中心に進め、必要な解説を十分に加えながら、読み進めていくことにする。受講生は事前によく予習をし、積極的に参加することが期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要、春学期への導入：文法と統語論 2. Constituent Structures (1) 3. Constituent Structures (2) 4. Phrase Structure Rules (1) 5. Phrase Structure Rules (2) 6. Phrase Structure Rules (3) 7. Grammatical Categories (1) 8. Grammatical Categories (2) 9. Grammatical Categories (3) 10. Constituency Tests (1) 11. Constituency Tests (2) 12. Constituency Tests (3) 13. Constituency Tests (4)、春学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Andrew Radford (1981) <i>Transformational Syntax</i>. Cambridge University Press. (初回に配布する)</p> <p>参考文献: 授業中に適宜指示する。</p>		特に平常点(出席・発表・授業への貢献度など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。尚、単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上である。	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読 II (統語論入門) 英語専門講読 b (統語論入門)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 生成文法に基づく統語論研究は、思考・表現の自由な創出を可能にしている脳内にある言語能力を研究対象とし、言語研究を通して人間の本質に迫ることを試みている言語学の一学問分野である。本講義は統語論の基礎となる句・文構成の仕組みについて学び、統語論の基本的な考え方を理解することを主眼とする。本講義では文法などに注意しながら文献を読み、基本的な知識・理解を深めるだけではなく、同時に議論の組み立て方に重点を置きながら論理的な読み方を実践し、論証の仕方を学んでいく。</p> <p>講義概要: 秋学期は Radford のテキスト第3章の “X-bar Syntax” (pp. 79-112) を講読する。統語論では語が句を作り、句が更に大きな文を作ると考えられているが、本講義では春学期の講義を踏まえ、句構造の一般的特徴をこのテキストを通して考えていく。まず、語が作り出す句構造の内部構造について考え、この句構造の一般的な形である X-bar とその特徴を見る。そしてこの構造を仮定する根拠を様々な経験的証拠を用いて具体的に議論していく。このテキストは分かり易く書かれたものではあるが、専門的な内容を扱っているので読み応えのあるものである。毎回の講義は受講生の発表を中心に進め、必要な解説を十分に加えながら、読み進めていくことにする。受講生は事前によく予習をし、積極的に参加することが期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要、春学期のレビュー、秋学期への導入 2. Properties of P-markers (1) 3. Properties of P-markers (2) 4. Properties of P-markers (3) 5. Lexical and phrasal categories (1) 6. Lexical and phrasal categories (2) 7. X-bar syntax (1) 8. X-bar syntax (2) 9. Evidence for intermediate levels (1) 10. Evidence for intermediate levels (2) 11. The number of bar-levels (1) 12. The number of bar levels (2) 13. X-bar and syntactic features、秋学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Andrew Radford (1981) <i>Transformational Syntax</i>. Cambridge University Press. (初回に配布する)</p> <p>参考文献: 授業中に適宜指示する。</p>		特に平常点(出席・発表・授業への貢献度など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。尚、単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上である。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	英語専門講読Ⅰ（アフリカ系アメリカ人およびアフロ・カリブ系の表現文化） 英語専門講読 a（アフリカ系アメリカ人およびアフロ・カリブ系の表現文化）	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>米国のアフリカ系（カリブ系含む）作家による作品、および、表象文化についての文献を講読する。</p> <p>講読用テキストとして、Chimamanda Ngozi Adichie, Alice Walker を予定している。</p>		<p>1 黒人の歴史 1</p> <p>2 黒人の歴史 2</p> <p>3 奴隷制と労働 ワークソング 1</p> <p>4 労働と宗教 ワークソング 2</p> <p>5 ブルース 1 口承伝統</p> <p>6 ブルース 2</p> <p>7 ジャズ 1</p> <p>8 ジャズ 2</p> <p>9 ジャズ 3</p> <p>10 ロック</p> <p>11 ソウル 1</p> <p>12 ソウル 2</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示する		平常点（授業への参加度、宿題、出席など）50% 試験 50%	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	英語専門講読Ⅱ（アフリカ系アメリカ人およびアフロ・カリブ系の表現文化） 英語専門講読 b（アフリカ系アメリカ人およびアフロ・カリブ系の表現文化）	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続き。</p> <p>秋学期はカリブ系文化を中心にすすめる。</p> <p>講読用テキストとして、Julia Alvarez, Esmeralda Santiago の短編を予定している。</p>		<p>1 ダンスとコミュニティ 1</p> <p>2 ダンスとコミュニティ 2</p> <p>3 メレンゲ</p> <p>4 サルサ 1</p> <p>5 サルサ 2</p> <p>6 レゲエ 1</p> <p>7 レゲエ 2</p> <p>8 レゲエ 3</p> <p>9 ラティーノ 1</p> <p>10 ラティーノ 2</p> <p>11 ラティーノ市場</p> <p>12 ラティーノとステレオタイプ</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示する		平常点（授業への参加度、宿題、出席など）50% 試験 50%	

03～05年度（春）	英作文 a	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の基礎構造（5 文型）をしっかりと理解し、短い日本語をたくさん、スピーディーに英語にしてゆく。 たくさん練習する。つまり、英語を produce することによって、Speaking に近づいてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1, 2 文型 2. 第 2, 3 文型 3. 第 3, 4 文型 4. 第 4, 5 文型 5. 1-5 復習 6. 形容詞句（第 1-3 文型） 7. 副詞句（第 1-3 文型） 8. 名詞句（第 1-3 文型） 9. 形容詞句（第 1-5 文型） 10. 副詞句（第 1-5 文型） 11. 名詞句(2)（第 1-5 文型） 12. 6-11 復習 13. 6-11 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Building up English Skills</i> (テキスト) その他多くの配布プリント		テストと出欠を含む平常点。	

03～05年度（秋）	英作文 b	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>口頭英作文の要素を取り入れる。作文をさらにスピードアップ。プリント教材（自作）を併用。時事作文的要素を取り入れて、現実性を増す。五文型重視は春学期と同じ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 等位節 2. 名詞節 (1) 3. 副詞節 (1) 4. 形容詞節 (1) 5. 1-4 復習 6. 形容詞節 (2) 7. 名詞節 (2) 8. 副詞節 (2) 9. 副詞節 (3) 10. 副詞節 (4) 11. 副詞節 (5) 12. 6-12 復習 13. 6-12 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03～05年度（春）	英作文 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>どちらかと言えば、英作文の苦手な諸君を相手とした授業を行ないたい。</p> <p>テキストに従って、一回に一章を進めていく。内容は、口語的英語表現が中心となっており、次第に易から難へとレベルが上がっている。</p> <p>会話的表現を文章とすることによって、会話力と文章表現能力とを同時に身につける事を目標とする。</p> <p>詳しくは、初回の授業で説明する。</p>		<p>毎回、各章毎に進める。</p> <p>具体的な授業の方針は、初回の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Road from Writing to Speaking</i> (成美堂)		日常の授業への出席と、授業時での発表、および期末テストの結果で評価する。	

03～05年度（秋）	英作文 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。春学期での残り部分のテキストに従って授業を行なう。</p>		<p>春学期に準じる</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる		春学期に準じる	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This program is aimed primarily at having the students produce good, clear, communicative English. Also, we are looking for ways to organize and express at an academic level. Coherence and balance are target items in all writing work.</p> <p>Classes will give time for the appreciation of the subject material and this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas.</p> <p>Some set pieces will be used as sample work and students will be requested to match their own ideas with these and express themselves accordingly. Received meaning versus intended meaning will be examined in all writing.</p> <p>We will aim for at least one writing task per week to give students the opportunity to show that they have grasped the explanations in class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and methods 2. Errors in construction 3. The power of the comma 4. Ambiguity pitfalls 5. Transcription 6. Descriptive skills 7. Seeing and writing 8. Balance and judgment 9. Documentary style 10. Some extra difficulties in article use 11. Time sequence for the reader and the writer 12. How about this for good writing? 13. Revision, checks, recriminations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Various materials for this level of study		Graded weekly assignments End of term report	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> 1. Comparing some standard writings 2. The power of the anecdote 3. Concise writing 4. Criticism 5. Nuance 6. Writing for the reader 7. The power of humor 8. Creative expression 9. Can they see it as I see it? 10. Thesis style 11. Plagiarism 12. Some people can really communicate with writing 13. Revisions and endings 	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		As above	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J. Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The prerequisite for this course is Paragraph Writing and Basic Essay Writing, no basics will be covered.</p> <p>In this course, we will attempt to produce an introductory academic composition according to the following schedule basically adhering to the chronological leading up to the development of the final draft Everything we will be covering from week to week (other than topic selection) will be needed to continue building the paper, paragraph by paragraph and point by point. In other words, you will need brainstorming for each main point, library research will be ongoing, and the collection and synthesizing of information will be constant.</p> <p>Goal: One 1000 word or more paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction / Brainstorming and topic selection, Plagiarism 2. Library and On-line Research Skills, Using Electronic Data Base 3. Collecting and Synthesizing Information 4. First Draft Due Tuesday evening 9 pm by email Hard Copy Due in class today. 5. Peer Evaluation 6. Second Draft Due Tuesday evening 9 pm by email. Hard Copy Due in class today. 7. Peer Evaluation/Preparation for final draft. 8. Finishing the final draft. 9. Final Draft Due Tuesday evening 9 pm by email Hard Copy Due in class today. 10. Writing a summary of the final product. 11. Final Powerpoint Presentation 12. Final Powerpoint Presentation 13. Wrap-up of this semester's work. <p>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>MLA Formatting and Style Guide, Purdue University http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/557/01/ Electronic Submission dokkyoacademicwriting@gmail.com</p>		<p>Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, final draft, and final presentation.</p>	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J.Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The prerequisite for this course is Paragraph Writing and Basic Essay Writing, no basics will be covered.</p> <p>In this course, we will attempt to produce an introductory academic composition according to the following schedule basically adhering to the chronological leading up to the development of the final draft Everything we will be covering from week to week (other than topic selection) will be needed to continue building the paper, paragraph by paragraph and point by point. In other words, you will need brainstorming for each main point, library research will be ongoing, and the collection and synthesizing of information will be constant.</p> <p>Goal: One 1000 word or more paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction / Brainstorming and topic selection, Plagiarism 2. Library and On-line Research Skills, Using Electronic Data Base 3. Collecting and Synthesizing Information 4. First Draft Due Tuesday evening 9 pm by email Hard Copy Due in class today. 5. Peer Evaluation 6. Second Draft Due Tuesday evening 9 pm by email. Hard Copy Due in class today. 7. Peer Evaluation/Preparation for final draft. 8. Finishing the final draft. 9. Final Draft Due Tuesday evening 9 pm by email Hard Copy Due in class today. 10. Writing a summary of the final product. 11. Final Powerpoint Presentation 12. Final Powerpoint Presentation 13. Wrap-up of this semester's work. <p>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>MLA Formatting and Style Guide, Purdue University http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/557/01/ Electronic Submission dokkyoacademicwriting@gmail.com</p>		<p>Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, final draft, and final presentation.</p>	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイライティング a	担当者	J. Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus in this course will be on the development of higher order academic writing skills. We will begin with a review of paragraph and essay structure. In addition to shorter papers, by the end of the semester, students will have completed one or two full-length essays.</p> <p>Throughout the semester, the approach taken in this class is on writing practices and analyses of selected readings.</p> <p>Attendance and participation are essential for successful performance in this class.</p>		<p>Week 1—Orientation</p> <p>Weeks 2-3—Personal narratives</p> <p>Weeks 3-4—The three-paragraph essay</p> <p>Weeks 5-8—Graphs and statistics</p> <p>Weeks 9-10—The five-paragraph essay</p> <p>Weeks 11-12—The classification essay</p> <p>Week 13—Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Reason to Write: Intermediate.</i> Robert Cohen & Judy Miller. Oxford University Press. 2003.</p>		<p>Participation 20%</p> <p>Attendance 20%</p> <p>Assignments, essays, test 60%</p>	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイライティング b	担当者	J. Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of Academic Writing—a. The focus in this course will be on the development of higher order academic writing skills. We will begin with a review of paragraph and essay structure. In addition to shorter papers, by the end of the semester, students will have completed one or two full-length essays.</p> <p>Throughout the semester, the approach taken in this class is on writing practices and analyses of selected readings.</p> <p>Attendance and participation are essential for successful performance in this class.</p>		<p>Week 1—Orientation</p> <p>Weeks 2-3—The cause and effect essay</p> <p>Weeks 3-4—Writing a satirical essay</p> <p>Weeks 5-8—Writing an argumentative essay</p> <p>Weeks 9-10—Writing a comparison and contrast essay</p> <p>Weeks 11-12—Writing an essay analyzing literature</p> <p>Week 13—Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Reason to Write: Intermediate.</i> Robert Cohen & Judy Miller. Oxford University Press. 2003.</p>		<p>Participation 20%</p> <p>Attendance 20%</p> <p>Assignments, essays, test 60%</p>	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J.Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. Diagnostic writing and Chapter 1. 3. Writing as a process and conclude Chapter 1. 4. Review of paragraph basic and Chapter 2. 5. Grammar review and start Chapter 4. 6. Vocabulary quiz, start Chapter 4. 7. Organizing sentences, using transitions and writing the 5 paragraph essay. 8. Describing and analyzing the steps in the process essay. 9 In-class 5 paragraph essay. Chapter 6 and the language of the classification essay. 10. Chapter 7. The causes and effects essay 11. Organizing the comparison and contrast essay. 12. Chapter 10. Writing summaries 13. Final in-class essay. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Ready To Write More</i> (Second Edition) Karen Blanchard Christine Root Publisher - Longman		Students will be graded on attendance, in-class essays, homework and tests.	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J. Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. Diagnostic writing and Chapter 1. 3. Writing as a process and conclude Chapter 1. 4. Review of paragraph basic and Chapter 2. 5. Grammar review and start Chapter 4. 6. Vocabulary quiz, start Chapter 4. 7. Organizing sentences, using transitions and writing the 5 paragraph essay. 8. Describing and analyzing the steps in the process essay. 9 In-class 5 paragraph essay. Chapter 6 and the language of the classification essay. 10. Chapter 7. The causes and effects essay 11. Organizing the comparison and contrast essay. 12. Chapter 10. Writing summaries 13. Final in-class essay. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Ready To Write More</i> (Second Edition) Karen Blanchard Christine Root Publisher - Longman		Students will be graded on attendance, in-class essays, homework and tests.	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays(e.g. persuasive,informative or analytical) and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will also learn how to collect and organize information,synthesize this,and quote from sources. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Organization 4. Collecting and synthesizing information 5. Paragraph to short essay 6. Descriptive essay 7. Narrative essay 8. Opinion essay 9. Peer evaluation 10. writing final draft 11. Comparison and contrast essay 12. Test 13. Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required, students will be provided with all necessary prints.		Grades will be based on attendance(70%),homework(15%),and test (15%)	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course the students will learn the techniques necessary to write a well-structured, cohesive essay common in American college level courses.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to well-structured essays 2. Essay #1 Example 3. Essay #1 Writing 4. " 5. " 6. " 7. Essay #2 8. " 9. " 10. " 11. Essay #3 12. " 13. Essay #3 Finish and submit 	
テキスト、参考文献		評価方法	
All material will be provided by the instructor.		The students will be evaluated on attendance and three essays.	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion</p> <p>Week 2: Summarizing</p> <p>Week 3: Summary Workshop</p> <p>Week 4: Responding</p> <p>Week 5: Responding</p> <p>Week 6: Response Workshop</p> <p>Week 7: Textual Analysis</p> <p>Week 8: Textual Analysis</p> <p>Week 9: Textual Analysis Workshop</p> <p>Week 10: Comparison & Contrast</p> <p>Week 11: Comparison & Contrast</p> <p>Week 12: Comparison & Contrast</p> <p>Week 13: Comparison & Contrast Workshop</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.		Grades will be determined based on participation and written assignments.	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion</p> <p>Week 2: Cause & Effect</p> <p>Week 3: Cause & Effect</p> <p>Week 4: Cause & Effect Workshop</p> <p>Week 5: Cause & Effect Workshop</p> <p>Week 6: Research Skills</p> <p>Week 7: Documentation & Plagiarism</p> <p>Week 8: Evaluating Sources</p> <p>Week 9: Problem Solving</p> <p>Week 10: Problem Solving</p> <p>Week 11: Problem Solving</p> <p>Week 12: Problem Solving Workshop</p> <p>Week 13: Problem Solving Workshop</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary to class each week.		Grades will be determined based on participation and written assignments.	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	Academic Writing 英語・エッセイライティング a	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Using a step-by-step approach, students will be led through the processes of research & writing needed for success in academic work at the university level. Students will learn how to collect, organize and synthesize information. In addition, they will learn how to avoid plagiarism, and to paraphrase, cite & quote sources.</p> <p>In addition to regular attendance, students will be expected to write (print) and revise one 1000 + word essay during the course of the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Model Research Papers 3. Selecting & Narrowing a Topic 4. Resources: Searching & Recording 5. Taking Notes 6. Plagiarism & In-text Citations 7. Levels of Information – Main & Supporting 8. Planning & Writing an Outline 9. Introductions & Conclusions 10. Topic Sentences & Paragraphs 11. Developing Supporting Ideas & Details 12. Graphs & Tables & Abstract Writing 13. Proofreading: Self & Peer Editing 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Developing Academic Writing Skills</i> (Macmillan) A n electric dictionary, A4 notepaper & a folder for photocopies are also required for this course		30% Attendance & Punctuality 30% Class work & participation 40% Final Paper	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	Academic Writing 英語・エッセイライティング b	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Using a step-by-step approach, students will be led through the processes of research & writing needed for success in academic work at the university level. Students will learn how to collect, organize and synthesize information. In addition, they will learn how to avoid plagiarism, and to paraphrase, cite & quote sources.</p> <p>In addition to regular attendance, students will be expected to write (print) and revise one 1000 + word essay during the course of the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Model Research Papers 3. Selecting & Narrowing a Topic 4. Resources: Searching & Recording 5. Taking Notes 6. Plagiarism & In-text Citations 7. Levels of Information – Main & Supporting 8. Planning & Writing an Outline 9. Introductions & Conclusions 10. Topic Sentences & Paragraphs 11. Developing Supporting Ideas & Details 12. Graphs & Tables & Abstract Writing 13. Proofreading: Self & Peer Editing 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Developing Academic Writing Skills</i> (Macmillan) A n electric dictionary, A4 notepaper & a folder for photocopies are also required for this course		30% Attendance & Punctuality 30% Class work & participation 40% Final Paper	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	T. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this English course is to offer students an organized chance to become better writers. One learns by doing and that means lots of practice. Essentially, the more one writes, the better one's writing will be. Mistakes will be made. After being corrected, students should not make the same mistakes.</p> <p>There is a basic requirement that anyone who writes has patterns, models, examples, or images in her or his brain about what good writing is. In other words, a person ought to have a pretty good idea of what is to be written by having lots of pictures of writing already in one's basic knowledge. That means reading a lot.</p> <p>So, although this is a composition or writing course, there is also the need for students to read about plenty of different topics. Some will have that deep learning already, others won't and will have to work that much harder to acquire the ability to write well. Students will be graded based upon their individual efforts to improve from whatever level they are at now.</p>		<p>Week 1 Introductory lesson and level test of students' writing ability.</p> <p>“ 2 Self-introduction essays.</p> <p>Weeks 3-11 Lessons will be determined by the contents of the textbook to be selected.</p> <p>Week 12 Final essays due and review.</p> <p>“ 13 Final essays returned and last advice given.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be decided after the first class meeting.		Doing one's best to improve one's writing skills will be the key ingredient in deciding each student's grade. Obviously, doing all the required class work is only a starting point—one should aim high!	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	T. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
Please refer to the comments about the spring semester.		<p>Week 1 Introductory lesson and level test of students' writing ability.</p> <p>Weeks 2-11 Course dependent upon textbook to be used.</p> <p>Week 12 Final essays are to be turned in and a review of key points that have been covered will be done.</p> <p>“ 13 Last class meeting of the semester with the final corrected essay being returned to the students.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook to be decided later.		Please refer to the spring semester's grading comments.	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To develop students' ability to write academic essays using the 5-paragraph essay as the model.</p> <p>2. To analyze the composition of an essay</p> <p>3. To learn and practice editing skills, drafting and re-drafting</p>		<p>1. Course introduction</p> <p>2. Introduction to the 5-paragraph essay</p> <p>3. Developing the 5-paragraph essay</p> <p>4. Unity and coherence of an essay</p> <p>5. Introduction to the editing process</p> <p>6. Essays analyzing a process</p> <p>7. Essays analyzing a process (contd.)</p> <p>8. Essays analyzing a process (contd.)</p> <p>9. Essays analyzing a process (contd.)</p> <p>10. Essays dealing with cause and effect</p> <p>11. Essays dealing with cause and effect (contd.)</p> <p>12. Essays dealing with cause and effect (contd.)</p> <p>13. Review of term's work</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Effective Academic Writing 3</i> by Jason Davis and Rhonda Liss (Oxford University Press)		Grades will be decided on the basis of essay assignments as well as attendance and participation in class activities	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To develop students' ability to write academic essays using the 5-paragraph essay as the model.</p> <p>2. To analyze the composition of an essay</p> <p>3. To learn and practice editing skills, drafting and re-drafting</p>		<p>1. Essays presenting an argument</p> <p>2. Essays presenting an argument (contd.)</p> <p>3. Essays presenting an argument (contd.)</p> <p>4. Essays presenting an argument (contd.)</p> <p>5. Essays dealing with classification</p> <p>6. Essays dealing with classification (contd.)</p> <p>7. Essays dealing with classification (contd.)</p> <p>8. Essays dealing with classification (contd.)</p> <p>9. Essays dealing with personal opinions</p> <p>10. Essays dealing with personal opinions (contd.)</p> <p>11. Essays dealing with personal opinions (contd.)</p> <p>12. Essays dealing with personal opinions (contd.)</p> <p>13. Review of term's work</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Effective Academic Writing 3</i> by Jason Davis and Rhonda Liss (Oxford University Press)		Grades will be decided on the basis of essay assignments as well as attendance and participation in class activities	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M. Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself. The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing.</p> <p>The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers.</p> <p>By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.</p>		<p>Week1: Course Introduction Week 2: Prewriting activities and Brainstorming Week 3: Writing an introduction Week 4: Developing supporting details Week 5: Writing a conclusion Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Brainstorming topics Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due and presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on attendance, active participation, their journal, writing assignments and their progress in writing.	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M. Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> Students will need an English-English dictionary Students will be required to have a notebook and a writing journal 		<p>Week1: Course Introduction Week 2: Prewriting activities and Brainstorming Week 3: Writing an introduction Week 4: Developing supporting details Week 5: Writing a conclusion Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Brainstorming topics Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due and presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on attendance, active participation, their journal, writing assignments and their progress in writing.	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	翻訳 (火 4) 翻訳 a (火 4)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力は鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>この講座を終了した受講生は自信をもって、英語の次の段階へと進めるはずです。春学期は題材を主に随筆文からとります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 過激の効用 2、 中庸の徳 3、 俗説の不当さ 4、 文化は家庭から 5、 若者が学ぶべき教訓 6、 興味を持つことの大切さ 7、 自分なりの価値基準 8、 作家の仕事 9、 友情について 10、 編集者の心得 11、 文体と内容は一体 12、 無限の概念 13、 子供の教育に必要なこと 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講師の手作り。初回に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	翻訳 (火 4) 翻訳 b (火 4)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>この講座を終了した受講生は自信をもって、英語の次の段階へと進めるはずです。秋学期は題材をさまざまな分野の書籍からとります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 重力の話 2、 ゴルフ・トーナメント 3、 月の滴 4、 ビクスビー夫人の恋人 5、 古代美術 6、 ギロチン 7、 くまの生活 8、 薬物中毒 9、 インカの歴史 10、 アニマル・ヒーリング 11、 コンピュータ・エイジ 12、 地底調査船 13、 植物図鑑 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教材は講師の手作り。初回に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	翻訳 (木3) 翻訳 a (木3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、子供向きの読み物の抜粋を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価のよみやすい日本語をつくることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、英語の規則 I 「アンドとカンマ」 2、英語の規則 II 「記号と掛かり方」 3、学習図鑑 I 「宇宙」 4、学習図鑑 II 「恐竜」 5、学習図鑑 III 「トロイ戦争」 6、学習図鑑 IV 「地球」 7、学習図鑑 V 「人体」 8、学習図鑑 VI 「鳥類」 9、児童小説 「ドリトル先生」 I 10、児童小説 「ドリトル先生」 II 11、児童小説 「ドリトル先生」 III 12、児童小説 「不思議の国のアリス」 I 13、児童小説 「不思議の国のアリス」 II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、をみます。</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	翻訳 (木3) 翻訳 a (木3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座では、ロアルド・ダールの短編を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。比べるのはプロ翻訳家の訳文。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1～4 味(テイスト) 5～9 女主人(ランドレディ) 10～13 傘男(アンブレラマン) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、をみます。</p>	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	翻訳 翻訳 a	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らかにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。</p> <p>翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。</p> <p>授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p> <p>コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～12回 翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p> <p>第13回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなど	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	翻訳 翻訳 b	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第7回復習テスト</p> <p>第8～12回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第13回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなど	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本語に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本語にする訓練、研究をします。授業は個人作業とグループ作業の組み合わせで行います。翻訳は英語と日本語両方に通じていなければならないほど、それだけ立派な翻訳ができます。</p> <p>授業でグループ作業のときは、お互いの能力を磨き、伸ばしあうことにポイントがありますから、下準備を面倒がるようでは、能力を伸ばすことなどとてもできません。</p> <p>学年の上下とか面子にとらわれずに各自が意見・解釈を率直にとり交わせないと授業が生きてきません。各グループが作成したものを比較検討する場合、一人ひとりがグループ作業の段階で積極的に参加していないと大いに刺激を受け、多くを吸収するという風にはいきません。</p> <p>平常点を重視しますから、授業に遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。</p>		<p>最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	藤田 永祐
（講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本語に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本語にする訓練、研究をします。授業は個人作業とグループ作業の組み合わせで行います。翻訳は英語と日本語両方に通じていなければならないほど、それだけ立派な翻訳ができます。</p> <p>授業でグループ作業のときは、お互いの能力を磨き、伸ばしあうことにポイントがありますから、下準備を面倒がるようでは、能力を伸ばすことなどとてもできません。</p> <p>学年の上下とか面子にとらわれずに各自が意見・解釈を率直にとり交わせないと授業が生きてきません。各グループが作成したものを比較検討する場合、一人ひとりがグループ作業の段階で積極的に参加していないと大いに刺激を受け、多くを吸収するという風にはいきません。</p> <p>平常点を重視しますから、授業に遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。</p>		<p>最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	翻訳 翻訳 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>新聞、雑誌あるいは放送局のウェブページなどから選んだ英文記事を日本語に訳します。社会、政治、文化など、できるだけ広範囲の話題から、世界でたった今起きている出来事についての記事を、毎回、ある程度の長さ、日本語に翻訳してもらいます。</p> <p>「英文和訳」ではなく「翻訳」をします。多少ぎこちない日本語でも誤読していないことがわかればとりあえず合格の「英文和訳」と、「翻訳」はまったく別物です。この授業では英文を正確に解釈した上で、日本語でその意味を再構築し読者に伝えるための「翻訳」をします。時事的な話題に関係する英語と日本語それぞれの語彙や表現の意味を正しく理解し身につけることも、この授業の目標です。「翻訳」という作業を通して、英語と日本語の両方について、感覚を鋭敏にすることを目指します。</p>		<p>1. 概論「英文和訳」と「翻訳」</p> <p>2～12.</p> <p>毎回、課題を出します。指定された期日までに提出してもらい、添削します。授業中には、提出された翻訳の中からいくつかの例を挙げて比較したり、より適切な表現を探るという作業を行います。</p> <p>13. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示する。		毎回の課題を評価して、その総合点で最終成績を出す。4回以上の欠席があった場合は、評価の対象としない。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	翻訳 翻訳 b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英文和訳のトレーニングを積む。単語を日本語に変換して並べただけの訳文ではなく、意味を理解して日本語に移し替える練習をする。またセンテンスごとの意味を理解するだけでなく、文章全体の構成にも配慮した、行きとどいた訳文を作ることを目指す。</p> <p>講義概要</p> <p>はじめに短文で英文和訳のコツについて学んだあと、三つのジャンルの中から、担当者（片山）が提示した英文を翻訳してもらおう。課題は毎回出され、受講者は指定の期日までにメールで送付することが求められる。担当者は授業時に課題をチェックして返却するほか、難しかった点について解説を行う。</p> <p>受講者は、毎回の課題を欠かさず提出することももちろんだが、自分の訳文をさらに推敲してレベルアップする力も養ってほしい（翻訳家には不可欠の資質）。よりよい訳文を練ってもらうためのグループワークも予定している。</p>		<p>1. 英文和訳のコツ</p> <p>2. 新聞記事（1）</p> <p>3. 新聞記事（2）</p> <p>4. 新聞記事（3）</p> <p>5. 雑誌記事（1）</p> <p>6. 雑誌記事（2）</p> <p>7. 雑誌記事（3）</p> <p>8. 雑誌記事（4）</p> <p>9. 小説（1）</p> <p>10. 小説（2）</p> <p>11. 小説（3）</p> <p>12. 翻訳の約束事を考える</p> <p>13. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は授業中に紹介する。		平常点を総合的に評価する。3回以上の欠席ないし課題の未提出は、原則として評価対象にしない。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	翻訳 翻訳 a	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。</p> <p>春学期は Sandra Cisneros 著 <i>The House on Mango Street</i> をテキストとして使用します。これはアメリカに住むメキシコ系移民たちの物語で児童書に分類されますが、感受性豊かな少女の視点の語り口は詩的であり、読者の想像力をかきたてます。平易な言葉だが翻訳しがいのある作品です。翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。</p> <p>授業では毎回全員から、前もって課題文(1~2 ページ)を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながらクラスで討論しながら良い訳にするためのアイデアを出していきましょう。</p> <p>辞書は必ず持参。忘れたら欠席とします。</p>		<p>1. イントロダクション 2-13. 演習</p> <p>各章が非常に短いので、毎回 1、2 章程度訳していきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布。		授業内の提出課題、参加度、レポートの総合評価。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	翻訳 翻訳 b	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同様のスタイルで授業を続けますが、秋学期はテキストを替えて Delmore Schwartz 著 <i>In Dreams Begin Responsibilities and Other Stories</i> から短編小説をとりあげます。春学期の <i>Mango Street</i> 同様、小説の背景を理解して語り手の声に耳を傾けて翻訳していくことを心がけてください。</p> <p>Schwartz (1913-66) は「早熟の天才系」作家で、平易な言葉を使った語りの手です。表題作 “In Dreams Begin Responsibilities” は、夢と映画と現実が混ざり合う味わい深い短編ですので、しっかり解釈して日本語にしていきます。</p>		<p>1. レポートの返却等 2-13. 演習</p> <p>まずは表題作となっている “In Dreams Begin Responsibilities” から始め、その後は授業の速度に応じて作品を選んでいきます。毎回、区切りのいいところまで 2～3 ページ程度訳していきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布。		授業内の提出課題、参加度、レポートの総合評価。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジグラマー a	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、オーソドックスな手法としてのデータ観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で、既存の方法論にとられることなく、ある程度白紙の状態からスタートし、英語に関して与えられたデータを観察した結果、そこからどのようなことがこれまでとは異なる理論として導出されるのか考察します。ですので、積極的に何か新しいことが言えるのではないかという姿勢で授業に臨んでもらいたいと思います。そのため授業の方向性はある程度学生からの活発な意見交換も尊重したいと思いますので、初回授業時に授業の主な方向性を決定します。主に学生に発表してもらう形式をとりますので、学生側が受身的な姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・文型 3・移動が関与する構文 4・移動が関与する構文 5・付加詞 6・付加詞 7・代名詞 8・代名詞 9・否定 10・否定</p> <p>※ 上記以外で学生から要望のある構文なども考慮する予定なので、プログラムに多少の余裕をもたせてあります。また講義順序を変更することもあります。</p> <p>第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：『英語構文事典』大修館書店		出席率、授業参加率、試験の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジグラマー b	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、オーソドックスな手法としてのデータ観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で、既存の方法論にとられることなく、ある程度白紙の状態からスタートし、英語に関して与えられたデータを観察した結果、そこからどのようなことがこれまでとは異なる理論として導出されるのか考察します。ですので、積極的に何か新しいことが言えるのではないかという姿勢で授業に臨んでもらいたいと思います。そのため授業の方向性はある程度学生からの活発な意見交換も尊重したいと思いますので、初回授業時に授業の主な方向性を決定します。主に学生に発表してもらう形式をとりますので、学生側が受身的な姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・文型 3・受動文 4・受動文 5・再帰代名詞 6・再帰代名詞 7・動詞 8・動詞 9・新情報・旧情報 10・新情報・旧情報</p> <p>※上記以外で学生から要望のある構文なども考慮する予定なので、プログラムに多少の余裕をもたせてあります。また講義順序を変更することもあります。</p> <p>第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：『英語構文事典』大修館書店		出席率、授業参加率、試験の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英文法に対する理解を深めること及び英文法に対する理解の深め方を修得することを目的とする。より具体的には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目的とする。あわせて、英語と日本語の比較を通じて、日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>授業では、下記のテキストの第1章「英文法は便利な道具」から第5章「状態動詞と非状態動詞」の前半の内容を講義する予定である。</p>		<p>第1回(4月11日)オリエンテーション 第2回(4月18日)英文法は便利な道具 第3回(4月25日)可算名詞と不可算名詞1 第4回(5月2日)可算名詞と不可算名詞2 第5回(5月9日)可算名詞と不可算名詞3 第6回(5月16日)冠詞の用法1 第7回(5月23日)冠詞の用法2 第8回(5月30日)冠詞の用法3 第9回(6月6日)名詞と修飾表現1 第10回(6月13日)名詞と修飾表現2 第11回(6月20日)状態動詞と非状態動詞1 第12回(6月27日)状態動詞と非状態動詞2 第13回(7月4日)状態動詞と非状態動詞3</p> <p>なお、1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合にはその場で担当者が選考しますので、履修希望者は当日必ず出席してください(代理人は認めません)。選考結果は当日中ないし後日速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 武田修一・小原純子(2001)『英文法のからくり—英語表現の意味を推理する—』東京:丸善株式会社。</p>		<p>出席状況や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英文法に対する理解を深めること及び英文法に対する理解の深め方を修得することを目的とする。より具体的には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目的とする。あわせて、英語と日本語の比較を通じて、日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>授業では、下記のテキストの第5章「状態動詞と非状態動詞」の後半から第9章「強調と倒置」の内容を講義する予定である。</p>		<p>第1回(9月26日)オリエンテーション 第2回(10月3日)状態動詞と非状態動詞1 第3回(10月10日)状態動詞と非状態動詞2 第4回(10月17日)状態動詞と非状態動詞3 第5回(10月24日)受動文の意味と用法1 第6回(10月31日)受動文の意味と用法2 第7回(11月7日)受動文の意味と用法3 第8回(11月14日)受動文の意味と用法4 第9回(11月21日)副詞の位置が伝える意味 第10回(11月28日)挿入表現の多彩な機能1 第11回(12月5日)挿入表現の多彩な機能2 第12回(12月12日)強調と倒置1 第13回(12月19日)強調と倒置2</p> <p>なお、1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合にはその場で担当者が選考しますので、履修希望者は当日必ず出席してください(代理人は認めません)。選考結果は当日中ないし後日速やかにお知らせいたします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 武田修一・小原純子(2001)『英文法のからくり—英語表現の意味を推理する—』東京:丸善株式会社。</p>		<p>出席状況や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。</p> <p>講義概要: 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものがあるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられ、基本的な文は5文型によって説明し、拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語+述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文などを学習する。それを踏まえて、名詞、形容詞、副詞などを扱う。</p> <p>履修登録: 第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」,節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型,5文型の拡張,7文型 4. 述語動詞:述部,述語動詞の種類,等位叙述型,補語 5. 述語動詞:自動詞型,他動詞型,他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文,文の種類,重文と複文 7. 文の種類:疑問文,感嘆文,命令文,否定文 8. 名詞,名詞の種類,可算名詞の単数・複数形,不可算名詞,集合名詞,名詞の複数形,名詞の所有格 9. 代名詞,代名詞の種類,人称代名詞,再帰代名詞 10. 指示代名詞,疑問代名詞,不定代名詞 11. 形容詞,形容詞の用法,形容詞の語順,数詞 12. 冠詞,不定冠詞,定冠詞,無冠詞の用法 13. 副詞,副詞の種類,副詞の用法,副詞の位置 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書:安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		出席状況,授業における平常点,期末試験の成績を総合して評価する。なお,単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: (春学期と同じ) 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。</p> <p>講義概要: (春学期の続き) 秋学期ではまず、文を構成する要素のなかの助動詞、関係代名詞、関係副詞を学習する。次に、不定詞・分詞・動名詞を学習する。不定詞と動詞の ing 分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する。また、英語の文の構成に重要な、時制、比較表現、否定表現、強調表現、仮定法の用法を学習する。さらに、複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する。最後に、強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する。</p> <p>履修登録: 第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 助動詞,助動詞として用いられる語 2. 不定詞,分詞,動名詞 3. 関係代名詞,関係副詞 4. 時制:現在時制の用法,過去時制の用法 5. 現在完了の用法,過去完了の用法 6. 進行形の用法 7. 能動態と受動態 8. 呼応と時制の一致 9. 仮定法,直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 10. 話法,直接話法と間接話法 11. 比較,原級の用法,比較級の用法,最上級の用法 12. 否定,部分否定と全体否定,否定語の位置,二重の否定 13. 文の主語と情報構造,強調,省略・挿入 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書:安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		出席状況,授業における平常点,期末試験の成績を総合して評価する。なお,単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。さらに、英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し、その解説を行う。</p> <p>講義概要: 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものとはどのようなものがあるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられ、基本的な文は5文型によって説明し、拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語+述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文、受動文などを学習する。 なお、第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文:主部を欠く文、「主部 + 述部」、節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞(1):述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞(2):自動詞型, 自動詞・他動詞両用の動詞 6. 述語動詞(3):他動詞型, 他動詞型の述部 7. 文の種類(1):文の種類, 重文と複文 8. 文の種類(2):疑問文 9. 文の種類(3):感嘆文 10. 文の種類(4):命令文 11. 文の種類(5):否定文 12. 態(1):能動態と受動態の区別 13. 態(2):受動態の用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的:(春学期と同じ) 英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。さらに、英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し、その解説を行う。</p> <p>講義概要: 秋学期は、文構成に関わる、呼応や時制の一致、話法、否定、強調、省略、挿入などを含む文を扱う。さらに、時制を含まない節として、不定詞・分詞・動名詞を取り上げ、不定詞と動詞のing形には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があるとことを学習する。さらに、埋め込み文の一つとして関係詞節を学習する。最後に、文を構成する要素として、名詞・代名詞・形容詞・冠詞を学習する。 なお、第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼応と時制の一致(1):主語と動詞の一致 2. 呼応と時制の一致(2):時制の一致, 時制の一致の例外 3. 話法:直接話法と間接話法, 疑問文と命令文の間接話法 4. 比較:原級・比較級・最上級 5. 否定:部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 6. 情報構造, 強調, 省略, 挿入 7. 非定形節:不定詞, 分詞, 動名詞 8. 関係詞節:関係代名詞節, 関係副詞節 9. 名詞:名詞の種類, 可算名詞の単数・複数形, 不可算名詞, 集合名詞, 名詞の複数形, 名詞の所有格 10. 代名詞:代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞, 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 12. 形容詞:形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 13. 冠詞:不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとすると丸で英文にならないのは、誰もよく経験することですが—私たちの使う英語の間違いの実に90パーセント以上が日本語に引きずられることと関連しています—、フランス人やドイツ人の英語学習者の場合事情が相当異なります。独仏人などと違って日本人や、トルコの人や韓国の人が英語を使おうとすると、文法の実践的知識は不可欠なのです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えないのは真実ですが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめであって、両方面の訓練が必要なのです。そして単語・語句・文章それぞれのレベルで日本語と英語の発想の違いを比較検討する習慣を身につけること。内容のある英語を話し・書く能力を習得するにはこれらは不可欠な訓練なのです。従来の多くの英語学習法は、いわば英語を一方向的に日本語にひきつけたやり方であり、日本語の環境に囲まれて暮らす私たちにとって自然でやむを得ぬ方法ともいえます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしながら英語を学んでいると、両方の言語についてそれまで気づかなかったことが色々分明して、英語の能力向上に役立ちます。</p> <p>時にテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組む予定です。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。</p> <p>授業の進め方は最初の授業時に解説します。</p> <p>第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 『日英語の比較による英作文』(成美堂) 参考文献 授業時に紹介します。</p>		<p>平素の小テストと平常点。</p>	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとすると丸で英文にならないのは、誰もよく経験することですが—私たちの使う英語の間違いの実に90パーセント以上が日本語に引きずられることと関連しています—、フランス人やドイツ人の英語学習者の場合事情が相当異なります。独仏人などと違って日本人や、トルコの人や韓国の人が英語を使おうとすると、文法の実践的知識は不可欠なのです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えないのは真実ですが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめであって、両方面の訓練が必要なのです。そして単語・語句・文章それぞれのレベルで日本語と英語の発想の違いを比較検討する習慣を身につけること。内容のある英語を話し・書く能力を習得するにはこれらは不可欠な訓練なのです。従来の多くの英語学習法は、いわば英語を一方向的に日本語にひきつけたやり方であり、日本語の環境に囲まれて暮らす私たちにとって自然でやむを得ぬ方法ともいえます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしながら英語を学んでいると、両方の言語についてそれまで気づかなかったことが色々分明して、英語の能力向上に役立ちます。</p> <p>時にテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組む予定です。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。</p> <p>授業の進め方は最初の授業時に解説します。</p> <p>第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 『日英語の比較による英作文』(成美堂) 参考文献 授業時に紹介します。</p>		<p>平素の小テストと平常点。</p>	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	College Grammar カレッジ・グラマーa	担当者	本田 謙介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>みなさんが高校まで学んできた英文法とは、言語学者が英語の中に規則性を見つけ、それらを整理したものである。その整理された「きれいな」文法を覚える価値はもちろん、ある。しかし、先人の文法説明は今でも最適な説明のままであろうか。本講義ではこれまでの文法研究を批判的に再検討し、より適切だと思われる文法的説明を考え出していく。英語のしくみを探る作業を通して、みなさんが文法のもつ芸術性と奥深さを満喫してくれたら、嬉しい。</p>		<p>先行研究とそれに対する批判的検討、講義担当者による代案の提出というのが「一つのセット」になっていると考えていただきたい。春学期で扱う予定のテーマは、以下のようなものである。もちろんこれらは候補の一部に過ぎず、受講者の興味・関心によって大きく変わることもある。</p> <p>there 構文 同族目的語構文 with 絶対構文 way 構文 自動詞の分類</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則としてハンドアウトによる。参考文献などは適宜指示する。		出席と試験（またはレポート）が中心となる。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	College Grammar カレッジ・グラマーb	担当者	本田 謙介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>みなさんが高校まで学んできた英文法とは、言語学者が英語の中に規則性を見つけ、それらを整理したものである。その整理された「きれいな」文法を覚える価値はもちろん、ある。しかし、先人の文法説明は今でも最適な説明のままであろうか。本講義ではこれまでの文法研究を批判的に再検討し、より適切だと思われる文法的説明を考え出していく。英語のしくみを探る作業を通して、みなさんが文法のもつ芸術性と奥深さを満喫してくれたら、嬉しい。</p>		<p>先行研究とそれに対する批判的検討、講義担当者による代案の提出というのが「一つのセット」になっていると考えていただきたい。秋学期で扱う予定のテーマは、以下のようなものである。もちろんこれらは候補の一部に過ぎず、受講者の興味・関心によって大きく変わることもある。</p> <p>二重目的語構文 外置構文 場所句倒置構文 so 倒置構文 数量詞遊離</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則としてハンドアウトによる。参考文献などは適宜指示する。		出席と試験（またはレポート）が中心となる。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar(月1) カレッジ・グラマー a(月1)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する知識を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法の深い理解の為に「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記ではなく、考える対象として扱い、言語学の視点から英文法を考えていくことにする。本講義を通して、英文法に対する新しい見方を提供し、英語学科で英語を学ぶ学生に相応しい文法知識を身につけられる授業にするつもりである。自分がこれまでに知らなかった英文法の一面を発見し、文法(研究)の面白さや奥深さを知ってもらえればと思う。</p> <p>講義概要: 本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、最近の言語学研究で得られた知見をも積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。春学期は文構成を中心として講義し、大枠となる文の種類、構成や文型の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学概論程度の知識を必要とする。本講義は訓練の場でもあるので、受講生は漫然と講義を聞くのではなく、自ら疑問や問題を提起し、自主的・積極的に考えながら講義に参加することを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要; 文の構成(1): 文の種類、文と節の違い 2. 文の構成(2): 文の種類(続き)、文の形態と伝達内容 3. 文の構成(3): 文を構成する要素、品詞、文型 4. 動詞と時制(1): 動詞の分類、時と時制、相と時制 5. 動詞と時制(2): 時制各論(現在時制、過去時制) 6. 動詞と時制(3): 文法相各論(進行相、完了相) 7. 法助動詞(1): 2種類の法助動詞、統語的・意味的特徴 8. 法助動詞(2): 法助動詞各論(特徴や用法上の違い等) 9. 法助動詞(3): 法助動詞各論(続き) 10. 未来表現(1): 文法・表現形式、形式と意味 11. 未来表現(2): 形式と意味(続き) 12. 受動態(1): 「態」とは何か、受動態の統語的・意味的特徴、前置詞句内からの受動文 13. 受動態(2): 過去分詞の性質、be受動文と get受動文 <p>*第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、履修希望者は必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 水鳥・岡田・西村共著(1986)『大学英文法入門』英宝社 その他、講義用ハンドアウトを適宜使用する。</p> <p>参考文献: 安井稔著(1996)『改訂版英文法総覧』開拓社</p>		<p>特に平常点(出席・発表・授業への貢献度など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。尚、単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上である。</p>	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar(月1) カレッジ・グラマー b(月1)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する知識を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法の深い理解の為に「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記ではなく、考える対象として扱い、言語学の視点から英文法を考えていくことにする。本講義を通して、英文法に対する新しい見方を提供し、英語学科で英語を学ぶ学生に相応しい文法知識を身につけられる授業にするつもりである。自分がこれまでに知らなかった英文法の一面を発見し、文法(研究)の面白さや奥深さを知ってもらえればと思う。</p> <p>講義概要: 本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、最近の言語学研究で得られた知見をも積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込みの構造を中心として講義し、埋め込み節の文構成の特徴を概観し、考察していく。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定などの文構成の上で重要となる個別要素もできるだけ扱うことにしたい。講義の前提として、英語学概論程度の知識を必要とする。本講義は訓練の場でもあるので、受講生は漫然と講義を聞くのではなく、自ら疑問や問題を提起し、自主的・積極的に考えながら毎回の講義に参加することを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要; 仮定法(1): 「法」とは何か、直説法と仮定法 2. 仮定法(2): 直説法と仮定法(続き)、仮定法の特徴 3. 仮定法(3): 仮定法と should、注意すべき語法など 4. 節構造(1): 節の種類、句と節の違い、節の機能 5. 節構造(2): 節の機能(続き)、その注意点など 6. 節構造(3): 動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴 7. 節構造(4): 動詞・形容詞に続く節形式の特徴(続き) 8. 関係詞節(1): 統語的特徴、関係代名詞の特徴 9. 関係詞節(2): 関係形容詞・副詞の特徴、自由(複合)関係詞の特徴、転用関係詞 10. 関係詞節(3): 不定関係詞節の特徴、強調構文の特徴 11. 比較構文(1): 「比較」とは、比較の統語的・意味的特徴、比較級・最上級の特徴 12. 比較構文(2): 比較級・最上級の特徴(続き)、絶対比較 13. 否定: 否定の種類、否定の作用域、否定の注意点など <p>*第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、履修希望者は必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 水鳥・岡田・西村共著(1986)『大学英文法入門』英宝社 その他、講義用ハンドアウトを適宜使用する。</p> <p>参考文献: 安井稔著(1996)『改訂版英文法総覧』開拓社</p>		<p>特に平常点(出席・発表・授業への貢献度など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。尚、単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上である。</p>	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar(月3) カレッジ・グラマー a(月3)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する知識を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法の深い理解の為に「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記ではなく、考える対象として扱い、言語学の視点から英文法を考えていくことにする。本講義を通して、英文法に対する新しい見方を提供し、英語学科で英語を学ぶ学生に相応しい文法知識を身につけられる授業にするつもりである。自分がこれまでに知らなかった英文法の一面を発見し、文法(研究)の面白さや奥深さを知ってもらえればと思う。</p> <p>講義概要: 本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、最近の言語学研究で得られた知見をも積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。春学期は文構成を中心として講義し、大枠となる文の種類、構成や文型の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学概論程度の知識を必要とする。本講義は訓練の場でもあるので、受講生は漫然と講義を聞くのではなく、自ら疑問や問題を提起し、自主的・積極的に考えながら講義に参加することを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要; 文の構成(1): 文の種類、文と節の違い 2. 文の構成(2): 文の種類(続き)、文の形態と伝達内容 3. 文の構成(3): 文を構成する要素、品詞、文型 4. 動詞と時制(1): 動詞の分類、時と時制、相と時制 5. 動詞と時制(2): 時制各論(現在時制、過去時制) 6. 動詞と時制(3): 文法相各論(進行相、完了相) 7. 法助動詞(1): 2種類の法助動詞、統語的・意味的特徴 8. 法助動詞(2): 法助動詞各論(特徴や用法上の違い等) 9. 法助動詞(3): 法助動詞各論(続き) 10. 未来表現(1): 文法・表現形式、形式と意味 11. 未来表現(2): 形式と意味(続き) 12. 受動態(1): 「態」とは何か、受動態の統語的・意味的特徴、前置詞句内からの受動文 13. 受動態(2): 過去分詞の性質、be受動文と get受動文 <p>*第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、履修希望者は必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 水鳥・岡田・西村共著(1986)『大学英文法入門』英宝社 その他、講義用ハンドアウトを適宜使用する。</p> <p>参考文献: 安井稔著(1996)『改訂版英文法総覧』開拓社</p>		<p>特に平常点(出席・発表・授業への貢献度など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。尚、単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上である。</p>	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar(月3) カレッジ・グラマー b(月3)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する知識を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法の深い理解の為に「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記ではなく、考える対象として扱い、言語学の視点から英文法を考えていくことにする。本講義を通して、英文法に対する新しい見方を提供し、英語学科で英語を学ぶ学生に相応しい文法知識を身につけられる授業にするつもりである。自分がこれまでに知らなかった英文法の一面を発見し、文法の面白さや奥深さを知ってもらえればと思う。授業を通して、英文法と一緒に考えていける学生の受講を希望する。</p> <p>講義概要: 本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、最近の言語学研究で得られた知見をも積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。秋学期は文を構成する上で重要となる個別要素を中心として講義する。主に名詞、形容詞、副詞の主要3品詞と、前置詞、接続詞、そして比較を取り上げ、その諸特徴を概観し、考察する。またそれらに関連したテーマについても可能な限り言及していく。本講義は訓練の場でもあるので、受講生は漫然と講義を聞くのではなく、自ら疑問や問題を提起し、自主的・積極的に考えながら講義に参加することを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要; 名詞(1): 名詞の種類・分類、名詞と名詞句 2. 名詞(2): 名詞句の機能、名詞句と格、名詞句の構造 3. 名詞(3): 可算・不可算、冠詞の役割、複数の機能など 4. 形容詞(1): 形容詞の種類・分類、形容詞の用法 5. 形容詞(2): 形容詞の用法(続き)、形容詞とその語順 6. 副詞(1): 副詞の種類・分類、副詞の用法と生起位置 7. 副詞(2): 副詞の用法と生起位置(続き)、副詞の派生など 8. 前置詞(1): 前置詞の種類、前置詞の機能・用法 9. 前置詞(2): 前置詞の機能・用法(続き)、前置詞個々の持つ意味 10. 接続詞(1): 接続詞の種類、接続詞の役割と文の種類 11. 接続詞(2): 接続詞(1)の続き、注意すべき接続詞 12. 比較構文(1): 「比較」とは、比較の統語的・意味的特徴、比較級・最上級の特徴 13. 比較構文(2): 比較級・最上級の特徴(続き)、絶対比較 <p>*第1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合は、その場で選考しますので、履修希望者は必ず出席してください。選考結果は当日ないしはできるだけ速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 水鳥・岡田・西村共著(1986)『大学英文法入門』英宝社 その他、講義用ハンドアウト</p> <p>参考文献: 安井稔著(1996)『改訂版英文法総覧』開拓社</p>		<p>特に平常点(出席・発表・授業への貢献度など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。尚、単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上である。</p>	

03~05年度 (春)	Communicative English I a	担当者	E.J.Naoumi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>When you meet someone for the first time or even on subsequent occasions, do you know what to say and how to say it?</p> <p>Developing the ability to communicate successfully in English requires an awareness of what to say and how to say it and an opportunity to practice.</p> <p>Being able to introduce and talk about a number of different neutral topics such as sport, food, travel experiences is important in communicative exchanges, but this skill takes practice too. Another important skill is the ability to present information so at the end of the semester there will be a group presentation.</p> <p>Through movie clips and a variety of materials this course hopes to raise students awareness of what to say and how to say it and to give students an opportunity to practice in a number of situations.</p>		<p>Week 1 Introductions Week 2 Personalities Week 3 Making Friends Week 4 Instructions - Food Week 5 Telephoning and voice mail Week 6 Restaurants Week 7 Role playing Week 8 Traveling – preparations Week 9 Traveling – cultural differences Week 10 Presentation workshop Week 11 Presentation workshop Week 12 Presentations Week 13 Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Movie clips, listening activities and worksheets. Materials will be provided by the instructor.</p>		<p>Attendance, preparation for and participation in class activities and presentations. Students will also evaluate themselves and their classmates.</p>	

03~05年度 (秋)	Communicative English I b	担当者	E.J.Naoumi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the second semester, we will move on to other topics such as specialized interviews and news topics. Vocabulary acquisition strategies are important in this semester.</p> <p>Building on the skills introduced in the first semester, students are encouraged to expand their knowledge of what to say and how to say it.</p>		<p>Week 1 Catching up Week 2 Work 1 Week 3 Work 2 Week 4 Interviews Week 5 News topics - war Week 6 News topics- sport Week 7 News topics – social problems Week 8 News topics – new products Week 9 An introduction to discussion Week 10 An introduction to discussion Week 11 Preparation for presentation Week 12 Presentations Week 13 Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Movie clips, worksheets and other materials will be provided by the instructor.</p>		<p>Attendance, preparation for and participation in class activities and presentations. Students will also evaluate themselves and their classmates.</p>	

03~05年度(春)	Communicative English I a	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop their ability to think about topics of national and international importance and to develop their ability to talk and write about these issues.</p> <p>We will use newspapers as our main text, and students will select articles on subjects that interest them most. Students will read and study the articles at home, and in class, working in small groups, they will present their articles and lead a discussion on the topic.</p> <p>Students will also be expected to give poster presentations on special topics of their own choice which will involve making mini-speeches of 5 to 10 minutes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Poster presentations I 13. Poster presentations II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
English newspapers		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

03~05年度(秋)	Communicative English I b	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop their ability to think about topics of national and international importance and to develop their ability to talk and write about these issues.</p> <p>We will use newspapers as our main text, and students will select articles on subjects that interest them most. Students will read and study the articles at home, and in class, working in small groups, they will present their articles and lead a discussion on the topic.</p> <p>Students will also be expected to give poster presentations on special topics of their own choice which will involve making mini-speeches of 5 to 10 minutes</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Poster presentations I 13. Poster presentations II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
English newspapers		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students will choose various topics, then present them as solo, pair or group work for discussion by the rest of the class. These topics can range from music (like a rap song), events and issues (like internet or media subjects), to university or personal matters (like specific problems). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things.</p> <p>The instructor has a large collection of clippings from newspapers and magazines for student selection. Topics for discussion will be prepared in advance, and prints and audio-visual materials made by the instructor or brought by the student(s). Topics are interchangeable.</p> <p>You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction and selection of topics Week 2: Sample presentation/discussion by teacher Week 3: Music or film (M/F): lyrics and dialog(s) Week 4: M/F (2) Week 5: M/F (3) Week 6: Internet Issues (Net): Web sites and topics Week 7: Net (2) Week 8: Net (3) Week 9: Media (Med): TV or newspaper topics Week 10: Med (2) Week 11: Med (3) Week 12: Med (4) Week 13: Review and evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced		Grades will be made from class performance, (50%), examinations and two reports per semester (40%) and from attendance (10%).	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students will choose various topics, then present them as solo, pair or group work for discussion by the rest of the class. These topics can range from music (like a rap song), events and issues (like internet or media subjects), to university or personal matters (like specific problems). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things.</p> <p>The instructor has a large collection of clippings from newspapers and magazines for student selection. Topics for discussion will be prepared in advance, and prints and audio-visual materials made by the instructor or brought by the student(s). Topics are interchangeable.</p> <p>You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.</p>		<p>Week 1: Media (Med): TV or newspaper topics Week 2: Med (2) Week 3: Med (3) Week 4: Med (4) Week 5: Music or film (M/F): lyrics and dialog(s) Week 6: M/F (2) Week 7: M/F (3) Week 8: Student Topics (ST) Week 9: ST (2) Week 10: ST (3) Week 11: ST (4) Week 12: ST (5) Week 13: Review and evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced		Grades will be made from class performance, (50%), examinations and two reports per semester (40%) and from attendance (10%).	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D. Kennedy
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to help students build confidence and fluency in discussing various issues in English. Students will be encouraged to explore their own opinions and find logical means to support them. Classroom time will be divided between short readings, vocabulary focus, class discussions, small group discussions, and presentations.</p> <p>Active participation in English is required.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Your credo 3. Attitudes 4. Supporting your opinions logically 5. Money 6. Money (cont...) 7. Health 8. Health (cont...) 9. Education 10. Education (cont...) 11. Crime 12. Crime (cont...) 13. Summarizing and evaluating 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Communication Strategies 2 ISBN: 978-981-4232-62-3		Grades will be based on attendance, participation, homework, and presentations.	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	D. Kennedy
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to help students build confidence and fluency in discussing various issues in English. Students will be encouraged to explore their own opinions and find logical means to support them. Classroom time will be divided between short readings, vocabulary focus, class discussions, small group discussions, and presentations.</p> <p>Active participation in English is required.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. The environment 2. The environment (cont...) 3. Aliens 4. Aliens (cont...) 5. History 6. History (cont...) 7. Women in society 8. Women in society (cont...) 9. Violence 10. Violence (cont...) 11. Politics 12 Politics (cont...) 13. Summarizing and evaluating 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Communication Strategies 2 ISBN: 978-981-4232-62-3		Grades will be based on attendance, participation, homework, and presentations.	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D. Baker
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one term once-a-week class will expose students to a variety of English language resources and materials in order to develop language skills and stimulate curiosity. The course is designed for students who are already at least at intermediate level and able to express and present their opinions fairly confidently.</p> <p>The three overall objectives of this course are:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ to develop comprehension skills through exposure to print, online and audio-visual media ➤ to broaden understanding of the world and deepen critical thinking skills ➤ to give students opportunities to share their thoughts and opinions in forms such as group discussions, projects and presentations 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction & Orientation 2 News & Current Affairs #1 3 News & Current Affairs #2 4 Internet Research Project 5 Internet Research Project Workshop 6 Biography 7 Great Speeches 8 (In)Famous Photographs 9 Culture vs. You 10 The Spectacular Society #1 11 The Spectacular Society #2 12 Lighten Up! 13 Review & Wrap 	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook		Assessment is continuous and based on attendance, class participation and assignments	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	Communicative English Communicative English II a	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	Communicative English Communicative English II b	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	J. Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Each class will be based on a scene or scenes from a movie. Students will practice speaking and listening with each other about topics introduced through the video, text, music, and other media. Students will be required to do reading and writing in order to prepare for each classroom session. Contemporary and meaningful topics will be assigned to research and present in class. Speeches, discussions, debates, singing, listening exercises and other projects will also be assigned throughout the semester. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the Course and Materials watch video section one. 2. Vocabulary Quiz 1, Discussion, Watch part 2 3. Vocabulary Quiz 2, Discussion, Watch part 3 4. Vocabulary Quiz 3, Discussion, Watch part 4 5. Vocabulary Quiz 4, Discussion, Watch part 5 6. Vocabulary Quiz 5, Discussion, Watch part 6 7. midterm 8. Vocabulary Quiz 6, Discussion, Watch part 7 9. Vocabulary Quiz 7, Discussion, Watch part 8 10. Vocabulary Quiz 8, Discussion, Watch part 9 11. Vocabulary Quiz 9, Discussion, Watch part 10 12. Vocabulary Quiz 10, Discussion, Announce final 13. Final <p>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	J. Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Each class will be based on a scene or scenes from a movie. Students will practice speaking and listening with each other about topics introduced through the video, text, music, and other media. Students will be required to do reading and writing in order to prepare for each classroom session. Contemporary and meaningful topics will be assigned to research and present in class. Speeches, discussions, debates, singing, listening exercises and other projects will also be assigned throughout the semester. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the Course and Materials watch video section one. 2. Vocabulary Quiz 1, Discussion, Watch part 2 3. Vocabulary Quiz 2, Discussion, Watch part 3 4. Vocabulary Quiz 3, Discussion, Watch part 4 5. Vocabulary Quiz 4, Discussion, Watch part 5 6. Vocabulary Quiz 5, Discussion, Watch part 6 7. midterm 8. Vocabulary Quiz 6, Discussion, Watch part 7 9. Vocabulary Quiz 7, Discussion, Watch part 8 10. Vocabulary Quiz 8, Discussion, Watch part 9 11. Vocabulary Quiz 9, Discussion, Watch part 10 12. Vocabulary Quiz 10, Discussion, Announce final 13. Final <p>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	J. Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop further your English language communication skills. Each class will focus on a topic of current interest and feature discussions, debates, or mini-presentations. Many of the readings for this course will come from news articles and other materials. You will be expected to prepare the assignments carefully before coming to each class.</p> <p>Students will choose the topics and reading materials for discussion for the last five weeks of the semester.</p> <p>Attendance and participation are essential for successful performance in this class.</p>		<p>Week 1—Orientation and self-introductions Weeks 2-3—Topics on language Weeks 4-5—Topic on women's issues Weeks 6-7—Topic on current events Weeks 7-12—Student-led discussions Week 13—Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text for this course. I will distribute photocopies of all readings and other materials throughout the semester.		Participation 30% Attendance 10% Assignments, test 60%	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	J. Wendel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of Communicative English II—a. The purpose of this course is to develop further your English language communication skills. Each class will focus on a topic of current interest and feature discussions, debates, or mini-presentations. Many of the readings for this course will come from news articles and other materials. You will be expected to prepare the assignments carefully before coming to each class.</p> <p>Students will choose the topics and reading materials for discussion for the last five weeks of the semester.</p> <p>Attendance and participation are essential for successful performance in this class.</p>		<p>Week 1—Orientation Weeks 2-3—Topics on economics Weeks 4-5—Topic on education Weeks 6-7—Topic on current events Weeks 7-12—Student-led discussions Week 13—Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text for this course. I will distribute photocopies of all readings and other materials throughout the semester.		Participation 30% Attendance 10% Assignments, test 60%	

06~07年度 (春) 03~05年度 (春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	K.Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and comapare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Advertising 3. Animal rights 4. Beliefs 5. Discipline 6. Art and Artists 7. Fashion 8. Crime and punishment 9. Cultures 10. Family 11. Drink and drugs 12 Review 13 Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

06~07年度 (秋) 03~05年度 (秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	K.Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Religions 2. Film and TV 3. Language 4 Poverty 5 War 6. Diet and nutrition 7. Green issues 8. Natural Disasters 9. Sexism 10. International Relations 11. Pax Americana 12. Review 13 Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is to provide the students with an opportunity to practice the modern, spoken American English that they will be studying in this class. A video text will be used and will focus on vocabulary, idioms, and current usages of spoken American English. The students will be provided with ample opportunity to practice what they learn in class.		1. Introduction to the video lesson and orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 4 5. Lesson 5 6. Lesson 6 7. Lesson 7 8. Lesson 8 9. Lesson 9 10. Lesson 10 11. Evaluation 12. Presentation/ Interview 13. Presentation/ Interview	
テキスト、参考文献		評価方法	
All material will be provided by the instructor.		The students will be evaluated on the following: attendance, participation and attitude, a final test and the presentation/interview.	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed for students of English to develop their communicative English skills through extensive practice.</p> <p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics;</p> <p>Express their own ideas about these topics in various contexts;</p> <p>Engage other students to elicit their ideas on these topics.</p> <p>This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion</p> <p>Week 2: Unit 1: The Media</p> <p>Week 3: The Media</p> <p>Week 4: Unit 2: Overcoming Obstacles</p> <p>Week 5: Overcoming Obstacles</p> <p>Week 6: Unit 3: Health & Medicine</p> <p>Week 7: Health & Medicine</p> <p>Week 8: Unit 4: Nature</p> <p>Week 9: Nature</p> <p>Week 10: Unit 5: Conservation</p> <p>Week 11: Conservation</p> <p>Week 12: Review</p> <p>Week 13: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>North Star Listening and Speaking (High Intermediate)</i> Students should bring a dictionary to class each week.</p>		<p>Grades will be determined based on participation, written assignments, and a final presentation.</p>	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed for students of English to develop their communicative English skills through extensive practice.</p> <p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics;</p> <p>Express their own ideas about these topics in various contexts;</p> <p>Engage other students to elicit their ideas on these topics.</p> <p>This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion</p> <p>Week 2: Unit 6: Philanthropy</p> <p>Week 3: Philanthropy</p> <p>Week 4: Unit 7: Education</p> <p>Week 5: Education</p> <p>Week 6: Unit 8: Food & Diet</p> <p>Week 7: Food & Diet</p> <p>Week 8: Unit 9: Immigration</p> <p>Week 9: Immigration</p> <p>Week 10: Unit 10: Technology</p> <p>Week 11: Technology</p> <p>Week 12: Review</p> <p>Week 13: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>North Star Listening and Speaking (High Intermediate)</i> Students should bring a dictionary to class each week.</p>		<p>Grades will be determined based on participation, written assignments, and a final presentation.</p>	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	P.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Suprasegmentals 3. Suprasegmentals 4. Simple past review 5. Fluency exercise 6. Past perfect/ Fluency exercise 7. Be going to versus will 8. Fluency exercise 9. Comparisons and superlatives 10. Conditionals 11. Conditionals 12. Instructor-led discussion 13. Instructor-led discussion <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and speaking exercises	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	P.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. English origins 3. How are words formed & Loan words 4. Learning English 5. Learning languages 6. Culture comparisons 7. Culture comparisons 8. Culture and Identity 9. TBA 10. TBA 11. TBA 12. Instructor-led discussion 13. Instructor-led discussion <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and discussions	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills To improve discussion and presentation skills. <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p> <p>Please Note: There is homework after every class and all students are expected to complete it.</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test 4. Evaluation of Homework	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills To improve discussion and presentation skills. <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to Participate in the class)</p> <p>Please Note: There is homework after every class and all students are expected to complete it.</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test 4. Evaluation of Homework	

06~07 年度(春) 03~05 年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty advanced. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the course of studies. 2 Gender Issues. 3 Attitudes towards women. 4 Caring for kids. 5 Japanese work ethics. <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06~07 年度(秋) 03~05 年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty advanced. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 What is terrorism? 2 Sexual Harassment 3 Ageing Society. 4 The Automobile 5 Computers. <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	T. J. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for intermediate level students.</p> <p>The idea is to improve each student's speaking and listening. Active participation in the lessons and perhaps some outside of class practice will greatly assist in helping to reach the objective of better communicative English.</p> <p>Small group practice covering selected topics of current events from handouts or prints from magazines and newspapers will be discussed. Items covered in the textbook will also help students get better at everyday English. Clearly and diplomatically stating one's own opinion or feelings about various topics is a desirable skill to develop.</p> <p>A presentation or short speech will be expected of each student, the topic will be up to the student to decide.</p>		<p>Week 1 Course introduction and level test if needed.</p> <p>“ 2 Student self-introductions and pronunciation practice.</p> <p>“ 3 The actual lesson will be from following the contents of the textbook and from handouts.</p> <p>“ 4 “</p> <p>“ 5 “</p> <p>“ 6 “</p> <p>“ 7 “</p> <p>“ 8 “</p> <p>“ 9 “</p> <p>“ 10 “</p> <p>“ 11 “</p> <p>“ 12 Presentations and review lesson.</p> <p>“ 13 Final lesson and last one-to-one interview.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be decided after the first lesson. There will be handouts covering various current topics.		Your grade will be a combination of attendance, active participation in the lessons, including making a sincere effort to improve your English speaking and listening.	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II a	担当者	T. J. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of the spring semester and the same general outline still applies.</p>		<p>Week 1 Introduction if necessary; talking about last summer: short student speeches</p> <p>“ 2 Actual lessons to be announced dependent upon the textbook and extra handout topics.</p> <p>“ 3 “</p> <p>“ 4 “</p> <p>“ 5 “</p> <p>“ 6 “</p> <p>“ 7 “</p> <p>“ 8 “</p> <p>“ 9 “</p> <p>“ 10 “</p> <p>“ 11 “</p> <p>“ 12 Last student presentations and review lesson</p> <p>“ 13 Final lesson with one-to-one interviews.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Refer to the spring semester.		Refer to the spring semester.	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	C. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>First Term:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation class objectives, method and evaluation 2. How to avoid embarrassing conversation situations 3. Different Communication Styles 4. Sensitivity in conversations: does it help? 5. Be a Good Listener: a good advice? 6. Subtlety in Conversations: is it good? 7. Low-key expressions: do they help? 8. Frankness: when to and when not to? 9. Conversation Compliment: how to across cultures 1 10. Conversation Compliment: how to across culture 2 11. Gender styles of Communication 12. Summary and presentation 13. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	C. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>Second Term</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation: class objectives, method and evaluation 2. How to keep effective conversation situations 3. Japanese polite manners: what's the difference? 4. Greetings across cultures: first impressions! 5. Personal Achievements: modesty or virtue? 6. Expressions of Gratitude: how much is too much? 7. Complimenting: not at all times 8. Praise and flattery 9. Gifts and home visits: do they matter? 10. Saving face: a universal virtue 11. Barriers to communication 12. Summary and presentation 13. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class students will form 4 groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life—items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per week as the leader groups rotate. Also, the discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes. The final two weeks will entail a full class discussion of some issue.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction; how to have a discussion Week 2: Ways of handling a discussion topic Week 3: Group I : Daily life topic A Week 4: Group II : Daily life topic B Week 5: GroupIII: Daily life topic C Week 6: GroupIV: Daily life topic D Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group I : More “meaty” topic A Week 9: Group II : Meatier topic B Week 10: GroupIII: Meatier topic C Week 11: GroupIV: Meatier topic D Week 12: Full class discussion, Part 1 Week 13: Full class discussion, Part 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from weekly oral work (50%, including full class discussion), work within the lead group (25%) and Qs&As with the teacher (25%).	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class students will form 4 groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life—items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per week as the leader groups rotate. Also, the discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes. The final two weeks will entail a full class discussion of some issue.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Regrouping of students and topics Week 2: Ways of handling a discussion topic Week 3: Group I : Daily life topic A Week 4: Group II : Daily life topic B Week 5: GroupIII: Daily life topic C Week 6: GroupIV: Daily life topic D Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group I : More meaty topic A Week 9: Group II : Meatier topic B Week 10: GroupIII: Meatier topic C Week 11: GroupIV: Meatier topic D Week 12: Full class discussion, Part 1 Week 13: Full class discussion, Part 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from weekly oral work (50%, including full class discussion), work within the lead group (25%) and Qs&As with the teacher (25%).	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who have an advanced proficiency in spoken English. The class aims to provide a forum for students to discuss in a logical and reasoned manner the many issues that face us today. Topics for discussion will be student generated and will hopefully look at issues of concern and interest--topics related to global issues, national issues, environmental issues, cultural topics, and other related topics. It also aims to help students further develop their speaking and listening skills, and to help students understand what a discussion is. Thus, students considering this class should have an advanced proficiency in English particularly in speaking and listening; a deep interest in discussing topics are that both challenging and pertinent to the world in general; and a keen interest in the ideas and opinions of others. Topics for discussion will be introduced a week in advance of class and students are required to prepare in advance.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; self introductions Week 2: Discussion # 1 Week 3: Discussion # 2 Week 4: Discussion # 3 Week 5: Discussion # 4 Week 6: Discussion # 5 Week 7: Discussion # 6 Week 8: Discussion # 7 Week 9: Discussion # 8 Week 10: Discussion # 9 Week 11: Discussion # 10 Week 12: Discussion # 11 Week 13: Final discussion for evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this class		Grades will be based on classroom participation and student presentations. And Attendance	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>Note well: This class has an English only policy--only English will be used in class.</p>		<p>Week 1: Class introduction 2nd semester Week 2: Discussion # 1 Week 3: Discussion # 2 Week 4: Discussion # 3 Week 5: Discussion # 4 Week 6: Discussion # 5 Week 7: Discussion # 6 Week 8: Discussion # 7 Week 9: Discussion # 8 Week 10: Discussion # 9 Week 11: Discussion # 10 Week 12: Discussion # 11 Week 13: Final discussion for evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this class		Grades will be based on classroom participation and student presentations and attendance	

06~07 年度 (春) 03~05 年度 (春)	Discussion Discussion a	担当者	P.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course in discussion. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. Students will select topics and research them for the discussions. For several weeks, students will develop their ideas in groups on a specific topic. Thereafter, each student will present his/her idea individually. Students should come to class ready to discuss material researched outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction; select topics 2. Discussion 3. Discussion 4. Presentation 5. Discussion 6. Discussion 7. Presentation 8. Discussion 9. Discussion 10. Presentation 11. Topic review 12. Topic review 13. Test <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, discussion exercises, presentations, and test	

06~07 年度 (秋) 03~05 年度 (秋)	Discussion Discussion b	担当者	P.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Although this is the second half to the introduction of discussion, the first half semester is not a necessary requirement to participate in this class. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. Students will select topics and research them for the discussions. For several weeks, students will develop their ideas in groups on a specific topic. Thereafter, each student will present his/her idea individually. Students should come to class ready to discuss material researched outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction; select topics 2. Discussion 3. Discussion 4. Presentation 5. Discussion 6. Discussion 7. Presentation 8. Discussion 9. Discussion 10. Presentation 11. Discussion 12. Discussion 13. Test <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, discussion exercises, presentations, and test	

06~07 年度 (春) 03~05 年度 (春)	Discussion Discussion a	担当者	W.Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to develop three skills:</p> <p>1) information gathering 2) reading comprehension 3) presentation and discussion</p> <p>Students will gather information, read and assimilate it, and use it as a basis for discussions and presentations. Presentations will be group-based. The specific topics covered will be decided by the students themselves, but the focus should be on contemporary social issues.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Selection of topics 3. Presentation 1: reading and preparation 4. Presentation 1: reading and preparation 5. Group presentations 6. Group presentations 7. Feedback on presentations 8. Presentation 2: reading and preparation 9. Presentation 2: reading and preparation 10. Group presentations 11. Group presentations 12. Feedback on presentations 13. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher/students		Continuous assessment of class work, as well as participation in class activities and attendance	

06~07 年度 (秋) 03~05 年度 (秋)	Discussion Discussion b	担当者	W.Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to develop three skills:</p> <p>1) information gathering 2) reading comprehension 3) presentation and discussion</p> <p>Students will gather information, read and assimilate it, and use it as a basis for discussions and presentations.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Selection of topics 3. Presentation 1: reading and preparation 4. Presentation 1: reading and preparation 5. Group presentations 6. Group presentations 7. Feedback on presentations 8. Presentation 2: reading and preparation 9. Presentation 2: reading and preparation 10. Group presentations 11. Group presentations 12. Feedback on presentations 13. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.		Introduction: The Physical Message Posture and Eye Contact Informative Speech Gestures Layout Speech Voice Infection Demonstration Introduction to the Story Message The Introduction Persuasive Speech The Body Transition and Sequencers	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.		Review of Term One Persuasive Speech: The Body The Conclusion Persuasive Speech: The Conclusion Introduction to the Visual Message Making Visual Aids Explaining Visual Aids Full Presentation of the Persuasive Speech with Visual Aids Power Point Introduction Video Taping Part One Video Taping Part Two Critique of Taping	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	P. McEvilly
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, students will learn how to construct speeches and practice giving them. Students will learn how to give an “Icebreaker”(Self Introduction) speech, organize their speech, and speak with sincerity. I will provide students with handouts from a public speaking manual.		Weekly schedule to be provided on first day of class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided by instructor.		Students will be asked to give 3 or 4 speeches that they should prepare. They will be evaluated on their public speaking skills. Attendance is also important and will be considered when I evaluate students.	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	P. McEvilly
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, students will learn how to construct speeches and practice giving them. Students will learn how to give an “Icebreaker”(Self Introduction) speech, organize their speech, and speak with sincerity. I will provide students with handouts from a public speaking manual.		Weekly schedule to be provided on first day of class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided by instructor.		Students will be asked to give 3 or 4 speeches that they should prepare. They will be evaluated on their public speaking skills. Attendance is also important and will be considered when I evaluate students.	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Story Message, Visual Message によって如何により効果的にプレゼンテーションが出来るようになるかを学びます。</p> <p>講義概要： プレゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは'What', 'Why', 'How', 'Practice' の四項目から成り、更に'Performance'と'Evaluation'のセクションで自分のプレゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプレゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。</p> <p>易しい英語と愉快的イラストを使いながら、100パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。</p> <p>進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: Introduction to the Physical Message Posture and Eye Contact</p> <p>3. Informative Speech</p> <p>4. Presentation</p> <p>5. Gesture, Layout Speech</p> <p>6. Presentation</p> <p>7. Voice Inflection, Demonstration Speech</p> <p>8. Presentation</p> <p>9. [II] THE STORY MESSAGE: Introduction to the Story Message</p> <p>10. Presentation</p> <p>11. Persuasive Speech (Introduction)</p> <p>12. Presentation</p> <p>13. Exam</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Harrington, D. & LeBeau, C., <i>Speaking of Speech – Basic Presentation Skills for Beginners</i>. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2003. 1748円 + 税</p>		<p>出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプレゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。</p>	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 春学期と同じ。</p> <p>講義概要： 春学期に引き続く。</p> <p>注意： 何らかの理由で秋学期から履修する場合は、春学期の授業内容を理解し、且つ実際にそこまでの段階のパフォーマンスが出来るようにしておく必要があります。秋学期の最初の授業で指導致します。</p>		<p>(春学期からの続き。)</p> <p>1. [II] THE STORY MESSAGE The Body</p> <p>2. Transitions and Sequencers</p> <p>3. Transitions and Sequencers</p> <p>4. Persuasive Speech (Body)</p> <p>5. presentation</p> <p>6. The Conclusion</p> <p>7. Persuasive Speech (Conclusion)</p> <p>8. Presentation</p> <p>9. [III] THE VISUAL MESSAGE Introduction to the Visual Message</p> <p>10. Making Visual Aids</p> <p>11. Explaining Visual Aids</p> <p>12. Final Performance</p> <p>13. Final Exam</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	Debate I Debate I a	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop their abilities to debate; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the arguments. This will include presidential debates among others.</p>		<p>Week 1: Class Introduction Week 2: Learning debate. expressing opinion Week 3: Developing arguments; class debates Week 4: Support your opinion; class debates Week 5: Types of support; class debate Week 6: Organize arguments; class debate Week 7: Refutation; class debate Week 8: Types of refutation; class debate Week 9: Viewing actual debates; class debate Week 10: Class debates Week 11: Class debates Week 12: Class debates Week 13: Final debates</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by instructor.		Grades are based on class participation, attendance, and final debates	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	Debate II Debate I b	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Second semester is a continuation of the first semester.</p> <p>Student considering this class should keep in mind that debate is not about winning or losing only, but about understanding the different issues related to a particular topic. Debates should be fun, interesting, and most importantly intellectually rewarding.</p>		<p>Week 1: Overview of 2nd semester Week 2: Challenging supports Week 3: Presidential debates Week 4: Organizing your refutation Week 5: Presidential debates; class debate Week 6: Debate formats Week 7: In class debate Week 8: In class debate Week 9: Presidential debates Week 10: In-class debate Week 11: In-class debate; final debate prep. Week 12: Final in-class debate. Week 13: Final in-class debate</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by instructor.		Grades are based on class participation, attendance, and final debates	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	Debate I Debate I a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語発話能力の養成を目的とした言語教育活動には現在多くの方法があるが、4技能（聞く、話す、読む、書く）のみならず「考える」という第5の技能を磨くディベートこそ英語発話能力向上の最も効果的な学習方法のひとつといえる。ディベート実践に不可欠な一連の作業を通じて、英語発話能力を向上させていくことを目標とする。</p> <p>前期の最初に、ディベートの実践に必要な技術と評価の為のパロットの書き方を学ぶ。その後、グループに別れて、リサーチやブレインストーミングの段階を経て、ディベートの実践を行う。ディベートの命題としては社会的または政治的な問題を取り扱う予定である。ディベートの準備と実践を通して英語発信能力を、そして他グループの実践に対する評価をする事によって、聴き、理解し、更に発信するコミュニケーション能力を高めることができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation: What is Argument and What is Debate? 2. Analysis and Structure of Argument 3. Evidence as Support 4. Warrant 5. Refutation 6. How to Research a Topic 7. Case Construction I 8. Case Construction II 9. Structural and Language Considerations 10. 1st Debate I 11. 1st Debate II 12. 1st Debate III 13. Review of the First Debate and Reflections 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス（60%）、パロット（15%）、クラス内での積極的な参加度（15%）、出席（10%）、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	Debate II Debate I b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に学習したディベートの技術に基づき、ディベート実践を反復する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientations 2. Preparation for the Second Debate 3. Preparation for the Second Debate 4. 2nd Debate I 5. 2nd Debate II 6. 2nd Debate III 7. Review of the Second Debate 8. Preparation for the Third Debate 9. Preparation for the Third Debate 10. 3rd Debate I 11. 3rd Debate II 12. 3rd Debate III 13. Course Summary 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス（それぞれ30%—計60%）、パロット（15%）、クラス内での積極的な参加度（15%）、出席（10%）、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	通訳 I 通訳 I a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳の基礎訓練というのは、コミュニケーション能力としての総合的語学力をアップするためシステムティックなトレーニングにはかならない。</p> <p>このため、様々な方法で、リーディング、リスニング、スピーキングの技術を強化していくための練習を具体的に行っていく。</p>		<p>1～2回は通訳全般についての話。3回目以降から実際のトレーニングに入るが、その内容は次のとおり：</p> <p>リピーティング、クイック・レスポンス、シャドーイング、ボキャビル、サイト・トランスレーション、サラマイゼーション、ワンセンテンスからパラグラフ通訳、リテンション、通訳メモの取り方 etc.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用する予定		平常の授業での評価。授業はステップ・アップ形式で進むので欠席すると大変不利。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	通訳 I 通訳 I b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>同上</p> <p>ただし、春学期よりも内容の種類と難易度が増す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	通訳 I 通訳 I a	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行うという、実践的な訓練に徹する授業である。当然のことながら、英語を聴いたり話したりするのが好きな学生に受講してほしい。リスニング力を伸ばす訓練とメモの取り方を中心に学んでいく。</p> <p>前期は、自己嫌悪との戦いである。自分が訳し終えた時周囲の人がまだ訳しているのを聞くと、あんなに聴き取れたのかと実力の差を痛感せざるをえない。そういう意味で厳しい授業であるが、それもまた勉強である。毎週出席し続けることが、上達への近道。二週続けて欠席すると、周囲の学生について行けなくなる。</p>		<p><第1回> 【重要】定員を超えた場合、1回目の授業中に選抜するので、各自、必ず、TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーを持参すること。時間厳守。</p> <p>独力でリスニング力を伸ばす訓練方法について、具体的に詳しく説明する。次に、全員に実際に 90 分間その訓練を体験してもらう。メモを取るノートとボールペンを持参すること。</p> <p><第2回～13回目> 毎週 USB メモリーを持参すること。自分の逐次通訳を USB に保存するので、自宅に持ち帰り必ず聞くこと。易しい内容の教材から徐々にレベルを上げていく。</p> <p>さまざまな英語音声教材を用い、実践的訓練の中からメモの取り方や逐次通訳のポイントを学習する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
1冊は「実践ゼミ ウィスパリング同時通訳」(南雲堂)を予定。1回目の授業に出席し、受講できることを確認した上で購入すること。		毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	通訳 I 通訳 I b	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音し、USB で自宅へ持ち帰る、という実践的な訓練を積み重ねる。</p> <p>前期は、ほとんどの受講生が、「英語が速くてメモが取れない」、「自分のメモの字が読めない」、「英語の内容はわかったのにすぐには日本語が出てこない」、と悩むものだが、後期になると、自分なりのメモの取り方を確立し、11月・12月になると、理解できた英語は、全て通訳できるようになる。だからこそ、毎週のディクテーション課題でリスニング力をつけることが肝要である。</p> <p>今年はアメリカ大統領選挙の年である。「通訳 II」ほどではないが、選挙の映像や記事を、一年を通して、少しずつ教材として取り入れる。</p>		<p><第1回目> 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p><第2回目～13回目> ① 先週の逐次通訳の仕上げ ② shadowing ③ 新しい教材で逐次通訳の練習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<参考文献>電子辞書を購入する際は、「リーダーズ英和辞典」(収録語数 27 万項目)「リーダーズ・プラス」(収録語数 19 万項目)が入っているものがお薦め。		毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	通訳Ⅱ 通訳Ⅱa	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度はLL教室からCALL教室へ移動の年であった。CALLシステムは通訳の授業にとっては不備な面が多々あり、前期はシラバス通りの授業が行えなかった。そこで、後期にはCALLシステム業者の責任者の方のご協力を仰ぎ、1ヶ月にわたり通訳の授業を見学して頂いた結果、企業マニュアルにも記載されていない操作方法を考案して頂くことができた。そのおかげで今年は順調なスタートを切ることができる。長きにわたるご協力とご苦労に、厚くお礼を申し上げます次第である。</p> <p>さて、「通訳Ⅱ」では同時通訳の学習を開始する。これからのshadowing練習は、何秒か遅れて英語を再生せねばならない。聞こえてきた英語を即座に言ってしまったのでは、同時通訳の練習にならない。</p> <p>逐次通訳と同時通訳の両方を平行して学習していくが、大きな相違点は、それぞれ異なった方針で通訳すること。</p> <p>今年はアメリカ大統領選挙の年なので、候補者のスピーチの一部を、ディクテーションや逐次通訳の教材として取り入れる。</p>		<p><第1回></p> <p>【重要】定員を超えた場合、1回目の授業中に選抜するので、各自、必ず、<u>TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーを持参すること。時間厳守。</u></p> <p>「通訳Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修要件を満たし「通訳Ⅱ」から始める学生もいるので、まず、通訳の基礎、身につけるべき能力や技術について説明する。次に、それを身につけるための訓練の方法を示すためにも、早速実践的な訓練を開始する。</p> <p><第2回～13回></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 先週の逐次通訳・同時通訳の仕上げ ② 3秒遅れのシャドーイング練習 ③ 新しい教材での逐次通訳 ④ 新しい教材での同時通訳 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業テキストは、1回目の授業で指定。		宿題、授業中の通訳、定期試験の総合評価	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	通訳Ⅱ 通訳Ⅱb	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(通訳Ⅱを履修する学生は、前期から通年での履修が望ましい。)</p> <p>通訳の勉強を始めて1年半が経過したこの頃になると、落ち着いた態度で、適切な言葉を選びながら訳することができる学生が多い。常に意識しておいてほしいことは、訳が英語に引きづられていないか、洗練された日本語を駆使できているか、という点である。</p> <p>後期も、引き続き、同時通訳と逐次通訳を平行して学習する。</p> <p><参考文献>通訳・翻訳関係者の中での永遠のベストセラーを紹介しましょう。</p> <p>①「TREND 日米表現辞典」第4版 2940円(小学館) 経済、財政、国際政治からスポーツや社会問題までジャンル別に。日本語を英語にするには和英辞典以上に必需品である。「調べる」ために使うのはプロ。大学生には、読んで勉強する参考書としてお薦めの一冊。</p> <p>②「和文英訳の修業」著者：佐々木高政(文建書房) 日→英通訳の修業本として聖書のような存在になっている一冊。初版はなんと昭和27年!</p>		<p><第1回></p> <p>各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p><第2回～13回></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 先週の逐次通訳・同時通訳の仕上げ ② 3秒遅れのシャドーイング練習 ③ 新しい教材での逐次通訳 ④ 新しい教材での同時通訳 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		宿題、授業中の通訳、定期試験の総合評価	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション I a	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起させないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。</p> <p>しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レターさえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。ビジネス英語に馴染みのない初心者にビジネス英語の基本を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>春学期13回の履修、或いは秋学期13回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従つて、通年で履修する学生を対象にいたします。</p> <p>次に、外資系企業、航空業界、貿易会社、メーカーの国際部、金融関係、ホテル業界、旅行代理店等で英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思つています。将来に役立つ実践的な英語ビジネス・コミュニケーションの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。(下に続く)</p>		<p>(1) Business English を学ぶにあつて</p> <p>(2) ビジネスレターの形式</p> <p>(3) 効果的なビジネスレターを書くための10のポイント</p> <p>(4) 取引の申し込み</p> <p>(5) 取引の申し込みに対する応答</p> <p>(6) 引合い</p> <p>(ここからは、春・秋学期共通です)</p> <p>授業の最初に「経済一口講座」と称して、その時々話題になっている経済問題を英字新聞から取り上げて、易しく解説し、経済問題に親しんでもらいたいと思つています。同時に、英字新聞の基本的な「ビジネス欄の読み方」を指導いたします。これが、就職活動の一助になればと思つています。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体的目安と考へてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢 達郎著『Business Writing---英文ビジネスレター入門』金星堂		学期末の試験を中心にして、これに授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション I b	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く)</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、Business English を国際語である英語を使用して、ビジネスを促進させるためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方を例を挙げて説明・指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく説明・指導する。</p> <p>本講義は第1回目の授業で、直接教室で「履修登録選考」をいたします。履修登録選考は次の通りです。①定員を超えた場合は、通年履修登録希望者を優先して選考する。②次に①で定員に達しない場合は半期履修登録希望者を選考する。</p> <p>一緒に一年間勉強しましょう。そして、英語学科の学生として、英語ビジネス・コミュニケーションの基本ぐらいは勉強して卒業してもらいたいと思つています。</p>		<p>(7) 英文履歴書とカバーレターの書き方</p> <p>(8) オファー</p> <p>(9) オファーに対する応答</p> <p>(10) 信用状</p> <p>(11) 積出し</p> <p>(12) クレーム</p> <p>(ここからは、春・秋学期共通です)</p> <p>次に、「ビジネス英単語を覚えよう」と称して、実際に外資系企業等でよく使用されているビジネス英単語を身につけられるように指導し、解説していきます。春学期の後半から練習問題の形で、プリントを使用して勉強していきます。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体的目安と考へてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ		学期末の試験を中心にして、これに授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション(木3) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文(Business Correspondence)を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の各段階ごとに(右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元(春学期はUnit1~12)における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙(technical terms)を学ぶとともに、通信文の読解(英文和訳)と作成(和文英訳)の訓練を行います。また、毎月1回(春学期は5月、6月、7月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト(vocabulary check)を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意: このシラバスは木曜日3時限の授業のものです。私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容と授業計画の説明 2 ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などに関する講義 3 「市況」の実務知識と通信文の読解・作成 4 「取引先の発見」の実務知識と通信文の読解・作成および第1回語彙力診断テスト 5 「取引の申込み」の実務知識と通信文の読解・作成 6 「信用照会」の実務知識と通信文の読解・作成 7 「引合い」の実務知識と通信文の読解・作成 8 「引合いに対する返事」の実務知識と通信文の読解・作成および第2回語彙力診断テスト 9 「オファー」の実務知識と通信文の読解・作成 10 「カウンター・オファー」の実務知識と通信文の読解・作成 11 「注文」の実務知識と通信文の読解・作成 12 「注文の受諾と謝絶」の実務知識と通信文の読解・作成および第3回語彙力診断テスト 13 「成約」の実務知識と通信文の読解・作成および春学期の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習2 1講』(三恵社、2007年)および配布プリント		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション(木3) 英語ビジネス・コミュニケーションIb(木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文(Business Correspondence)を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の各段階ごとに(右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元(秋学期はUnit13~21)における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙(technical terms)を学ぶとともに、通信文の読解(英文和訳)と作成(和文英訳)の訓練を行います。また、毎月1回(秋学期は10月、11月、12月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト(vocabulary check)を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意: このシラバスは木曜日3時限の授業のものです。私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2 ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などに関する講義 3 「信用状の開設と訂正」の実務知識と通信文の読解・作成 4 「海上保険」の実務知識と通信文の読解・作成および第4回語彙力診断テスト 5 「輸出手配」の実務知識と通信文の読解・作成 6 「船積」の実務知識と通信文の読解・作成 7 「輸入手配」の実務知識と通信文の読解・作成 8 「決済」の実務知識と通信文の読解・作成および第5回語彙力診断テスト 9 「クレーム」の実務知識と通信文の読解・作成 10 「クレーム調整」の実務知識と通信文の読解・作成 11 「会社社交文」(推薦状)の実務知識と通信文の読解・作成 12 「会社社交文」(案内状)の実務知識と通信文の読解・作成および第6回語彙力診断テスト 13 「会社社交文」(礼状・見舞い状)の実務知識と通信文の読解・作成および秋学期の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習2 1講』(三恵社、2007年)および配布プリント		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション(木4) 英語ビジネス・コミュニケーションI a(木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documentation)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品(manufactured goods)の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、<u>成約にいたるまでの段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、レター・オブ・インテント(letter of intent ; LOI)、スポット売買契約書(spot sales contract)の表面約款と裏面約款、長期売買契約書(long-term sales contract)、取扱説明書(instruction manual)などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意：このシラバスは木曜日4時限の授業のものです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 レター・オブ・インテントの意義と目的、作成上の注意点等を説明した後、実際のサンプルを検討します。 3 同上 4 所与の状況設定に基づき、レター・オブ・インテントを作成する実習を行います。 5 同上 6 スポット販売契約書(売主側作成)とスポット購買契約書(買主側作成)の目的、作成上の注意点等を説明し、実際のサンプルの「表面約款」を検討します。 7 一般取引条件(general terms and conditions)、すなわちスポット売買契約書の「裏面約款」の目的、作成上の注意点、書式の闘い(battle of forms)等を説明し、主要な条件を中心に実際のサンプルを検討します。 8 同上 9 長期売買契約書の実質条項を中心に、実際のサンプルを検討します。 10 取扱説明書をPlain Englishで作成する方略を、製造物責任(Product Liability)の観点から検討します。 11 同上 12 同上 13 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション(木4) 英語ビジネス・コミュニケーションI b(木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documentation)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品(manufactured goods)の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、<u>履行および決済の段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、商業送り状(commercial invoice)、包装明細(packing list)、船荷証券(bill of lading)、保険証券(insurance policy)等の船積書類(shipping documents)、輸出申告書と輸入申告書(export declaration & import declaration)、荷為替信用状(documentary letter of credit)などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意：このシラバスは木曜日4時限の授業のものです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 各種の船積書類(shipping documents)の意義と目的、作成上または読解上の注意点等を説明します。 3 商業送り状と梱包明細書につき、実際のサンプルを検討した後、所与の状況設定に基づいてそれらの書類を正確に作成する実習を行います。 4 同上 5 船荷証券と保険証券の実際のサンプルを検討し、記載事項を正確に読解する実習を行います。 6 通関手続(customs clearance)について詳しく説明した後、輸出申告書と輸入申告書の作成の手順を実際のサンプルを使用して学びます。 7 所与の状況設定に基づき、輸出申告書を正確に作成する実習を行います。 8 同上 9 所与の状況設定に基づき、輸入申告書を正確に作成する実習を行います。 10 同上 11 荷為替信用状による決済の仕組みを説明します。 12 荷為替信用状の実際のサンプルを検討し、記載事項を正確に読解する実習を行います。 13 秋学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一に尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション I a	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っでの演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネス英語の特徴 2 プリント①(英文ビジネスコラム) 3 国際取引概略 I 4 プリント② 5 国際取引概略 II 6 プリント③ 7 引合(inquiry) 8 プリント④ 9 オファー I (offer) 10 プリント⑤ 11 オファー II 12 プリント⑥ 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション I a	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 契約 1 (contract) 2 プリント⑦ 3 契約 II 4 プリント⑧ 5 クレーム I (claim) 6 プリント⑨ 7 クレーム II 8 プリント⑩ 9 企業内組織の英語 <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

06 年度(春) 03～05 年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーションⅡa	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記の英文テキストおよび豊富な参考資料を活用して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。特に貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務の全体にわたって満遍なく、かつ細かく勉強することを狙いとします。</p> <p>春学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階）を詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめテキストの所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業はテキストの内容を補助プリントで敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書（信用調査報告書、一般取引条件、注文書、売買契約書、商業送り状、船荷証券、保険証券、輸出申告書、輸入申告書、荷為替信用状等々）に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限りつくります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業計画を説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 テキスト Part 1 で、貿易の基本概念（比較優位、貿易関係機関、関税、貿易形態など）を学びます。 3 同上 4 テキスト Part 2 で、貿易実務の遂行手順を主に輸出者の視点から6つの段階に区分し、概観します。 5 テキスト Part 3 および Part 4 の第1章で、ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行と促進に果たしている役割を学びます。 6 テキスト Part 4 の第2章と第3章で、貿易マーケティング段階（市場調査、販売戦略調査等）と取引関係創設段階（取引先選定、信用調査等）を学びます。 7 同上 8 同上 9 テキスト Part 4 の第4章～第6章で、成約段階（一般取引条件、定型貿易条件、オファー、注文等）を学びます。 10 同上 11 同上 12 同上 13 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊東ほか『現代商業英語読本（英文）』（英潮社新社）および配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーションⅡb	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記の英文テキストおよび豊富な参考資料を活用して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。特に貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務の全体にわたって満遍なく、かつ細かく勉強することを狙いとします。</p> <p>秋学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）を詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめテキストの所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業はテキストの内容を補助プリントで敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書（信用調査報告書、一般取引条件、注文書、売買契約書、商業送り状、船荷証券、保険証券、輸出申告書、輸入申告書、荷為替信用状等々）に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限りつくります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業計画を説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 テキスト Part 4 の第7章で、履行段階（船腹予約、輸出申告、輸出許可と輸出承認、個々の船積書類、船積の手続きと船積み通知等）について学びます。 3 同上 4 同上 5 同上 6 テキスト Part 4 の第8章で、決済段階（荷為替手形の取組、為替リスクの回避法等）について学びます。 7 同上 8 テキスト Part 4 の第9章で、海上貨物保険全般（保険者と被保険者、保険金と保険金額、保険料と保険料率、新旧協会貨物約款による各種の保険条件等）について学びます。 9 同上 10 テキスト Part 4 の第10章で、クレームおよびクレーム調整の段階（苦情とクレーム、クレームの種類と原因、国際商事仲裁など）について学びます。 11 同上 12 同上 13 秋学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊東ほか『現代商業英語読本（英文）』（英潮社新社）および配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06~07年度(春) 03~05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline. A look at some common media vocabulary. 2. Review of main news stories of recent months 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 4 12. Topic 4 (contd.) 13. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopied articles provided by teacher and video		Test at end of each semester; attendance; active participation in class.	

06~07年度(秋) 03~05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline. A look at some common media vocabulary. 2. Review of main news stories of recent months 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 4 12. Topic 4 (contd.) 13. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopied articles provided by teacher and video		Test at end of each semester; attendance; active participation in class.	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>国際化時代にあつて、国際語としての英語の重要性は極めて高いので、本講義では、「英字新聞丸かじり」と称して、「英字新聞の基本的な読み方」を指導し、これに対応する授業にしたいと思っています。</p> <p>しかし、TOEIC で 900 点を取得しても英字新聞を読みこなすことはできません。また、大半の学生が卒業しても、英字新聞を読めないのが現状であります。英字新聞をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょうか。英字新聞に馴染みのない学生に英字新聞の読み方を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>春学期 13 回の履修、或いは秋学期 13 回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従って、通年で履修する学生を対象にいたします。</p> <p>次に、外資系企業、航空業界、貿易会社、メーカーの国際部、金融関係、ホテル業界、旅行代理店等で、英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的なメディア英語の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。 (下に続く)</p>		<p>(1) 英字新聞を読む意義について</p> <p>(2) 英字新聞の特徴について</p> <p>(3) Headline (見出し) の読み方</p> <p>(4) Lead (記事の第 1 節) の読み方</p> <p>(5) 社会面の記事の読み方</p> <p>(6) 英字新聞でよく使用される語彙の勉強</p> <p>(ここからは、春・秋学期共通です)</p> <p>授業の最初に、「英字新聞の読み方のコツ」と称して、大きな問題となったトピックスを紹介し、英字新聞に頻出する語彙等を解説・説明いたします。同時に、第 2 回目の授業で「約 400 語の英字新聞に頻出する基本語彙集」のプリントを配布いたします。これにより、秋学期の終わりには、英字新聞をある程度読めるようになると確信しております。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体的目安と考えて下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験を中心にして、これに授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く)</p> <p>具体的に講義を説明いたします。本講義では、「英字新聞丸かじり」と称して、英字新聞の読み方の基本を勉強していきます。プリントを使用して、英字新聞を読む意義、英字新聞の特徴、Headline (見出し) の読み方、Lead (記事の第 1 節) の読み方などの基本をまず指導していきます。次に、具体的に、社会面・政治面・経済面・国際面の記事、社説の読み方、コラムの読み方、オピニオン欄の読み方などを勉強していき、英字新聞全体をある程度読みこなす力を養成していきたいと思っています。新聞は日本で発行されている英字新聞を中心にして、New York Times, Washington Post のようなアメリカの主要な新聞も取り上げます。</p> <p>本講義は第 1 回目の授業で、直接教室で「履修登録選考」をいたします。履修登録選考は次の通りです。①定員を超えた場合は、通年履修登録希望者を優先して選考する。②次に①で定員に達しない場合は半期履修登録希望者を選考する。</p> <p>一緒に一年間勉強しましょう。そして、英語学科の学生として、英字新聞をある程度読みこなして卒業してもらいたいと思っています。</p>		<p>(7) 政治面の記事の読み方</p> <p>(8) 経済面の記事の読み方</p> <p>(9) 国際面の記事の読み方</p> <p>(10) 社説の読み方</p> <p>(11) コラムの読み方</p> <p>(12) オピニオン欄の読み方</p> <p>(13) 英字新聞でよく使用される語彙の勉強</p> <p>(ここからは春・秋学期共通です)</p> <p>昨年度好評であった「英語で何と言うの?コーナー」を再度設けて、英語でどう表現しているかを学びます。例えば、「ワンルームマンション、経済格差、C 型肝炎、賞味期限、受動喫煙、過労死、残業代、万能細胞」と言ったその時々話題となった問題を取り上げて紹介し、解説していきます。昨年度に行った「英語で何と言うの?コーナー」100 例のプリントを第 3 回目の授業で配布いたします。</p> <p>このように、本講義は、「英字新聞丸かじり」の授業です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験を中心にして、これに授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 Ia	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ国内でのテレビニュースの英語はかなり早い速度である。使われる単語は一音節の短いものが多く、文章は単文が多用される。また、ニュースに緊張感・臨場感を持たせるために、不完全な文が使われることもある。</p> <p>このような英語に慣れるため、この授業では、ビデオやテープを用いて、速度の早い英語を聴き取る練習をする。何度も繰り返し聴いていると、次第に耳が慣れてきて、ニュースの内容もつかめるようになってくる。</p> <p>また、新聞で使われる英語についても学んでいく。これも小説や随筆で使われる英語とは異なり一種独特なものである。その特徴を把握し、苦勞せずに英字新聞が読めるようになるよう指導する予定。</p> <p>つまり、メディアで使われる英語に慣れること、速度の早い英語を聴き取る力を養うこと、がこの授業の目的である。</p>		<p>テキストは15課から成り立っているが、一回の授業で1課終わらせる。春学期には7課まで進む予定。</p> <p>この他、新聞、ラジオ（FEN）、漫画なども活用する計画。更に、ヒヤリング能力を向上させるため、アメリカ映画も利用する予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ABC World News 7 金星堂 参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習をして授業に臨んだか否か、授業中の発言・質問、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 Ib	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<p>秋学期はテキストの8課から最後の課まで終わらせる予定。</p> <p>春学期同様、新聞、ラジオの英語についても学ぶ。</p> <p>また、アメリカ映画も活用の予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家・第一人者へのインタビューを中心に、日本の今後の進路と他国との協調共存を考える。テキストのほか、インターネット、英字新聞をはじめ、CNN、ABC、BBCなどの英語放送やサブテキストを使って、テキストを renewal する。		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 日米関係 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 日欧関係 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. アジア関係 11. 同上 12. 同上 13. 全体まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>I Too, Am a Bit of a Workaholic, but...</i> (テキスト)、ほか		テストと出欠を含む平常点。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者たちの英語（ブッシュ、ブレアーなど） 2. 同上 3. 同上 4. アジア英語（シンガポール、マレーシアなど） 5. 同上 6. 同上 7. 日本人の英語（小泉首相、長谷川滋利選手など） 8. 同上 9. 同上 10. 共通語としての英語 11. 同上 12. 同上 13. 全体まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 Ia	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語のメディアを通じて現代社会を理解する英語力を養成することにある。授業では、新聞・雑誌記事の構成など基礎をまず学び、リーディング、リスニング、ディクテーション、グループ・ディスカッションなどの実践的な学習を通じて、メディアで使用される英語に慣れ親しみ、メディアを通じて発信される情報を理解するのに必要な英語力の向上を目指す。</p> <p>指定するテキストの他に新聞記事、雑誌記事、オンライン・ニュースなど生の教材を使用する予定である。現代社会問題を中心に、毎週異なるテーマを扱う。学生には学期中に一度は新聞記事に関する発表をしてもらう予定である。</p> <p>授業への積極的な参加を望むため、出席ならびに授業への参加度合を重視する。原則として、4回を超えて欠席した場合には単位修得の権利を失う。</p> <p>尚、第一回目のオリエンテーションにて授業の詳細を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ～3. 英字新聞、記事の構成について 4. ～13. 教材に基づくリスニングやディスカッションなど。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sakae Onoda and Lucy Cooker, <i>BBC Understanding the News in English 5</i> , Kinseido, 2008. その他資料を配布する。		出席、発表、学期末試験の総合評価とする。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 Ib	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語のメディアを通じて現代社会を理解する英語力を養成することにある。授業では、新聞・雑誌記事の構成など基礎をまず学び、リーディング、リスニング、ディクテーション、グループ・ディスカッションなどの実践的な学習を通じて、メディアで使用される英語に慣れ親しみ、メディアを通じて発信される情報を理解するのに必要な英語力の向上を目指す。</p> <p>指定するテキストの他に新聞記事、雑誌記事、オンライン・ニュースなど生の教材を使用する予定である。現代社会問題を中心に、毎週異なるテーマを扱う。学生には学期中に一度は新聞記事に関する発表をもらう予定である。</p> <p>授業への積極的な参加を望むため、出席ならびに授業への参加度合を重視する。原則として4回を超えて欠席した場合には、単位修得の権利を失う。</p> <p>尚、第一回目のオリエンテーションにて授業の詳細を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、発表者決め 2. ～3. 英字新聞、記事の構成について 4. ～13. 教材に基づくリスニング、ディスカッションなど。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sakae Onoda and Lucy Cooker, <i>BBC Understanding the News in English 5</i> , Kinseido, 2008. その他資料を配布する。		出席、発表、学期末試験の総合評価とする。	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語 II メディア英語 II a	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the Spring term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class.</p>		<p>Introduction Route 66, Weekly Current Event The American RED Cross, Weekly Current Event The Boston Ballet, Weekly Current Event Comedy, Weekly Current Event Political Protest, Weekly Current Event The Yellow Pages, Weekly Current Event The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event Healthy Life Styles, Weekly Current Event Supermarkets, Weekly Current Event Apples in the US Northwest, Weekly Current Event</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語 II メディア英語 II b	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the Spring term, students will submit homework by email. Students will be filmed by video camera and will be responsible for one presentation this term in a group project.</p>		<p>Introduction Tennessee, Weekly Current Event The Special Olympics, Weekly Current Event Sports Shoes, Weekly Current Event Charities for Children, Weekly Current Event Health and Comedy, Weekly Current Event Broadway Musical, Weekly Current Event Country Western Singers, Weekly Current Event Space Exploration, Weekly Current Event Video Taping of Group Project Part One Video Taping of Group Project Part Two Critique of the Group Projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation	

06～07年度（春） 03～05年度（春）	メディア英語 II メディア英語 IIa	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に務めたい。必要に応じて、記事の内容理解に役立つために背景などについて学生に発表をしてもらう。最後に試験を行う。</p>		<p>毎回、授業の初めに単語小テストを行う。授業では主に和訳をしながら記事を読み進める。必要に応じて内容に関する発表を学生にしてもらう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		出席、授業態度、単語小テストの結果、発表内容、最終試験の結果から総合的に評価する。	

06～07年度（秋） 03～05年度（秋）	メディア英語 II メディア英語 IIb	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		出席、授業態度、単語小テストの結果、発表内容、最終試験の結果から総合的に評価する。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日では、レンタルビデオを利用すれば、どんな時代の映画でも観ることができる。まことに結構な時代となったものである。では、映画についてひとつ勉強し、これを自分の趣味、教養として取り入れてはどうであろうか。</p> <p>この授業では映画史を中心に学んでいく。毎回、テキストに入る前の10分位を使って、映画誕生前の連続写真、エジソン、ルミエールの作った映画、無声映画時代の人気俳優、ロスコー・アーバックルやセダ・バラ出演の映画、最初のトーキー映画などなどを、ビデオを利用して鑑賞する。</p> <p>また、映像用語やヘイズ・コードについてのプリントも配布し説明する予定。</p> <p>テキストはイギリス人がイギリス人のために書いた本から作られたものである。しっかりした英語で書かれているので、これを精読し、英語の底力を身につけていく。</p> <p>更に、前期、後期とも、とっておきの名画を何本か鑑賞し、解説を加える予定である。</p> <p>この授業は、映画が好きな人、少なくとも映画が嫌いではない人向けの授業である。</p>		<p>The coming of colour Making cartoons Computers Special effects Making them move Monster movies Monster-makers The 'boo moment' Stunts, fires and explosions Fights and bullets などについて学ぶ。</p> <p>更に、映画に関する原書からの抜粋も利用する計画である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Amazing History of Cinema</i> 成美堂 参考書は授業中に適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習をして授業に臨んだか否か、授業中の発言・質問、期末試験などにより評価が決定される。</p>	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<p>Working models Flying Weather Making a movie Development Pre-production Set design The director Costume Production Make-up Continuity Post-production Publicity The Oscars Cinemas などについて学んでいく。</p> <p>春学期同様、研究書からの抜粋も利用する予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>公開後 60 年を経ても今尚その輝きを失わない名画、「カサブランカ」。(アカデミー賞受賞) 第二次世界大戦のヨーロッパ、モロッコを舞台に繰り広げられる物語をDVDで観賞し、生き生きとしたオーセンティックな使える英語を学び、発表などを通じて実際に使えるようにしていきます。時代的背景の中で深みのある台詞でつづられていくストーリーを楽しみながら学べると思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>まず、DVDを見て内容を理解します。スクリプトを読み、Exercise で確認します。最後にチャプターごとにスクリプトを練習して発表をし、生きた英語を身につけていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 This Place Is Full Of Vultures 3. Chapter 2 Will You Keep This For Me? 4. Chapter 3 You Are At Heart A Sentimentalist 5. Chapter 4 Rick Is Completely Neutral About Everything 6. Chapter 5 Play “As Time Goes By.” 7. Chapter 6 I’m Waiting For A Lady 8. Chapter 7 Kiss Me As If It Were The Last Time 9. Chapter 8 Why Did You Come To Casablanca? 10. Chapter 9 Nobody Is Supposed To Sleep Well In Casablanca 11. Chapter 10 You’re A Fat Hypocrite 12. 発表 13. 試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by K. Sonoda, M. Ishigaki, K. Nakagaki, C. Nagao, T. Mitsui. <i>Casablanca</i> . (映画シナリオ カサブランカ) 鶴見書店。¥1900 +税		出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験等から総合的に評価します。主に授業中のプレゼンテーションを重要視しますので、出席は最も重要。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		<ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter 11 Victor Laszlo Is My Husband 2. Chapter 12 Ugarte Left Those Letters With M’sieur Rick 3. Chapter 13 I Blow With The Wind 4. Chapter 14 Everybody In Casablanca Has Problems 5. Chapter 15 The Place Is To Be Closed 6. Chapter 16 Were You Lonely In Paris? 7. Chapter 17 I Wish I Didn’t Love You So Much 8. Chapter 18 It Seems That “Destiny” Has Taken A Hand 9. Chapter 19 I’m Taking A Friend With Me 10. Chapter 20 Not So Fat, Louise 11. Chapter 21 We’ll Always Have Paris 12. Chapter 22 This Is The Beginning Of A Beautiful Friendship 13. 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

06～07 年度（春）	英語学の世界	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深め、英語についての知識を増やすことにあります。したがって、高校時代に習ってきた表現が「なぜそう言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対して、それなりに「なるほど！」と納得のいく理由のあることを説明していきます。</p> <p>この授業を受けると、例えば日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“*I persuaded John out of smoking, but he didn't quit smoking.”と言えない理由や、“I'm standing () the street.”のカッコに in と on が入るけど、意味が違うことも分かるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的統語論（情報構造、受身文、再帰代名詞） 2. ” 3. ” 4. ” 5. 意味論（語・句・節の意味、意味関係、前提と断定、） 6. ” 7. 認知意味論（カテゴリー化、メタファー、メトニミー、イメージスキーマ、文法化、意味変化） 8. ” 9. ” 10. 語用論（ダイクシス、ポライトネス） 11. ” 12. 関連性理論（コミュニケーションと解釈原則、表意と推意、概念的コード化と手続き的コード化） 13. ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリント（随時配布）を使います。 参考書は随時紹介します。</p>		<p>試験と課題によります。（下を参照）</p>	

06～07 年度（秋）	英語学の世界	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学における機能主義の考え方を修得すること並びに機能主義の観点から行なわれた英語の省略現象、後置現象及び数量詞遊離現象の分析（機能的構文論による分析）を理解することである。具体的には、次のような文を扱うことになる。</p> <p>(1) a. John read Hamlet, and Mary King Lear. b. John doesn't like chicken, nor Mary pork.</p> <p>(2) a. A man came yesterday with blue eyes. b. Into the building walked John.</p> <p>(3) a. The students all came to the party. b. The guests will each make a speech.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第1回（9月26日）形式主義と機能主義 第2回（10月3日）省略現象1 第3回（10月10日）省略現象2 第4回（10月17日）省略現象3 第5回（10月24日）後置現象1 第6回（10月31日）後置現象2 第7回（11月7日）後置現象3 第8回（11月14日）後置現象4 第9回（11月21日）数量詞遊離現象1 第10回（11月28日）数量詞遊離現象2 第11回（12月5日）数量詞遊離現象3 第12回（12月12日）数量詞遊離現象4 第13回（12月19日）まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 配布資料 参考文献 神尾昭雄・高見健一（1998）『談話と情報構造』東京：研究社出版。 高見健一（1997）『機能的統語論』東京：くろしお出版。</p>		<p>出席状況や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

07年度以前（春）	言語情報処理 I a	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p>[概要] コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が生かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかってくるということがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ 10 は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業では、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 コーパスとは何か 3 コンピューターの基本操作: テキストエディタ 4 コンピューターの基本操作: MS Excel 5 高度な Web 検索方法 6 British National Corpus (BNC) の紹介 7 BNC を利用した語句検索 8 BNC を利用した共起検索 9 BNC を利用した話し言葉と書き言葉の比較 10. 映画コーパスの分析: 口語表現の特徴 11. 映画コーパスの分析: ジャンルによる違い 12. 映画コーパスの分析: 品詞分析 13. 最終レポートの準備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

07年度以前（秋）	言語情報処理 I b	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 春学期に引き続き、コーパス分析を行うが、今学期は受講生が自らの英語学習あるいは英語分析に必要なと思われるコーパスを作成すること、それをより洗練された方法で分析する知識と方法を身につけることを目的とする。</p> <p>[概要] WWW を中心とした膨大な電子データが身近にある昨今、それらはわれわれ英語学習者にとっての非常に有効な reference となり得る。本学期の前半は、受講生個々人が自分専用の参照資料となり得るようなミニ・コーパスの構築を行っていく。コーパスファイルを形成するにあたっての注意点、著作権への留意点を合わせて扱う。 後半は、英語を母語としない人たちの発話（書き言葉を含む）を集めた、いわゆる「学習者コーパス」の分析を行う。そこで、日本人に特徴的な語彙、文法の使用や誤りなどについて取り扱っていく。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「言語情報処理 I a」を受講していることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスファイルの特徴 3. コーパスの作成（グループワーク）(1) 4. コーパスの作成（グループワーク）(2) 5. コーパスの作成（グループワーク）(3) 6. 自作コーパスの分析: 特徴語彙の抽出 7. 自作コーパスの分析: 品詞タグの付与 8. 自作コーパスの分析とレポートの準備 9. 学習者コーパスとは 10. 学習者コーパスの分析: 語彙的特徴 11. 学習者コーパスの分析: 文法的特徴 12. 学習者コーパスの分析: 特徴的な誤り 13. 最終レポートの準備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

07年度以前(春)	言語情報処理 I a	担当者	吉成 雄一郎
講義目的, 講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見ようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方を、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト (1) 8 Excel 関数のネスト (2) 9 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 10 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 11 データベース上のデータの蓄積方法 12 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 13 まとめと演習 	
テキスト, 参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

07年度以前(秋)	言語情報処理 I b	担当者	吉成 雄一郎
講義目的, 講義概要		授業計画	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ 11 文の長さが意味するもの—標準偏差・変動係数 12 語彙密度・K 特性値 13 まとめと演習 	
テキスト, 参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

07年度以前（春）	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「言語情報処理Ⅱ」は「言語情報処理Ⅰ」の履修を前提としません。はじめての人も受講を歓迎します。</p> <p>現代社会にあつて、外国語を習得することと同様に学生時代に身につけておきたい能力が情報処理です。英語が使えることに加えて、コンピュータが使いこなせなければ、どのような分野で仕事をしていても、速く、正確に遂行することができます。</p> <p>この講義では、英語を使って、将来教職に就きたい人、ビジネスの第一線で働きたい人、研究職に就きたい人などを対象に、基本的な情報処理について学びます。単にスキルを身につけるといっただけでなく、情報処理するということはどのようなことなのかをアカデミックに勉強しますから、できれば通年で履修してもらいたいと思います。もちろん、はじめての人にもわかりやすくゆっくと進めます。</p> <p>春学期には、基本的な情報処理の考え方を学びます。使うソフトは主に、Microsoft Excel ですが、PowerPoint や Word などの連携などもにも触れたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数の扱い 5 Excel 関数のネスト 6 データベース処理 7 データベース上のデータの蓄積方法 8 PowerPoint や Word との連携 <p>*その他受講生の皆さんの理解度と反応によって、コンテンツを提供します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

07年度以前（秋）	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「言語情報処理Ⅱ」は「言語情報処理Ⅰ」の履修を前提としません。はじめての人も受講を歓迎します。</p> <p>獨協大生の4人に一人は末っ子だ、と聞いて、驚きますますか、納得しますか。実はこの数字が、獨協の友達4人に聞いたらそのうちの一人が末っ子を聞いて、それから導き出された結論だとしたらいかがですか。</p> <p>社会にはデータがあふれています。これらのデータをうまく処理することで、物事の本質の一面を正しくとらえることができるのです。逆にデータの処理の仕方を誤ると、間違っただけの結論にもなってしまうわけです。</p> <p>本講義では、春学期に学んだ Microsoft Excel(以下 Excel)を使って、データの処理の仕方を学んでいきます。また、処理した結果をグラフ化したり、Word に貼り付けてレポートを作ったり、PowerPoint で表示させてみましょう。分からないことは何でも質問してください。</p> <p>この講義が終わることには、Excel の使い方に精通しているだけでなく、統計処理の基本概念が身についていることでしょう。この知識は将来、きっと様々なところで役に立つと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：Excel と統計 2 統計って何？ 3 平均にだまされるな 4 ばらつきって何？ 5 度数分布 6 相関 7 「偏差値」とは何だったのか 8 検定 <p>*その他受講生の皆さんの理解度と反応によって、コンテンツを提供します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

06～07年度（春）	英語発音教授法	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。</p> <p>理論と実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、連接、強勢とリズム、抑揚などについての教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書等を教材として用い、実際に教授法を工夫し、発表する。</p> <p>英語教育に関心のある2年生以上を対象とする半期完結科目。免許課程登録者でなくても履修可。</p> <p>受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。</p> <p>定員は25名。受講希望者は最初の授業に必ず出席すること。受講希望者が定員を超えた場合は、その場で抽選を行う。<u>無断登録は認めない。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 英語の母音の特徴 3. " (Presentation & Quiz) 4. 英語の子音の特徴 5. " (Presentation & Quiz) 6. まとめ（対話や散文等を用いた練習），音声提出(1) 7. 英語の強勢とリズム 8. " (Presentation & Quiz) 9. 英語のイントネーション 10. " (Presentation & Quiz) 11. 英語の音変化 12. " (Presentation & Quiz) 13. まとめ（総復習），音声提出(2) 	
参考文献		評価方法	
参考書： (1) P. Avery and S. Ehrlich, <i>Teaching American English Pronunciation</i> , OUP. (2) Gerald Kelly, <i>How to Teach Pronunciation</i> , Longman.		日常点（出席状況、授業への参加度など）、Quiz、Presentation、期末試験（音声提出）による。	

06～07年度（秋）	英語発音教授法	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	シンタクス a 統語論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 言語は音と意味とを関連づける記号体系であり、音と意味の関連づけに重要な役割を果たすのが統語構造である。 生成文法理論に基づく英語の研究から得られた成果を踏まえ、英語の統語構造について、語順や句構造といった一般的な特徴から、主語・述語などの文の主要な要素、等位構造・従位構造、受動文、否定文などの具体的な構造や構文に関する特徴まで様々な特徴を講義する。</p> <p>講義概要: 統語構造を説明する統語論が言語理論・文法理論においていかなる位置づけをもつかを見るために、まず、統語論以外の音声学・音韻論・意味論・語用論を簡単に概観する。 文の統語構造は、語の線状的配列、語と句の種類(範疇)、語句の階層構造の三要素によって説明される。更に、文の統語構造の説明には、抽象的構造と具体的構造と両構造を関連づける仕組みが必要になることを説明する。 文の具体的な特徴として、主語と述語、述語を構成する要素、助動詞要素、副詞要素の意味的・統語的特徴を説明する。さらに、述語に含まれる目的語や補語、直接目的語・間接目的語およびこれらの要素と類似した要素を詳しく見る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語学における統語論の位置付け 2. 語順と句構造の重要性 3. 循環的特性と言語使用の創造的側面 4. 具体的構造・抽象的構造と変形的特性〔練習問題〕 5. 文の特徴～主語の種類と特徴 6. 文の特徴～述語動詞と述語の構造〔練習問題〕 7. 助動詞要素の種類と統語的特徴と代用助動詞 do 8. 副詞の特徴～3種類の副詞とその分類基準 9. 述語要素の特徴～目的語と補語の特徴と区別 10. 直接目的語と間接目的語と疑似目的語〔練習問題〕 11. 補語と叙述形容詞と単純形副詞 12. 補語としての副詞要素と補語の再定義 13. 文修飾要素・述語修飾要素としての副詞要素〔練習問題〕 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 鈴木英一(著)『統語論』開拓社. 参考文献: 長谷川欣佑(著)『生成文法の方法—英語統語論のしくみ』研究社. 斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)『英文法への誘い』開拓社.</p>		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	シンタクス b 統語論 b	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的:(春学期と同じ) 生成文法理論に基づく英語の研究から得られた成果を踏まえ、英語の統語構造について、語順や句構造といった一般的な特徴から、主語・述語などの文の主要な要素、等位構造・従位構造、受動文、否定文などの具体的な構造や構文に関する特徴まで様々な特徴を講義する。</p> <p>講義概要:(春学期の続き) より複雑な文の構造として等位構造と従位構造を取り上げ、等位接続された重文と従位接続された複文の特徴と相違点や等位接続詞と従位接続詞の区別を説明する。 さらに、等位接続文に関しては節接続と句接続との区別、従位節に関しては定形節と非定形節との区別を明らかにする。非定形節には不定詞節と動詞のing節があり、不定詞節とing節には名詞的・形容詞的・副詞的・動詞的用法の四つの用法があることを説明する。また、不定詞を含む重要な構文である「不定詞付き対格構文」の種類と特徴を述べる。 具体的な構文として受動文と否定文を取り上げる。受動文については、受動文の特徴と受動可能性(能動文と受動文の対応の可能性)を説明し、否定文に関しては、否定要素が文中で生ずる位置と否定する領域・範囲を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 接続構造～接続構造の種類と多重文 2. 等位構造と従位構造 3. 等位接続詞と従位接続詞の特徴と区別〔練習問題〕 4. 等位構造の特徴～節接続と句接続、重文内の省略 5. 従位節の特徴～従位接続詞と前置詞、従位節内の省略 6. 従位節の種類～定形節と非定形節の区別〔練習問題〕 7. 不定詞と動詞 ing 形の四つの用法と二種類の動名詞 8. 「不定詞付き対格(目的語)構文」の種類と特徴 9. 受動文～一般的特徴と能動文との対応 10. 受動可能性と意味的・統語的制約 11. 受動可能性と語彙的・語用論的制約〔練習問題〕 12. 否定文の一般的特徴～否定要素の種類と特徴 13. 否定要素の位置と否定の領域～全文否定と局所否定〔練習問題〕 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 鈴木英一(著)『統語論』開拓社. 参考文献: 長谷川欣佑(著)『生成文法の方法—英語統語論のしくみ』研究社. 斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)『英文法への誘い』開拓社.</p>		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

07年度以前（春）	意味論 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーションの本質は、ことば（あるいはその代用となるもの、例えばジェスチャーや手話など）によって媒介される意味を通してわれわれの周りにいる人たちや状況に働きかけることにあります。この授業ではその日常の言語生活での意味のやり取りというわれわれの営みを理解するためには、どういう視点でそれを捉えればよいかという、いわば考え方の枠組について解説します。</p> <p>この授業を受講すると、たとえば see と look と watch の使い分けや、rob の後に He robbed the rich of all their money と「人」が来るのに steal の場合は He stole money from the rich. と「物」が来るのはなぜかとか、どうして I'm going to be twenty next month. の be going to に動詞の go(行く)が使われているのか、などといったことがわかるようになります。</p> <p>なお、昨年度のこの「意味論 a」の単位取得者は登録できません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活の中の「意味論」 2. ことばと意味 3. " 4. ことばの意味と辞書 5. " 6. 語彙の中の意味関係 7. " 8. 文法と意味 9. " 10. " 11. " 12. 意味とコンテキスト 13. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・池上嘉彦 編『英語の意味』大修館書店 ¥1600 ・プリント（随時配布） 		定期試験とふだんの努力によります。	

07年度以前（秋）	意味論 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、意味論の観点から、英語に対する理解を深めることである。これにより、間違いのない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また、英語に対する深い理解は、同時に、多くのものにとっての母語である日本語に対する理解も深めることになるであろう。</p> <p>授業では、下記のテキストの第3章「文法と意味」、第4章「意味とコンテキスト」及び第6章「言語の普遍性と相対性」の内容を講義する。学期末には、たとえば、I believe John honest. という文と I believe that John is honest. という文の間の意味の違いや、“Where am I?”に対応する日本語が「ここはどこですか」であることを知識として知るだけでなく、これらの事実に対して説明を与えることができるようになっていくはずである。英語に対するこのような接し方は、単なる暗記の対象としての英語、意思伝達の道具としての英語という見方を考え直す契機となるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第1回（9月26日）文法と語法 第2回（10月3日）動態的か状態的か 第3回（10月10日）構文と意味の関係1 第4回（10月17日）構文と意味の関係2 第5回（10月24日）直接的な関与と間接的な関与 第6回（10月31日）「行為の過程」と「行為の目標達成」 第7回（11月7日）影響は部分的か全体的か 第8回（11月14日）話題は既出か新出か 第9回（11月21日）自然な表現・不自然な表現1 第10回（11月28日）自然な表現・不自然な表現2 第11回（12月5日）言語間の表現の好みの差1 第12回（12月12日）言語間の表現の好みの差2 第13回（12月19日）言語間の表現の好みの差3 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 池上嘉彦（2006）『英語の感覚・日本語の感覚— ことばの意味のしくみ』東京：日本放送出版協会。</p> <p>参考文献 池上義彦（1995）『 英文法を考える』東京：筑摩書房。</p>		出席状況や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

07年度以前(春)	音声・音韻論 a	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声言語の研究には、実際の音声を正確に観察し、その実態を探る分野と、言語体系の中での音の役割、機能、その構造を検討する分野がある。本講義でもこの二つの分け方で、春学期は前者を、秋学期は後者を主に扱う。</p> <p>概要：春学期は生理学、物理学の観点から、音声研究が進められてきた内容を解説する。 なお、重要、かつ複雑な文、図表はプリントにして配布するので、テキストは特に指定しない。 出席状況は重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Basic component of speech 2. Phonation and articulation 3. Source-filter theory 4. Neuromuscular phase 5. International phonetic alphabet 6. Consonants I 7. Consonants II 8. Two types of co-articulation 9. Vowels I 10. Vowels II 11. Prosodic features 12. Stress 13. Intonation, duration 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>P. Lieberman & S.E. Blumstein: <i>Speech physiology, speech perception, and acoustic phonetics.</i></p> <p>P. Ladefoged: <i>Elements of Acoustic Phonetics.</i></p>		期末のテストの成績と出席状況	

07年度以前(秋)	音声・音韻論 b	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声言語の研究には、実際の音声を正確に観察し、その実態を探る分野と、言語体系の中での音の役割、機能、その構造を検討する分野がある。本講義でもこの二つの分け方で、春学期は前者を、秋学期は後者を主に扱う。</p> <p>概要：音体系は言語一般に共通する部分と、特定言語に係わる部分があるが、授業では日本語、英語の事例を使い、練習問題を解きながら、双方の理論の理解を深めるようにしたい。春学期の授業が基礎になるので、春学期の授業内容は十分理解しておいて欲しい。 なお、重要、かつ複雑な文、図表はプリントにして配布するので、テキストは特に指定しない。 出席状況は重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Phoneme 2. Distinctive features 3. Redundancy 4. Phonological representation 5. Phonological process I 6. Phonological process II 7. Naturalness and strength 8. Formalisation and ordering 9. Linear rule ordering 10. Abandoning extrinsic ordering 11. The abstractness of underlying representations 12. Syllables and moras 13. Representing tone 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>F. Katamba: <i>An introduction to Phonology.</i></p> <p>M. Davenport & S.J. Hannahs: <i>Introducing Phonetics and Phonology.</i></p> <p>C. Gussenhoven & H.Jacobs: <i>Understanding Phonology.</i></p>		期末のテストの成績と出席状況	

07年度以前(春)	英語学特殊講義 a	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 英語と日本語を中心に、さまざまな音の特徴や変化についてその構造や法則を考えていく(音韻論の入門)。</p> <p>音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。音声は常に変化する量的なもので千差万別であり、空中に音波としての実体がある。一方、音韻はその変化する音声に、AならA、BならBという質的(非量的)な記号を当てはめて脳に格納されている抽象的実体である。</p> <p>音韻論の基礎を見ながら、その抽象化された言語記号の構造や変化と、その裏にある音声の多様性の実態を紹介しながら、音声と音韻の関係について考察していきたい。</p> <p><u>講義概要</u> 毎回のリーディングや調査などの予習課題をもとに解説の講義をし、毎回のクイズで理解を確認する。予習、出席、提出などに積極的な参加を求める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第1章 言語の研究と音声の研究 第2章 音声産出の仕組み 母音の有標性、子音の有標性 弁別素性と余剰性 — 音韻と音声 第3章 音素と音素体型 (K)音と意味、音声特徴 Review exercises 第4章 音節モーラ (K)音節と音の並び方 音韻的分節、音声的分節、分綴法 第5章 語アクセント アクセント(強 or 弱、高 or 低)と音声の多様性、知覚 (S)韻律音韻論 Review exercises 	
テキスト、参考文献		評価方法	
窪菌晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版(1998) ISBN4-87424-156-5、その他 配布資料 (参考書) 川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館(1999)		出席、毎回の課題、期末テスト・課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。	

07年度以前(秋)	英語学特殊講義 b	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 春学期に同じ。</p> <p><u>講義概要</u> 春学期に同じ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> (K)音韻現象を探る (K)同化現象、(形態音素) 第6章 文の発音 (K)リズムとイントネーション リズムとイントネーション(2) (S)音素と音響的特長 review exercises (S)音声の知覚、音声から音韻へのマッピング 鼻母音(音韻)と鼻音化母音(音声) 母音の脱落(音韻)と調音重複(音声) 母音の脱落(音韻)と無声化(音声) 最適性理論 Review exercises 	
テキスト、参考文献		評価方法	
窪菌晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版(1998) ISBN4-87424-156-5、その他 配布資料 (参考書) 清水克正『英語音声学 理論と学習』勁草書房(1995)		出席、毎回の課題、期末テスト・課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。	

06年度以前（春）	英語学文献研究 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここでの目的は、英語学に関する知識を単に増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の指摘の仕方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の仕方、口頭発表の技術などを身につけることを目標としたい。</p> <p>授業では、生成文法理論の入門書である下記のテキストの第1章を一行一行丹念に読み進めていく（プリントを配布する）。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては、内田義彦の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p>		<p>13回の授業で1章分を読む予定である。以下に、進度の目安となる予定を掲げておく。</p> <p>第1回（4月9日）1頁から2頁 第2回（4月16日）2頁から5頁 第3回（4月23日）5頁から10頁 第4回（4月30日）10頁から13頁 第5回（5月14日）13頁から17頁 第6回（5月21日）17頁から23頁 第7回（5月28日）23頁から27頁 第8回（6月4日）27頁から30頁 第9回（6月11日）30頁から32頁 第10回（6月18日）32頁から34頁 第11回（6月25日）34頁から39頁 第12回（7月2日）39頁から42頁 第13回（7月9日）42頁から46頁</p> <p>なお、1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合にはその場で担当者が選考しますので、履修希望者は当日必ず出席してください（代理人は認めません）。選考結果は当日中ないし後日速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Radford, Andrew (1988) <i>Transformational Grammar: A First Course</i> . Cambridge: Cambridge University Press.		担当部分の発表や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

06年度以前（秋）	英語学文献研究 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここでの目的は、英語学に関する知識を単に増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の指摘の仕方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の仕方、口頭発表の技術などを身につけることを目標としたい。</p> <p>授業では、下記のテキストの第4章“Verbs and Times”を一行一行丹念に読み進めていく（プリントを配布する）。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては、内田義彦の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>学期末には、たとえば、John drank wine {for/*in} thirty minutes. という文や John drank a bottle of wine {*/for/in} thirty minutes. という文に対して説明が加えられるようになるはずである。</p>		<p>13回の授業で1章分を読む予定である。以下に、進度の目安となる予定を掲げておく。</p> <p>第1回（9月24日）97頁から98頁 第2回（10月1日）98頁から99頁 第3回（10月8日）99頁から101頁 第4回（10月15日）101頁から103頁 第5回（10月22日）103頁から105頁 第6回（10月29日）105頁から107頁 第7回（11月5日）107頁から108頁 第8回（11月12日）108頁から109頁 第9回（11月19日）109頁から111頁 第10回（11月26日）111頁から113頁 第11回（12月3日）113頁から115頁 第12回（12月10日）115頁から118頁 第13回（12月17日）118頁から121頁</p> <p>なお、1回目の授業で定員を超える履修希望者がいた場合にはその場で担当者が選考しますので、履修希望者は当日必ず出席してください（代理人は認めません）。選考結果は当日中ないし後日速やかにお知らせします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vendler, Zeno (1967) <i>Linguistics in Philosophy</i> . Ithaca, New York: Cornell University Press.		担当部分の発表や試験などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

06～07 年度(秋)	英語圏の文学・文化	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語圏の文学・文化からいくつかの重要なモーメントを抜き出して考察し、社会的な変化や思想史的な流れを辿りたい。</p> <p>学期末のレポートはジョーゼフ・コンラッドの中篇小説『闇の奥』(1899)とフランシス・コッポラの映画『地獄の黙示録』(1979)について、「小説の Coastal (Outer) Station, Central Station, Inner Station は映画ではどのように描写されているか、比較した上であなたの考えを述べよ。(2000~2500 字)」である。前者は中野好夫による訳が岩波文庫に収められているが、1958 年の出版で日本語が難解な上に、解説にも若干の誤りがあるので余り薦められない。2006 年に出版された藤永茂の新訳を DUO に発注しているので、やや値ははるが、こちらを読んで欲しい。9 回目の授業までに必ず読了しておくこと。英語で読む場合は Norton Critical Edition を薦める。象徴的な小説であり、やや難解とを感じる学生もいるかもしれないので、早めに読み始めて欲しい。また、藤永茂の『「闇の奥」の奥—コンラッド・植民地主義・アフリカの重荷』(三交社、2006) 及び同氏によるブログを参考文献としておく。映画の方は図書館の視聴覚室で観ることができるし、レンタルビデオ・DVD 店にも大抵は置いてある。こちらも 9 回目の授業までに観ておくことが前提になる。但し、現在 DVD で出回っているのは後に編集された「特別完全版」であり、図書館所蔵の「劇場公開版」の方が小説とは比較しやすい。映画関連の参考文献には立花隆『解説「地獄の黙示録」』(文春文庫、2004) と Peter Cowie, <i>The Apocalypse Now Book</i> (Da Capo Press, 2001) を挙げておく。</p>		<p>①変わりゆく英語圏の文学と文化</p> <p>②前回の続き</p> <p>③キリスト教の宇宙観と英語圏の文学・文化</p> <p>④宗教改革から理性の時代へ</p> <p>⑤前回の続き</p> <p>⑥視点を変えて (閑話休題)</p> <p>⑦西欧白人異性愛男性主義の周縁から</p> <p>⑧前回の続き</p> <p>⑨<i>The Waste Land, Heart of Darkness, and Apocalypse Now</i></p> <p>⑩前回の続き</p> <p>⑪前回の続き</p> <p>⑫ポストモダニズムとポストコロニアリズム</p> <p>⑬Catch up & Wrap up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上記以外のテキスト、参考文献は原則として授業支援ポータル・サイトからダウンロードしてもらう。指示にしたがって予習、また教室への持参をお願いする。</p>		<p>小レポート (5 点 x 10)、学期末レポートが 50 点。</p>	

07年度以前（春）	英語圏の小説 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ジェーン・オースティンは 19 世紀初期のイギリスの小説家で、欧米では広く親しまれている人です。彼女の作品は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説は 19 世紀 20 世紀のイギリス小説の主流で、その中心的な位置を占めているのがオースティンとあってよいでしょう。</p> <p>講義で扱う作品は『高慢と偏見』『説得』を予定しています。</p> <p>チャールズ・ディケンズは 19 世紀のイギリスで最も著名な文人であるばかりか、イギリス文学史を通してシェークスピアについて世界中にその名を知られている作家で、『クリスマス・キャロル』は年代を問わず親しまれてきました。講義では『デイヴィッド・コパフィールド』と『二都物語』を予定しています。</p> <p>人間とか人間性に興味がある人、語学力向上に熱意を傾ける人を望みます。</p> <p>受講生への要望は、講義で扱う作家のものを、どの作品でもよいから、あらかじめ読んでおいて欲しいことです。そうすれば、講義に対する関心と理解が深まることうけあいです。</p>		<p>最初の授業で、この講義の全体的な解説と説明をします。世界各地で昔から親しまれてきたとはいえ、原文はいずれも易しくはないので工夫を凝らして授業を進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>デイヴィッド・セシルのオースティンの評伝を使う予定です。</p> <p>参考文献は授業中に指定します。</p>		<p>平常点、感想文、レポートなど</p>	

07年度以前（秋）	英語圏の小説 b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度「英語圏の文学・文化入門」を受講した人は、Virginia Woolf の <i>Mrs. Dalloway</i> (1925) という作品を覚えているかもしれない。第一次大戦のトラウマが描かれた小説である。</p> <p>この講義では、ウルフのもうひとつの代表作、<i>To the Lighthouse</i> (1927) を精読する。ウルフが家族を回想した作品である。しかし回想したと言っても、そこはウルフなので、個人的な思い出をただつづただけではない。時代と交錯させ、口には出されなかった「意識の流れ」を浮き彫りにし、英文学の中の詩や演劇の言葉をちりばめて、抒情的でとてもおいしい作品に仕上げています。</p> <p>ウルフはなかなか一人では読みこなせない本格派だが、だからこそみんなで挑戦してみたい。この講義を通じて、受講者が他の英語圏の小説も、より幅広く読み進めるきっかけになればと願っている。</p> <p>講義概要</p> <p>翻訳と英語の原文を突き合わせつつ読み進める。担当者（片山）は、読みどころを理解するための問いを課題にするので、それを受けてテキストを読んでくること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ヴァージニア・ウルフとは 2～5 : <i>To the Lighthouse</i>, Part One <ol style="list-style-type: none"> 2. なぜ天気の話が続くのか 3. どんな家族関係なのか 4. どんな客人たちなのか 5. 時代背景 6～8 : <i>To the Lighthouse</i>, Part Two <ol style="list-style-type: none"> 6. 描写のどこがポイントなのか 7. ウルフの戦争の書き方はどうか 8. ウルフの階級の書き方は？ 9～11 : <i>To the Lighthouse</i>, Part Three <ol style="list-style-type: none"> 9. 生き残った家族の人々はどうするか 10. 生き残った客人たちは？ 11. どんな絵が残るか 12. 小説の中の「母殺し」「父殺し」 13. まとめ（英語圏の小説のその後） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ウルフ『灯台へ』（岩波文庫）</p> <p>Woolf, <i>To the Lighthouse</i>（ペンギン版）</p> <p>* DUO で各自購入すること。</p>		<p>毎回の予習課題、コメントカード、レポート</p> <p>* 3回を超えて欠席した場合、原則として評価の対象としない。</p>	

07年度以前(春)	英語圏の詩 a (アメリカ詩入門)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業のタイトル通り、アメリカの詩を読む。「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか? この授業では、Native American (いわゆるインディアン) の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に2度も来てポエトリー・リーディングをした、ピュリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、Gary Snyder だ。さて、ネイティブ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、Snyder と Native American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。</p> <p>詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言ってから普通の表現となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして19世紀、20世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる。</p>		<p>1) Introduction 2) Native American の詩。 3) Walt Whitman, "Poets to Come!," "I Hear America Singing" など。 4) Emily Dickinson, "Because I could not stop for Death," "I taste a liquor never brewed" など。 5) Robert Frost, "Stopping by Woods on a Snowy Evening," "After Apple-Picking" など。 6) Ezra Pound, Imagism 期の短詩, "Hugh Selwyn Mauberley I" など。 7) William Carlos Williams, "The Red Wheelbarrow," "Nantucket," "Poem" などの初期の短詩。 8) Wallace Stevens, "The Snow Man," "Thirteen Ways of Looking at a Blackbird" 9) H. D., "Oread," "Heat" など。 10) T. S. Eliot, "Preludes" など。 11) Robert Lowell, "For the Union Dead" など。 12) Sylvia Plath, "Daddy," "Lady Lazarus" 13) Gary Snyder, "Magpie's Song," "For the Children" など。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sixteen Modern American Poets (英宝社)とプリント。		2000字以上のレポート。詳細は、追って報告する。	

07年度以前(秋)	英語圏の詩 b (イギリス詩入門)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p>講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。</p> <p>参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<p>1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II (video 鑑賞) 4. <現代英詩アラカルト> I T.S. Eliot (1888-1965) (video 鑑賞、字幕なし、以下同じ) 5. <同> II T. Hughes (1992-1985) など (video 鑑賞) 6. <ロマン派の曙> W. Blake (1757-1827), video 鑑賞 7. <ロマン派の詩> I ワーズワス, video 鑑賞 8. <ロマン派の詩> II S.T. Coleridge (1772-1834) と G.G. Byron (1788-1824) (video 鑑賞) 9. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) 10. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 11. Thomas Gray (1716-1771), "Elegy Written in a Country Churchyard" (1751) を読む。 Video 鑑賞 12. John Milton (1608-74) Paradise Lost (1667) のさわり、ソネット 23. Video 鑑賞 13. William Shakespeare (1564-1616), 解説と video 鑑賞</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987 (授業開始までに必ず購入すること)</p>		<p>テストを課す。数回の video は、字幕なしなので、100% の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。</p>	

07年度以前(春)	英語圏の演劇 a	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういふふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台上しゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800字）2編で70%。授業で30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。</p>	

07年度以前(秋)	英語圏の演劇 b	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういふふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台上しゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800字）2編で70%。授業で30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。</p>	

07年度以前（春）	英語圏の社会と思想 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム 2. ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 3. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 4. イングランドのキリスト教化 5. デーン人とアルフレッド大王 6. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 7. グレゴリウス7世の教会改革 8. イングランドの教会改革 9. 中世の異端 10. 地獄墮ちへの恐怖 11. 黒死病と農民一揆 12. 教皇権の栄光と下降 13. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。		出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。	

07年度以前（秋）	英語圏の社会と思想 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー8世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス1世の宗教改革 6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とピューリタニズム 9. ピルグリム＝ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 11. 啓蒙主義時代 12. 19世紀以降現代 13. アメリカの場合 <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	

07年度以前（春）	英語圏の歴史 a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際情勢の中で中東がかつてなかった程重みを増す今日、中東政策はアメリカ外交の大きな柱となっている。その米中東政策に力をふるっているのがユダヤ・ロビーである。春学期の授業ではこのユダヤ・ロビーを中心に同盟関係にあるキリスト教右派等に焦点をすえることで、これまで見てこなかったアメリカ政治史の特質を解明する。</p> <p>「ユダヤの視点でみるアメリカ政治史」が春学期のテーマとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. NHK特派員報告「強い少数派」の映像解説 -72年と04年の大統領選挙の比較- 2. イラク戦争と在米ユダヤ人の苦悩 3. 検証、「最強のユダヤ・ロビー」AIPAC 4. 同床異夢の同盟；キリスト教右派とユダヤ・ロビー 5. 連邦議会における代理人；ユダヤ人議員団の実像 6. ユダヤ・マネーの仕組；二大政党の政治資金 7. 歴代政権と在米ユダヤ人社会；FDRよりニクソン再選まで 8. 歴代政権と在米ユダヤ人社会Ⅱ；クリントン政権まで 9. ブッシュ政権とユダヤ人社会 10. 検証；ユダヤ・ロビー勝敗の事例 11. ユダヤ・パワーの源泉、在米ユダヤ人の経済力を探る 12. 放送大学「アメリカの中東政策」の映像解説 13. 予想・2008年・大統領選挙とユダヤ・パワーの将来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤唯行著『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（2006年 ダイヤモンド社）1,600円</p>		<p>評価はクイズ形式による筆記試験（5択20問）によるのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。</p>	

07年度以前（秋）	英語圏の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。</p> <p>毎回10本近い映像ソフトを担当者が持参し、具体的場面をピックアップしながら、各エスニックグループが抱えているジレンマ、課題などを解説してゆく。つまり、エスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。</p> <p>かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では20年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 先住民インディアン 3. 越境するヒスパニック 4. 今を生きる黒人 5. 歴史の中の黒人 6. 〃 7. 等身大のユダヤ人 8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 9. 歴史の中のユダヤ人 10. アジア系-日系、中国系、韓国系- 11. ホワイト・エスニック-アイルランド系、イタリア系、など過去において蔑視された白人集団 12. 異人種・異教徒間カップル 13. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤唯行著、仮題『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（2008年秋）1,600円</p>		<p>春学期と同じ</p>	

07年度以前（春）	英語圏のエリア・スタディーズ a (英語圏の社会と文化)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学科の文学・文化コースには様々な学問的テーマを抱えた多彩な顔ぶれがそろっています。</p> <p>この講義では夫々の先生方にとり、御自身の専門の内、もっとも話しやすいテーマをオムニバス形式でお話しいただきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (佐藤) 2. 植民地期アメリカのキリスト教化 (福井) 3. 現代アメリカのキリスト教保守派 (〃) 4. 17世紀のイギリスー現代との比較において (白鳥) 5. ミルトンとその世界 (〃) 6. アメリカ社会と妊娠中絶問題 (片山) 7. その後のアメリカーいま起きていること (〃) 8. 国民国家をパフォーマンスする (1) (高橋) ーアメリカ合衆国の野外博物館を考える 9. 国民国家をパフォーマンスする (2) (〃) ー戦争記念日と記念碑を考える 10. 英文学受容の多様性 (1) (前沢) ーハリー・ポッター 11. 英文学受容の多様性 (2) (〃) ーシェイクスピア 12. アメリカの中東政策ーユダヤ・ファクター (佐藤) 13. 米大統領選とユダヤ人社会ー72年選挙～08年選挙 (佐藤) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		Quiz 形式の試験を定期試験期間中に実施。毎回出席カードを回収する。試験は一切持ち込み不可。	

07年度以前（秋）	英語圏のエリア・スタディーズ b (英語圏の社会と文化)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学科の文学・文化コースには、様々な学問的テーマを抱えた多彩な顔ぶれがそろっています。</p> <p>この講義ではそれぞれの先生方にとり、ご自身の専門のうち、最も話しやすいテーマをオムニバス形式で、お話しいただきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.9/24 児嶋一男「アイルランド演劇の文化背景」 2.10/1 藤田永祐「ディケンズの小説における 19世紀イギリス社会と日本の現代社会」 3.10/8 藤田永祐「サッカーの『虚栄の市』における イギリス階級社会と人間性」 4.10/15 工藤和宏「過熱化する留学ビジネスの裏側」 5.10/22 工藤和宏「日本の国際文学にみる『日本人』の アンヴィバレンス」 6.10/29 永野隆行「英語圏の国際関係と文化① ～冷戦対立の文化的側面」 7.11/5 永野隆行「英語圏の国際関係と文化② ～戦後イギリス外交における文化政策」 8.11/12 金子芳樹「アジア英語圏諸国の文化と社会(1)」 9.11/19 金子芳樹「アジア英語圏諸国の文化と社会(2)」 10.11/26 佐野康子「アフリカにおける多様性の否定 ー歴史的展開ー」 11.12/3 佐野康子「アフリカの多民族性と統治への課題 ーエチオピアを例にー」 12.12/10 佐藤勉「文学における Appropriation と Imagination I」 13.12/17 佐藤勉「文学における Appropriation と Imagination II」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		Quiz 形式の試験を定期試験期間中に実施 毎回出席カードを回収する。試験は一切持ち込み不可。	

07年度以前（春）	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義タイトル</u> ディアスポラの世界地図</p> <p><u>目的</u> ディアスポラという存在について学ぶことによって、自分とは圧倒的に異なる歴史を生きる個人の暮らしと場所のあり方を想像する練習をしてほしい。そして想像力（共感する力）を養うには、知ることがいかに重要であるかも理解してほしい。</p> <p><u>概説</u> ディアスポラとは、民族的なルーツのある土地を離れざるをえず、異郷に暮らす人々やその子孫たちを指す。グローバリゼーションの歴史とは、世界規模での労働力の（暴力的な）移動であり、その過程で無数のディアスポラが生まれた。本講義では、間大西洋の英語圏にひろがるブラック・ディアスポラを中心に、人と文化の移動、混淆、衝突、それによる社会の変化、複数の文化の狭間に生きる個人の問題と可能性について考えてみたい。</p>		<p>1.ディアスポラとは 2.1948-2007: London（UKへの第二次世界大戦後の移民と Black British） 3. UKの移民第二世代 4. Black and British 5. 1562-1807-2007. British Empire と奴隷制 6. Mini Wrap Up 7-8. African American とは 9-10 ルーツへの夢と二重意識 11-12.アイデンティティーの問題 13. Wrap Up</p> <p>（毎回、授業に先立ってテキストの指定箇所を読んできてもらいます。詳細は開講時に指示しますが、一回目にテキストの序章と終章を読んでおくことが望ましいです。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『あたらしい世界のかたち—黒人の歴史文化とディアスポラの世界地図』 キャリル・フィリップス（明石書店）		コメントペーパーとテスト（論述が中心）。	

07年度以前（秋）	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：イギリスの俳優たち</p> <p>“Reel Britannia”と呼ばれるほど、現在のハリウッドでは多くのイギリス人の映画関係者が大活躍している。イギリスには演劇の長い伝統があり、そこで育まれたしっかりとした演技をする役者たちが、シェイクスピア劇でイギリスの観客をうならせるだけではなく、ハリウッド映画のスクリーンを通して世界中の観客に大きな印象を残している。</p> <p>この授業では20世紀のイギリス演劇界を代表した俳優たちと、21世紀まさに活躍中の俳優たちから何人かを取り上げ、彼らの出演した戯曲、映画を論じていく。それぞれの役者の個性とともに、時代による演劇の変化、舞台と映画の関係、イギリス俳優とアメリカ映画の関係などへの理解を深めることを目的とする。</p>		<p>1. イギリス俳優と演劇教育 2. 20世紀の巨星：Lawrence Olivier と John Gielgud 3. 祖国を離れて：Charles Chaplin と Claire Bloom 4. イギリス映画の再興：Ian Holm と Ben Kingsley 5. 文芸作品の映画化：Emma Thompson 6. Shakespeare の映画化：Kenneth Branagh 7. 老いてますます元気なイギリス女優達 (1) : Vanessa Redgrave と Judi Dench 8. 老いてますます元気なイギリス女優達 (2) : Maggie Smith と Helen Mirren 9. Homosexuality とイギリス演劇界 : Ian MaKellen と Simon Russell Beale 10. ハリウッド・スターと West End (1) Rachel Weisz と Kate Winslet 11. ハリウッド・スターと West End (2) Ralph Fiennes 12. イギリス俳優とアメリカ映画 13. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		コメント・カード：40% 学期末試験：60%	

07年度以前（春）	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 旅が、人間の根源的な欲求に基づく行動であり、文化現象であることを理解する。又、旅や観光を、語源、歴史的背景等々多面的に学習することにより、文化や文明との関わりを、より深く考察する。</p> <p>講義概要 21世紀は「人類大移動の時代」と称せられようになり、観光は、産業としてのみならず文化的にも現代社会の重要な要素の一つになっている。旅や観光に関する英語、日本語の語源に触れながら、旅と観光の持つ意義を文化、文明史的に考察する。 併せて、グローバル化の進む今日的課題である異文化理解を、日本の観光立国の視点から学習することにより、文化と観光を身近な問題として把握する。</p> <p>又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々 観光文化関連報道記事を適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 旅の語源 ①観光の語源と概念・定義 3. 旅の語源 ②漢字と大和ことばにおける旅の語源 4. 旅の語源 ③英語における旅の語源 5. 旅と観光の歴史 ①古代から中世 6. 旅と観光の歴史 ②グランドツアーとトーマスクックの時代 7. 旅と観光の歴史 ③近世から現代 8. 旅と宗教 ①ユダヤ教・キリスト教 9. 旅と宗教 ②イスラム教・ヒンズー教 10. 旅と宗教 ③仏教 11. 旅の形態 ①・ビジネスとしての旅 ②・フィクションとして旅 12. 旅と文明 旅と文明・文化の関係 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

07年度以前（秋）	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。</p> <p>講義概要 近年、文化人類学の研究対象にもなっている観光現象を、文化の視点から検証し、観光と文化、観光人類学の定義、課題等、基本的なことを学習する。 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点からも考察し、観光現象を多面的に理解する。 また、食文化を含む生活文化や民族、宗教の多様性が、どのように観光の研究対象となっているのかを把握する。併せて、観光開発の光と影にも触れ、文化の変容についても考える。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々 観光文化関連報道記事を適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 文化への新しいアプローチとしての観光 3. 国際観光の膨張と日本人の観光 4. 観光の誕生・擬似イベントとしての観光 5. メディアと観光・イメージの形成とメディア 6. 文化人類学と観光人類学（バリ島文化の流れ） 7. 観光文化のグローバル化と商品化 8. 文化観光と観光行動（疑似体験としての観光旅行） 9. 文化観光と観光文化・観光資源 10. 文化の商品化と観光文化 11. 模型文化と観光芸術 12. 新たな観光へ 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に評価する。	

07年度以前（春）	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(パフォーマンス研究入門―表象文化論の視点から)</p> <p>パフォーマンス研究に始めて接してみたい、という人を対象に、パフォーマンスを表象(representation)として捉える視点を導入する。</p> <p>テキストは文化研究の主要な論客である、Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997)から抜粋(pp. 13-74)を用いる。原本は図書館の指定図書コーナーに配架してある。</p> <p>なお、授業は日本語でおこなう。</p> <p>昨年度、高橋による英語圏の文学・文化特殊講義 a,b で単位を取得した学生も<u>重複履修可</u>。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Representation, Meaning and Language 3. ditto 4. ditto 5. Saussure's Legacy 6. ditto 7. From Language to Culture: Linguistics to Semiotics 8. ditto 9. Discourse, Power, and the Subject 10. ditto 11. ditto 12. Where is 'The Subject'? 13. Wrap up & Catch up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記のテキストは、原本からの抜粋を講義支援システムを通じて配布する予定。その他の参考文献は、適宜、授業中に紹介する。		平常点、学期中の小テスト、小レポート、学期末レポートの総合による。	

07年度以前（秋）	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(パフォーマンス研究入門―続き)</p> <p>パフォーマンス研究は近年欧米で注目を集めている学際的で、インター・カルチュラルな研究領域であり、個人や集団により反復される行為（パフォーマンス）が、文化の組成やアイデンティティの構築にかかわっているとの認識の下に、権力の所在を顕在化し、支配の構造にメスを入れようとする。研究対象は、舞台芸術に限らず、日常生活や儀礼、スポーツなどのイベント、国家によって執り行われる儀式など幅広い。</p> <p>この授業ではまず参加者にパフォーマンス研究に興味を持ってもらうことを第一の狙いとし、既に興味のある人には、さらに深い研究のための指針を提供したい。</p> <p>テキストはこの分野の第一人者である Richard Schechner による <i>Performance Studies: An Introduction: 2nd edition</i> (Routledge, 2006)を用いる。原本は図書館の指定図書コーナーに配架してあるが、授業では抜粋を講義支援システムを通じて配布する予定。</p> <p>なお、昨年度の授業とは重複する部分が多いので、昨年度、高橋による英語圏の文学・文化特殊講義 a,b で単位を取得した学生の<u>履修は認められない</u>。</p>		<p>主にテキストの第2章、"What is Performance?"と第3章、"Ritual"を扱う。</p> <p>毎週の授業計画は、受講者の英語力と興味に対応して柔軟なものにならざるを得ない。</p> <p>秋学期のみの受講も可能だが、受講者は春学期から続けて受講した方が分り易い。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の他、高橋雄一郎『身体化する知』（せりか書房-Duoに発注済）を是非読んで欲しい。その他の参考文献は図書館の指定図書にあるか、授業中に配布する。		平常点、学期中の小テスト、小レポート、学期末レポートの総合による。	

06年度以前（春）	英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>どんな国の文化にも、一般に多くの人びとが抱いている印象や、思い描く（漠然とした）イメージがあると思います。そのイメージや印象を、アイルランドという国を対象にして、論じた文献を読んでいます。続いて、その一般論を deconstruct しようと試みた文献を読みたいと思います。</p> <p>きちんと辞書を引いて、日本語訳をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いです。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>1～3回目</p> <p><i>Why Do The Irish...?</i> by Fiana Griffin (Colourbooks, Dublin)から抜粋して読んでいきます。</p> <p>4～13回目</p> <p>アイルランド文化論のテキストを読んでいます。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは「授業計画」欄参照。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。レポート（2000字）1編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06年度以前（秋）	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>どんな国の文化にも、一般に多くの人びとが抱いている印象や、思い描く（漠然とした）イメージがあると思います。そのイメージや印象を、アイルランドという国を対象にして、論じた文献を読んでいます。続いて、その一般論を deconstruct しようと試みた文献を読みたいと思います。</p> <p>きちんと辞書を引いて、日本語訳をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いです。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>1～3回目</p> <p><i>Xenophobe's Guide To The Irish</i> by Frank McNally (Oval Books)から抜粋して読んでいきます。</p> <p>4～13回目</p> <p>アイルランド文化論のテキストを読んでいます。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは「授業計画」欄参照。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。レポート（2000字）1編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

07年度以前（春）	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間でのコミュニケーション」という字面通りの意味なのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化（間）」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。</p> <p>講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 異文化間コミュニケーション論の落とし穴 3. Introduction: Defining concepts (pp. 2-5) 4. Identity: People like me (pp. 6-10) 5. Identity: Artefacts of culture (pp. 10-15) 6. Identity card (pp. 16-20) 7. Otherisation: Communication is about not presuming (pp. 21-25) 8. Otherisation: Cultural dealing (pp. 25-30) 9. Otherisation: Power and discourse (pp. 30-35) 10. Representation: Cultural refugee (pp. 36-41) 11. Representation: Complex images (pp. 41-47) and Disciplines for intercultural communication (pp. 48-49) 12. Japanese university students overseas: Intercultural struggles, learning and future careers 13. まとめ <p><参考書> 稲賀繁美 編著（2000）『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 戴エイカ（1999）『多文化主義とディアスポラ』明石書店。 津田幸男・関根久雄 編著（2002）『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Holliday, A., Hyde M., & Kullman, J. (2004). <i>Intercultural communication: An advanced resource book</i> . London: Routledge.		多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。	

07年度以前（秋）	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 異文化コミュニケーションから何を学ぶか 3. 異文化コミュニケーションと心理世界 4. 異文化コミュニケーションの難しさ 5. 異文化コミュニケーションの歴史 6. 異文化コミュニケーションの重要性 7. 異文化コミュニケーション研究のスタート 8. 異文化コミュニケーションの背景 9. 異文化コミュニケーションの現状 10. 異文化コミュニケーションの体験 11. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代 12. 文化とグローバル化 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利	

07年度以前（春）	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 異文化コミュニケーションから何を学ぶか 3. 異文化コミュニケーションと心理世界 4. 異文化コミュニケーションの難しさ 5. 異文化コミュニケーションの歴史 6. 異文化コミュニケーションの重要性 7. 異文化コミュニケーション研究のスタート 8. 異文化コミュニケーションの背景 9. 異文化コミュニケーションの現状 10. 異文化コミュニケーションの体験 11. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代 12. 文化とグローバル化 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関する2ページ以上のターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利	

07年度以前（秋）	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間でのコミュニケーション」という字面通りの意味なのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化（間）」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。</p> <p>講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 異文化間コミュニケーション論の落とし穴 3. Introduction: Defining concepts (pp. 2-5) 4. Identity: People like me (pp. 6-10) 5. Identity: Artefacts of culture (pp. 10-15) 6. Identity card (pp. 16-20) 7. Otherisation: Communication is about not presuming (pp. 21-25) 8. Otherisation: Cultural dealing (pp. 25-30) 9. Otherisation: Power and discourse (pp. 30-35) 10. Representation: Cultural refugee (pp. 36-41) 11. Representation: Complex images (pp. 41-47) and Disciplines for intercultural communication (pp. 48-49) 12. Japanese university students overseas: Intercultural struggles, learning and future careers 13. まとめ <p><参考書> 稲賀繁美 編著（2000）『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 戴エイカ（1999）『多文化主義とディアスポラ』明石書店。 津田幸男・関根久雄 編著（2002）『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Holliday, A., Hyde M., & Kullman, J. (2004). <i>Intercultural communication: An advanced resource book</i> . London: Routledge.		多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。	

06～07年度(春) 05年度以前(春)	メディア・コミュニケーション論 a マス・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講義の主目的は、多様なメディアが溢れ出る現代社会を理解する為に必要な理論とその歴史的考察を進めていく。メディアと現代社会の関係を考える際に注意しなくてはならないのは、コミュニケーションを単純にメッセージの送受信の過程や効果、もしくは伝達の技術装置として捉えてはいけない点にある。</p> <p>メディアはマイノリティを排除したり、規範を自然のこととして受け入れさせる力を持つと考えられることが多い。しかし、現代のメディア研究では、文化規範に抑圧的の力が備わっていると仮定することは出来ないことは常識である。</p> <p>したがって、メディア研究には、文化に批判的に介入する為の理論と歴史的研究の理解が肝心となる。メディアを1つのコミュニケーション実践としてとらえ、そこに見いだされる文化を批判的に読み解く必要がある。我々が日々接している情報や媒体を自明視させる文化の成り立ちに注目することで、文化を構成するコミュニケーションの書き換えの為の実践を学んでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース概要 2. メディアとは何か（第1章） 3. メディアの時代 メディアの理論（第2章） 4. マス・コミュニケーション理論の展開とその限界（第4章） 5. メディア革命と知覚の近代（第5章） 6. カルチュラル・スタディーズの介入（第6章） 7. カルチュラル・スタディーズの介入（第6章） 8. 新聞と近代ジャーナリズム（第7章） 9. 誰が映画を誕生させたのか（第9章） 10. テレビが家にやって来た（第11章） 11. 電話が誕生したのはいつだったのか（第8章） 12. ケータイが変える都市の風景（第12章） 13. パソコンとネットワーク化する市民社会（第13章） / グローバル・メディアとは何か（第14章） 前期総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣 2004年		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

06～07年度(秋) 05年度以前(秋)	メディア・コミュニケーション論 b マス・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期の講義を踏まえて、メディアを限定した上で、多様な分析の理論と手法を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース・オリエンテーション 2～13. 映像資料や文献を使用した具体的なメディアの分析と分析の為の理論の学習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

07年度以前(春)	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>①目的：このクラスでは、「文化とは作るものだ」という認識を深めるためのスピーチ・コミュニケーション論を学びます。</p> <p>②内容：理論編は英語での講義が中心となります。また、初回から始まるグループ単位の研究活動へ積極的に参加できる学生を対象としています。他の発表への審査も重視します。</p> <p>③活動：音楽や映像を使った「文化活動」としての英語プレゼンテーションについても学びます。(例えば、英語CM制作など。)</p> <p>④定義：スピーチ・コミュニケーションとは単なる音声表現のではありません。スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチという発話を社会的な人間関係の中に投じることによってさらに次の発話の可能性が生み出されていく「生きたプロセス」すなわち「発話の公共的連鎖」です。発話としてのスピーチとは、政治演説や祝辞のようなものだけではありません。メディアで表現されたメッセージ、あるいは何気ない一言や会議での発言、意味ありげな仕草や沈黙さえも発話として機能しますので、これらもスピーチの一種と定義されています。</p>		<p>I. 理論編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概略説明、研究班の編成 2. コミュニケーション・モデルの確認 3. 英語表現について(1)：口頭表現の基礎 4. 英語表現について(2)：議論表現の基礎 5. 英語表現について(3)：映像表現の基礎 6. 実例の分析(1) 7. 実例の分析(2) <p>II. 応用編</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 理論の復習、研究トピックの一次決定 9. 理論の復習、研究トピックの最終決定 10. 理論の復習、審査の方法 11. 発表、審査、講評(1) 12. 発表、審査、講評(2) 13. まとめとクイズ <p>(研究グループ数によって、変更の可能性もあります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントおよびオンライン資料を使用する予定		<p>①クイズ(1回：20%)</p> <p>②研究発表(準備・発表・審査：80%)</p>	

07年度以前(秋)	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>①目的：このクラスでは、公共的なメッセージを批判的に分析することで、思慮深い判断ができるようになることを目指します。私たちが発話をする際に常に立ちはだかる社会的制約や条件づけ。私たちは人に影響を与えたいと思ひ必死に発話の技術(スキル)を磨こうとします。しかし同時に、私たちの思考は社会的に制約され、条件づけられてしまっています。この状態をどのように見抜けばいいのでしょうか？この講義では、こうした社会的制約や条件づけのメカニズムを暴き、皆さんが、必要に応じて、それに立ち向かえるきっかけ作りをします。</p> <p>②内容：理論編は英語での講義が中心となります。また、初回から始まるグループ単位の研究活動へ積極的に参加できる学生を対象としています。他の発表への審査も重視します。</p> <p>③活動：様々なメディアを使った「文化批評」としてのプレゼンテーションを研究グループ単位で行っていただきます。</p> <p>④定義：基本概念・定義については、上記「a」の記述を参照ください。</p>		<p>I. 理論編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概略説明、研究班の編成 2. テキスト論：スピーチは「作品」ではない？ 3. 公共性とコミュニケーションの関係 4. 法・言説・文化とコミュニケーションの関係 5. 行為媒体性の奪取：個人から主体へ、そして… 6. 実例の分析(1) 7. 実例の分析(2) <p>II. 応用編</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 理論の復習、研究トピックの一次決定 9. 理論の復習、研究トピックの最終決定 10. 理論の復習、審査の方法 11. 発表、審査、講評(1) 12. 発表、審査、講評(2) 13. まとめとクイズ〔注意：1月7日(水)に行う予定〕 <p>(研究グループ数によって、変更の可能性もあります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：鈴木健他編『説得コミュニケーションを学ぶ人のために』(世界思想社、近刊)出版され次第、HPで紹介します。 http://www.2.dokkyo.ac.jp/~less0109/		<p>①クイズ(1回：20%)</p> <p>②研究発表(準備・発表・審査：80%)</p>	

07年度以前（春）	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代のコミュニケーション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テキストを解説することを学ぶ。</p> <p>講義概要 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーションの問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』（有斐閣）を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、<今>に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。</p>		<p>1 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点</p> <p>2 時計時間の支配</p> <p>3 空間と権力</p> <p>4 アイデンティティの問い</p> <p>5 レトリックと権力</p> <p>6 家庭内コミュニケーション</p> <p>7 ジェンダーとコミュニケーション</p> <p>8 ジェンダーとコミュニケーション</p> <p>9 テクノロジーとコミュニケーション</p> <p>10 メディアのレトリック</p> <p>11 多文化主義とコミュニケーション</p> <p>12 グローバル化と日本社会</p> <p>13 前期総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

07年度以前（秋）	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。</p> <p>講義概要 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 b では、20世紀のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。スピーチ・コミュニケーション論 a と継続性のある講義なので、すべての学生がスピーチ・コミュニケーション論 a の講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。</p>		<p>1 オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論</p> <p>2 フェルディナン・ド・ソシュールと記号論</p> <p>3 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L. オースティンと発話行為理論</p> <p>4 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L. オースティンと発話行為理論</p> <p>5 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク</p> <p>6 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク</p> <p>7 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>8 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>9 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>10 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p> <p>11 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p> <p>12 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p> <p>13 後期総括</p>	
参考文献		評価方法	
立川健二・山田広昭『現代言語論—ソシュール フロイト ヴィトゲンシュタイン』新曜社 土土土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論—テキスト・読み・世界』新曜社		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

06年度以前（春）	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期テーマ「見慣れたもの、聞き慣れたものの再考」 コミュニケーション研究において重要なテーマの1つは、私たちのコミュニケーションを条件づけるもの（法・文化・言説）をいかにして見抜き、介入し、必要に応じて修正していただけるかでしょう。この講義では、条件づけられた私たちの思考に基づいて行われるコミュニケーションに登場する様々な言葉について、一旦立ち止まって、問い直してみることを実践していきます。</p> <p>グループ単位での簡単な研究活動も行っていただきます。したがって、活動に参加できる学生を対象としています。</p> <p>配布資料は、この授業のHPにて英文と和文の両方で用意していきますので、各自でダウンロードしてください。</p> <p>アクセス方法：大学のHP上の「授業関連」→「ゼミ・授業」→「授業」→「コミュニケーション論特殊講義 a」という手順でアクセスし、パスワードを入力して資料にアクセスしてください。パスワードは初回および2回目の講義で示します。</p>		<p>I. 理論解説 1. 講義概要、研究班の編成 2. 各テーマに関する事前情報 3. 「そういうことになっています」のレトリック</p> <p>II. 事例研究 4. 「最近、少年犯罪が増加していますね」 5. 「パスポートを持っていますか？」 6. 結婚・家族・離婚・・・ 7. 「ハッピーバースデー・トゥー・ユー♪」 8. 国家の記念日：建国記念の日と終戦記念日 9. 「はい、チーズ」</p> <p>III. 研究発表 10. 研究発表：Day 1 11. 研究発表：Day 2 12. 研究発表：Day 3 13. 総評とクイズ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントおよびオンライン資料を使用する予定		①クイズ（1回：20%） ②研究発表（準備・発表・審査：80%）	

06年度以前（秋）	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期テーマ「二項対立のレトリックを看破する」 春学期の「a」の続きにしたいと思いますが、春学期に履修しなかった学生でも努力次第では十分理解できる内容にしていくつもりです。なお、この学期の焦点は「二項対立」という二分法的レトリックです。「分かりやすい」というのは「分ける」から「分かりやすく」なるのですが、「分ける」ということは、しばしば政治的でもあります。このことに関する気づきのレベルを向上していくことを目指します。それにより、多少なりとも思考が自由になる可能性があるからです。</p> <p>グループ単位での簡単な研究活動も行っていただきます。したがって、活動に参加できる学生を対象としています。</p> <p>配布資料は、この授業のHPにて英文と和文の両方で用意していきますので、各自でダウンロードしてください。</p> <p>アクセス方法：大学のHP上の「授業関連」→「ゼミ・授業」→「授業」→「コミュニケーション論特殊講義 b」という手順でアクセスしてください。</p>		<p>I. 理論解説 1. 講義概要、研究班の編成 2. 各テーマに関する事前情報 3. 「ケーキを公平に切り分けてください」</p> <p>II. 事例研究 4. 生と死、有と無 5. 客観と主観 6. 文化と自然、文明人と野蛮人 7. 男と女、男らしさと女らしさ 8. 大人と子供 9. オリジナルとコピー</p> <p>III. 研究発表 10. 研究発表：Day 1 11. 研究発表：Day 2 12. 研究発表：Day 3 13. 総評とクイズ〔注意：1月7日(水)に行う予定〕</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントおよびオンライン資料を使用する予定		①クイズ（1回：20%） ②研究発表（準備・発表・審査：80%）	

06年度以前（春）	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
カナダ・オンタリオ州北ヨーク市教育委員会と本学協定校の一つであるヨーク大学が開発した高校生向けの異文化間コミュニケーションの授業概要を理解し、特に我が国の社会・文化（言語、ビジネス、歴史、地理）がどの様に捉えられているかを知る。		①プロローグ：概要説明 ②Rationale for the Cross-Cultural Communication through Japanese Program ③Unique features of the CCCJ Program ④Cross-cultural objectives ⑤Approaches for achieving cross-cultural objectives 1 ⑥Theoretical framework of cross-cultural studies ⑦General framework ⑧The Particularity of Japan ⑨Four modules and major issues ⑩Area of interest defined by the four subject modules ⑪Conclusion ⑫Appendix ⑬エピローグ：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ota,Norio (1995) <i>Cross-cultural Communication Through Japanese</i> , Concordia Univ. Press		出席／発表／レポート／定期試験	

06年度以前（秋）	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
多くのコミュニケーション・モデルの中から抜粋してその特徴やコミュニケーション論の分野で使用されている概念を理解し、現代社会の変動に関心を持つ。		①エピローグ：概要説明 ②Scope and purpose ③The uses and misuses of models ④Definitions and terms ⑤Early communication models and mass communication research ⑥Elaboration of the basic mathematical model ⑦From communication to mass communication ⑧Developments in communication models and communication research ⑨Rogers and Shoemaker' model of innovation diffusion ⑩News diffusion : The 'normal' diffusion curve ⑪News diffusion : The J-curve model ⑫Benjamin Model ⑬エピローグ：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
McQuail,Denis&Windahl,Aven(1993) <i>Communication Models</i> , Longman		出席／発表／レポート	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	グローバル社会論 a 国際社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル社会の特徴を理解するために、基本用語・理論・モデルの解説を行います。国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。同じ食材でも西洋料理、インド料理、中華料理、日本料理では味覚が異なります。分析方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>「グローバル社会を見る眼」を養うこと——これが授業の目標です。グローバル社会の変化に着目し、歴史を現代に引き寄せます。情報のフローと共にストックを重視し、表面的な現象に振り回されるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>授業の前半では毎回、CNNやBBC等の海外TVニュースをリアルタイムで紹介。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 国際情報ツールの説明 2. 国際社会を見る眼——木・林・森 3. 国際政治の基本システム（15） リアリズムとリベラリズム（6）登録確認 4. 利害調整、状況・制度・組織（21～27） 権力＋正統性＝権威（47～48） 5. 国内政治と国際政治の相違（49～50） 6. 検証ヨーロッパ（10～11、19～20） 7. 前半のまとめ 中間テスト 8. 国際社会論（52～53） ＜ホブズ、カント、グロチウス＞ 9. 同上 10. リアリズム・相互依存・従属論（59） 11. 中心一周辺の世界観（158～161） 12. 多国間主義（171～172） 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		登録確認作業の出席点、中間テスト、定期試験の3点セットで評価します。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	グローバル社会論 b 国際社会論 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際政治を学ぶうえで最も大切なことは何か？それは「ナマの情報をたくさん知ること」ではない。それらは時間がたてばすぐに賞味期限が切れ、何の役にも立たなくなる。大切なのは、こうした情報そのものではなく、氾濫する情報を取捨選択し、何が重要かを的確に判断し、その情報を正しく理解するための「能力」である。こうした問題意識に立って、本講義は現実の国際政治を理解するうえで不可欠な、「国際政治を見る眼」を養うことを目指し、具体的には、国際政治の三つの分析枠組み、主要なアプローチ（視点）、国際政治の秩序と規範の問題などを解説していく。</p> <p>とはいうものの、こうした種類の講義は、学生諸君にとってとっつきにくくなってしまいがちである。したがってできるだけ現実の問題に当てはめて説明したり、映像資料などを積極的に利用したりして、いろいろと工夫を試みたい。たとえば、毎回の授業の冒頭では、時事問題を取り上げ、講義内容と関連付けながら解説する時間を設ける予定である。</p> <p>授業はパワーポイントによって進め、簡単なレジメを配布する。また、抜き打ち的に出欠調査を兼ねたリアクションペーパーを提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション （第1～2週） ～国際政治の理論とは何か？ 2. 国際政治の「三つの分析枠組み」 （第3～5週） ～国際関係における国家の行動をどう説明するか？ 3. 国際政治のアプローチ①リアリズム （第6～8週） ～国益とは、国際政治における「力」とは何か？ 4. 国際政治のアプローチ②理想主義 （第9～11週） ～国際関係は対立的か、それとも協調的か？ 5. 国際政治のアプローチ③コンストラクティビズム （第12～13週） ～そもそも国際関係に対する特定の見方はなぜ存在するのか？ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。参考文献は、第一回目の授業で紹介する。		リアクションペーパー（数回）と定期試験による総合評価。	

06～07年度(春) 03～05年度(春)	グローバル社会論 a 国際社会論 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際政治を学ぶうえで最も大切なことは何か？それは「ナマの情報をたくさん知ること」ではない。それらは時間がたてばすぐに賞味期限が切れ、何の役にも立たなくなる。大切なのは、こうした情報そのものではなく、氾濫する情報を取捨選択し、何が重要なものを的確に判断し、その情報を正しく理解するための「能力」である。こうした問題意識に立って、本講義は現実の国際政治を理解するうえで不可欠な、「国際政治を見る眼」を養うことを目指し、具体的には、国際政治の三つの分析枠組み、主要なアプローチ（視点）、国際政治の秩序と規範の問題などを解説していく。</p> <p>とはいうものの、こうした種類の講義は、学生諸君にとってとっつきにくくなってしまいがちである。したがってできるだけ現実の問題に当てはめて説明したり、映像資料などを積極的に利用したりして、いろいろと工夫を試みたい。たとえば、毎回の授業の冒頭では、時事問題を取り上げ、講義内容と関連付けながら解説する時間を設ける予定である。</p> <p>授業はパワーポイントによって進め、簡単なレジメを配布する。また、抜き打ち的に出欠調査を兼ねたリアクションペーパーを提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (第1～2週) ～国際政治の理論とは何か？ 2. 国際政治の「三つの分析枠組み」 (第3～5週) ～国際関係における国家の行動をどう説明するか？ 3. 国際政治のアプローチ①リアリズム (第6～8週) ～国益とは、国際政治における「力」とは何か？ 4. 国際政治のアプローチ②理想主義 (第9～11週) ～国際関係は対立的か、それとも協調的か？ 5. 国際政治のアプローチ③コンストラクティビズム (第12～13週) ～そもそも国際関係に対する特定の見方はなぜ存在するのか？ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。参考文献は、第一回目の授業で紹介する。		リアクションペーパー（数回）と定期試験による総合評価。	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	グローバル社会論 b 国際社会論 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル社会の特徴を理解するために、基本用語・理論・モデルの解説を行います。国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。同じ食材でも西洋料理、インド料理、中華料理、日本料理では味覚が異なります。分析方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>「グローバル社会を見る眼」を養うこと——これが授業の目標です。グローバル社会の変化に着目し、歴史を現代に引き寄せます。情報のフローと共にストックを重視し、表面的な現象に振り回されるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>授業の前半では毎回、CNNやBBC等の海外TVニュースをリアルタイムで紹介。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 国際情報ツールの説明 2. 国際社会を見る眼——木・林・森 3. 国際政治の基本システム (15) リアリズムとリベラリズム (6) 登録確認 4. 利害調整、状況・制度・組織 (21～27) 権力+正統性=権威 (47～48) 5. 国内政治と国際政治の相違 (49～50) 6. 検証ヨーロッパ (10～11、19～20) 7. 前半のまとめ 中間テスト 8. 国際社会論 (52～53) <ホブス、カント、グロチウス> 9. 同上 10. リアリズム・相互依存・従属論 (59) 11. 中心一周辺の世界観 (158～161) 12. 多国間主義 (171～172) 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		登録確認作業の出席点、中間テスト、定期試験の3点セットで評価します。	

06～07 年度(春) 03～05 年度(春)	英語圏の国際関係 a 国際関係史 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、20 世紀国際政治の歴史の全体像を把握し、それを 21 世紀国際政治の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論（的枠組み）と歴史（的背景）である。「グローバル社会論」が前者を提供し、本講義「英語圏の国際関係」が後者を学生諸君に提供することになる。</p> <p>本講義では、第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていくが、時間の許す限り、「ナショナリズムの勃興と脱植民地化」、「核兵器」、「経済的繁栄と政治」、「冷戦と日本の戦後」などのテーマ別に約 50 年間の歴史を捉えなおしてみたい。</p> <p>なお、本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。スクリーンに投影されるスライドと講義内容を自分なりに理解して、レジメにメモをしてもらうことになる。また、抜き打ち的に出欠調査を兼ねたリアクションペーパーを提出してもらう。</p> <p>本講義では、受講者に戦後国際政治史に関する基礎知識があることを前提としていないが、毎回の授業の理解度を深めるためには、予習と復習を怠らないようにして欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（第 1～3 週） ～第二次世界大戦前後の国際関係の変化 2. 冷戦①（第 4～6 週） ～冷戦とは何であったのか？ 3. 冷戦②（第 7～9 週） ～冷戦の開始 4. 冷戦③（第 10～12 週） ～冷戦の展開 5. 冷戦④（第 13 週） ～冷戦期の国際紛争 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業時に紹介する。		リアクションペーパー（数回）と学期末の試験による評価。	

06～07 年度(秋) 03～05 年度(秋)	英語圏の国際関係 b 国際関係史 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本が 21 世紀においてアジア太平洋地域の平和と安定のために積極的に関わろうとするとき、日本とオーストラリアの連携（日豪連携）はとりわけ重要である。それは、両国が自由主義的民主主義、そして市場経済という政治的、経済的基本理念、またアジア太平洋地域の平和と安定の実現という戦略的価値観を共有しながら、同時にアジアの歴史と伝統のなかで生きているというアイデンティティをも共有しているからである。日本とオーストラリアは、ともに信頼できるパートナーとして、国際社会において共同行動をとっていきけるし、とっていかねばならないであろう。</p> <p>こうした問題意識のもと、本講義では、第二次世界大戦後のアジア・太平洋地域の国際関係の歴史を振り返りながら、それをオーストラリアの視点から学んでいく。カンガルー、コアラ、美しい珊瑚礁などでイメージされがちなオーストラリアを、国際関係という視点から見つめることで、日本外交の重要なパートナーであるオーストラリア理解を深めたい。</p> <p>本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。なお、抜き打ち的に出欠調査を兼ねたリアクションペーパーを提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（第 1 週） ～アジア太平洋における日本の重要なパートナーである「オーストラリア」を学ぶ意義 2. 20 世紀初頭の戦争とオーストラリア（第 2～5 週） ～日本とオーストラリアの「戦争の記憶」 3. 対日脅威の高まりとアジア国際関係への関心（第 6～9 週） ～日本のアジア進出と英豪対立・対米接近 4. 第二次世界大戦後のオーストラリアとアジアの安全保障（第 10～13 週） ～大国依存の安全保障から、自立した対アジア安全保障コミットメントへ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：森健ほか編『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。		リアクションペーパー（数回）と学期末の試験による評価。	

06～07年度(春) 05年度以前(春)	国際協力論 国際開発協力論 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界中を旅していると、さまざまな国々で国際協力の現場を目撃できます。コーヒーや紅茶の香りが漂うニューヨーク、ロンドン、パリの会議室を舞台にした援助外交、コーランが町中に流れる中でイスラム社会との文明間対話、内戦で引き裂かれたカンボジアにおける平和への取り組み——これらはすべて国際協力の現場です。</p> <p>本講義では、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、国際協力の視点から取り上げます。世界は9・11テロ事件によって大きく変化し、国際協力のあり方も見直されるようになりました。</p> <p>授業計画の前半では、9・11テロ事件が発生する以前の時代を扱い、後半では9・11テロ事件以後の時代に焦点を当てます。国際協力のフィールドに立った気持ちで、現場の感覚や匂いを伝えられるような授業を目指します。</p> <p>授業の前半では毎回、CNN、BBC、CNAの海外TVニュースをリアルタイムで紹介。その日の世界ニュースに触れることができます。授業の後半は、テキストを解説します。</p>		<p>1. オリエンテーション 国際情報ツールの説明</p> <p><9・11同時テロ以前></p> <p>2. ミドルパワーの役割(序、1章) 登録確認</p> <p>3. APECとケアンズ・グループ(6章3節)</p> <p>4. 東チモール内戦・和平プロセス(6章4節)</p> <p>5. カンボジア内戦とエバンス提案(6章3節)</p> <p>6. ベトナム難民(6章2節)</p> <p>7. アジア系移民(6章2～3節)</p> <p>8. 前半のまとめ</p> <p><9・11同時テロ以後></p> <p>9. 国際テロとイスラム過激派(序3-8頁)</p> <p>10. アルカイダの誕生(1章20-22頁)</p> <p>11. 失業、海外アジト、再就職(23-34頁)</p> <p>12. ビンラディンの人物像(35-43頁)</p> <p>13. テロ対策と国際協力(226-233頁)</p> <p>秋学期「国際関係特殊講義b」にリンクします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書、2000年)、同『国際テロネットワーク』(講談社現代新書、2006年)の2冊。		登録確認作業の出席点、中間テスト、期末レポートの3点セットで評価します。	

06～07年度(秋) 05年度以前(秋)	国際開発論 国際開発協力論 a	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、開発途上国における貧困と開発の実態を明らかにしたうえで、開発途上国に対する国際協力や援助の現状を把握し、課題を検討することを目的とします。</p> <p>講義は4つのシリーズから構成されます。第1の「開発途上国における貧困の実態と要因」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉え、第2の「開発途上国の開発」では、開発途上諸国が独立以来歩んできた発展の過程を後付け、さらにグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響についても検討します。第3の「日本の開発援助」では、日本のODAを具体例としながら先進国による開発援助の歴史と実態、さらにその問題点を検討します。最後の「開発協力の新展開」では、グローバル化時代の新たなトレンドを探りつつ、近年注目されるNGOと開発との関係、地球環境問題と開発との関係について考えます。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション：開発と国際協力とは？ <開発途上国における貧困の現状と要因></p> <p>2. 貧困の現状／歴史的要因：植民地支配の影響</p> <p>3. 政治的要因：政治的不安定と開発独裁</p> <p>4. 社会・文化的要因：ケーススタディ <開発途上国の開発></p> <p>5. 経済開発の方法とパターン</p> <p>6. 開発途上国とグローバリゼーション <日本の開発援助とその課題></p> <p>7. ODAの仕組みとトレンド</p> <p>8. 日本のODAの歴史的展開と特徴</p> <p>9. 新たなテーマと課題 <開発援助の新展開></p> <p>10. グローバル化時代の国際協力：環境と開発</p> <p>11. NGOの機能と役割</p> <p>12. 開発とNGO：ケーススタディ</p> <p>13. 地球環境問題と開発</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

06～07年度（春）	国際交流論	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、日本の国際文化交流の全容を概観し、代表的分野についてその考え方、実践を理解することを目的とする。</p> <p>講義では、日本の文化交流の歴史と代表的文化交流機関の活動を把握するとともに、芸術、日本語教育、知的交流などの諸分野ごとに、その実践について詳説する。さらに、アメリカ、アジア、中東など、地域ごとの歴史・文化的特徴を把握した上で、それぞれの地域を対象とする文化交流の方法の違いが認識できるように講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文化交流の歴史① 2. 日本の文化交流の歴史② 3. 日本の代表的文化交流機関 4. 芸術交流① 5. 芸術交流② 6. 日本語教育 7. 日本研究 8. 知的交流① 9. 知的交流② 10. 文化協力 11. 欧米との文化交流 12. アジア、中東との文化交流 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『戦後日本の国際文化交流』戦後日本国際文化交流研究会 勁草書房 2005年 『国際交流基金30年のあゆみ』 国際交流基金</p>		<p>評価方法：レポート（テーマは授業で発表）</p>	

06～07年度（秋）	国際ツーリズム論	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 国際関係の分野で重要な役割を果たすソフトパワーとしての観光の力を認識し、国際的規模での観光動向に関する基礎知識を習得する。又、わが国の観光立国政策への理解を深め、併せて、韓国、中国、台湾、米国等の訪日旅行有力市場特性を理解する。</p> <p>講義概要 わが国の観光立国政策を理解し、国際観光は、国際収支改善、雇用促進、地域開発などの経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼしていることを学習する。日本における国際観光の意義、国際観光の歴史的経緯を学びながら、経済的、文化的、社会的側面を考察し、その重要性を認識する。ことに、日本人の海外旅行者数と訪日外国人旅行者数のアンバランスは重大問題として学習する。訪日外国人旅行者の動向、日本の観光魅力、主要国の国際観光の状況と日本との交流、国際観光マーケティングについても理解を深める。 又、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々観光関連報道記事を、適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 観光とは、意義と定義 3. 国際観光の概況 4. 国際関係に見るソフトパワーとしての観光 5. 日本のソフトパワーと国家の観光魅力 6. 国際観光立国の今日的意義 7. インバウンド観光（訪日外国人）の現状 8. 国際観光と観光マーケティング 9. 観光立国推進基本法と実施策（VJC） 10. インバウンド振興と観光政策 11. 日本の海外旅行市場動向 12. 日本の海外旅行市場振興 13. 国際観光の展望とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		<p>試験結果と授業への参加度を総合的に評価する。</p>	

06～07 年度(春)	国際 NGO・ボランティア論	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) “グローバル化”する現代社会において、NGOが国際協力において果たす役割は益々大きくなると共に、その活動内容も多様化している。本講義では、国際協力に関するNGOの現状と課題を理解し、健全で効果的な国際協力に貢献するNGOのあり方を考えることを目的とする。</p> <p>(講義概要) 総論として国際的に活動するNGOの変遷、今日的課題等、NGOの全体像を把握した後、“国際協力とNGO”をテーマとした各論を学ぶ。特に、国際社会の現状を反映した「人間の安全保障」の概念とNGO活動との関連に焦点を当て、平和構築分野での日本のNGO活動を中心に考察する。 講師は、国際協力実務者としての立場から、なるべく現場の状況を反映した講義になるよう工夫したい。</p> <p>(受講生への要望) 国際協力に関心のある学生の選択が望ましい。NGO活動のみならず、国際機関やODA（政府開発援助）に関心を持つ者の受講も有益であろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般の説明。NGO活動とは何か 2. 世界情勢の変化とNGO 3. NGO活動の歴史と変遷（1） 4. NGO活動の歴史と変遷（2） 5. 国際協力におけるNGOの役割 6. 他のアクターとNGO（1）国際機関 7. 他のアクターとNGO（2）政府機関・企業 8. 「人間の安全保障」・平和構築とNGO活動 9. 緊急人道支援活動とNGO 10. NGO活動の具体例（国境なき医師団など） 11. カンボジアの事例を考える 12. NGOの基盤強化 13. まとめー国際協力NGOのあり方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『国際協力 NGO』（今田克司・原田勝広編著 日本評論社） 『シリーズ NPO－NPO/NGO と国際協力』（西川潤・佐藤幸男編著 ミネルヴァ書房） その他、授業で適宜紹介</p>		<p>期末定期試験の結果（90%）によって評価するが、平常授業中に課すレポート・感想文などの実績も評価対象とする（10%）</p>	

06～07年度(秋) 05年度以前(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 冷戦終焉後、90年代から世界の紛争は多様化・複雑化し、「人間の安全保障」概念を基盤とした平和構築のあり方が模索されて来た。本講義では、「人間の安全保障」の概念とその変遷を理解した上で、「人間の安全保障」の概念に基づいた平和構築支援のあり方を考えることを目的とする。</p> <p>(講義概要) 総論として平和構築論の変遷、及び「人間の安全保障」の理論を把握した後、各論として、様々なアクターによって現実に行なわれている平和構築活動について学び、その現状と課題を理解する。特に、日本の国際平和協力、政府開発援助、NGO 活動による平和構築支援について詳しい考察を加える。 講師は、国際協力実務者としての立場から、なるべく現場の状況を反映した講義になるよう工夫したい。</p> <p>(受講生への要望) 国際協力全般に関心のある学生の選択が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全体の説明 2. 世界情勢の変化と「人間の安全保障」 3. 「人間の安全保障」の考え方と日本の取り組み 4. 国際社会と「人間の安全保障」概念（1） 5. 国際社会と「人間の安全保障」概念（2） 6. 開発援助における「人間の安全保障」の取り組み 7. 「人間の安全保障」と平和構築論 8. 平和構築支援と政府開発援助（1） 9. 平和構築支援と政府開発援助（2） 10. 日本の国際平和協力 11. 平和構築支援と NGO（ジャパン・プラットフォーム） 12. 具体例から考える「人間の安全保障」と平和構築（カンボジア、ミンダナオ、パレスチナ等） 13. まとめー「人間の安全保障」と平和構築の展望 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『安全保障の今日的課題』（人間の安全保障委員会報告書 朝日新聞社）、『新しい平和構築論』（山田満 他 明石書店） その他、授業で適宜紹介		期末定期試験の結果（90%）によって評価するが、平常授業中に課すレポート・感想文などの実績も評価対象とする（10%）	

06～07年度(春) 05年度以前(春)	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 国際観光事業において重要な役割を担う国際航空産業は、各国の経済力や政策に左右される国際政治の影響を受けやすい。国際航空業の仕組みや成り立ちを、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れを学習することにより把握する。併せて、わが国の航空業の現状と課題、及び将来の展望について理解する。</p> <p>講義概要 国際線運航の原則、航空の国際的組織、国際航空の潮流、わが国の航空政策等々を学習することにより、国際航空運送の仕組みを理解する。又、各国の航空規制緩和がもたらした航空業界の変革について、アメリカの航空政策の規制緩和を中心に学習する。殊に、ローコストキャリア（新規低運賃航空会社）の台頭が著しい欧米、アジアの現状を検証する。一方、羽田の国際化問題で揺れるわが国の航空運送の現状について、空港問題を中心に航空政策や航空会社の仕組み、業務内容や経営上の課題についても触れ、今後の展望を学習する。 又、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考になりたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 国際線運航の原則 <ol style="list-style-type: none"> ①領空主権主義と運輸権 3. 国際線運航の原則 <ol style="list-style-type: none"> ②シカゴ条約と空の自由 4. 国際航空の潮流. <ol style="list-style-type: none"> 2 国間協定とカボタージュ 5. 航空の国際的組織 <ol style="list-style-type: none"> ①ICAO と IATA ②その他の組織 6. 米国の航空規制緩和 7. 米国の新規航空企業 <ol style="list-style-type: none"> ①サウスウエスト航空の事例 1 8. 米国の新規航空企業 <ol style="list-style-type: none"> ②サウスウエスト航の事例 9. 欧州の航空規制緩和 10. 日本の航空政策と規制緩和 11. 日本の空港の現状と課題 12. 日本の航空企業の現状と課題 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等で総合的に評価する。	

06～07年度(秋) 05年度以前(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 地球温暖化防止に対する、国連を初めとする国際機関の取り組みを学習し、持続可能なツーリズムとしての新しい概念であるエコツーリズムを理解する。</p> <p>講義概要 今、われわれはマスツーリズムの恩恵を享受しているが、地球温暖化等々環境問題は、観光分野にも大きな影を落としている。エコツーリズムは、単なる新しい観光形態ではなく、従来の観光の概念とまったく違う新しい考え方に基づき、自然・文化環境の保全と、経済的プラスを両立させる新しい観光概念である。エコツーリズムについて、その概念、定義、歴史、ガイドラインを学習し、自然を守り、観光資源に負荷を与えずに、地域への理解を深める手段としてのエコツーリズムを深く理解する。併せて、国連や国際観光関連機関の取り組みと役割、並びに、世界各国と日本のエコツーリズムへの取り組み、地域、旅行業界との関連等を学習する。 又、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々観光関連報道記事を、適宜取上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 観光とは？・概念と定義 3. 観光と環境 4. 地球温暖化と観光 5. 環境問題とサステイナブルツーリズムの概念 6. 環境観光政策とエコツーリズム推進法 7. エコツーリズムの考え方 8. エコツーリズムとエコツアー 9. エコツーリズムへの取り組みとルール 10. エコツーリズム推進地域の事例 ① 日本 11. エコツーリズム推進地域の事例 ② オセアニア 12. エコツーリズム推進地域の事例 ③ ヨーロッパ 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に評価する。	

06～07年度（春） 05年度以前（春）	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化の進展は、様々な国や地域で暮らす人々の文化や社会、そして国際関係に変化を及ぼしています。アジア諸国で韓流ブームが起こり、上海で F1 グランプリやオリンピックが開催され、日本オリジナルの“Transformers”がアメリカで加工されて世界に配信される。そんなクロスカルチャーの時代、各国の文化や社会が相互に浸透し、影響を及ぼし合う時代といえます。</p> <p>このような傾向は、近年のグローバル化によって大きく促進されましたが、決して新しい現象ではありません。特に東西文化の結節点であるアジア太平洋地域においては、中世以来、世界のさまざまな文化のフュージョン（融合）が起こっていました。戦争もまた、それを促す大きな要因でした。そして、1980年代以降の同地域における高度経済成長は、文化的クロスオーバーをいっそう促進するとともに、関連分野の産業化を促しました。</p> <p>本講義では、このような点に念頭に置きながら、アジア地域の文化、社会、産業および国際関係とその変化を、3つのシリーズ（歴史、文化と社会、産業と社会）に分け、クロスカルチャー、マルチエスニックといった観点から分析・解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：文化・社会・産業・国際関係 <歴史> 2. アジアにおける植民統治と西洋化 3. 植民地統治 - 台湾、朝鮮半島、中国 4. 太平洋戦争とアジア 5. 日本軍政とアジア諸国の反応 <文化と社会> 6. アジアにおける多民族国家の形成と特徴 7. 華人・華僑ネットワーク 8. アメリカにおけるアジア移民 9. ポップカルチャーのアジア環流 <経済と産業> 10. 中国経済発展の光と影 (1) 発展の勢い 11. 中国経済発展の光と影 (2) 弊害と矛盾 12. 日系企業の海外進出 - 実情と問題点 13. グローバル化の中のアジア新産業 	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

06～07年度（秋） 05年度以前（秋）	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、国際交流基金が設立された70年代以降の、国内外の国際文化交流政策について理解することを目的とする。</p> <p>日本については、歴代総理の文化交流懇談会答申を中心に、文化交流の目的、期待される役割の変遷を通観する。海外は、主として、英国、米国において近年特に強調されているパブリック・ディプロマシー、ソフト・パワーについて、その主旨及び可能性を検証する。さらに将来の文化交流政策のひとつとして検討されている「人間の安全保障」について、その概念、文化交流における可能性を考察し、現代から未来の文化交流のあり方を議論する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文化交流政策の変遷① 2. 日本の文化交流政策の変遷② 3. 日本の文化交流論① 4. 日本の文化交流論② 5. 国家と文化交流 6. 英のパブリック・ディプロマシーの背景と意図 7. アメリカのパブリック・ディプロマシーの背景と意図 8. パブリック・ディプロマシーの可能性 9. ソフト・パワー論（ジョセフ・ナイ教授）の背景と意図 10. ソフト・パワー論の意義と可能性 11. 「人間の安全保障」 12. 文化交流としての「人間の安全保障」の可能性 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ソフト・パワー：21世紀国際政治を制する見えざる力』 ジョセフ・ナイ著 日本経済新聞社 『イギリスにおけるパブリックディプロマシー』 国際交流基金		評価方法：レポート（テーマは授業で発表）	

06～07年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際的なリゾート地やリゾート開発現場は、多様なリスク（危険）と背中合わせです。客船によるクルージングは、マラッカ海峡やカリブ海におけるパイレーツ（海賊）を警戒しなければなりません。また世界中のリゾート客を魅了してきたバリ島は、爆弾テロ事件に巻き込まれたことがあります。国際的なツーリズム産業は、海賊・テロ・組織犯罪などのリスクと真正面から向き合わなければなりません。</p> <p>本講義では国際ツーリズムを取り巻く多様なリスクを分析し、リスクの発生原因やその影響、さらにリスク回避の対策などを具体的に講義します。</p> <p>授業の前半では毎回、CNN、BBC、CNAの海外ニュースをリアルタイムで紹介し、説明を行います。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。</p> <p>2年生から受講できます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 国際情報ツールの説明 2. 国際テロ組織「アルカイダ」 (1章1～3) 3. テロの資金源 (4章1～3) 4. テロの資金源、登録確認 5. テロ資金の管理 (4章4) ——金・ダイヤモンド・ハワラ 6. 金・ダイヤモンド・ハワラ 7. ビンラディンの「聖戦」(1章4～5) 8. 東南アジア活用法(2章) 9. アルカイダ系テロ組織(3章1) 「ジェマー・イスラミア」(3章2) 10. 中間テスト(受講生と日程調整) 11. 東南アジアのテロ組織(3章3～5) 12. 同上 13. 国際テロと向き合う(終章) <p>また授業計画を一部変更して、パイレーツ（海賊）も扱う予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『国際テロネットワーク』 (講談社現代新書、2006年)。		登録確認作業の出席点、中間テスト、期末レポートの3点セットで評価します。	

06年度(春) 05年度以前(春)	国際関係文献研究 a 国際関係論文研究 a	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、国際関係分野で卒論を執筆しようとする学生諸君を対象に、卒論をはじめとするアカデミックな論文を作成するために必要な知識・ノウハウの習得、ならびに英文を含めた資料・文献の選び方、読み方の習熟を目指します。</p> <p>具体的には、(1) 論文・レポートの書き方(形式論および方法論)、(2) リサーチの方法と資料の選択、(3) 資料・文献の読解と解釈、といった点を学ぶとともにそれらのトレーニングを行います。リサーチと資料・文献読解のテーマとしては特定の国のカンントリー・リスクや重要な時事問題などを取り上げます。</p> <p>受講者にはほぼ毎週レポートの提出や事前リサーチを課し、それらの報告を基に授業を進めます。受講希望者は、初回の授業の際に下記の要領に従って書いたレポートを持参してください(授業の材料に使います)。*テーマ:「在日外国人問題」、字数:2千字以内(A4で2枚以内に収める)、条件:サブタイトルは各自付ける。また、テーマに関して自らの体験談を一部に必ず盛り込む。</p> <p>この授業は金子担当の国際関係文献研究 b(秋学期)と極めて継続性が強いので、a, bの継続履修を強く推奨します。</p> <p><u>第1回目の授業で履修希望者が定員を超えた場合は、選考を行いますので、必ず出席してください。</u></p>		<p>半期の授業は以下の3つのパートから構成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の書き方: 各受講者が提出したレポートを題材に、論文・レポートを書く際に不可欠なルールやレベルの高いレポートの書き方について、テキストを利用しながら解説する。また、受講者から提出された論文・レポートを受講者全員で添削しながら、他者の文章に対する校正力、批判力を養う。 2. リサーチの方法: 特定のテーマについて、いかに的確かつバランス良く資料(書籍、定期刊行物、インターネットなど)を収集できるかについて考え、トレーニングする。 3. 資料・文献の読解: テキストとして、例えば、CIA, <i>The World Factbook</i> (https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook) や時事問題に関する英文および邦文の雑誌、新聞を用いて、専門的用語・概念を学ぶとともに読解力の向上を図る。特に、英文の読解、解釈については課題を課し、それを基に授業を進める。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應大学出版会、2002年(事前に用意する必要はない)。その他、教材として英文の書籍、定期刊行物、ホームページ資料などを適宜使用。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

06年度(秋) 05年度以前(秋)	国際関係文献研究 b 国際関係論文研究 b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、国際関係分野で卒論を執筆しようとする学生諸君を対象に、卒論をはじめとするアカデミックな論文を作成するために必要な知識・ノウハウの習得、ならびに英文を含めた資料・文献の選び方、読み方の習熟を目指します。</p> <p>具体的には、(1) 論文・レポートの書き方(形式論および方法論)、(2) リサーチの方法と資料の選択、(3) 資料・文献の読解と解釈、といった点について習得を図るとともにそれらのトレーニングを行います。リサーチと資料・文献読解のテーマとしては特定の国のカンントリー・リスクや重要な時事問題などを取り上げます。</p> <p>受講者には、ほぼ毎週レポートの提出や事前リサーチを課し、それらの報告を基に授業を進めます。</p> <p>金子担当の国際関係文献研究 a(春学期)との継続性が強いので、本授業の履修については a, bの継続履修を強く推奨します。やむを得ず、bのみの履修を希望する場合には、必ず担当者と相談すること。</p> <p><u>第1回目の授業で履修希望者が定員を超えた場合は、選考を行いますので、必ず出席してください。</u></p>		<p>半期の授業は以下の3つのパートから構成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の書き方: 各受講者が提出したレポートを題材に、論文・レポートを書く際に不可欠なルールやレベルの高いレポートの書き方について、テキストを利用しながら解説する。また、受講者から提出された論文・レポートを受講者全員で添削する。 2. リサーチの方法: 特定のテーマについて、いかに的確かつバランス良く資料(書籍、定期刊行物、インターネットなど)を収集できるかを考え、トレーニングする。 3. 資料・文献の読解: テキストとして、例えば、CIA, <i>The World Factbook</i> (https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook) や時事問題に関する英文および邦文の雑誌、新聞を用いて、専門的用語・概念を学ぶとともに読解力の向上を図る。特に、英文の読解、解釈については課題を課し、それを基に授業を進める。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
櫻井雅夫『レポート・論文の書き方 上級』慶應大学出版会、1998年(事前に用意する必要はない)。その他、教材として英文の書籍、定期刊行物、ホームページ資料などを適宜使用。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

06年度(春) 03～05年度(春)	国際関係文献研究 a 国際関係論文献研究 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。</p> <p>第1の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ組織アルカイダが関与したテロ問題に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>テキストは、国際テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。</p> <p>毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>課題テーマに関する発表資料を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。</p> <p>重複履修は原則として出来ません。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマと発表者を決めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 同上 13 同上 <p><u>第1回目の授業で履修希望者が定員を超えた場合は、選考を行いますので、必ず出席してください。</u></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The National Commission on Terrorist Attacks upon the United States, <i>The 9/11 Commission Report, Authorized Edition</i>, NY: W.W. Norton, 2004.</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。</p>	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。</p> <p>第1の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ組織アルカイダが関与したテロ問題に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>テキストは、国際テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。</p> <p>毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>課題テーマに関する発表資料を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。</p> <p>重複履修は原則として出来ません。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマと発表者を決めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 同上 13 同上 <p><u>第1回目の授業で履修希望者が定員を超えた場合は、選考を行いますので、必ず出席してください。</u></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The National Commission on Terrorist Attacks upon the United States, <i>The 9/11 Commission Report, Authorized Edition</i>, NY: W.W. Norton, 2004.</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。</p>	

06年度入学（春） 03～05年度（春）	特別セミナー ー日常の中の韓国文化ー （火2）	担当者	金 雄熙
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、遊びと酒、宗教、言語、人間関係、家族など韓国人の日常生活を構成する様々な事件、現象、制度などを紹介し、日常の中の韓国文化について多面的に考察する。</p> <p>講義では、韓国の遊び文化のもつ歴史性や社会的意味、飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱、宗教が社会文化の形成に及ぼした影響などを主なテーマにしつつ、日常の中の韓国文化についての理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韓国文化と韓国人へのアプローチ 2 遊び文化と韓国人の社会的性格① 3 遊び文化と韓国人の社会的性格② 4 遊び文化と韓国人の社会的性格③ 5 飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱① 6 飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱② 7 飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱③ 8 韓国社会の宗教① 9 韓国社会の宗教② 10 韓国社会の宗教③ 11 韓国語と儒教文化① 12 韓国語と儒教文化② 13 韓国語と儒教文化③ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する。		出欠状況、中間テスト、期末レポートで評価する。	

06年度入学（秋） 03～05年度（秋）	特別セミナー ー日常の中の韓国文化ー （火2）	担当者	金 雄熙
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、遊びと酒、宗教、言語、人間関係、家族など韓国人の日常生活を構成する様々な事件、現象、制度などを紹介し、日常の中の韓国文化について多面的に考察する。</p> <p>講義では、韓国の遊び文化のもつ歴史性や社会的意味、飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱、宗教が社会文化の形成に及ぼした影響などを主なテーマにしつつ、日常の中の韓国文化についての理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韓国文化と韓国人へのアプローチ 2 交流行動を通じてみる韓国人の社会心理① 3 交流行動を通じてみる韓国人の社会心理② 4 交流行動を通じてみる韓国人の社会心理③ 5 韓国社会と家族① 6 韓国社会と家族② 7 韓国社会と女性 8 韓国の余暇文化① 9 韓国の余暇文化② 10 テレビと日常文化① 11 テレビと日常文化② 12 自動車と日常文化 13 韓国の美、化粧、健康文化 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する。		出欠状況、中間テスト、期末レポートで評価する。	

06年度入学（春） 03～05年度（春）	特別セミナー 一日韓文化比較と宗教―（水4）	担当者	金 雄熙
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日韓両国の文化は類似性だけではなく、異質性も持っており、時代や分野ごとに多様な形で社会現象や制度に大きな影響を及ぼす。本講義では日韓文化の類似性と異質性が両国における宗教現象やキリスト教の成長にどのような影響を及ぼしたのかについて考察する。</p> <p>講義では、日韓両国におけるキリスト教の発展状況の大きな相違に着目しつつ、歴史、宗教、地理、政治、社会、教育、言語的状況が両国の宗教にどのような影響をもたらしたかについて明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 歴史的状況の日韓比較 3 宗教的状況の日韓比較 4 地理的状況の日韓比較 5 政治的状況の日韓比較 6 社会的状況の日韓比較 7 教育的状況の日韓比較 8 言語的状況の日韓比較 9 近代との出会い① 10 近代との出会い② 11 近代との出会い③ 12 現代との出会い① 13 現代との出会い② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する。		出欠状況、中間テスト、期末レポートで評価する。	

06年度入学（秋） 03～05年度（秋）	特別セミナー 一日韓文化比較と宗教―（水4）	担当者	金 雄熙
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日韓両国の文化は類似性だけではなく、異質性も持っており、時代や分野ごとに多様な形で社会現象や制度に大きな影響を及ぼす。本講義では日韓文化の類似性と異質性が両国における宗教現象やキリスト教の成長にどのような影響を及ぼしたのかについて考察する。</p> <p>講義では、日韓両国におけるキリスト教の発展状況の大きな相違に着目しつつ、歴史、宗教、地理、政治、社会、教育、言語的状況が両国の宗教にどのような影響をもたらしたかについて明らかにする。とりわけ、歴史的な展開と事例を重視しながら、日韓両国における宗教文化の類似性と異質性について理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 開港と初期宣教①日本 3 開港と初期宣教②韓国 4 日韓両国における宗教の発展と停滞① 5 日韓両国における宗教の発展と停滞② 6 日韓両国における宗教の発展と停滞③ 7 国家神道と第2次世界大戦 8 戦後の新興宗教① 9 戦後の新興宗教② 10 韓国教会の「復興」と日本教会の「停滞」① 11 韓国教会の「復興」と日本教会の「停滞」② 12 韓国教会の「復興」と日本教会の「停滞」③ 13 日本への適用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する。		出欠状況、中間テスト、期末レポートで評価する。	

07年度以前 (春)	特別セミナー (CAEL)	担当者	J. スティーベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっと e というコンピュータープログラムを用いて集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ● 現在の TOEIC スコアが 350-600 点 (プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上学習者には適していません。) ● 初回の授業に必ず出席すること ● 4 回以上欠席しないこと</p> <p>本授業で求められる事項： ● 20 時間以上のぎゅっと e の学習 (自習) ● 学習プランの作成と学習記録 ● 学習自己評価 (2 回) ● 実力診断テスト・学習プランの作成 ● 小テスト</p>		<ol style="list-style-type: none"> シラバスとプログラムの説明 リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 小テスト・リスニング実力診断テスト リーディング実力診断テスト テキスト Days 3-4 模擬試験 (リーディング) テキスト Day 5 模擬試験 (リーディング) テキスト Days 7-8 模擬試験 (リーディング) 小テスト・リーディング実力診断テスト アンケート・自己評価レポートの説明 <p>(変更する場合があります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 新 TOEIC テスト直前の技術 (CD 2 枚付) ISBN: 4-7574-1121-9 ぎゅっと e プログラム ぎゅっと e ホームページ (体験版あり) http://gyutto-e.jp/ 		<p>出席 20% 学習記録 30%</p> <p>学習プランと自己評価レポート 20%</p> <p>小テスト 30%</p>	

07年度以前 (春)	特別セミナー (CAEL)	担当者	J. スティーベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっと e というコンピュータープログラムを用いて集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ● 現在の TOEIC スコアが 350-600 点 (プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上学習者には適していません。) ● 初回の授業に必ず出席すること ● 4 回以上欠席しないこと</p> <p>本授業で求められる事項： ● 20 時間以上のぎゅっと e の学習 (自習) ● 学習プランの作成と学習記録 ● 学習自己評価 (2 回) ● 実力診断テスト・学習プランの作成 ● 小テスト</p>		<ol style="list-style-type: none"> シラバスとプログラムの説明 リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 小テスト・リスニング実力診断テスト リーディング実力診断テスト テキスト Days 3-4 模擬試験 (リーディング) テキスト Day 5 模擬試験 (リーディング) テキスト Days 7-8 模擬試験 (リーディング) 小テスト・リーディング実力診断テスト アンケート・自己評価レポートの説明 <p>(変更する場合があります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 新 TOEIC テスト直前の技術 (CD 2 枚付) ISBN: 4-7574-1121-9 ぎゅっと e プログラム ぎゅっと e ホームページ (体験版あり) http://gyutto-e.jp/ 		<p>出席 20% 学習記録 30%</p> <p>学習プランと自己評価レポート 20%</p> <p>小テスト 30%</p>	

2008年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学者用)

03 年度以降 (春)	総合講座 (移民、難民、移住労働者——人の移動と文化の変容 I)	担当者	コーディネーター: 若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>なぜ今日大量の移民、難民、移住労働者が世界中で発生しているのだろうか？彼らはどのような生活を送っているのだろうか？彼らに関する世界の対策はどのようなものなのだろうか？アメリカでは？ヨーロッパでは？日本では？また私たちはどのようにこの問題に向き合っていくべきなのだろうか？</p> <p>彼ら移民、難民、移住労働者たちは困難な状況に置かれているにもかかわらず、新しい、独創的な文化を創造しつつある。それはどのようなものなのか？</p> <p>この講座ではこのような問題を世界的な視野のもとに考えていく。この問題に直接関わっている外部講師の方にも話していただく。学生諸君にこの問題を自分のこととして考えてもらいたいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) グローバリゼーションと人の移動 (廣田) 2) 外国人児童への NPO 支援活動—草加市の経験から— (築瀬 [草加市国際相談センター]) 3) ビルマ人の語る日本での生活 (チンカン [ビルマ市民フォーラム]) 4) 日本で生活している移住労働者の現状と問題点 (鳥井 [移住労働者と連帯する全国ネットワーク]) 5) ヨーロッパ連合 (EU) と移民問題 (廣田) 6) 移民社会オーストラリア (竹田) 7) アジア諸国からの移民と出稼ぎ労働者 (金子) 8) ドイツにおける移民の歴史と現在 (増谷) 9) 移民はどこから来たか (フランスの場合) (井上) 10) 移民、難民、人身取引に関する国際機関の活動 (橋本 [国際移住機関]) 11) 教科書のなかの移民、難民、移住労働者 (黒田) 12) アフリカの「国家」再考—破綻国家と紛争 (佐野) 13) ドイツの亡命知識人—ベンヤミンとフランクフルト学派 (工藤) <p>なおこのプログラムは細部で変更されることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の際、指示する。		<ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回授業の終り 10 分を使って講義のまとめを書き、提出する (40%)。 2) マークシート方式の学期末試験を行う (60%)。 	

03 年度以降 (秋)	総合講座 (移民、難民、移住労働者——人の移動と文化の変容 II)	担当者	コーディネーター: 若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>なぜ今日大量の移民、難民、移住労働者が世界中で発生しているのだろうか？彼らはどのような生活を送っているのだろうか？彼らに関する世界の対策はどのようなものなのだろうか？アメリカでは？ヨーロッパでは？日本では？また私たちはどのようにこの問題に向き合っていくべきなのだろうか？</p> <p>彼ら移民、難民、移住労働者たちは困難な状況に置かれているにもかかわらず、新しい独創的な文化を創造しつつある。それはどのようなものなのか？</p> <p>この講座ではこのような問題を世界的な視野のもとに考えていく。この問題に直接関わっている外部講師の方にも話していただく。学生諸君にこの問題を自分のこととして考えてもらいたいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 移民国家アメリカの歴史と現状 (高橋) 2) 合衆国市民をパフォーマンスする (高橋) 3) フランス・サルコジ政権の移民政策 (井上スズ) 4) アフリカ難民はなぜ生まれるのか—国際協力の視点から (JICA 米崎) 5) 「アフリカの角」地域の難民・国内避難民 (佐野) 6) とんりの難民と私たち—日本での難民支援の現場から (伴 [難民支援協会]) 7) EU 拡大とドイツ労働市場 (大重) 8) ドイツ移民としてのトルコ人の生活の実際 (飯嶋) 9) 外国における母語の意識 (岡村) 10) 移民と文学—アゴタ・クリストフの場合 (若森) 11) オーストリアにおける移民の歴史と現状 (古田) 12) Global woman—移民の女性化 (上野) 13) もうひとつの「グローバリゼーション」 (若森) <p>なおこの授業計画は細部で変更されることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の際、指示する。		<ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回授業の終り 10 分を使って講義のまとめを書き提出する (40%)。 2) マークシート方式の期末試験を行う (60%)。 	

03年度以降（春）	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム（OS） OSの基礎概念、OSの役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11 機械翻訳システムの演習 12 インターネット上の多言語処理技術 13 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03年度以降（春）	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータ・ネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で最低限に必要な情報リテラシー、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータ・ネットワーク(通信)、情報倫理、パソコンの基礎知識についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 OSの基礎—OSの目的とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 ネットワークシステム 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・情報検索 6 情報倫理と情報セキュリティ 7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 パソコンの基礎知識 12 情報技術の応用 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		各担当教員の指定する評価方法に従ってください。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータ・ネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で最低限に必要な情報リテラシー、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータ・ネットワーク(通信)、情報倫理、パソコンの基礎知識についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 OSの基礎—OSの目的とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 コンピュータ・ネットワーク 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・検索 6 情報倫理とセキュリティ 7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 パソコンの基礎知識 12 情報技術の応用 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		各担当教員の指定する評価方法に従ってください。	

03年度以降（春）	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用（1） 6 関数の利用（2） 7 関数の利用（3） 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション作成1－スライドの作成、プレゼンテーション方法 10 プレゼンテーション作成2－アニメーションの設定 11 プレゼンテーション発表1 12 プレゼンテーション発表2 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用（1） 6 関数の利用（2） 7 関数の利用（3） 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション作成1－スライドの作成、プレゼンテーション方法 10 プレゼンテーション作成2－アニメーションの設定 11 プレゼンテーション発表1 12 プレゼンテーション発表2 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（初級・プレゼンテーション）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、指定されたテーマに従って書籍やインターネット等を用いて情報収集を行い、またプレゼンテーションソフトを使って発表用のスライドを作成する。同時に、ワープロで発表原稿も作成する。その後、実際に発表を行い（聞き手も含む）、プレゼンテーションの経験と技術を積み、ゼミなどの発表で、就職の面接で、そして社会に出てから役立つコミュニケーション技術を習得することを旨とする。</p> <p>受講上の注意：<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u> 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 プレゼンテーションとは 3 プレゼンテーションソフトの基本操作 4 課題1 5 発表（1-1） 6 発表（1-2） 7 課題2 8 発表（2-1） 9 発表（2-2） 10 課題3 11 発表（3-1） 12 発表（3-2） 13 まとめ（プレゼンテーションの反省） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と発表（聞き手も含む）で総合評価する。 出席と参加状況は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降（秋）	情報科学各論（初級・プレゼンテーション）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（春学期同様）</p>		<p>（春学期同様）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（春学期同様）</p>		<p>（春学期同様）</p>	

03年度以降（春）	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級—プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際に2回のプレゼンテーションを行い、経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. 第1回プレゼンテーション 8. 第1回目プレゼンテーションの評価 9. 個人プレゼンテーションへの準備 10. 個人プレゼンテーションへの準備 11. 個人プレゼンテーション 12. 個人プレゼンテーション 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級—プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際に2回のプレゼンテーションを行い、経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. 第1回プレゼンテーション 8. 第1回目プレゼンテーションの評価 9. 個人プレゼンテーションへの準備 10. 個人プレゼンテーションへの準備 11. 個人プレゼンテーション 12. 個人プレゼンテーション 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級—万能ツールとしての Excel）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、表計算ソフトウェアとして知られている Excel の、単なる表計算機能だけではなく、他の様々な便利な機能を紹介していきたいと思っています。</p> <p>Word の作表機能ではなかなか難しい表を作る作表機能や名簿作成、財務計算以外の関数機能、データベース機能という便利な使い方を紹介していきたいと思っています。特に教職を目指している学生の皆さん向けに、成績処理を具体例としてあげていきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと Excel の概要 2. 作表機能を例としての基本操作 1 3. 作表機能を例としての基本操作 2 4. 作表機能を例としての基本操作 3 5. 成績処理を例としての応用操作 1 6. 成績処理を例としての応用操作 2 7. 成績処理を例としての応用操作 3 8. データベース機能 1 9. データベース機能 2 10. グラフ作成機能 11. アンケート処理 12. その他の応用例 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内で紹介した機能を包括的に使用した課題。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級—万能ツールとしての Excel）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、表計算ソフトウェアとして知られている Excel の、単なる表計算機能だけではなく、他の様々な便利な機能を紹介していきたいと思っています。</p> <p>Word の作表機能ではなかなか難しい表を作る作表機能や名簿作成、財務計算以外の関数機能、データベース機能という便利な使い方を紹介していきたいと思っています。特に教職を目指している学生の皆さん向けに、成績処理を具体例としてあげていきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと Excel の概要 2. 作表機能を例としての基本操作 1 3. 作表機能を例としての基本操作 2 4. 作表機能を例としての基本操作 3 5. 成績処理を例としての応用操作 1 6. 成績処理を例としての応用操作 2 7. 成績処理を例としての応用操作 3 8. データベース機能 1 9. データベース機能 2 10. グラフ作成機能 11. アンケート処理 12. その他の応用例 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内で紹介した機能を包括的に使用した課題。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級－Word を使いこなす）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義ではマイクロソフト社の Word を使って、コンピューターライティングの実践を行う。特に文系の学生がレポートや論文を書く際の技術を具体的に学んでいく。</p> <p>もともとこのソフトはレポートや論文を執筆するのに特化したものではなく、我々が行う作業にとっては余分な機能が多くある。しかし作表や図像の取り込みなどを用いることによって説得的な文書を作ることが可能であることなど、その長所を生かした上で、あくまで実践的な作業に終始したい。</p> <p>なにぶん一般的な使用方法ではなく、教師独自の強引な使い方(?)をする可能性があるので、覚悟してもらいたい。</p>		<p>1回 導入のための説明</p> <p>2回 論文の表紙などの作り方（ワードアートなど）</p> <p>3回 アウトラインに沿った執筆 1</p> <p>4回 アウトラインに沿った執筆 2</p> <p>5回 脚注およびインデント 1</p> <p>6回 脚注およびインデント 2</p> <p>7回 図表の作成 1</p> <p>8回 図表の作成 2</p> <p>9回 図表の導入 1</p> <p>10回 図表の導入 2</p> <p>11回 グラフの導入(エクセルとの連携)</p> <p>12回 グラフの導入(エクセルとの連携)</p> <p>13回 (予備日)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書などは授業開始日に指示する。		出席とレポート	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－Word を使いこなす）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ内容		春学期と同じ内容	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ評価方法	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級－HTML 正しく伝えるために）	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：ホームページは、閲覧者のパソコンによって表示のされ方が大きく異なる。全てのパソコン上で同じように表示されるページを作成することは技術的に不可能である。従ってこの講義では、できるだけ多くのパソコン上で最低限の情報を正しく表示させるための方法論について、実際にホームページを分析したり作成したりしながら考えていく。</p> <p>対象者：ホームページの作成方法について、最低限の知識を持っている人を主な対象とする。全く知識がない人でも受講できるが、評価などは他の人と全く同一基準で行うので注意。</p> <p>必要なもの：自宅にパソコンがなくても問題ないが、携帯電話向けのサイトを作成するので、ホームページを閲覧することができる携帯電話が必要（通信費は各自負担）。ホームページ作成ソフト類は不要。</p> <p>その他詳細： http://www.birdcompany.ch/ 参照。</p>		<p>(1) ガイダンス (2) www の仕組み、ファイルの種類と必要なソフト、プラグイン、文字コード、機種依存文字、ブラウザの問題 (3) HTML の基礎の確認(1) (4) HTML の基礎の確認(2) (5) 課題① (6) ディレクトリ構造、様々なリンク設定、フレーム (7) ナビゲーションとサイト構造 (8) 課題② (9) ホームページ作成ソフトとその問題点、pdf の利用 (10) css と javascript (1) (11) css と javascript (2) (12) 携帯向けサイト (13) 課題③</p> <p>なお、初回の授業には必ず出席すること。風邪などで出席できなかった場合でも1週目のうちに担当者までメール等で連絡すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
主にプリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席点、提出課題、リアクションペーパーによる。定期試験は行わない（卒業再試験も行わない）。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML 美しく見せるために）	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：春学期は最低限の情報を正しく伝える方法を学ぶが、秋学期はそれをふまえて、より美しく見せる方法を学ぶ。</p> <p>対象者：春学期と同じ。</p> <p>必要なもの：自宅にパソコンがなくても問題ないが、携帯電話向けのサイトを作成するので、ホームページを閲覧することができる携帯電話が必要（通信費もかかる）。ホームページ作成ソフト類は不要。また、秋学期には画像処理を行うので、デジカメまたはカメラ付き携帯電話を持っていることが望ましい。</p> <p>その他詳細： http://www.birdcompany.ch/ 参照。</p>		<p>(1) ガイダンス (2) レイアウトの基本、フォントの扱い (3) 色の特性、配色の基本 (4) 課題① (5) 画像ファイルの特性 (6) 画像処理 (7) アイコン・ロゴの作成 (8) 地図の作成 (9) 課題② (10) フォトアルバムの作成 (11) javascript の利用 (12) 課題③(1) (13) 課題③(2)</p> <p>秋学期からの受講も可能だが、春学期に扱った内容については知っているものとして話を進めていくので、各自自習しておくこと（希望すればプリント類を配布、質問にも答える）。また、春学期同様、初回の授業には必ず出席すること。風邪などで出席できなかった場合でも1週目のうちに担当者までメール等で連絡すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
主にプリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席点、提出課題、リアクションペーパーによる。定期試験は行わない（卒業再試験も行わない）。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(中級—HTML 応用 1)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： <u>ガイダンスには必ず出席すること</u>。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習（1） 3 HTML と FTP の復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 CGI の利用 11 総合課題（1） 12 総合課題（2） 13 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降（秋）	情報科学各論(中級—表計算応用 1)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は MS-Excel（表計算ソフト）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel でデータ処理を行う過程において、計算式や関数などを利用するが、毎回同じ一連の操作を繰り返して行う必要性が発生する場合がある。そのような場合、同じ一連の操作内容を記録・登録することで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。この機能を「マクロ」機能という。</p> <p>基本的なマクロの作成を通して、これまで習得してきた Excel の基本操作をスキルアップする、またマクロ機能で自動的に作成される VBA(Visual Basic for Application)の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 計算式および関数の復習 3 マクロ機能について 4 簡単なマクロ（成績処理）の作成と実行（1） 5 簡単なマクロ（成績処理）の作成と実行（2） 6 第1回目課題の作成 7 VBAの基礎（1） コードの入力 8 VBAの基礎（2） コード入力で簡単なゲームを作成する 9 第2回目課題の作成 10 マクロ（テーブル参照）の作成と実行（1） 11 マクロ（テーブル参照）の作成と実行（2） 12 最終課題の作成（1） 13 最終課題の作成（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 初回の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を配布する。 		授業中に指示する課題（30%）と出席状況（20%）と最終課題（50%）で総合評価を行う。	

03年度以降（春）	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03年度以降（秋）	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. インフレとデフレ 10. 政府債務と財政赤字 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス 英語学科

2008年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学 年	氏 名
学科	年	